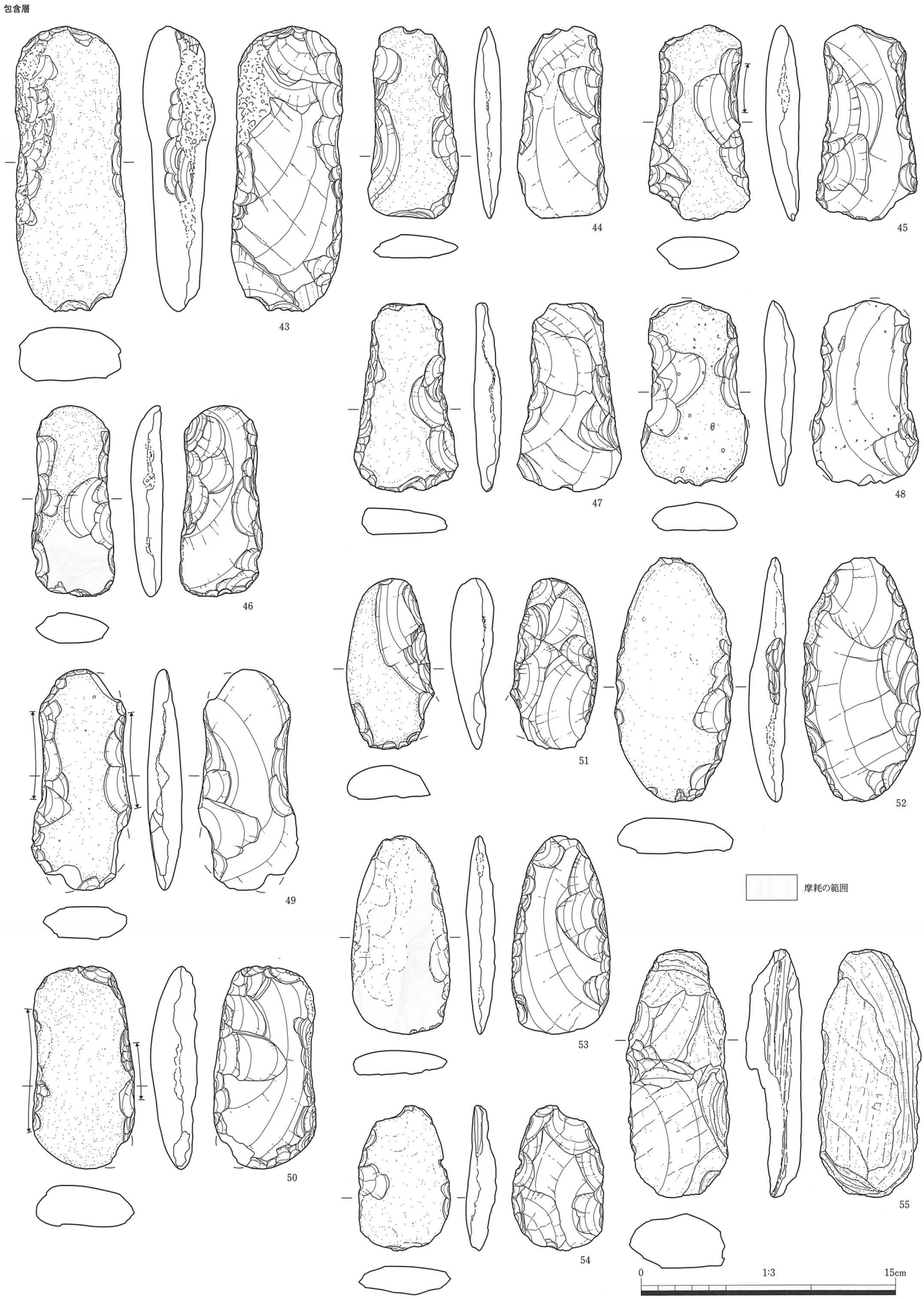
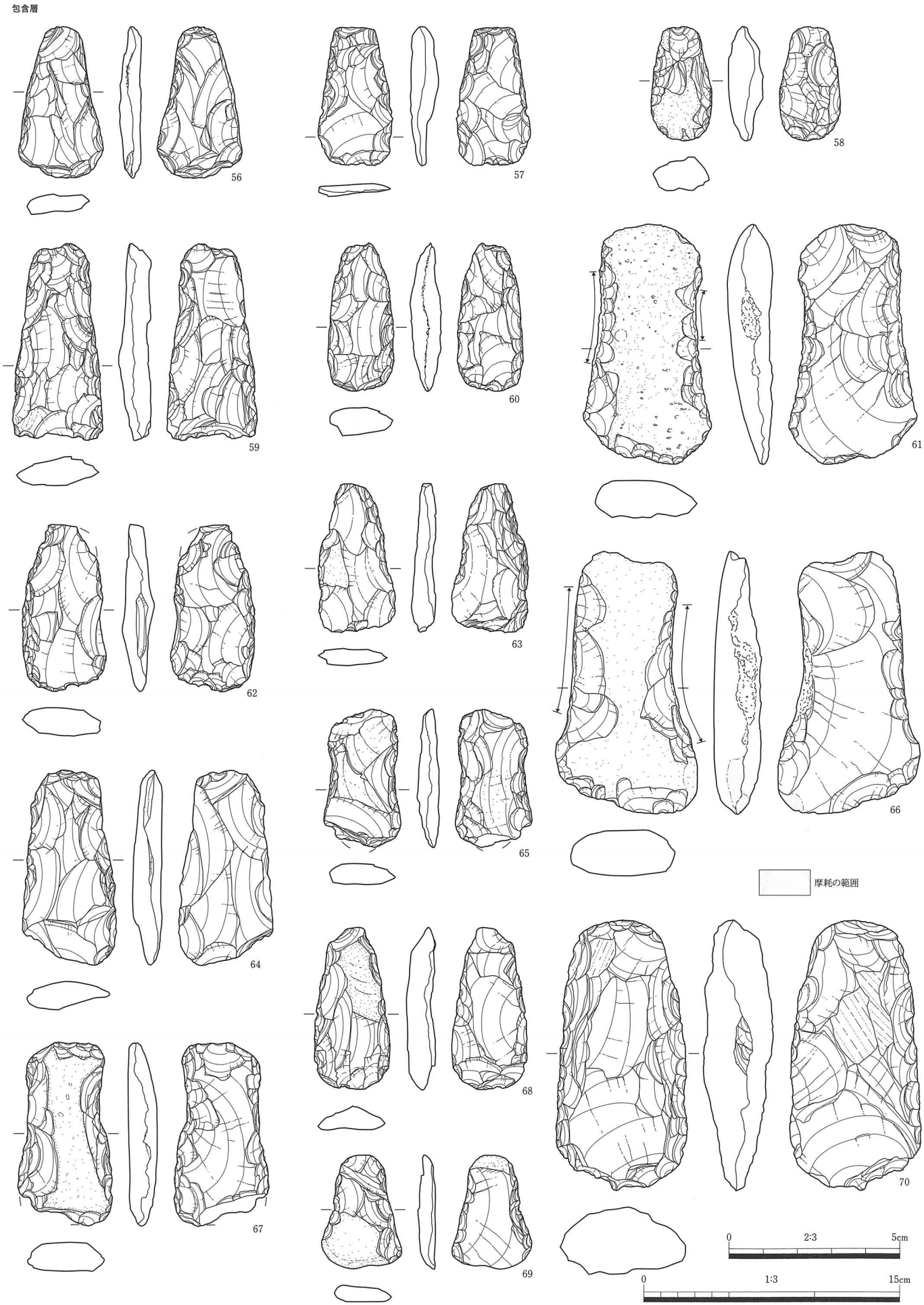
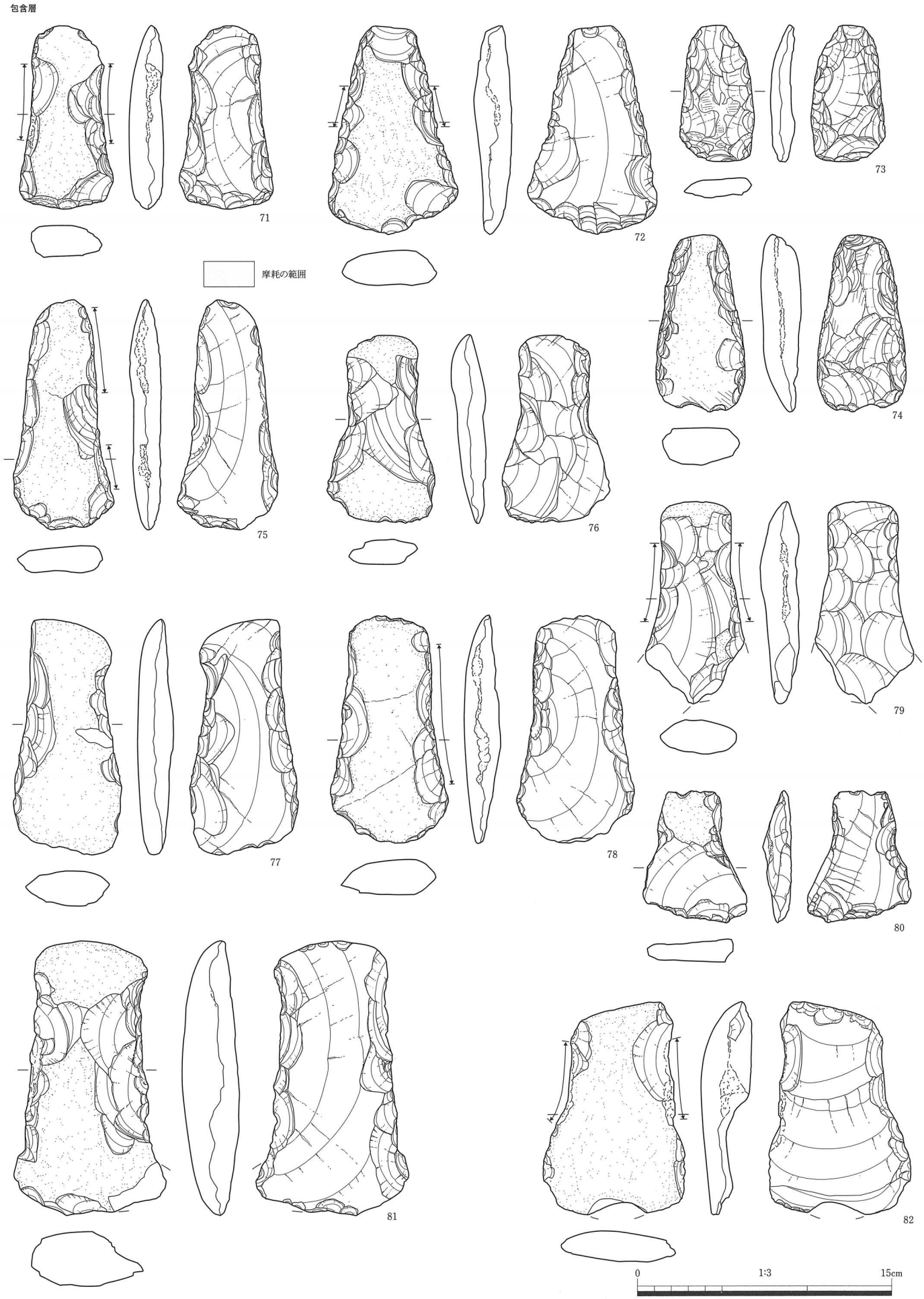


第 72 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

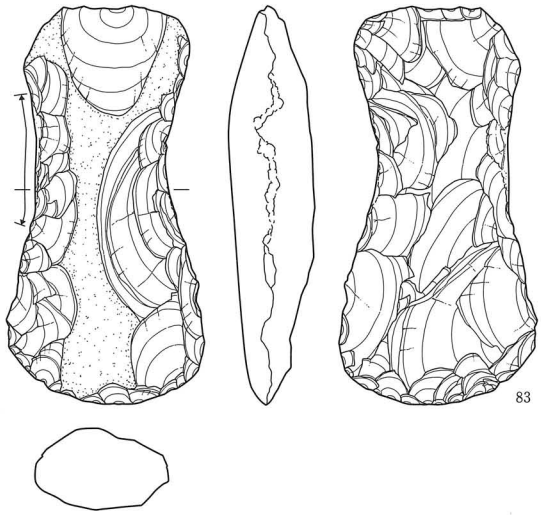


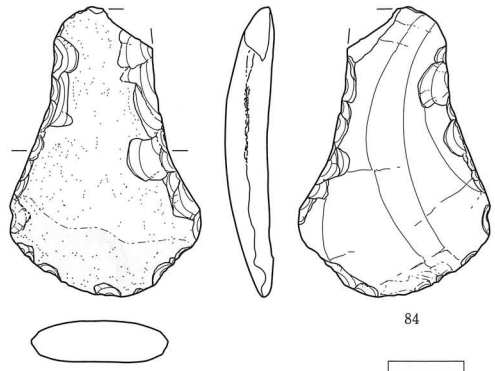
第 73 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（57　2/3，56・58～70　1/3）
包含層



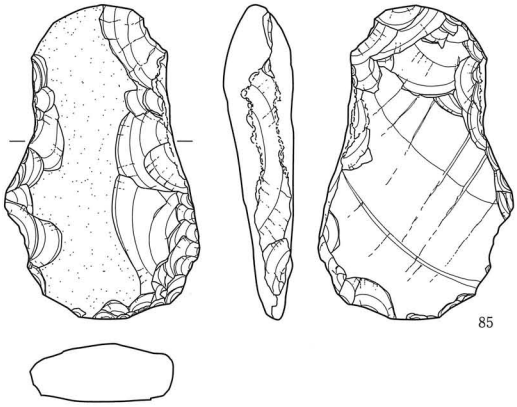
第 74 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

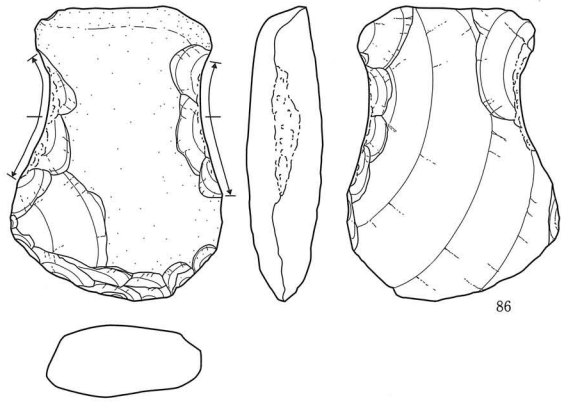
包含層

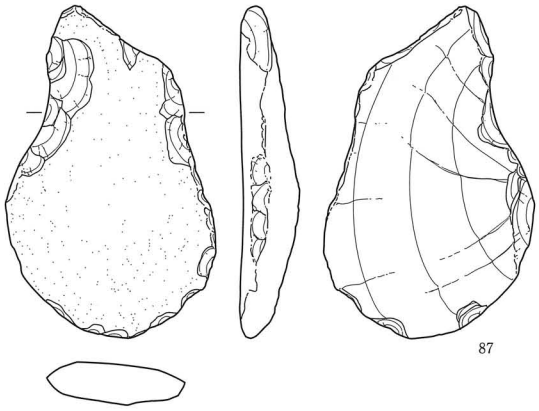


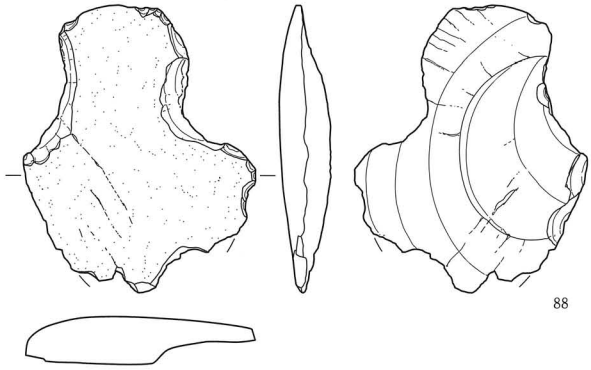


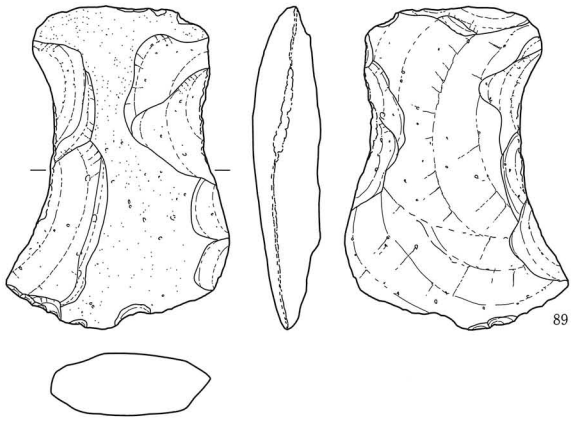
摩耗の範囲

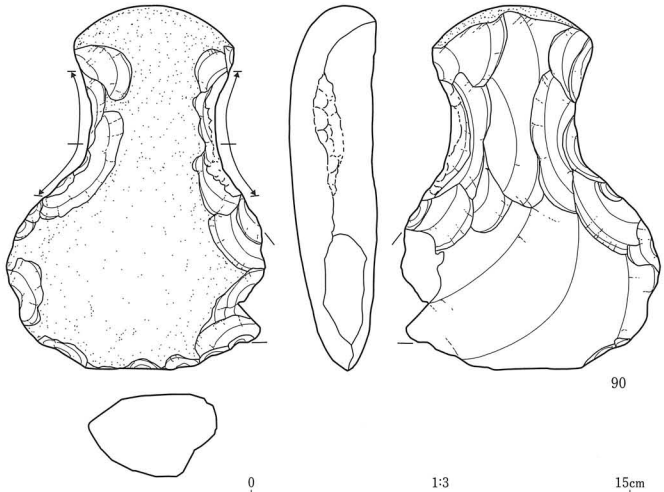






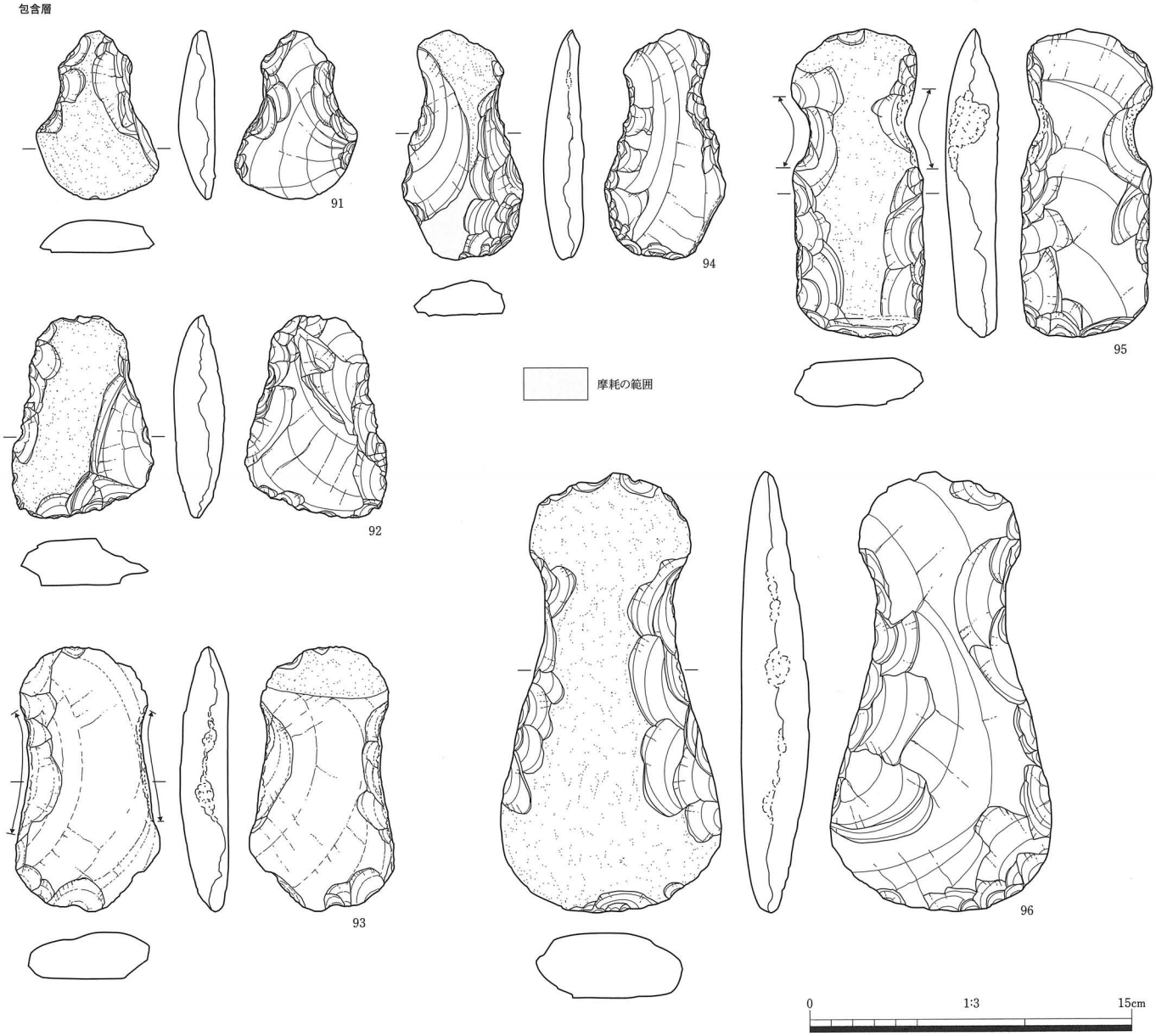




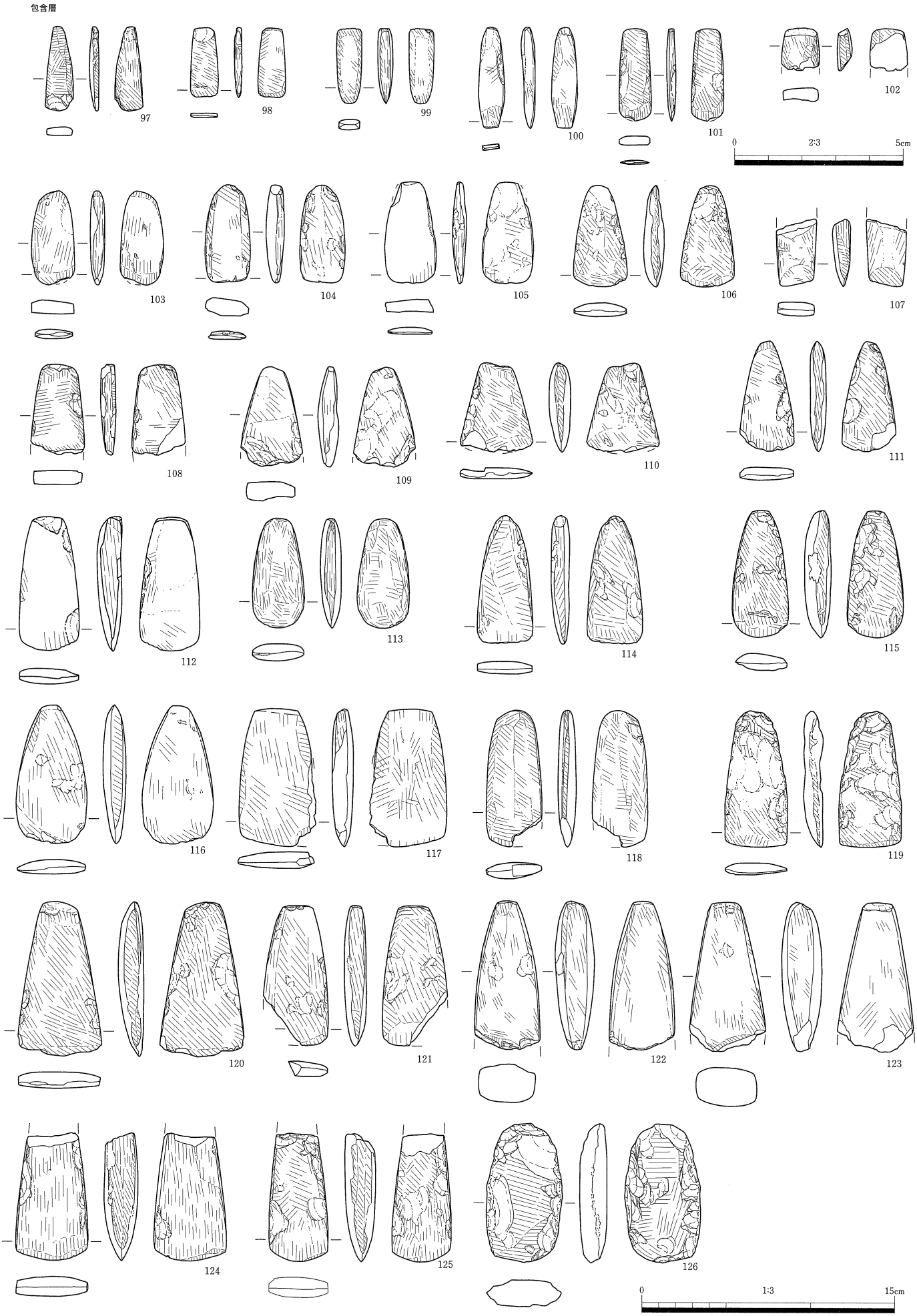


0　1:3　15cm

第 75 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

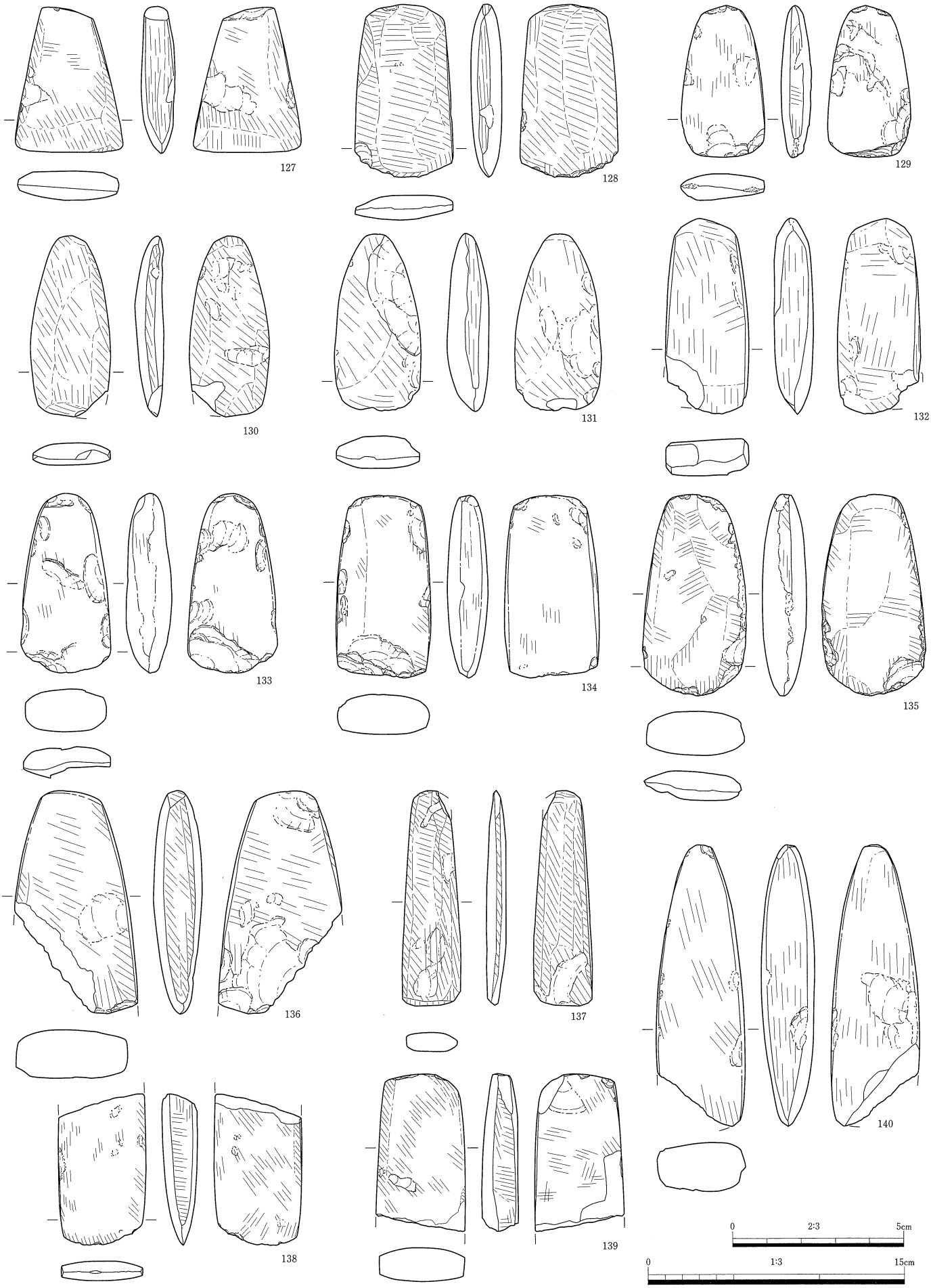


第 76 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層

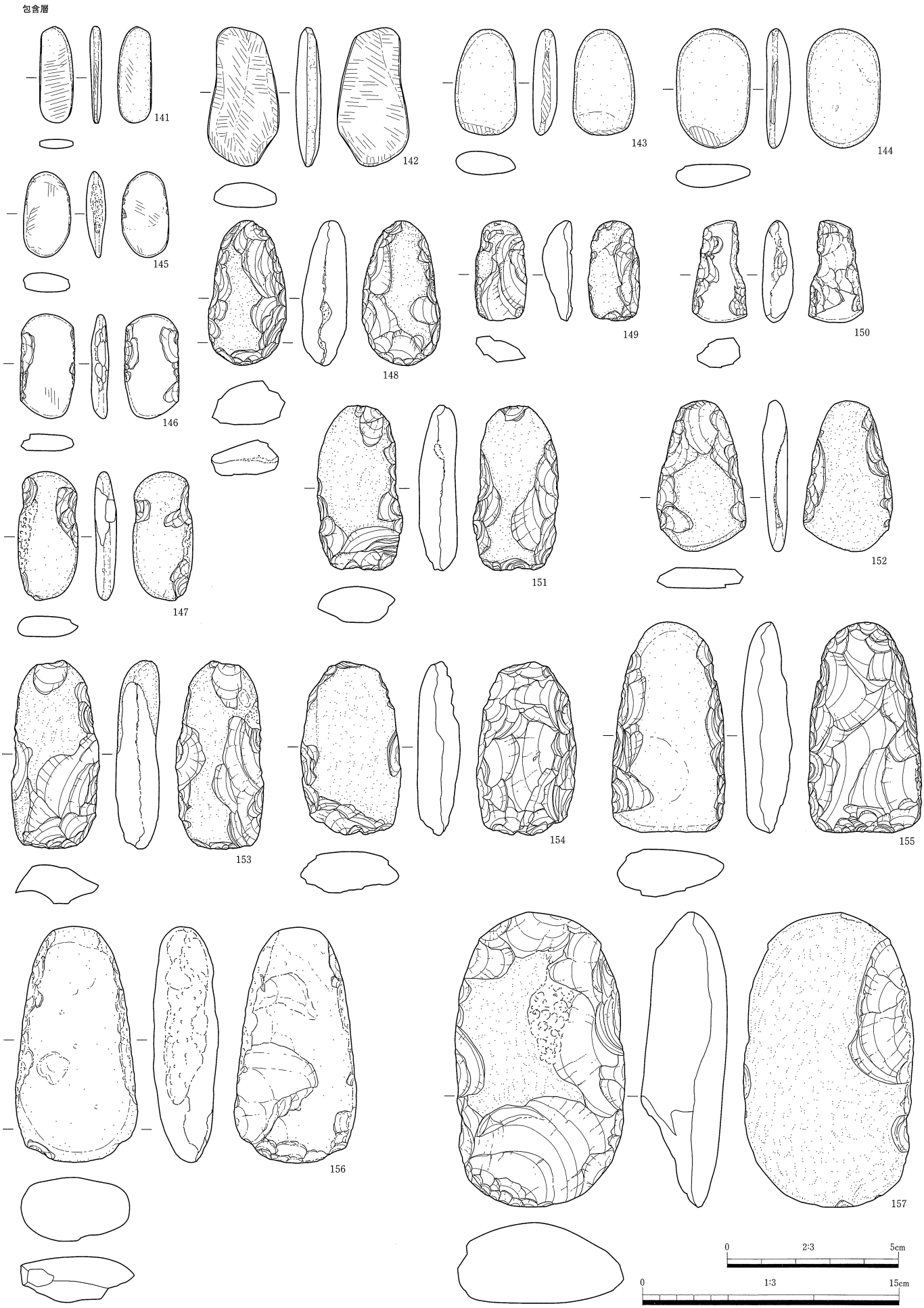


第 77 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（102・105・112・114・126　2/3，その他　1/3）
包含層

包含層

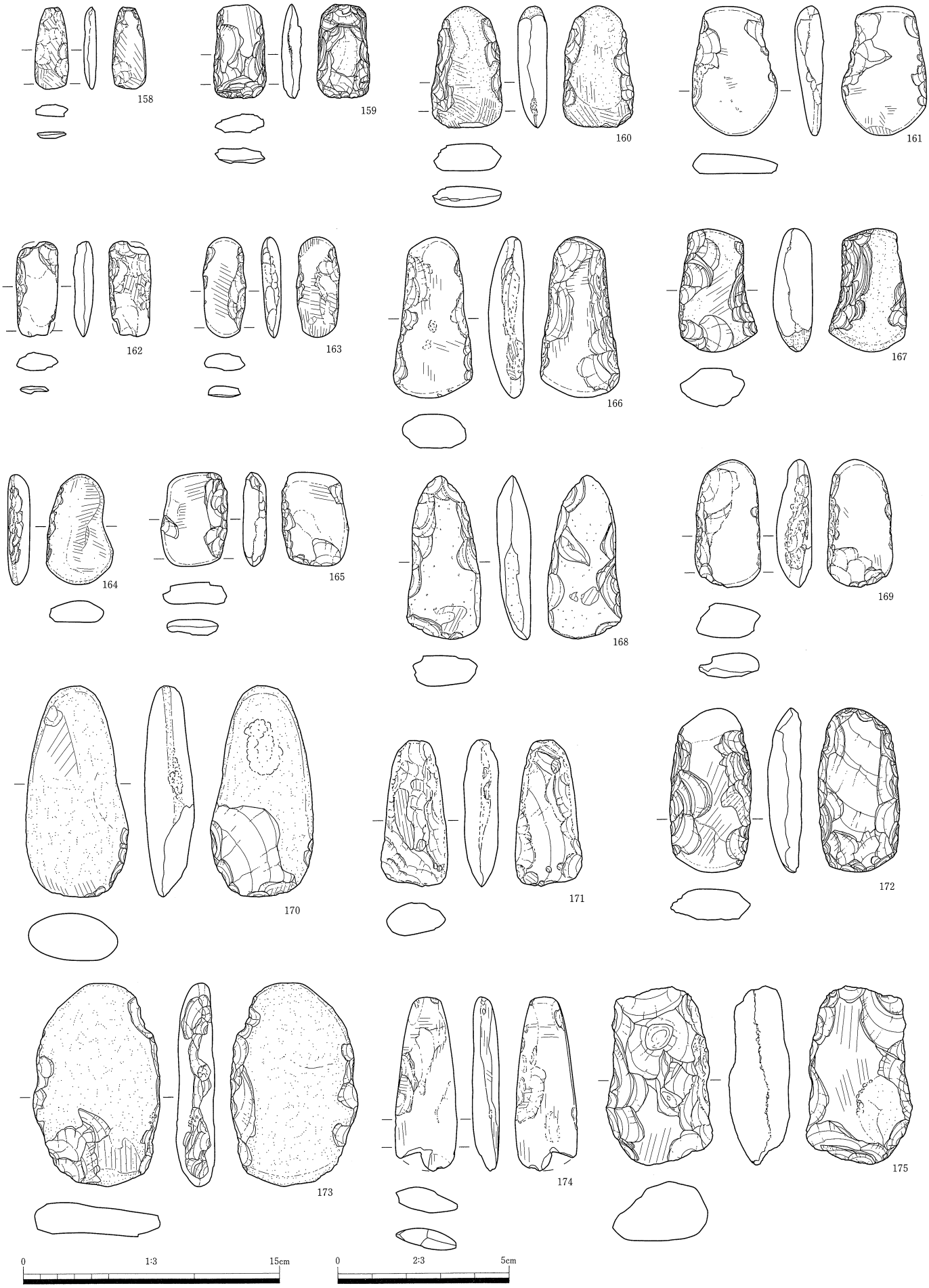


第 78 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（127・128・130～132・137　2/3，その他　1/3）
包含層

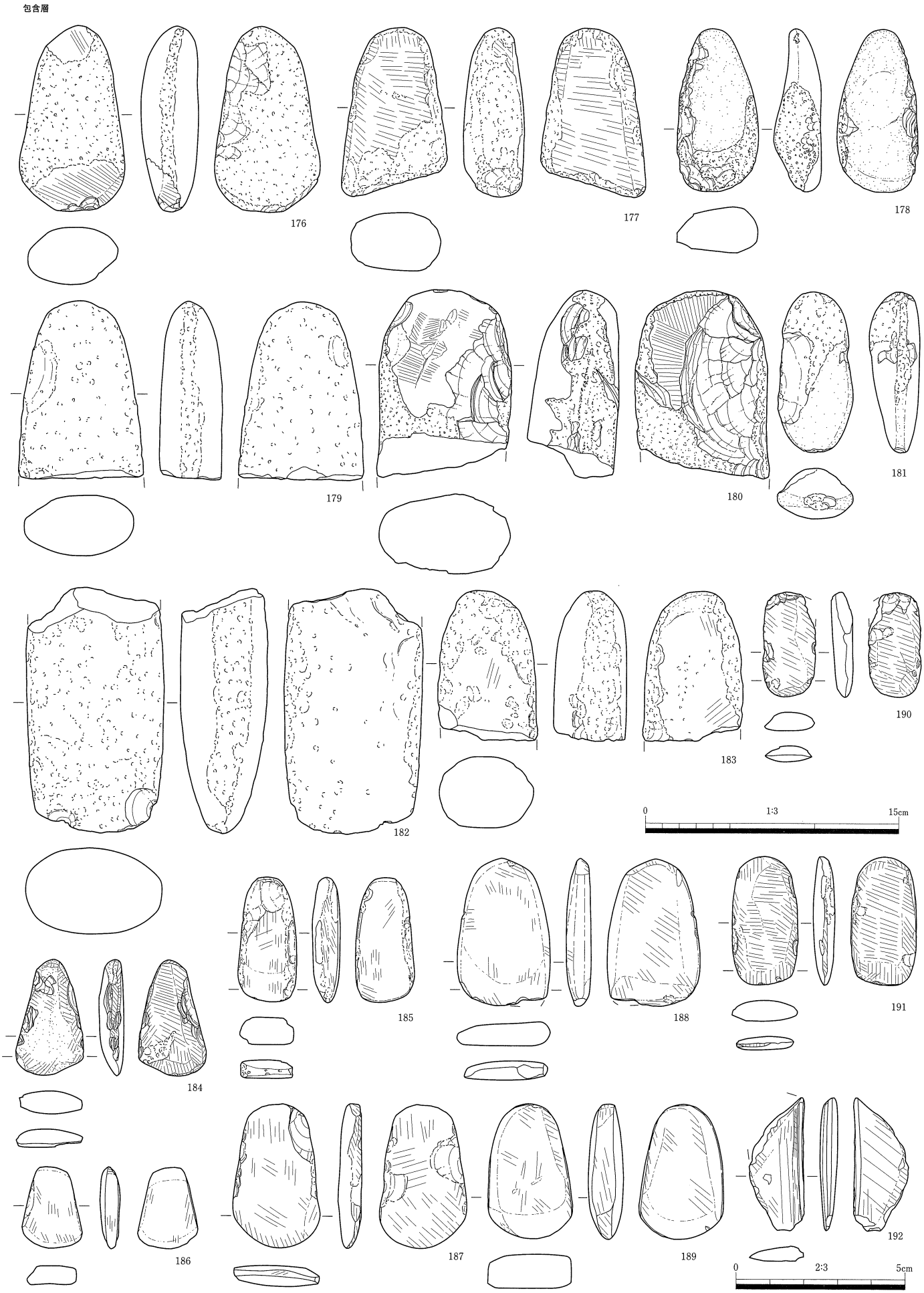


第 79 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（152　2/3，141 ～ 151・153 ～ 157　1/3）
包含層

包含層

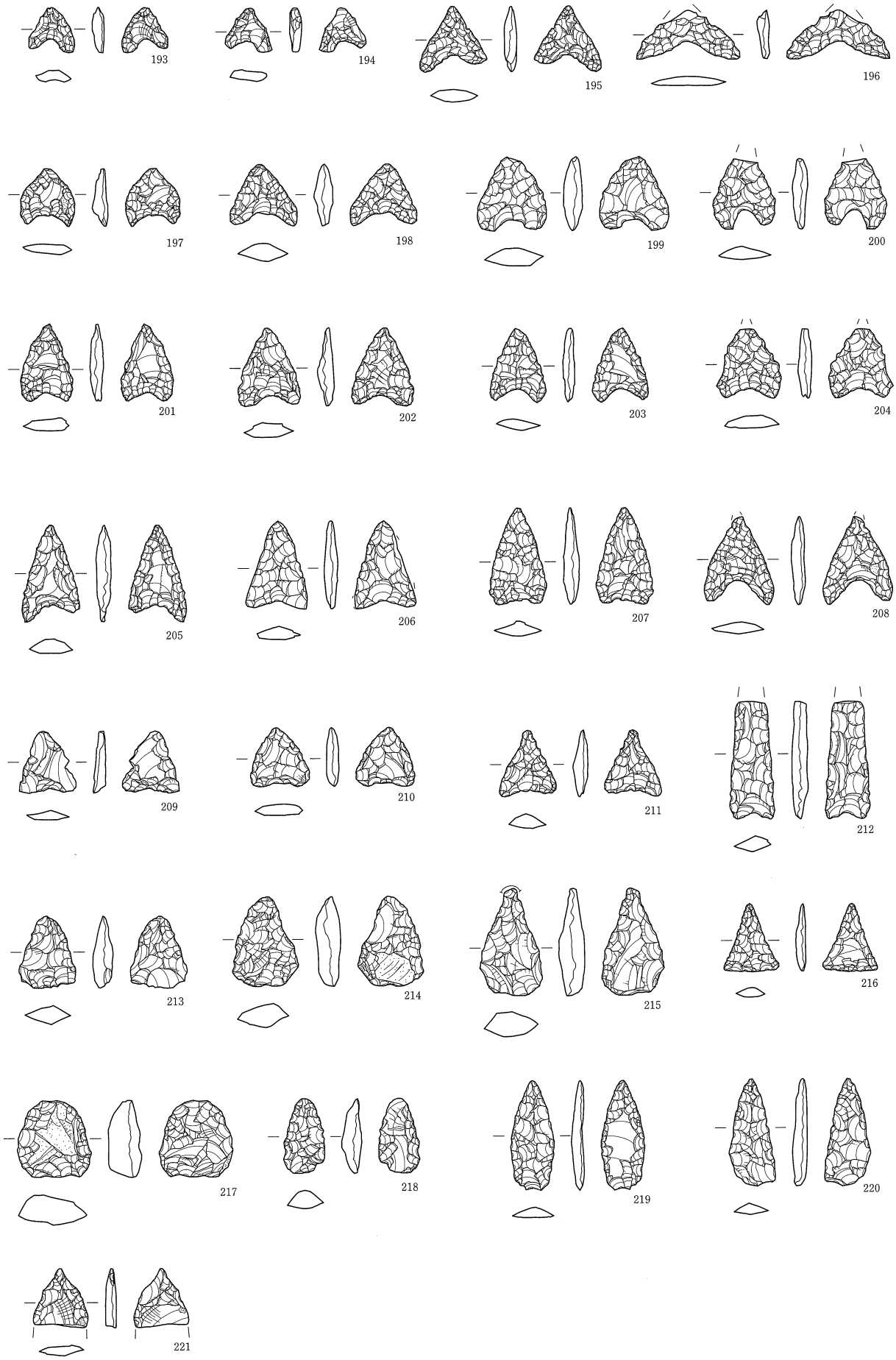


第 80 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（161　2/3，158～160・162～175　1/3）
包含層



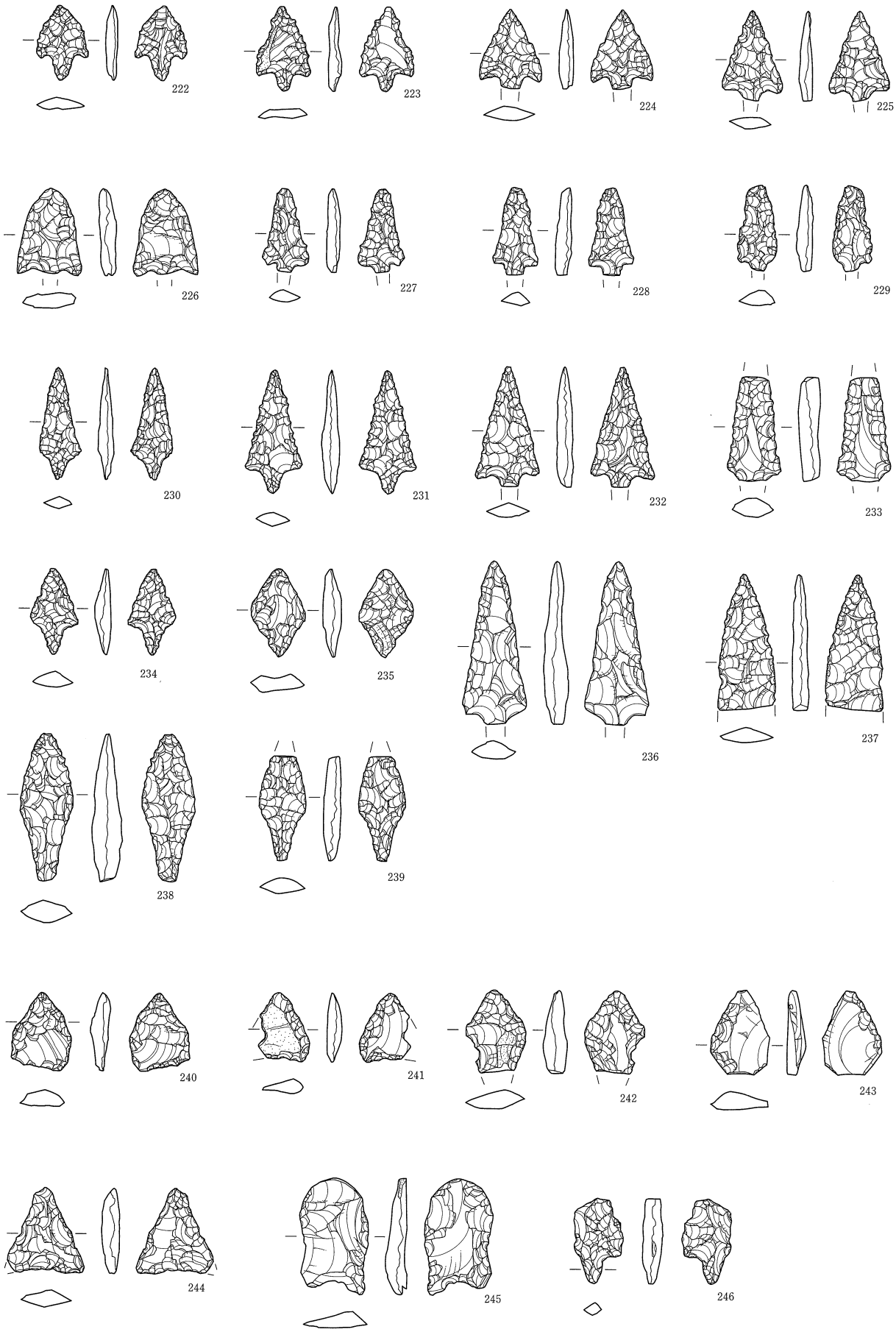
第 81 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（186 ～ 189　2/3，176 ～ 185・190 ～ 192　1/3）
包含層

包含層



第 82 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　(2/3)
包含層

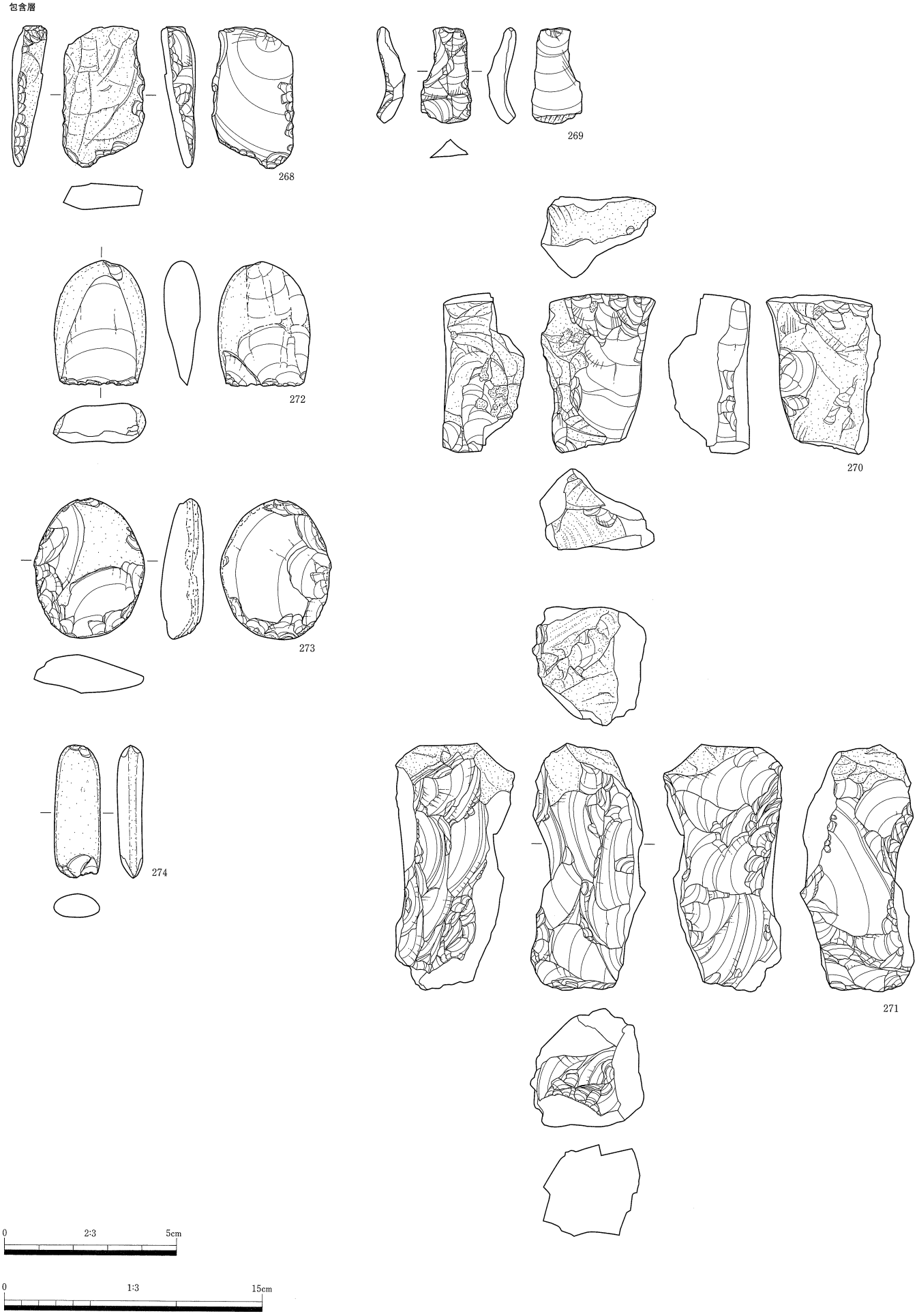
包含層



第 83 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　(2/3)
包含層

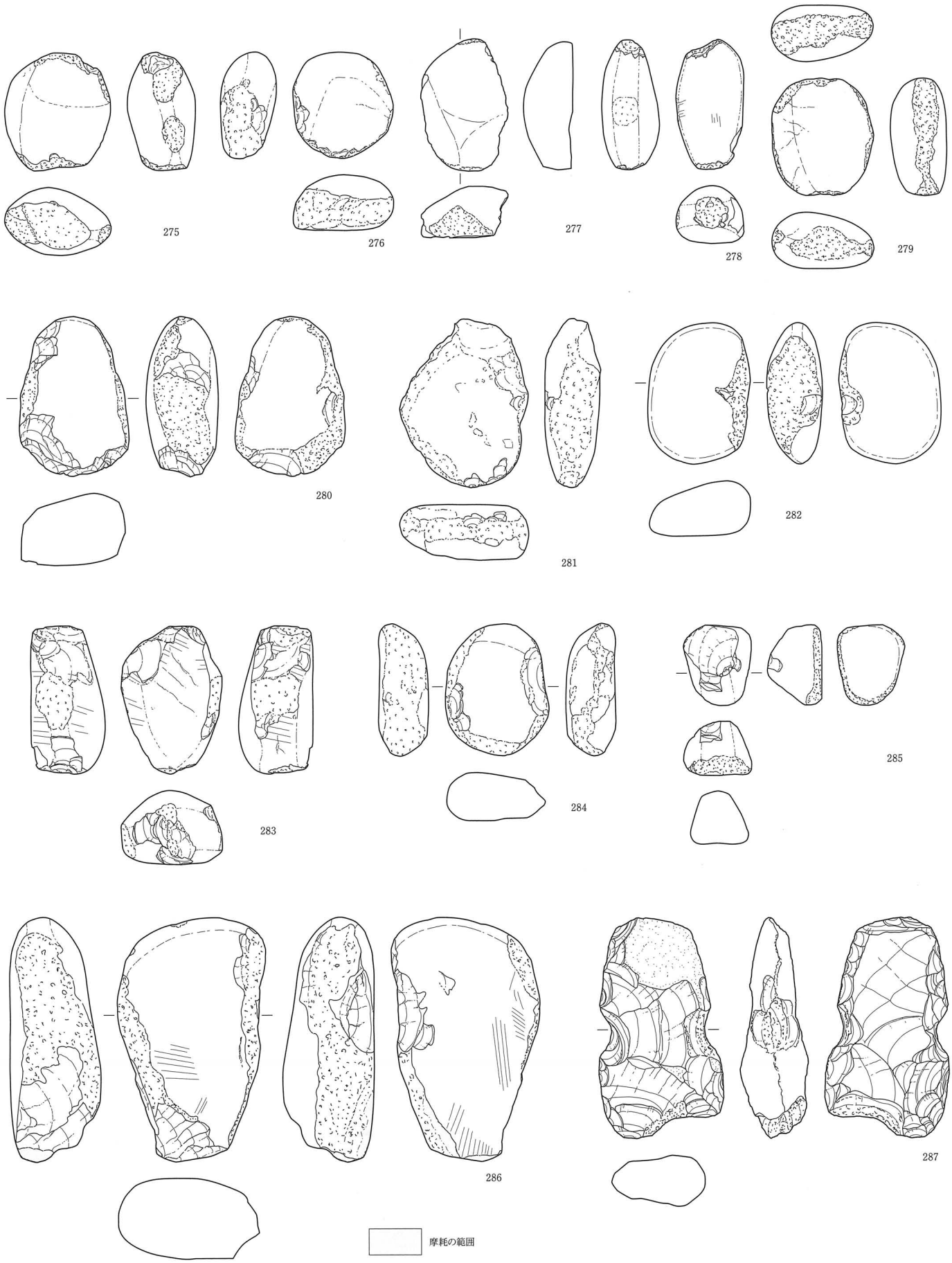
包含層

第 84 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（2/3）
包含層

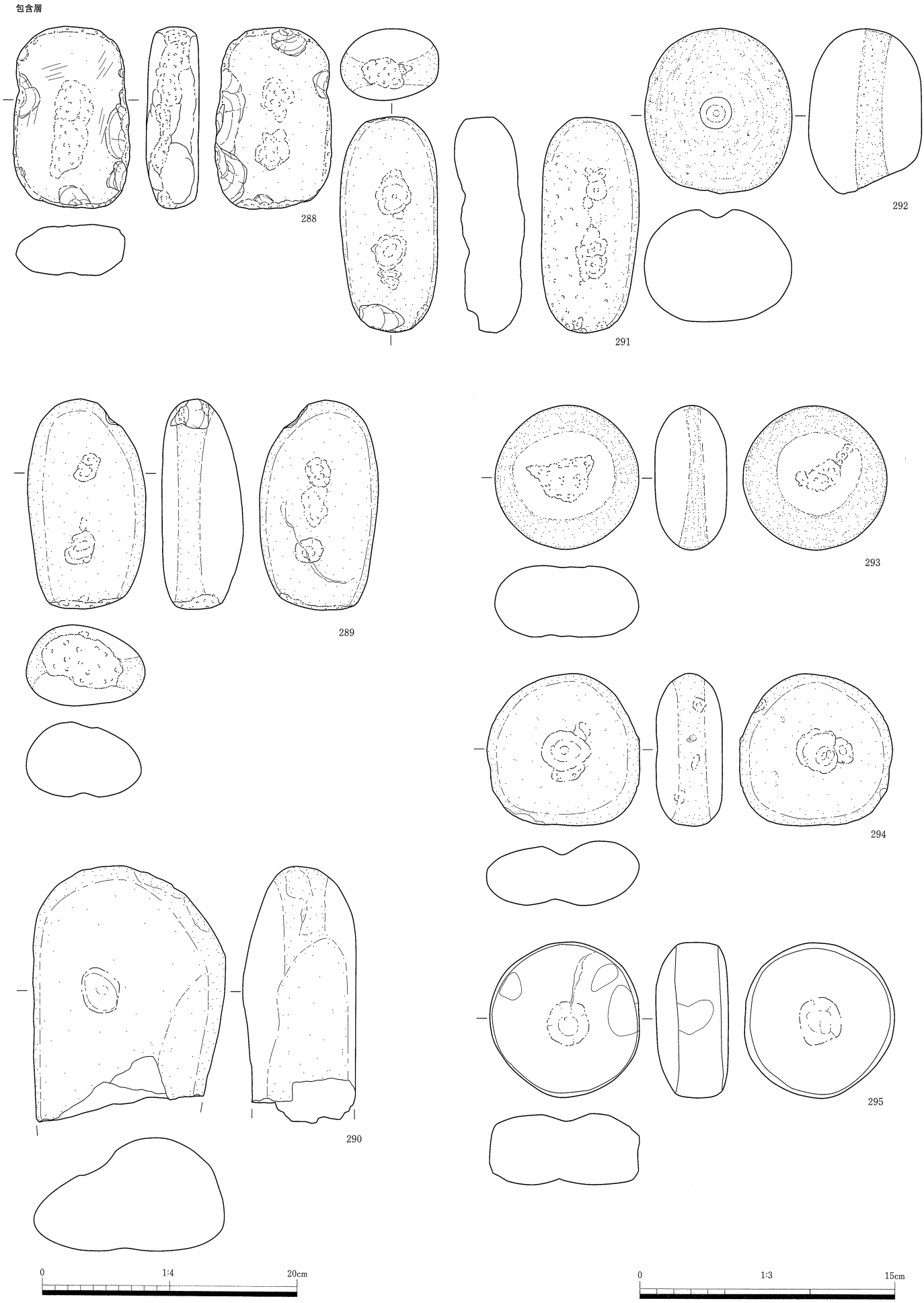


第 85 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（268 ～ 272　2/3，273・274　1/3）
包含層

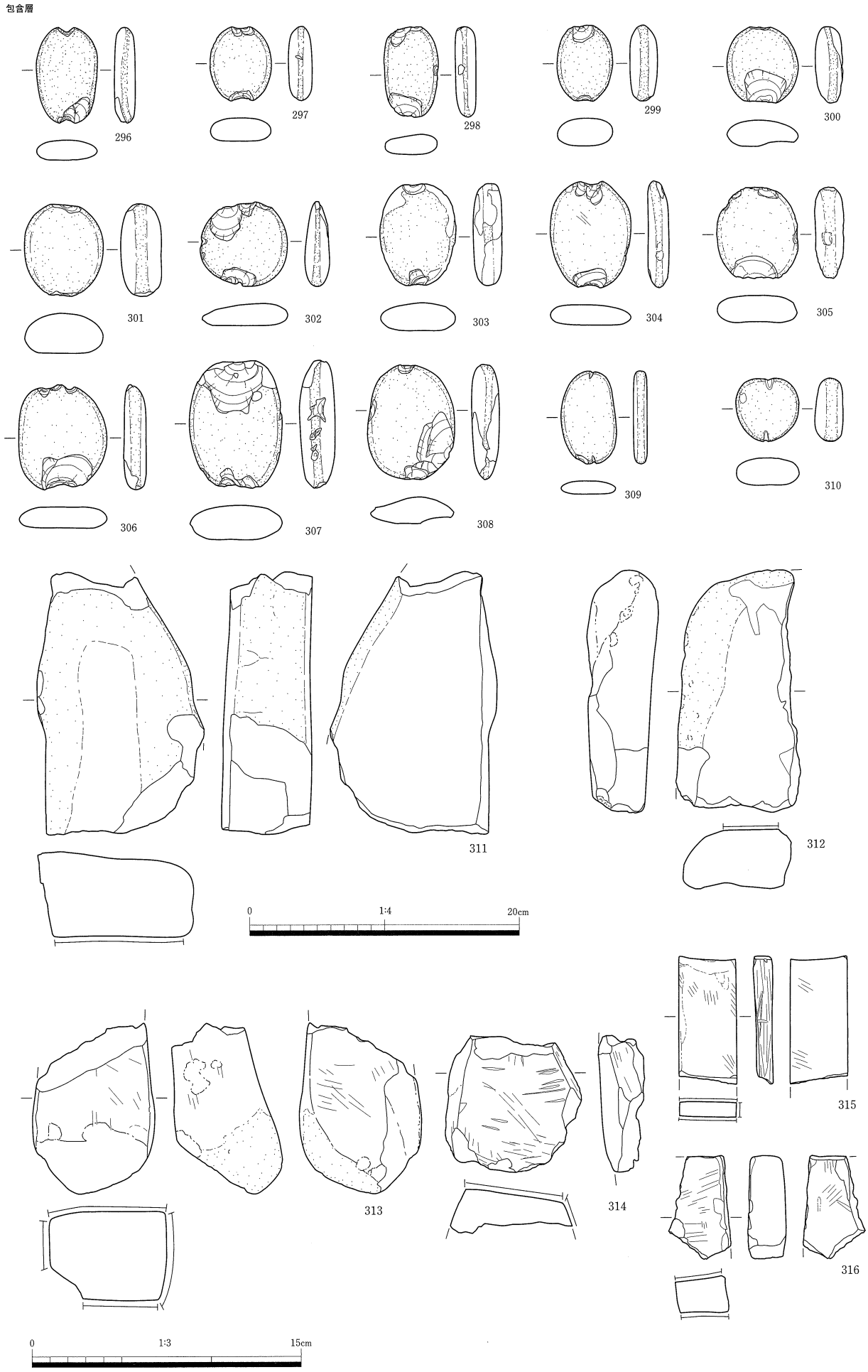
包含層



第 86 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（1/3）
包含層



第 87 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　（288 ～ 289・291 ～ 295　1/3，290　1/4）
包含層

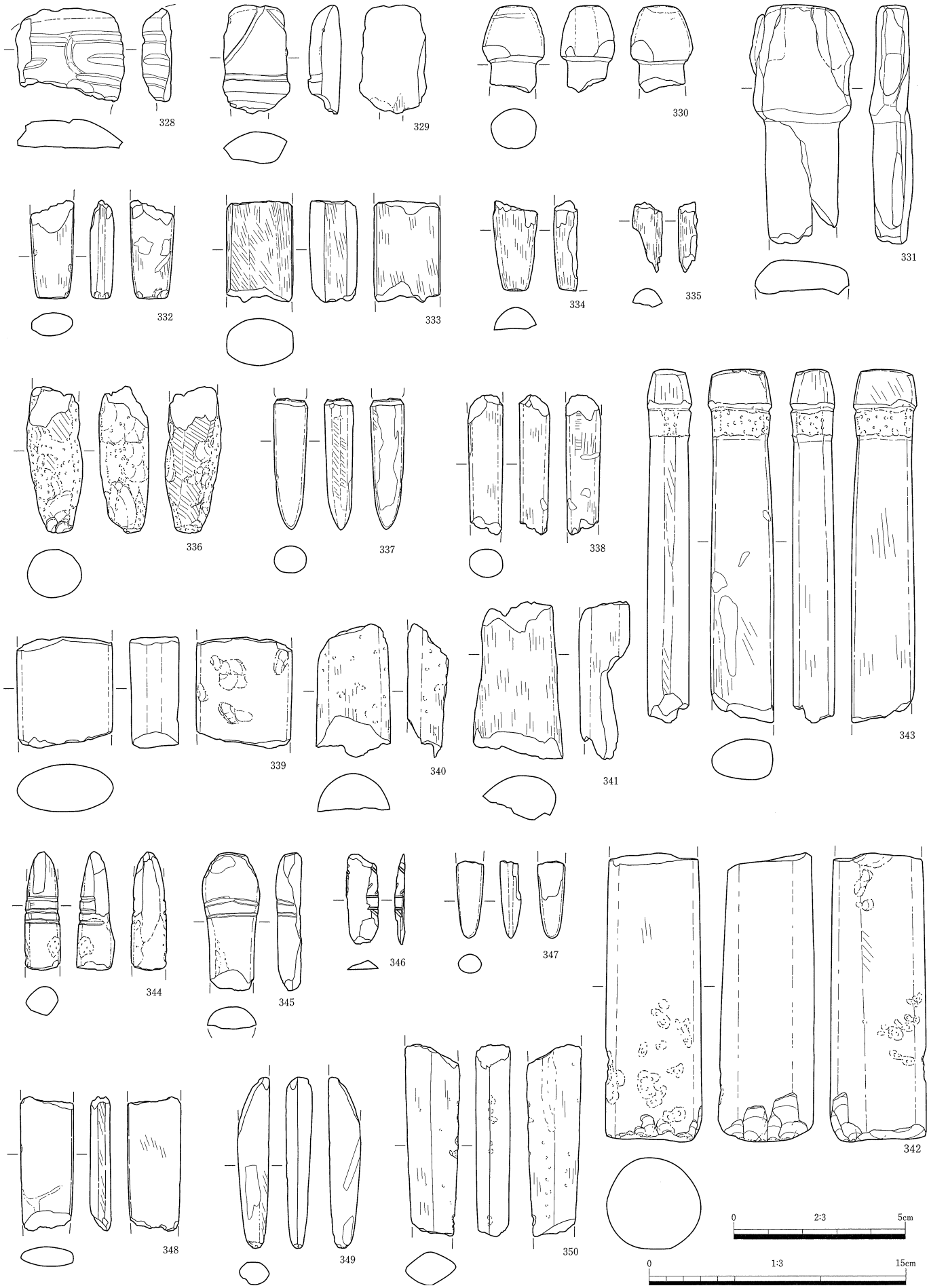


第 88 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　（296 ～ 310・312 ～ 316　1/3，　311　1/4）
包含層

包含層

第 89 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（317 ～ 319・321 ～ 327　1/3，　320　1/6）
包含層

包含層



第 90 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図（328・329　2/3，　330～350　1/3）
包含層

包含層

第 91 図　柳田遺跡　縄文時代遺物実測図　（2/3）
包含層

い。(158 ～ 175) 3：刃先研磨後，敲打による整形を行うもの。(176 ～ 183) 4：刃先研磨後に側面にも研磨を施すもの。擦痕は粗く目立つもので，砥石の使い分けが行われている可能性がある。(184 ～ 189) 5：刃先の形成及び全体を研磨により整形するもの。完成品に近いが，剥離や敲打が部分的に残るもの。(190・191) 6：完成品の6段階に区分できる。これらの段階は，境A遺跡における磨製石斧未成品の分類及び製作工程[注4]の区分を参考とし，境A遺跡の第2段階・第3段階の各製作工程の具体的な例と考える。剥離・敲打・研磨の各整形は，それぞれ補完関係にあり，併行して行われていたものと考えられる。この他に，小型品については，剥離・敲打を行わず，素材に研磨のみを施すもの (141 ～ 145) がある。192は研磨と擦り切り痕がみられる。

石鏃は201・202・203・205・209・226等裏面に主要剥離面が残り，基部の抉りが浅いものが目立つ。216・244は平基無茎鏃。215は先端が摩耗しており，錐に転用した可能性もある。235は平面菱形を呈する有茎鏃。241は石鏃未成品。246は有茎鏃の未成品。245は石鏃未成品で，両側縁が脚部の上で少しくびれる形状を呈する。248は槍の基部とみられ，上端は破損した後に再加工を加えている。250はやや縦に長い三角形状の石匙。253は粗製石匙。258は側縁が平行な棒状の石錐。270は原石面に覆われた加工痕のある素材で，原産地から運んできたが，あまり加工の手を加えていないものであろう。270を含め，石鏃・石錐・石匙等の黒曜石製品24点の産地推定を行った結果，258以外の23点は全て長野県諏訪エリア星ヶ台群産と推定された。258は現時点では産地不明とのことで，遺跡周辺に小規模な産地の存在が示唆されている[注5]。273は打製の円盤状を呈する石器である。287は打製石斧の刃部の破損後に再生を試みたか，敲打痕が顕著にみられる。288・291はクルミ等の堅果類の殻割に用いたと思われる凹石で，両面とも使用している。295は凹石状の凹みが両面にみられるが，側面を研磨して帯状の面を形成している。石錘は相対する2箇所に糸かけを打欠きにより作り出したもので，扁平な楕円形の円礫を素材としているが，309・310は糸かけを敲打により溝状に作りだし，研磨したもの。317 ～ 320はいわゆる筋砥石で，断面U字状の溝が刻まれている。324は長楕円形の基底部をもつ石冠で，側面からみるとやや反っている。328・329・344・345・346は頭部に線刻のみられる石棒・石刀。344は断面V字状の溝が彫り込まれる。351は三角形状の磨製石製品で，背面は礫面が残る。

352 ～ 363は玦状耳飾りで，全て欠損品で全形のわかるものはない。352は厚みがあり，孔径が大きく，中期前葉～中葉とみられやや古相のものだが，その他は概ね中期中葉～後葉にかけての間に収まるものとみられる。362・363は玦状耳飾りの未成品か。355は破損した跡に磨いて勾玉状にしている。354は破損後に孔をあけて再利用しようとしたが，破損したものか。356・362は平面形が三角形を呈するもの。364 ～ 379は玉類及び垂飾，367・368は管玉，369は丸玉。366は破損したものに孔をあけて縛って使用した可能性もあるが，勾玉状の垂飾としておく。372は未成品で，両面から穿孔の跡があるが，貫通はしていない。371は平面亀甲形を呈し，全面に研磨痕がみられる。玉未成品か。376は楕円形の扁平なもので，表面に研磨痕が認められ，中央上端に穿孔を試みたと考えられる円形の凹みがある。368は研磨を施して円筒状にした管玉未成品。377は翡翠製で，扁平な方形を呈する。　（金三津道子）

(2) 中世

A　掘立柱建物

1号掘立柱建物（SB 1，第92図，図版35）

B地区西部中央南よりに位置する。3間×2間の南北棟側柱建物である。桁行6.58m，梁行4.96m，面積32.64㎡である。主軸はN－10°　W－である。区画溝SD400・SD401が北側と東側を囲む。柱穴の平面形は円形と楕円形がある。規模は直径または長径0.22～0.57m，深さ0.11～0.38mである。埋土は上層を黒褐色粘土質シルトを基調とするものが多い。下層には地山の褐色粘土が混ざるものが多く，一部に黒色粘土質シルトの堆積もみられる。SP280の黒色粘土層は柱痕である可能性がある。出土遺物はSP297の中世土師器皿小片がある。

2号掘立柱建物（SB 2，第92図，図版35）

B地区西部中央南端に位置する。3間×2間の東西棟総柱建物である。桁行5.78m，梁行4.50m，面積26.01㎡である。主軸はN－76°　－Eである。区画溝SD400・SD401が北側と西側を囲む。柱穴の平面形は全て円形である。規模は直径0.24～0.42m，深さ0.20～0.42mである。埋土は黒褐色～黒色粘土を基調とする。出土遺物は混入と思われる縄文土器のみである。

3号掘立柱建物（SB 3，第93図，図版35）

B地区西部中央南端に位置する。3間×2間の南北棟側柱建物である。桁行5.67m，梁行4.00m，面積22.68㎡である。主軸はN－10°　－Eである。柱穴の平面形は円形を基本とし，一部に楕円形や不整形がみられる。規模は直径または長径0.27～0.48m，深さ0.11～0.36mである。埋土は，東側は褐灰色～黒褐色粘土，西側は灰黄褐色～黒褐色粘土を基調とし，下層や壁面近くに地山の褐色粘土やにぶい黄褐色砂質シルトが混入するものが多い。SB2とはSP899を，SB4とはSP1192の柱穴をそれぞれ共有する。出土遺物はない。

4号掘立柱建物（SB 4，第94図，図版35）

B地区西部中央南よりに位置する。1間×1間の東西棟建物である。桁行1.92m，梁行1.55m，面積2.98㎡である。主軸はN－72°　－Eである。柱穴の平面形は，SB 3と柱穴を共有するSP1192を除いて全て楕円形である。規模は直径または長径0.27～0.38m，深さ0.15～0.35mである。埋土は上層に灰黄褐色～黒褐色粘土などがみられ，下層には黒褐色～黒色粘土などが堆積する。出土遺物は混入と思われる縄文土器のみである。

5号掘立柱建物（SB 5，第95図，図版35）

B地区中央北よりに位置する。2間×2間の南北棟総柱建物である。桁行4.54m，梁行4.17m，面積18.93㎡である。主軸はN－5°　－Eである。北に位置するSB 6は軸方位と梁間が同じであり，一連の建物とも考えられるが，桁間が短いため別建物と考えた。柱穴の平面形は円形が殆どである。規模は直径または長径0.22～0.46m，深さ0.22～0.53mである。埋土は基本的に黒色粘土の単層であるが，SP2616上層には黒褐色粘土が薄く堆積し，SP2646の壁面近くの下層には地山の褐色粘土の混ざる層がみられる。出土遺物はない。

6号掘立柱建物（SB 6，第95図，図版35）

B地区中央北端に位置する。大半が調査区外にかかるが，東西2間×南北1間を確認した。南に軸方位と梁間が同じSB 5が建ち並ぶ。桁行4.17m，梁行2.86mである。主軸はN－85°　－Wである。柱穴の平面形は全て楕円形である。SP3702は上部が崩れて広がっているが，本来楕円形であったようである。SP3702を除く規模は，直径または長径0.36～0.43m，深さ0.33～0.44mである。埋土は上層に

黒褐色粘土が薄く堆積し，下層には黒色粘土層がみられる。出土遺物はない。

7号掘立柱建物（SB 7，第96・97図，図版35）

B地区中央南よりに位置する。4間×3間の東西棟総柱建物である。桁行9.83m，梁行7.72m，面積75.89㎡である。主軸はN－88°－Eである。南に位置するSB 8は軸方位と桁間が同じであり一連の建物とも考えられるが，梁方向の柱間が短いことと南西部分に柱列が続かないことから，別建物と考えた。柱穴の平面形は円形を基本とする。規模は直径または長径0.17～0.54m，深さ0.14～0.55mである。埋土は黒褐色～黒色粘土を基調とし，一部に地山の褐色粘土やにぶい黄褐色砂質シルトの混入がみられる。出土遺物はSP4741の珠洲甕胴部片がある。

8号掘立柱建物（SB 8，第96・97図，図版35）

B地区中央南端に位置する総柱建物である。東西1間×南北1間を確認した。桁行2.54m，梁行1.42mである。主軸はN－88°－Eである。柱穴の平面形は殆どが円形である。規模は直径または長径0.26～0.35m，深さ0.21～0.57mである。埋土は黒褐色～黒色粘土を基調とする。出土遺物は混入と思われる縄文土器のみである。

9号掘立柱建物（SB 9，第94図，図版35）

B地区東部中央より南端に位置する。大半が調査区外にかかるが，東西2間×南北1間を確認した。桁行4.41m，梁行2.37mである。主軸はN－84°－Eである。柱穴の平面形は楕円形と円形がある。規模は直径または長径0.25～0.48m，深さ0.30～0.52mである。埋土は黒褐色～黒色粘土の単層が多く，東側のSP4800・SP5463の下層には地山の褐色粘土の混入する層が一部みられる。出土遺物はない。

10号掘立柱建物（SB10，第94図，図版35）

B地区東部中央に位置する。1間×1間の東西棟建物である。桁行2.43m，梁行2.15m，面積5.22㎡である。主軸はN－45°－Eである。柱穴の平面形は円形と楕円形で，規模は直径または長径0.26～0.30m，深さ0.29～0.44mである。埋土は黒褐色～黒色粘土を基調とする。出土遺物はない。

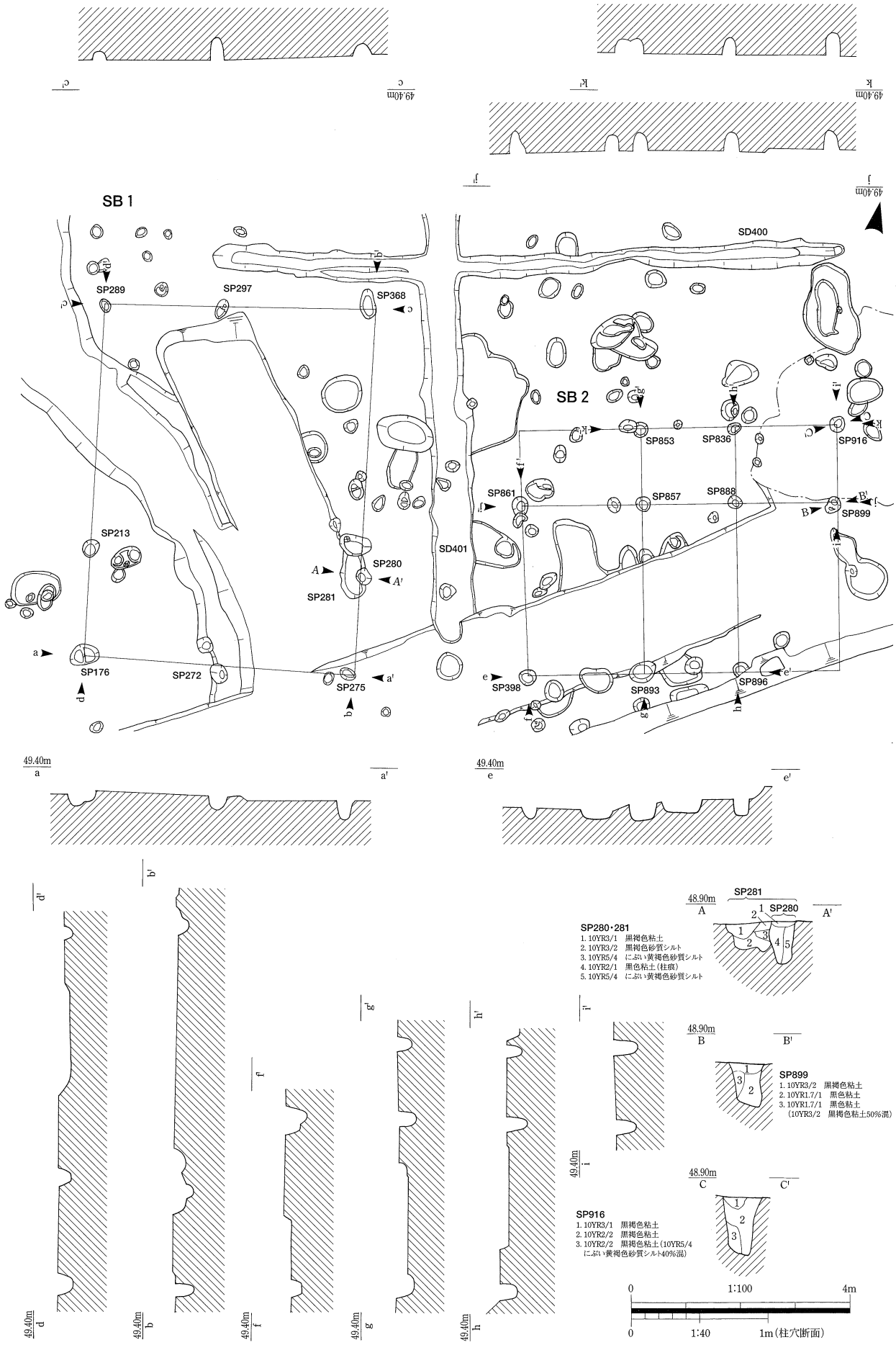
（朝田亜紀子）

11号掘立柱建物（SB11，第98・112図，図版36・64）

A地区中央の遺構集中地帯に位置する。3間×3間の南北棟総柱建物で，主軸はN－13°－Eである。桁行8.5m，梁行5.8m，面積49.3㎡を測る。梁行の柱間は東から1.9m，1.8m，1.2mとなり，西側はやや狭くなる。SB12・SB13と重複しており，SP1970がSB12の柱穴SP1971に切られ，SP9160がSB13の柱穴SP9161に切られることから，SB11が最も古い建物となる。柱穴の平面形は円形・楕円形を呈し，直径または長径0.25m～0.60mを測る。深さは0.06m～0.42mでバラツキがあり，北側の柱穴が浅くなる傾向にある。SP9160・SP9170・SP9209は埋土が炭化物混じりの黒色粘土質シルトで柱痕跡が認められた。出土遺物は，SP9209・SP9253から中世土師器が出土している。382・381は口縁部に一段の横ナデを施し，口縁端部を面取りするもので，13世紀前半のものである。

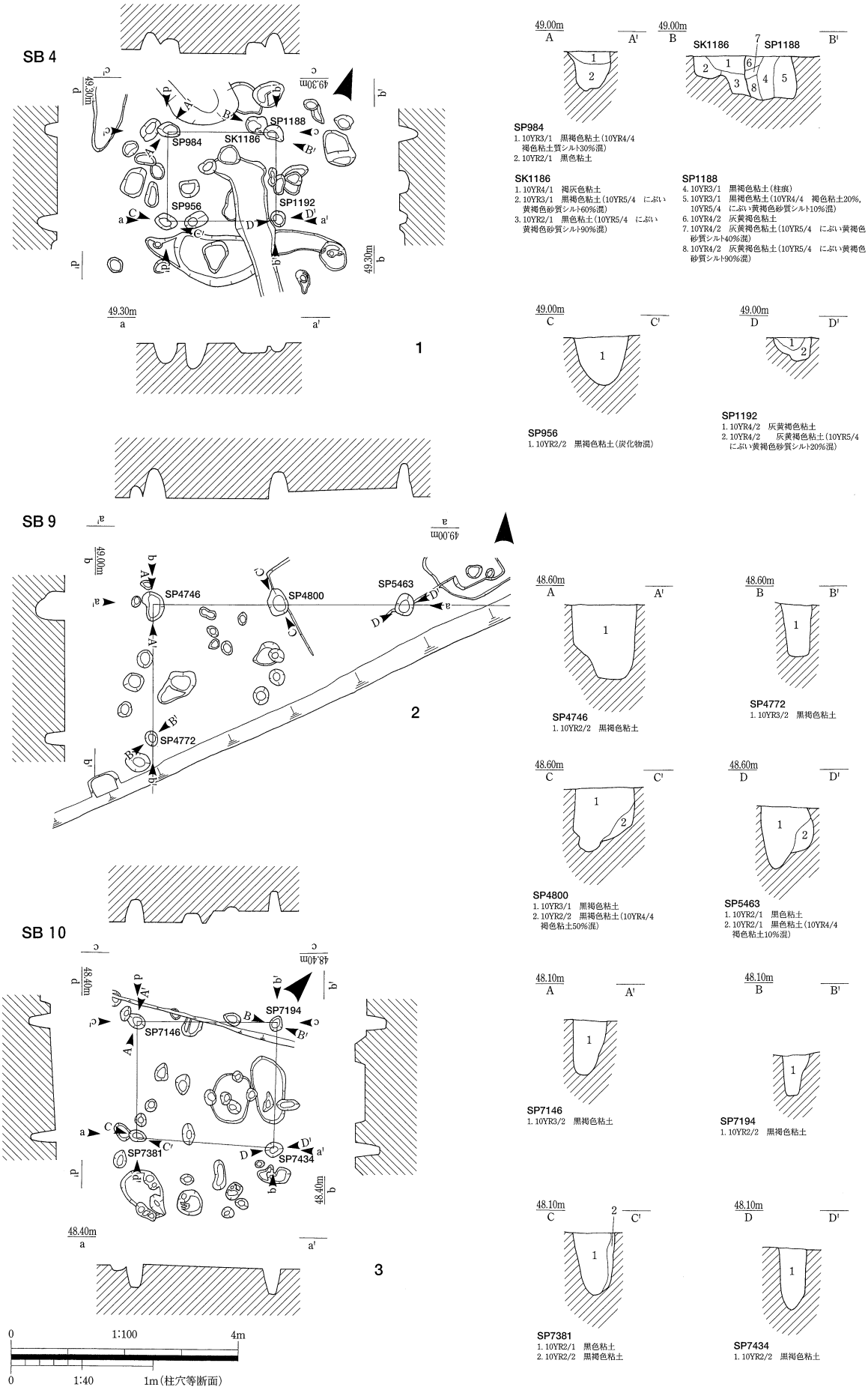
12号掘立柱建物（SB12，第99図，図版36）

A地区中央に位置する。柱並びが不揃いでやや歪むが，2間×2間の東西棟総柱建物と想定した。桁行6.0m，梁行5.0m，面積30㎡，主軸N－84°－Wである。柱穴の平面形は円形で，直径または長径0.25m～0.44m，深さ0.12m～0.38mを測る。SB11・SB13と重複しており，SP9171がSB11の柱穴SP1970を切ること，SP1971・SP9210がSB13に付属すると考えるSX9226を切ることから，SB12が最も新しい建物と考える。SP9136・SP9148・SP9197では埋土が炭化物混じりの黒色粘土質シルトで，柱痕跡が認められた。出土遺物はない。

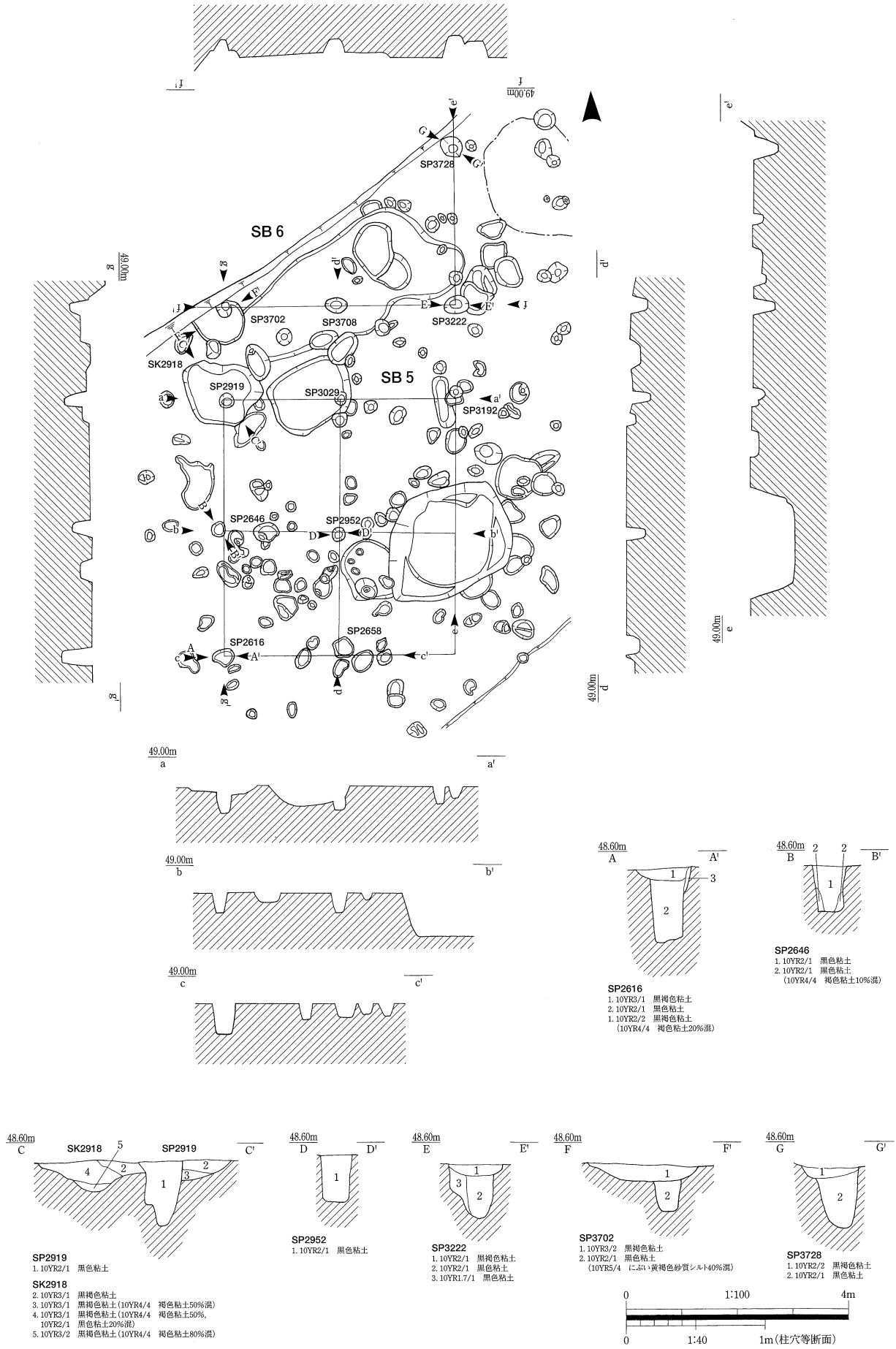


第 92 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SB 1 ・SB 2

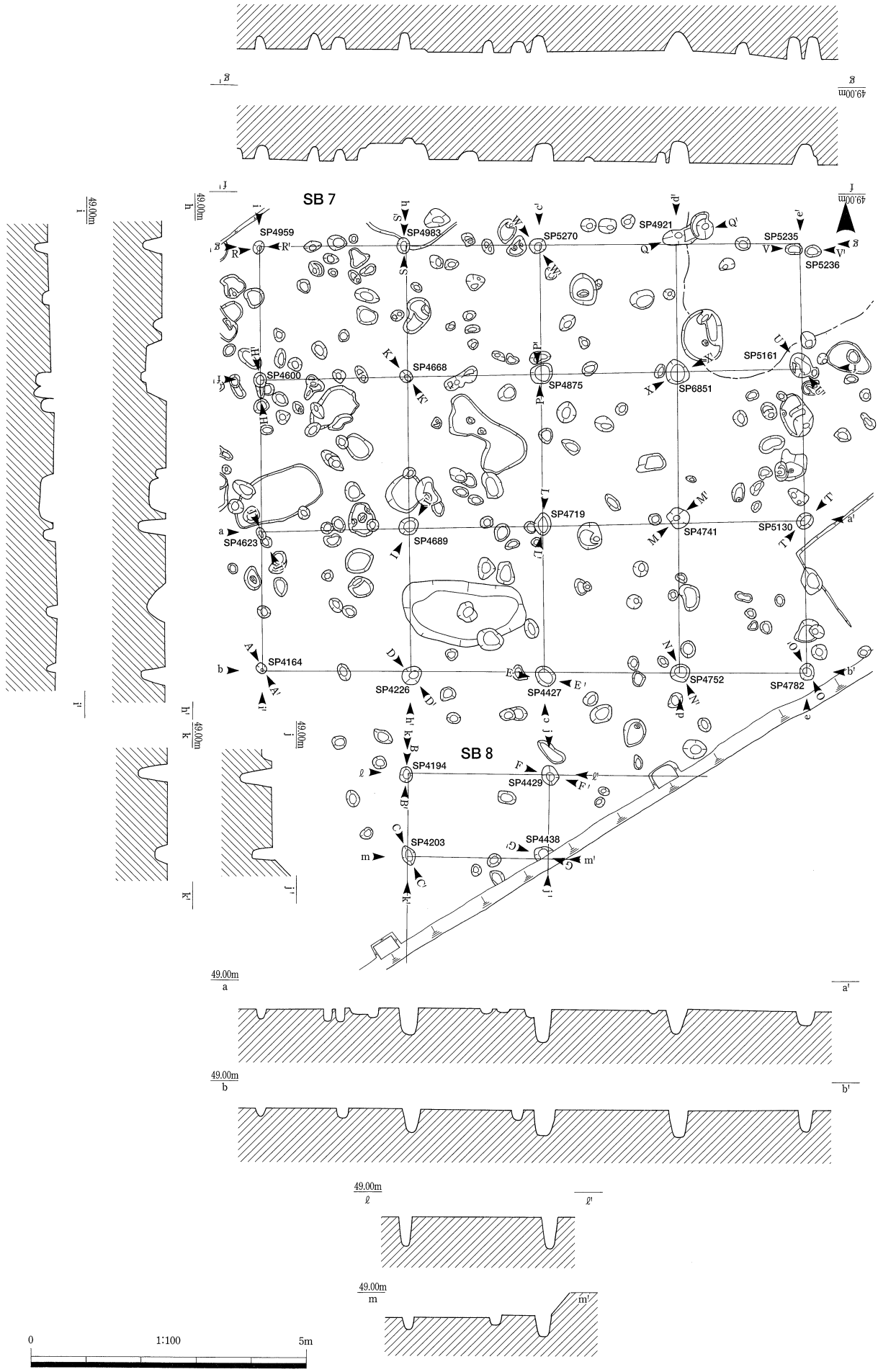
第 93 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
1. SA 1 ・SA 2　2. SB 3



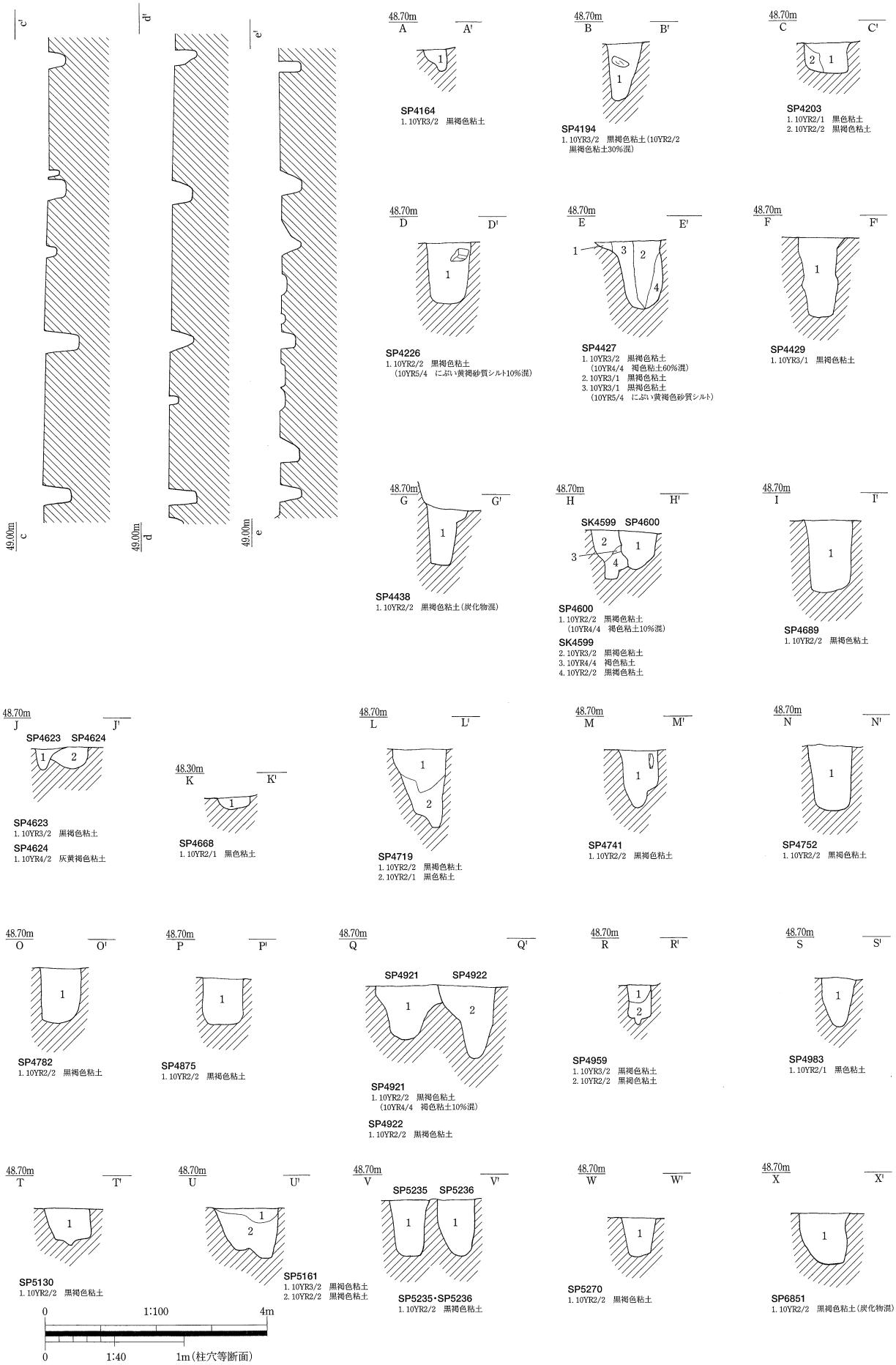
第 94 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
1. SB 4　2. SB 9　3. SB10



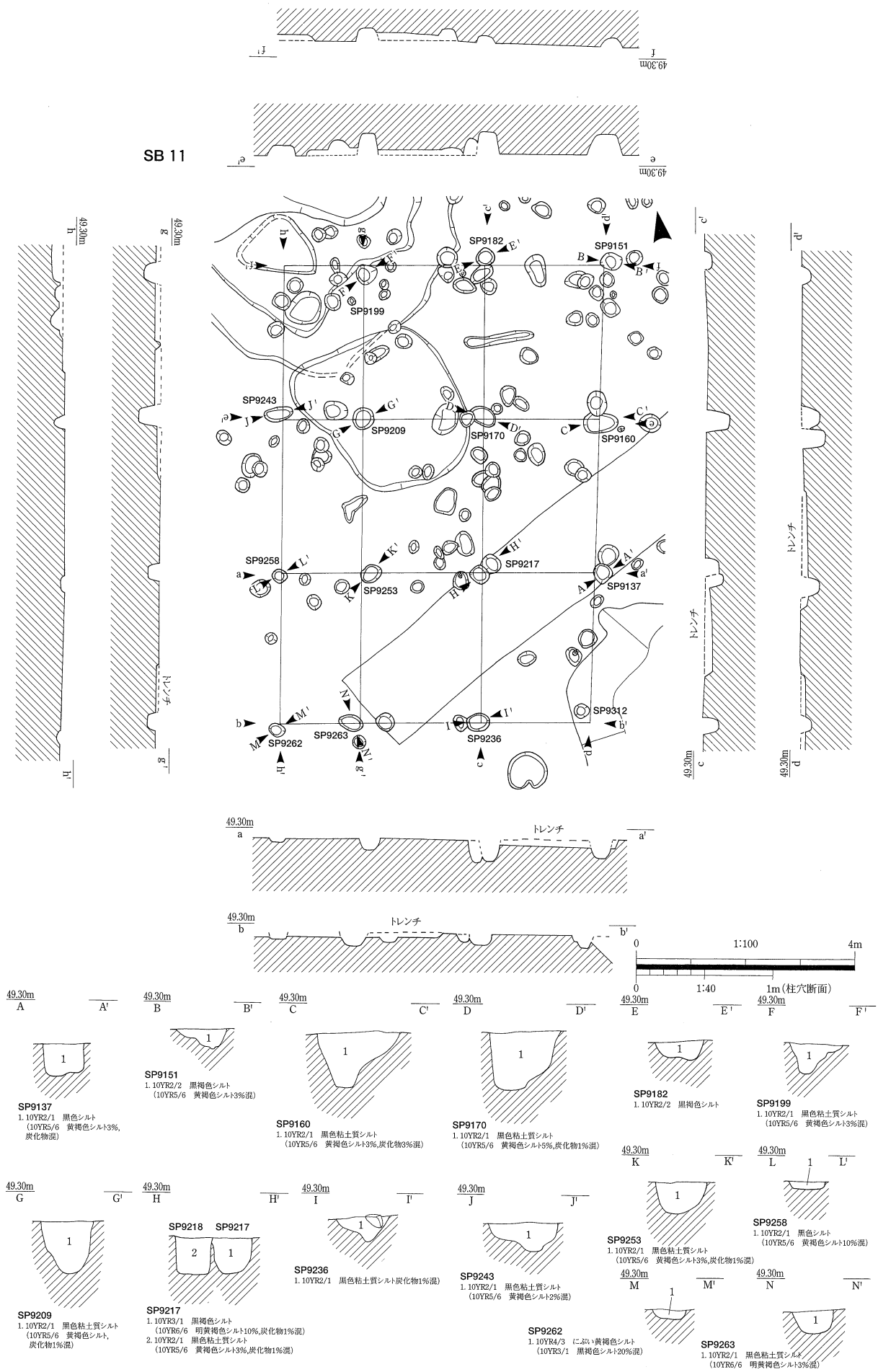
第 95 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SB 5 ・SB 6



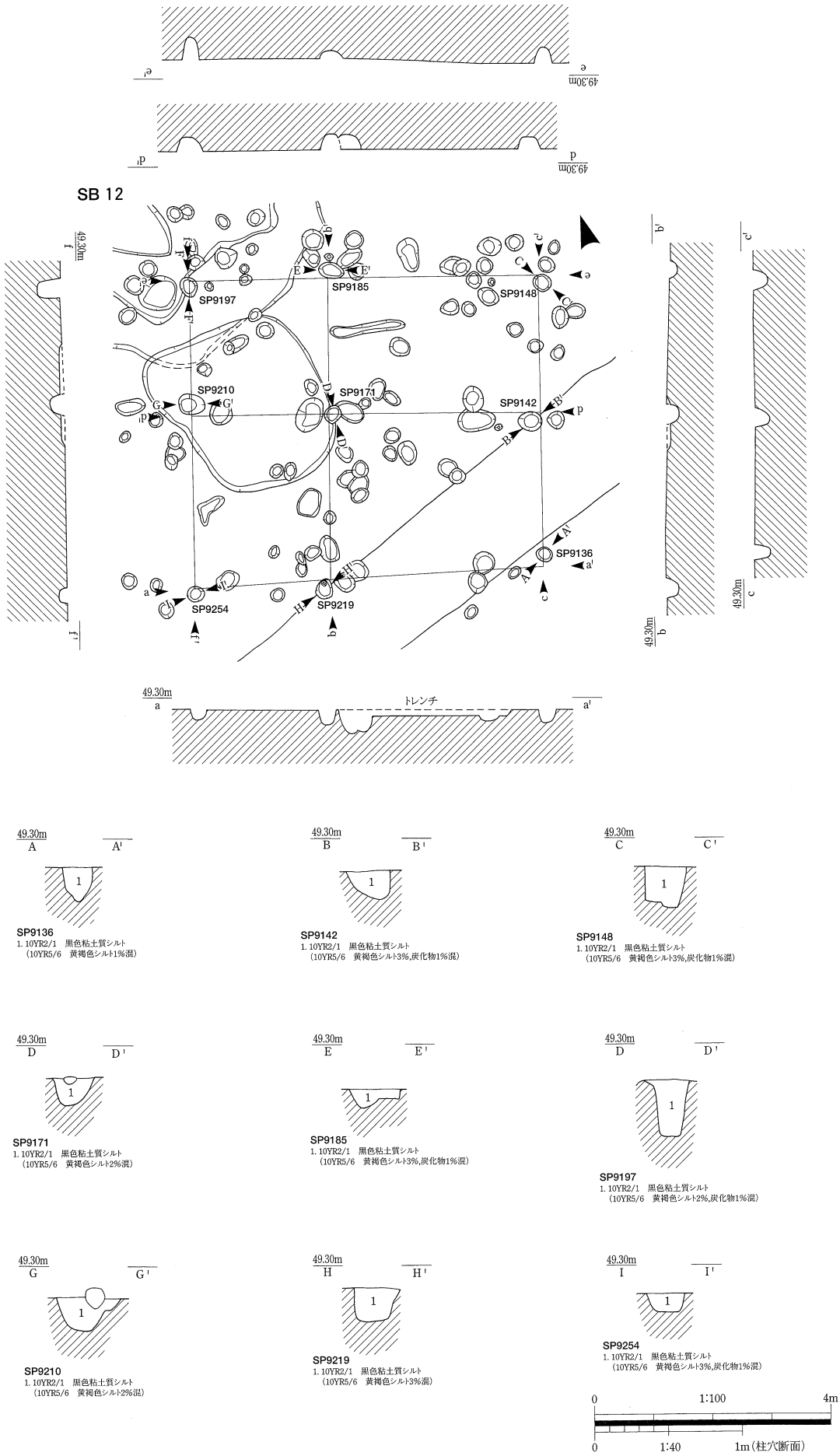
第 96 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SB 7 ・SB 8



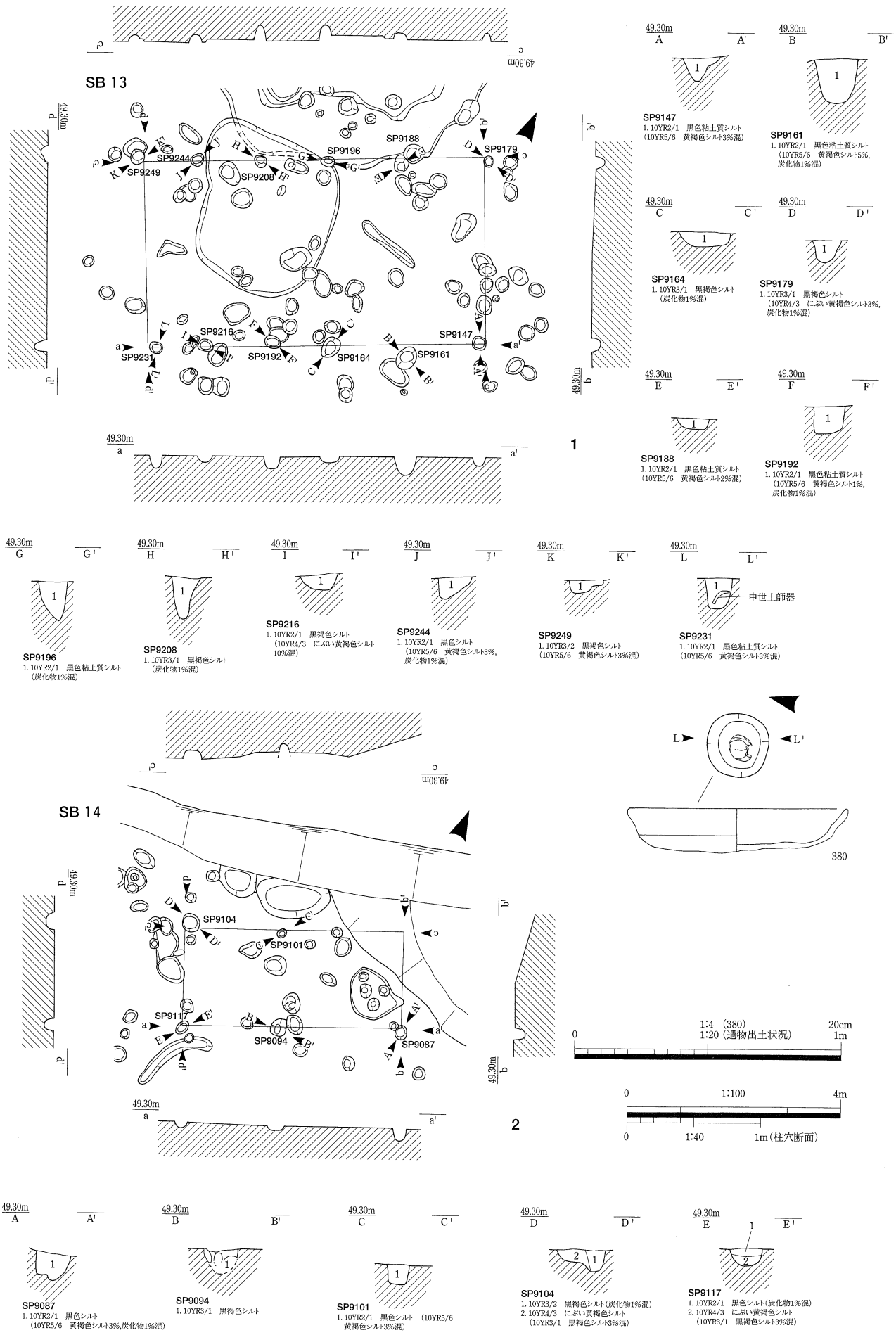
第 97 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SB 7 ・SB 8



第 98 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SB11



第 99 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
SB12



第 100 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
1. SB13　2. SB14

13号掘立柱建物（SB13，第100・112図，図版36・63）

A地区中央に位置し，SB11・SB12と重複する。梁行の柱間が広く柱穴を検出しきれていない可能性もあるが，桁行5間×梁行1間の東西棟側柱建物と想定した。桁行6.3m，梁行3.5m，面積22.05㎡，主軸はN－50°－Eを測る。SP9161がSB11の柱穴SP9160を切ること，SB13に付属すると考えるSX9226がSB12の柱穴SP9171・SP9210に切られることから，SB11→SB13→SB12の順になる。柱穴の平面形は円形で，直径または長径0.18m～0.45m，深さ0.07m～0.30mを測る。SP9208では柱痕跡が認められた。南西角の柱穴SP9231では，中世土師器皿1枚が伏せた状態で，埋土下位から出土しており，地鎮などの祭祀を行っていた可能性が想定できる。建物の北西に位置するSX9226は土間などの施設として，SB13に伴うと考える。出土遺物は，SP9231出土の中世土師器（380）のみである。380は口縁部に一段の横ナデを施し，端部を面取りする。内面見込みはハケ状ナデを撫で消したもので，13世紀初頭～前半頃のものである。

14号掘立柱建物（SB14，第100図）

A地区中央のSB11～SB13の北側に位置する。桁行2間×梁行1間の東西棟側柱建物と想定しているが，さらに北側にのびる可能性もある。桁行4.0m，梁行1.8m，面積7.2㎡である。主軸はN－50°－Eで，SB13と同一方位をとり，同時期の建物と考えられる。柱穴の平面形は円形で，直径または長径0.19m～0.35mを測り，深さは0.06m～0.19mと比較的浅い。SP9087では柱痕跡が認められた。建物の南東に位置するSK9089は土間などの施設として，SB14に伴うと考える。出土遺物は，SP9087出土の中世土師器がある。（金三津道子）

B　柵列

1号柵列（SA 1，第93図，図版35・37）

B地区西部中央よりに位置する。SD1053に沿って，4基の柱穴が南北に並ぶ。東に併行して流れる溝SD1150沿いにも軸方位の同じ柵列SA 2が南北方向に並んでおり，一対のものと考えられる。溝を跨いでいることから側柱建物とは考え難く，ここでは柵列とした。また北側の2基の柱穴は規模や柱間距離が同じであることから，これら計4基の柱穴を独立させて橋などがあった可能性も考えられる。柱穴の平面形は全て円形である。規模は直径0.23～0.28m，深さ0.18～0.30mである。埋土は上層に黒褐色粘土，下層に黒色粘土が堆積し，一部に地山の褐色粘土やにぶい黄褐色砂質シルトが混入する。出土遺物は混入と思われる縄文土器のみである。

2号柵列（SA 2，第93図，図版35・37）

B地区西部中央よりに位置する。SD1150に沿って，3基の柱穴が南北に並ぶ。それぞれSD1150との間に切り合いがあるが，埋土が近似していることから，SA 2とSD1150はほぼ同時期に埋没したものと考えられる。西に併行して流れる溝SD1053沿いにも同様の柵列SA 1が南北方向に並んでおり，これらは軸方位，柱穴規模，柵列の長さが同じであることから，一対のものと考えられる。溝を跨いでいることから，柵或いは橋などの構造が考えられる。柱穴の平面形は円形と楕円形がある。規模は直径または長径0.21～0.58m，深さ0.24～0.35mである。埋土は上層に黒褐色粘土，下層に黒色粘土が堆積し，SA 1の埋土と似ているが，最下層には締まりの悪い黒褐色～黒色粘土が堆積する。出土遺物はない。

C　溝

222号溝（SD222，第101・112図，図版67）

B地区西部中央に位置し，南から北へ向かって緩やかに蛇行する。最大幅2.32m，深さ0.14mを測る。埋土は黒色粘土質シルトと黒褐色粘土質シルトを基調とし，下層には薄く礫と砂が堆積する。遺物は，

縄文土器破片多数，打製石斧，磨製石斧，石錘，砥石，擦り切り石器，剥片，中世土師器皿小片多数，珠洲擂鉢小片，珠洲甕（383 ～ 386），鉄滓が出土しているが，縄文土器・石器類は混入と考える。13 世紀中葉～ 14 世紀中葉から後半にかけての遺物が出土している。383 は珠洲甕の底部。外面を綾杉状に叩き，内面に強い横ナデと当て具痕が残る。内面には粘土の輪積痕がみられる。底部は静止糸切りである。384 ～ 386 は珠洲甕の口縁部。384 は頸部を強く折り返し，外面には口頸を折り返す際の器具圧痕を残す。吉岡編年のⅢ期に該当する。385 も頸部を強く折り返し，肩をしっかり作る。肩上部には竹管を 2 つ押し当て刻印とする。385･386 は体部の叩打成形の後，内面に縦方向の指ナデを加え，当て具痕を撫で消す。Ⅳ期と考えられる。

400 号溝（SD400，第 101 図，図版 35）

B 地区西部中央に位置する。南から北に向かって直線的に流れ，SD401 と直角に交わる。SD401 との間に切り合いはなく，併存していたと思われる。SD400・SD401 で区画された範囲に SB 1・SB 2 が同方位で建ち，掘立柱建物に伴う区画溝であると考えられる。最大幅 0.75m，深さ 0.19m を測る。埋土は単層で，北側が地山の褐色粘土が僅かに混ざる黒色粘土，南側が黒褐色粘土質シルトである。遺物は縄文土器小片，打製石斧，磨製石斧が出土しているが，混入と考えられる。

401 号溝（SD401，第 101 図，図版 35）

B 地区西部中央に位置する。西から東へ向かって直線的に流れ，SD400 と直角に交わる。SD401 との間に切り合いはなく，併存していたと思われる。SD400・SD401 で区画された範囲に SB 1・SB 2 が同方位で建ち，掘立柱建物に伴う区画溝であると考えられる。最大幅 0.50m，深さ 0.27m を測る。埋土上層は黒褐色粘土を基調とし，酸化鉄の沈着や下層埋土の帯状の混入など，水流のあったことが伺える。下層は黒色粘土が堆積し，一部に地山のにぶい黄褐色砂質シルトが混ざる。遺物は縄文土器小片多数，磨製石斧，剥片，中世土師器皿小片，珠洲擂鉢小片が出土している。

616 号溝（SD616，第 101 図）

B 地区西部中央に位置し，L 字に曲がる。倒木痕 SX533 と重複し，これを切る。SX533 と重複する部分では，外形に沿って緩く弧を描いており，倒木によって地盤が弱く変化した部分に溝が流れ込んだことが伺える。最大幅 0.80m，深さ 0.45m を測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし，下層には地山の褐色粘土質シルトが混入する層がみられる。遺物は縄文土器小片，中世土師器皿小片が出土している。

927 号溝（SD927，第 102 図）

B 地区西部中央南端に位置する。中央を SK928・SK930 に切られる。北側は倒木痕 SX900 と重複し，これを切っているが，SX900 範囲内で埋土が混濁し，溝の続きを検出できなかった。最大幅 0.41m，深さ 0.18m を測る。埋土は黒褐色粘土の単層である。遺物は縄文土器小片，剥片，珠洲甕小片が出土している。

1053 号溝（SD1053，第 102 図，図版 35・37）

B 地区西部中央に位置する。南から北へ向かって直線的に延び，SD1150 と併行する。西肩には SA 1 が並ぶ。最大幅 0.93m，深さ 0.26m を測る。埋土は地山の褐色粘土が僅かに混ざる黒褐色粘土の単層である。南の延長上に位置する SD1181 とは埋土が近似しており，同一の溝である可能性が高い。遺物は縄文土器小片多数，石錘，剥片，中世土師器皿小片，青磁椀が出土している。

1150 号溝（SD1150，第 102 図，図版 35・37）

B 地区西部中央に位置する。南に貯水地状の遺構があり，SD1300･SD1381 と同様にここから分岐する。北へ向かって直線的に延び，東の SD1053 と併行する。東肩には SA 2 が並ぶ。最大幅 1.60m，深さ 0.27m

を測る。埋土上層は中央部のみにみられ，黒褐色粘土と地山の褐色粘土・にぶい黄褐色砂質シルトが混ざる土が堆積する。中層は黒褐色粘土とこれに砂礫が多量に混ざる土からなる。下層には粘性の強い黒色粘土層が堆積し，淀みによる沈殿層と思われる。中層の砂礫層から多くの遺物が出土しており，ある程度水勢のある流れのあったことが想定できる。遺物は，縄文土器（5）他破片多数，打製石斧，磨製石斧，石鏃，砥石，敲石，すり石，凹石，石錘，削器，石皿，台石，石棒，玉類，磨製石斧未成品，石核，剥片，中世土師器皿小片多数，珠洲甕（387 他小片多数），瓷器系陶器，青磁椀，近世陶器が出土している。縄文土器・石器類は縄文時代の遺物で，混入と思われる。387 は珠洲甕の口縁部。遺物包含層から出土した破片と接合する。口縁部を大きく引き出しており，軟質の焼成である。Ⅱ 2 期（13 世紀第 2 四半期）と考えられる。なお，接合はしないが同一個体と思われる破片の中に SD222 から出土したものがある。

1181 号溝（SD1181，第 102 図）

B 地区西部中央に位置し，南から北へ向かって直線的に延びる。幅 0.61m，深さ 0.14m を測る。埋土は黒褐色粘土層と地山のにぶい黄褐色砂質シルトが混ざる層からなる。北の延長上に位置する SD1053 とは埋土が近似しており，同一の溝である可能性が高い。遺物は中世土師器皿小片がある。

1193 号溝（SD1193，第 102 図）

B 地区西部中央南東よりに位置する。幅 0.45m，深さ 0.07m を測る。埋土は黒褐色粘土の単層である。SD1181 を挟んで西側に位置する SK1173 とは埋土が異なるため別遺構と考えた。むしろ，東の延長上に位置する SD1381 と同一遺構である可能性が高い。遺物は出土していない。

1300 号溝（SD1300，第 102 図，図版 35）

B 地区西部東よりに位置する。南に貯水地状の遺構があり，SD1150・SD1381 と同様にここから分岐する。北へ向かって緩やかに蛇行しながら延びる。最大幅 0.49m，深さ 0.26m を測る。埋土は黒褐色粘土を基調とし，下層は暗色味が強くなる。最下層には地山のにぶい黄褐色砂質シルトが混入する層が堆積する。南側には上層に黒色粘土層が薄く被る。北側は一段浅くなり，黒色粘土層のみがみられる。遺物は，縄文土器小片多数，砥石，石核，剥片，中世土師器皿小片が出土している。

1381 号溝（SD1381，第 102 図）

B 地区西部東より南端に位置し，西から東へ向かって流れる。南に貯水地状の遺構があり，SD1150・SD1300 と同様にここから分岐する。最大幅 0.64m，深さ 0.32m を測る。埋土は黒褐色粘土を基調とし，下層には地山の褐色粘土が混入する層がみられる。遺物は，縄文土器小片多数，磨製石斧，敲石，凹石，石皿，珠洲擂鉢小片が出土している。

1851 号溝（SD1851，第 101 図）

B 地区西部西より北端に位置する。西から東へ向かって延び，SD1864 と併行する。最大幅 0.46m，深さ 0.11m を測る。埋土は黒色粘土を基調とする。遺物は縄文土器小片が出土している。

1864 号溝（SD1864，第 101 図）

B 地区西部西より北端に位置する。西から東へ向かって延び，SD1851 と併行する。最大幅 1.17m，深さ 0.13m を測る。埋土は黒色粘土の混ざる褐色粘土の単層である。遺物は，縄文土器小片多数，磨製石斧，砥石，石剥片，青磁椀が出土している。

3609 号溝（SD3609，第 103 図，図版 37）

B 地区中央に位置し，南から北へ向かって延びる。中央から北側にかけてほぼ直線的に延びているが，南側は倒木痕の外周に沿って弧を描く。最大幅 2.20m，深さ 0.13m を測る。埋土は黒褐色粘土を基調とするが，南側の弧を描く部分の色調は若干灰白色味が強くなる。遺物は，縄文土器（6），石鏃，打製石

斧，磨製石斧，砥石，凹石，すり石，敲石，磨製石斧未成品，剥片，中世土師器皿小片多数，珠洲擂鉢（392・393）・甕（394），青磁椀（389 ～ 391），青磁皿（388），鉄滓が出土している。中国製磁器は 12 世紀中頃～ 13 世紀前半，珠洲は 13 世紀中頃～ 14 世紀中頃の時期のものが出土している。縄文土器・石器類は混入と思われる。394 は珠洲甕。口縁部を折り曲げ，くの字状にする。Ⅳ期と考えられる。392・393 は珠洲擂鉢。392 の口縁部は外傾し，端部を僅かに引き出すように成形する。内面には 8 目 1 単位の卸目を直線的に引くが，使用による摩耗が著しい。SK5475 出土破片と接合する。Ⅳ期と考えられる。393 も口縁部は外傾するが，やや丸みを帯びる。内面には 10 目前後が 1 単位の細密な櫛歯による卸目が見られる。Ⅳ期。389 は同安窯系青磁の皿で，底部を無釉とし，内面に櫛点描文を施す。太宰府分類の皿Ⅰ－ 1b 類に該当する。390 ～ 392 は龍泉窯系青磁椀。390 は体部外面に縦の櫛目を入れ蓮弁文を片彫りする。内面にも片彫りで文様を施す。口縁部が外反し，椀Ⅰ－ 6a 類に該当する。390 は無文の椀でⅠ類。392 は外面に片彫りの蓮弁文を有する椀Ⅱ－ b 類。389 ～ 391 はＤ期（12 世紀中頃～ 12 世紀後半），391 はＥ期（13 世紀初頭前後～前半）である。

5453 号溝（SD5453，第 103 図）

Ｂ地区東部中央よりに位置する。東を流れる SD5532 から分岐し，Ｌ字状に曲がって北流する。分岐部分で SK5475 と SX4923 を切る。最大幅 2.29m，深さ 0.10m を測る。埋土は黒褐色粘土の単層である。遺物は鉄滓が出土している。

5532 号溝（SD5532，第 103 図）

Ｂ地区東部中央よりに位置し，南から北へ直線的に流れる。北側で SK5603 を切る。最大幅 0.74m，深さ 0.17m を測る。埋土上層には黒褐色粘土，下層には灰黄褐色粘土が堆積し，底面には酸化鉄が約 5 ㎜の厚さで沈着していた。遺物は中世土師器皿小片，凹石，剥片が出土している。　（朝田亜紀子）

9004 号溝（SD9004，第 104・113 図，図版 41・64・65）

Ａ地区東側に位置する東西方向の溝で，調査区外にかかる。平成 16 年度に，朝日町教育委員会により調査された北側に隣接する②地区の SD09 と一連の溝と考えられる。最大幅 3.35m，深さ 0.35m を測る。出土遺物は，縄文土器・須恵器（402）・中世土師器（395 ～ 400）・青磁（401）・石棒・石刀・剥片があるが，縄文土器は摩滅した小片が中心で後世の混入によるものとみられる。395 ～ 400 は口縁部に一段の横ナデを施し，端部を面取りするもので，395 は内面見込みにハケ状工具によるナデが施される。395・396・400 は底面端部に指頭圧痕がみられる。401 は龍泉窯系の青磁椀で，太宰府分類のⅠ－ 2 またはⅠ－ 3 類，12 世紀中頃～後半頃に比定できる。402 は須恵器の甕胴部破片で，内面中央部に何かを磨った様な摩耗した箇所がある。中世土師器は底面付近から出土したものが多く 13 世紀前半を主体とするものであることから，遺構の年代を示すものと考える。

9031 号溝（SD9031，第 104 図，図版 41）

Ａ地区東側の SD9004 北側に位置する。最大幅 1.12m，深さ 0.32m を測る。SD9040 に切られる。出土遺物は黒曜石の剥片のみであり，時期の特定はできない。

9040 号溝（SD9040，第 104 図）

Ａ地区東側の SD9004 北側に位置する。SD9004 と平行する東西方向の溝で，最大幅 0.85m，深さ 0.44m を測る。埋土は炭化物混じりの黒褐色シルトの単層で，SD9031 を切り，SD9004 に切られる。出土遺物は中世土師器があり，SD9040 は中世の溝と考える。　（金三津道子）

D　土坑

120 号土坑（SK120，第 105・113 図，図版 37・65）

B 地区西部中央に位置する。平面形は不整形で，長さ 1.32m を測る。南側が深くなっており，深さは最も深いところで 0.48m を測る。埋土上層は黒色粘土を基調とする 3 層からなる。上層の壁面近くには，地山の褐色粘土質シルトが多く混ざる層がみられ，掘形が崩れ自然堆積した様相をみせる。下層は上層と同じ黒色粘土であるが粘性がより強い。土層内に褐色粘土質シルトが薄い帯状もしくはマーブル状に混入しており，水流等により攪拌を受けたことが考えられる。遺物は縄文土器小片，磨製石斧，剥片，中世土師器皿小片，青磁皿（404）が出土している。404 は龍泉窯系青磁の皿である。外底面の釉を掻き取り無釉とし，内面見込みに櫛目とヘラ片彫りによる文様を描く。皿Ⅰ－1c 類に該当する。D 期（12 世紀中頃～後半）である。

177 号土坑（SK177，第 105・113・122 図，図版 37・64・73）

B 地区西部中央南よりに位置する。平面形は長方形で，長さ 4.07m，幅 2.31m，深さ 0.58m を測る。掘形はどの面も垂直に掘り込まれており，底面は平坦である。埋土上層は黒褐色粘土とにぶい黄褐色砂質シルトが互層をなし，下層は黒褐色粘土質シルトとにぶい黄褐色粘土質シルトが堆積する。上・下層ともそれぞれに地山の褐色粘土質シルトが混入し，数回にわたって埋め戻されたと思われる。遺物は縄文土器小片多数，打製石斧，磨製石斧，砥石，玉類，剥片，中世土師器皿（405），鉄滓（559）が出土している。405 は口縁部を一段ナデする深身の皿。13 ～ 14 世紀のものである。

189 号土坑（SK189，第 105 図，図版 37）

B 地区西部中央に位置し，東側で SK190 を切る。平面形は楕円形で，長径 1.73m，深さ 0.73m を測る。掘形は中心に向かって斜めに掘り込まれており，断面形は逆三角形状となる。埋土上層は黒色粘土質シルト，下層はより暗い黒色粘土を基調とし，それぞれに地山の褐色粘土質シルトが混入する。数回にわたって埋め戻された様子である。遺物は縄文土器小片，中世土師器皿小片，剥片が出土している。

190 号土坑（SK190，第 105 図，図版 37）

B 地区西部中央に位置し，西側を SK189 に切られる。平面形は楕円形で，長径 1.47 ㎝，深さ 0.35m を測る。埋土上層は黒色粘土質シルト，下層は黒褐色粘土質シルトが水平堆積し，下層には地山の褐色粘土質シルトが多く混ざる。遺物は縄文土器小片が出土している。

202 号土坑（SK202，第 106 図，図版 38）

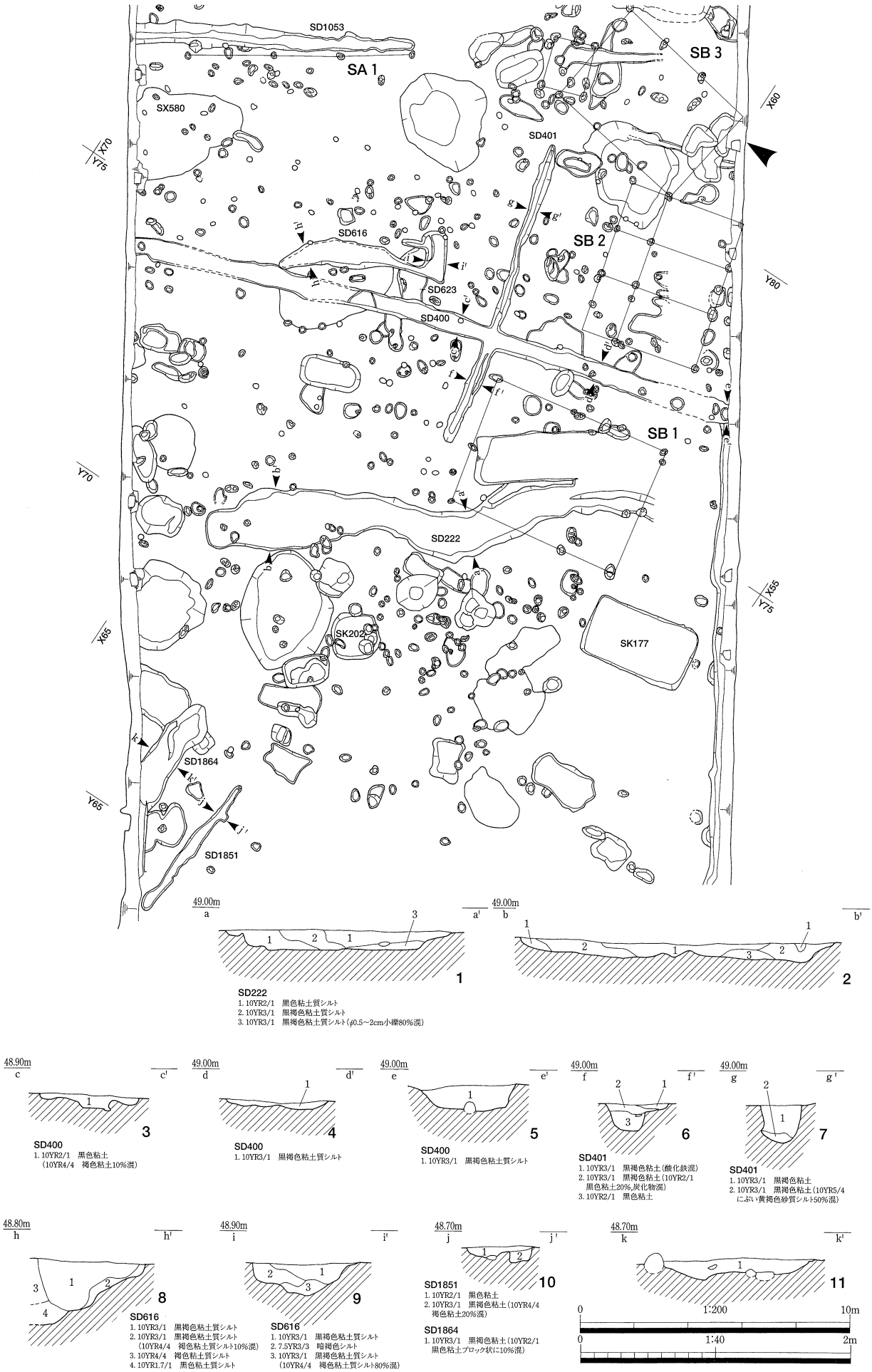
B 地区西部中央に位置する。平面形はやや角のある円形で，直径 1.82m，深さ 0.26m を測る。南東の SK178・SK179・SK203 に囲まれた位置に深い部分があり，最深部の深さは 0.52m を測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし，下層に多く地山の褐色粘土質シルトを含む。遺物は縄文土器小片が出土している。

350 号土坑（SK350，第 106 図，図版 38）

B 地区西部中央北端に位置する。平面形は楕円形で，長径 1.77m，深さ 0.30m を測る。埋土は黒色粘土を基調とし，壁面近くに多く地山の褐色粘土が混入する。底面には酸化鉄の薄い沈着がみられた。遺物は縄文土器小片，敲石，中世土師器皿小片，珠洲甕胴部片が出土している。

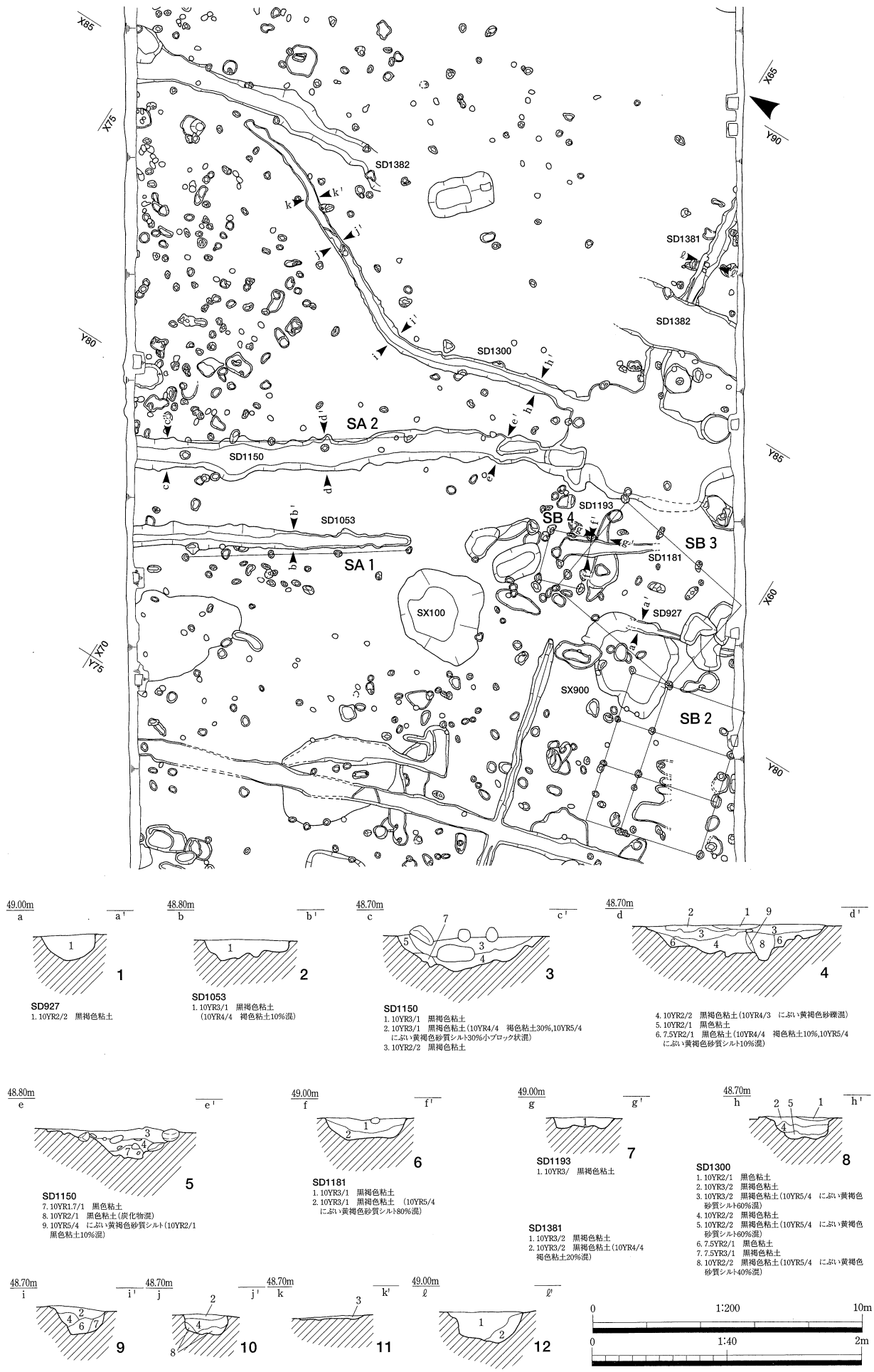
360 号土坑（SK360，第 106 図，図版 38）

B 地区西部中央北端の SK350 北東に位置する。平面形は楕円形で，一部が調査区外にかかる。長径 2.13m，短径 0.91m，深さ 0.38m を測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし，西側には植物の浸食と思われる攪乱がみられる。遺物は出土していない。



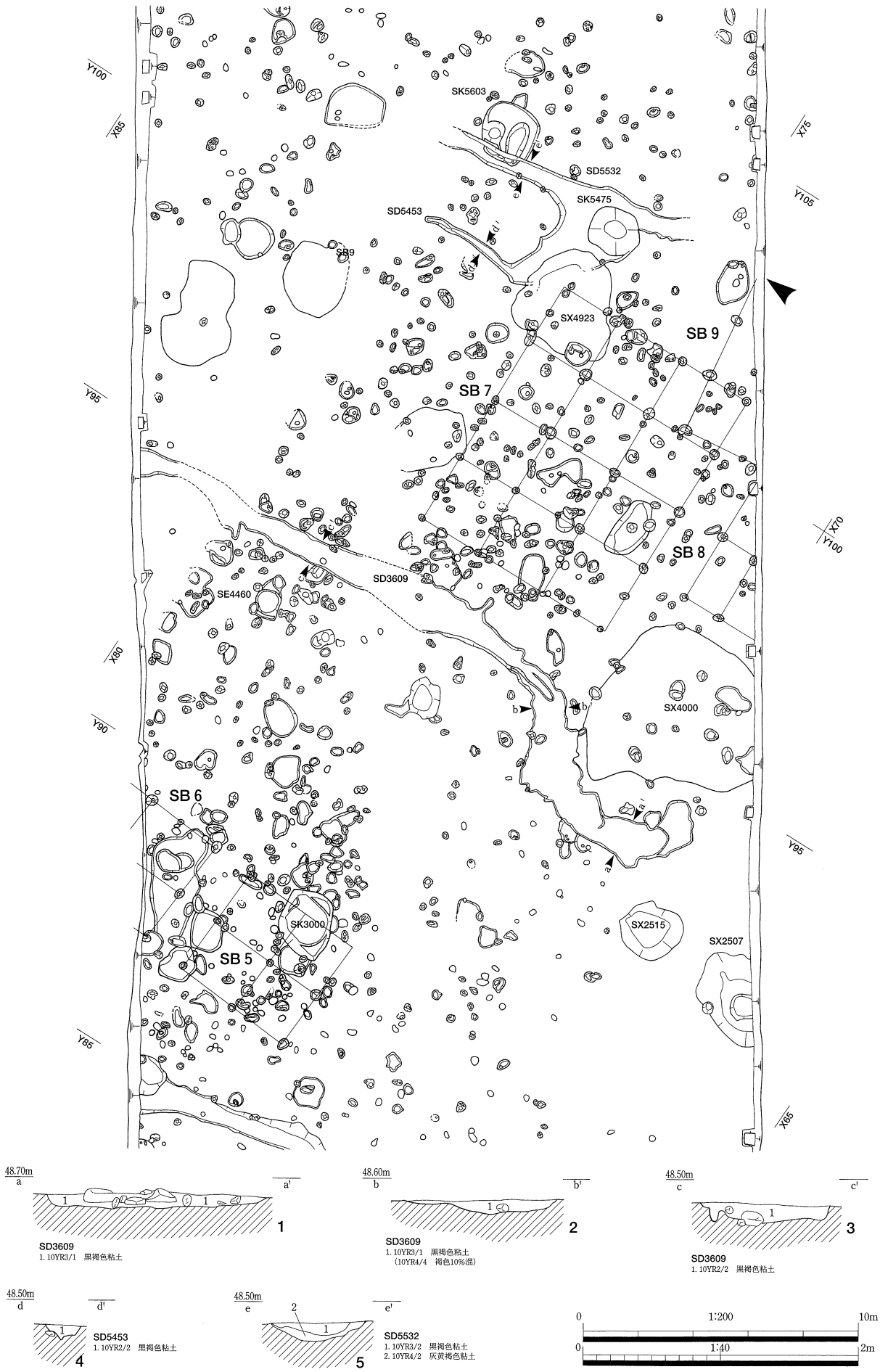
第 101 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1・2. SD222　3～5. SD400　6・7. SD401　8・9. SD616　10. SD1851　11. SD1864



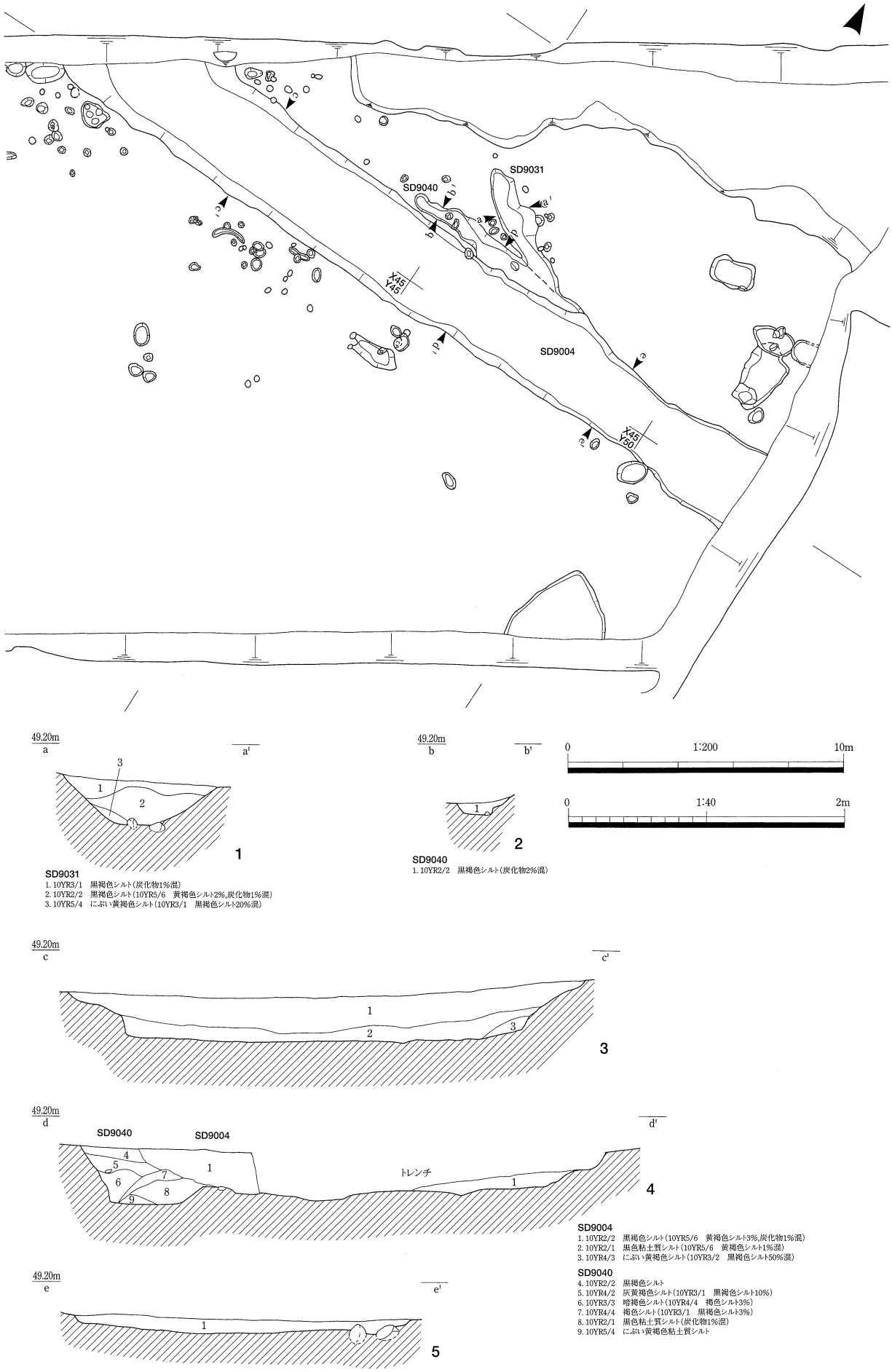
第 102 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SD927　2. SD1053　3～5. SD1150　6. SD1181　7. SD1193　8～11. SD1300　12. SD1381



第 103 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1～3. SD3609　4. SD5453　5. SD5532



第 104 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SD9031　2. SD9040　3～5. SD9004・SD9040

371 号土坑（SK371，第 106 図，図版 38）

B 地区西部中央に位置する。平面形は楕円形で，長径 1.04m，短径 0.63m，深さ 0.41m を測る。埋土上層には黒色粘土質シルト，下層には地山のにぶい黄褐色砂質シルトが混ざる黒褐色粘土が堆積する。遺物は縄文土器小片が出土している。

425 号土坑（SK425，第 106 図，図版 38）

B 地区西部中央に位置する。平面形は楕円形で，長径 2.23m，短径 1.13m，深さ 0.25m を測る。埋土は黒褐色粘土質シルトの単層で，炭化物が僅かに混入し，底面には厚さ 5 ㎜の酸化鉄の沈着がみられる。遺物は縄文土器小片，石棒，中世土師器皿小片が出土している。

504 号土坑（SK504，第 106 図）

B 地区西部中央北よりに位置する。一部を SK501・SK503 に切られ，北側で SK505 を切る。平面形は楕円形で，長径 1.00m，短径 0.72m，深さ 0.25m を測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし，下層には地山の褐色粘土質シルトが多く混入する。遺物は出土していない。

505 号土坑（SK505，第 106 図）

B 地区西部中央北よりの SK504 北に位置する。南側を SK504 に切られる。平面形は楕円形で，長径 1.48m，短径 1.04m，深さ 0.20m を測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし，下層には地山の褐色粘土質シルトが多く混入する。遺物は出土していない。

928 号土坑（SK928，第 107 図，図版 39）

B 地区西部中央南端に位置する。北から東にかけて SK929・SK930 に切られ，北西側は試掘坑により上部を削平される。平面形は不整形で，長さ 1.28m，深さ 0.54m を測る。埋土断面からは 2 回の掘り込みが確認できる。上層は黒褐色粘土を基調とし，SK929 よりの部分に地山に同じにぶい黄褐色砂質シルトの流れ込みがみられる。下層には黒色粘土や暗褐色粘土等が堆積し，植物等の浸食と思われる層の乱れがある。遺物は縄文土器小片が出土している。

929 号土坑（SK929，第 107 図，図版 39）

B 地区西部中央南端に位置する。西側で SK928 を切り，北西側を SK930 に切られる。平面形は不整形で，長さ 1.63m，深さ 0.46m を測る。埋土上層は暗褐色粘土，下層は黒褐色粘土を基調とし，SK928 よりの部分に地山に同じにぶい黄褐色砂質シルトの流れ込みがみられる。遺物は出土していない。

930 号土坑（SK930，第 107 図，図版 39）

B 地区西部中央南端に位置する。南側で SK928・SK929 を切る。北側の上面はトレンチにより削平される。平面形は不整形で，長さ 1.24m，深さ 0.30m を測る。埋土上層には黒褐色粘土，下層には地山のにぶい黄褐色砂質シルトが混ざる黒褐色粘土が水平堆積し，間に青黒色粘土の灰・炭化物層が薄くみられる。遺物は混入とみられる凹石が出土している。

992 号土坑（SK992，第 107 図，図版 39）

B 地区西部中央に位置する。平面形は楕円形で，長径 1.82m，短径 1.14m，深さ 0.41m を測る。埋土上層には黒色粘土，下層には黒褐色粘土が堆積する。壁面近くには地山のにぶい黄褐色砂質シルトや褐色粘土が混入し，植物による浸食も目立つ。遺物は縄文土器小片が出土している。

1173 号土坑（SK1173，第 107 図，図版 39）

B 地区西部中央南よりに位置し，SD1181 に切られる。SD1181 を挟んで SD1193 が位置するが，埋土が異なるため別遺構とした。平面形は不整形で，長さ 2.00m，深さ 0.35m を測る。埋土上層は黒色～黒褐色粘土，下層は灰黄褐色～褐色粘土などが堆積し，上層に多く地山のにぶい黄褐色砂質シルトが混入

する。遺物は縄文土器小片が出土している。

3000 号土坑（SK3000，第 108 図，図版 39）

B 地区中央西よりに位置する。平面形は楕円形で，長径 2.61m，短径 2.08m，深さ 0.79m を測る。掘形は垂直に一段掘り込み，中央を更に一段円形掘り込む 2 段掘りである。底面は平坦である。埋土上層は黒色粘土を基調とし，下層近くに褐色粘土の層が薄くみられる。下層には黒色粘土に地山のにぶい黄褐色～灰黄褐色砂質シルトが混入する。遺構形成後しばらく開口した状態で自然堆積し，その後一気に埋め戻されたようである。遺物は縄文土器小片多数，擦り切り石器，磨製石斧，剥片が出土している。

4013 号土坑（SK4013，第 113 図，図版 67）

B 地区中央南よりに位置し，SD3609 に切られる。平面形は不整形で，長さ 0.60m，深さ 0.11m を測る。埋土は黒褐色粘土を基調とし，下層には地山のにぶい黄褐色砂質シルトが多量に混入する。底面には酸化鉄が 5 ㎜の厚さで沈着しており，溝の水が溢れて溜まったような形跡もみられ，溝の一部であった可能性がある。遺物は珠洲擂鉢（406）が出土している。406 は珠洲擂鉢の底部。遺物包含層出土破片と接合する。内面に細密な櫛歯による 18 目 1 単位の卸目を引き，外底面には静止糸切り痕を残す。Ⅱ期（13 世紀前半）と考えられる。

4422 号土坑（SK4422，第 108 図）

B 地区中央南西よりに位置する。平面形は楕円形で，長径 2.23m，短径 1.19m，深さ 0.39m を測る。埋土は黒褐色粘土を基調とし，壁面から底面にかけて地山の褐色粘土の混入する層が堆積する。東の落ち際には灰黄褐色～黒褐色の粘土もみられる。遺物は縄文土器小片，剥片が出土している。

4460 号土坑（SK4460，第 108 図，図版 39）

B 地区中央北よりに位置する。平面形は円形でほぼ垂直に掘り込まれており，直径 1.03m，深さ 0.66m を測る。埋土は，最下層に黒色粘土が西側から斜めに堆積し，その上に地山のにぶい黄褐色砂質シルト混じりの層が薄く被る。上層には黒褐色～黒色粘土が水平に堆積する。2 ～ 3 回にわたって埋め戻されたと思われる。形態から井戸の可能性が高いと思われる。現在底面付近からの湧水は僅かであるが，粘土質の水はけの悪い地層を掘り込んでいるため，調査期間中，常に水が満ちている状況であった。底面の標高は 47.64m を測る。遺物は縄文土器小片が出土している。

5475 号土坑（SK5475，第 108・113 図，図版 40・65・67）

B 地区東部南西よりの，SD5453 と SD5532 の合流する地点に位置する。溝の底面で検出しており，埋土の特徴から，主に SD5453 に切られていると考えられる。平面形は円形で，長径 1.82m，深さ 0.62m を測る。埋土は黒色粘土が 2 層に分かれて堆積する。遺物は縄文土器小片多数，磨製石斧，敲石，砥石，剥片，中世土師器小片多数，珠洲擂鉢（392），珠洲甕小片，青磁椀（407），白磁椀（408），白磁皿（409），鉄滓が出土している。407 は龍泉窯系青磁。肉厚の底部を持つ椀Ⅰ類である。D 期（12 世紀中頃～後半）。408 は白磁椀Ⅸ－ 2 類。高台部を無釉とし，内面見込みに高台径よりもやや広い圏線を持つ。F 期（13 世紀中頃～ 14 世紀初頭前後）。409 は白磁皿Ⅸ－Ⅰ類。平底の底部で，全面に施釉する。外底面の釉は薄くまだらになる。F 期。また，392 は SD3609 出土破片と接合する。Ⅲ期（13 世紀中葉頃～ 1270 年代）のものである。

5603 号土坑（SK5603，第 109・113 図，図版 40・64）

B 地区東部西よりに位置する。平面形はやや角のある円形で，直径 2.06m，深さ 0.55m を測る。掘形は，壁面を垂直に掘り込んでおり，更に南半部と北西部にもう一段やや深くなる部分がある。埋土上層には焼土混じりの黒色粘土，下層には地山混じりの黒色粘土が堆積する。遺物は中世土師器皿（410），

玉類，磨製石斧，剥片が出土している。410 は口縁部を一段ナデする。13 ～ 14 世紀のもの。

6085 号土坑（SK6085，第 109 図，図版 40）

B 地区西部北西よりに位置し，南側で SK6086 を切る。遺構の境が不明瞭であったため若干検出面を削り込んでおり，平面形態は楕円形となっているが，本来の形は長径 0.96m 程度の円形であったと思われる。深さは 0.19m を測る。埋土は黒色粘土を基調とし，直径 10 ～ 25 ㎝の礫を多く含む。SK6086 との境には地山の褐色粘土が多く混ざる層がみられ，底面全体に酸化鉄が薄く沈着していた。遺物は出土していない。

6086 号土坑（SK6086，第 109 図，図版 40）

B 地区西部北西よりに位置し，北側を SK6085 に切られる。平面形は円形で，直径 1.49m，深さ 0.16m を測る。埋土は黒色粘土の単層である。遺物は出土していない。

7199 号土坑（SK7199，第 109 図，図版 40）

B 地区東部中央に位置する。平面形は円形で，直径 1.32m，深さ 0.26m を測る。埋土は黒褐色粘土を基調とし，下層には地山の褐色粘土が混入する層がみられる。遺物は出土していない。

7920 号土坑（SK7920，第 109 図，図版 40）

B 地区東部中央に位置する。平面形は円形で，直径 1.09m，深さ 0.33m を測る。掘形は壁面が垂直に掘り込まれており，底面は平坦である。埋土上層は炭化物の混ざる黒色粘土，下層は赤褐色粘土を基調とする焼土が堆積する。壁面近くの下層には地山の褐色粘土が混ざる黒色粘土がみられる。遺物は出土していない。（朝田亜紀子）

9054 号土坑（SK9054，第 110 図）

A 地区東側の SD9004 南側に位置する。直径 0.24m，深さ 0.16m を測る円形の土坑である。埋土は炭化物混じりの黒色シルトと，にぶい黄褐色シルトで，基調となる黒色シルトは柱痕跡と考えられる。出土遺物は中世土師器小片がある。

9064 号土坑（SK9064，第 110 図）

A 地区中央北側に位置し，SK9063 の西側に隣接する。一部調査区外にかかり，長径 0.70m，短径 0.48m 以上，深さ 0.55m を測る円形の土坑である。筒状に掘られ，底面中央が一段深くなる土坑で，井戸の可能性がある。SK9065 に切られる。出土遺物はない。

9089 号土坑（SK9089，第 110 図）

A 地区中央北側，SB14 内に位置する。長さ 0.96m，幅 0.83m の平面不整形の土坑で，深さは 0.08m を測る。埋土は黄褐色シルト混じりの黒色シルトの単層で，底面は平坦でないが，貼床状の硬くしまった箇所が部分的に認められる。SB14 に伴う遺構の可能性がある。出土遺物はない。

9127 号土坑（SK9127，第 110 図）

A 地区中央北側，SB14 の北西側に位置する。長径 0.45m，短径 0.41m，深さ 0.26m を測る円形土坑である。SK9114 に切られ，SK9180 を切る。底面中央が一段深くなり，炭化物混じりの黒色シルトが埋土の基調をなすことから，柱痕跡と考えられる。出土遺物はない。

9144 号土坑（SK9144，第 110 図）

A 地区中央，SB12 の東側に位置する。長径 0.35m，短径 0.28m，深さ 0.22m を測る楕円形土坑で，SK9143 を切る。埋土は炭化物混じりの黒色粘土質シルト単層。出土遺物は中世土師器小片がある。

9174 号土坑（SK9174，第 110 図）

A 地区中央，SB11 の北側柱列付近に位置する。長径 0.58m，短径 0.33m，深さ 0.21m の楕円形土坑。

底面中央が一段深くなり，柱痕跡の可能性がある。出土遺物はない。

9206 号土坑（SK9206，第 111 図，図版 41）

A 地区中央北側，SB11 の東側柱列付近に位置する。長径 0.30m，短径 0.25m，深さ 0.22m を測る円形土坑で，SX9279・SD9225 を切る。埋土は明黄褐色シルト混じりの黒色粘土質シルトの単層。底面北側が一段深くなり，柱痕跡の可能性がある。出土遺物はない。

9226 号土坑（SX9226，第 111 図）

A 地区中央，SB13 内に位置する。長さ 2.91m，幅 2.42m を測る隅丸方形に近い不整形土坑。深さ 0.06m の浅い皿状で，床面は平坦で硬くしまる。埋土は暗褐色シルト混じりの黒褐色粘土質シルト単層である。SB12 の柱穴 SP9171・SP9210，SK9195 他の土坑に切られ，SB11 の柱穴 SP9209，SD9225 を切る。SB13 の柱穴 SP9196・SP9208 にも切られるが，SB13 の北西角付近に位置しており，SB13 に伴う遺構の可能性がある。出土遺物はない。

9240 号土坑（SK9240，第 111 図，図版 41）

A 地区中央北側に位置し，調査区外北側にかかる。長さ 1.90m 以上，幅 2.08m，深さ 0.20m を測る不整形の土坑である。埋土は炭化物混じりの黒色シルトを基調とし，下位に黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトが堆積する。出土遺物には中世土師器，珠洲の甕胴部破片がある。

9279 号土坑（SX9279）

A 地区中央北側に位置し，一部調査区外北側にかかる。長さ 2.83m 以上，幅 2.45m，深さ 0.09m を測る不整形の土坑である。埋土は黄褐色シルト混じりの黒褐色シルトの単層で，窪地にⅡ層が溜まったものの可能性もあるが，平面プランを検出し得たことから，土坑として扱っている。SP9197・SP9199・SK9206・SK9224 に切られるが，SK9203 他の土坑は，SX9279 の底面で検出しており，SX9279 が新しい。出土遺物はなく，時期の特定はできない。

9288 号土坑（SK9288，第 111 図）

A 地区西側南よりに位置し，SK9287 の北側に接する。直径 0.96m，深さ 0.20m を測る円形土坑。埋土は褐色シルト混じりの黒褐色シルト単層で，3 ㎝代の砂礫を含む。SK9287・SK9289 を切る。出土遺物は中世土師器がある。

9289 号土坑（SK9289，第 111 図，図版 41）

A 地区西側南よりに位置する。長径 0.75m，短径 0.50m 以上，深さ 0.18m を測る楕円形土坑。埋土は炭化物混じりの黒色シルト，灰黄褐色シルトで，中位に焼土が層状に堆積する。底面中央で 10 ㎝代の礫を並んだ状態で検出したが，焼けた痕跡はみられなかった。SK9288 に切られる。出土遺物はなく，時期の特定はできない。

9290 号土坑（SK9290，第 111 図）

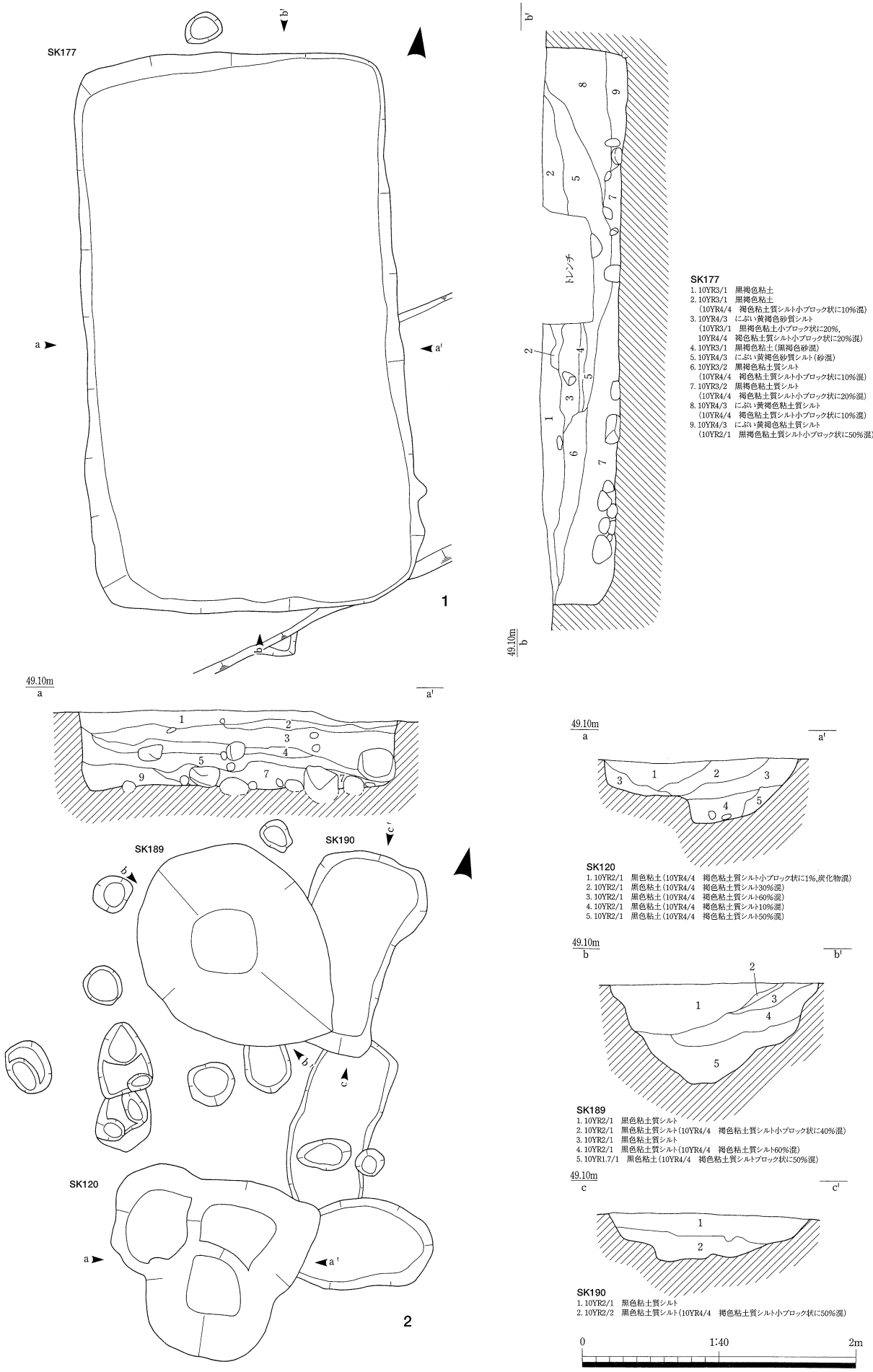
A 地区西側南よりに位置し，SK9289 の西側に隣接する。長径 0.36m，短径 0.32m，深さ 0.06m の円形土坑。埋土は褐色シルト混じりの暗褐色シルトの単層である。埋土は SK9288 等中世の遺構と同様なものである。出土遺物は縄文土器があるが，細片で摩耗が著しく，後世の混入と考える。

E　包含層出土遺物

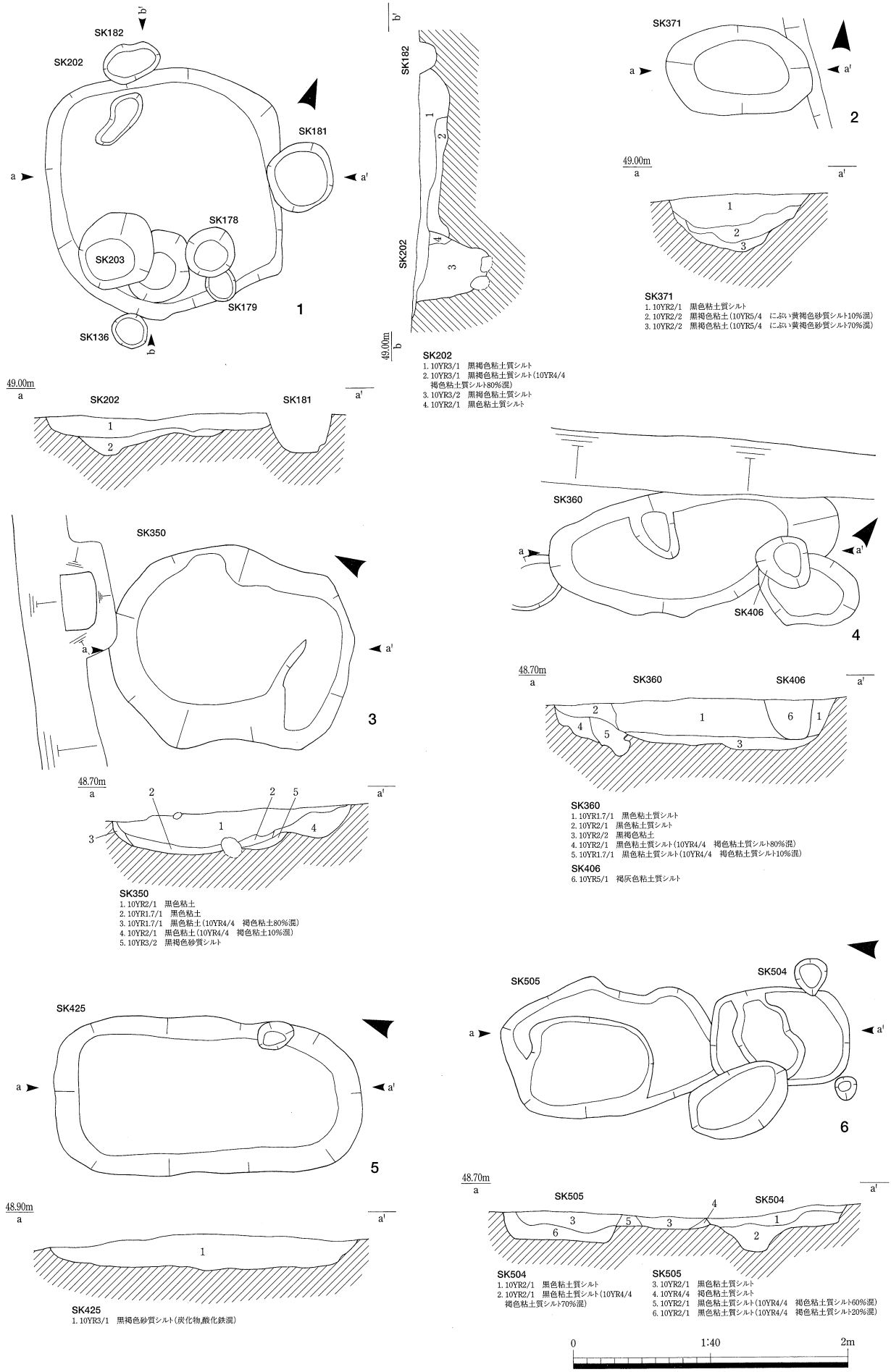
出土遺物は，概ね 12 世紀中頃～ 14 世紀代のものが主体をなし，15 世紀前半代が下限である。

中世土師器（第 114 図，図版 62・64）

411 は口縁部に一段の横ナデを施し，内底面の端を指押さえして平底に仕上げる 412 ～ 415 は口縁部に一段ナデを施す小型の皿で，底部外面に指頭圧痕がみられる。412 は口縁部に煤が付着する。414 は



第 105 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
1. SK177　2. SK120・SK189・SK190



SK202
1. 10YR3/1　黒褐色粘土質シルト
2. 10YR3/1　黒褐色粘土質シルト(10YR4/4　褐色粘土質シルト80%混)
3. 10YR3/2　黒褐色粘土質シルト
4. 10YR2/1　黒色粘土質シルト

SK371
1. 10YR2/1　黒色粘土質シルト
2. 10YR2/2　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト10%混)
3. 10YR2/2　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト70%混)

SK350
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 10YR1.7/1　黒色粘土
3. 10YR1.7/1　黒色粘土(10YR4/4　褐色粘土80%混)
4. 10YR2/1　黒色粘土(10YR4/4　褐色粘土10%混)
5. 10YR3/2　黒褐色砂質シルト

SK360
1. 10YR1.7/1　黒色粘土質シルト
2. 10YR2/1　黒色粘土質シルト
3. 10YR2/2　黒褐色粘土
4. 10YR2/1　黒色粘土質シルト(10YR4/4　褐色粘土質シルト80%混)
5. 10YR1.7/1　黒色粘土質シルト(10YR4/4　褐色粘土質シルト10%混)

SK406
6. 10YR5/1　褐灰色粘土質シルト

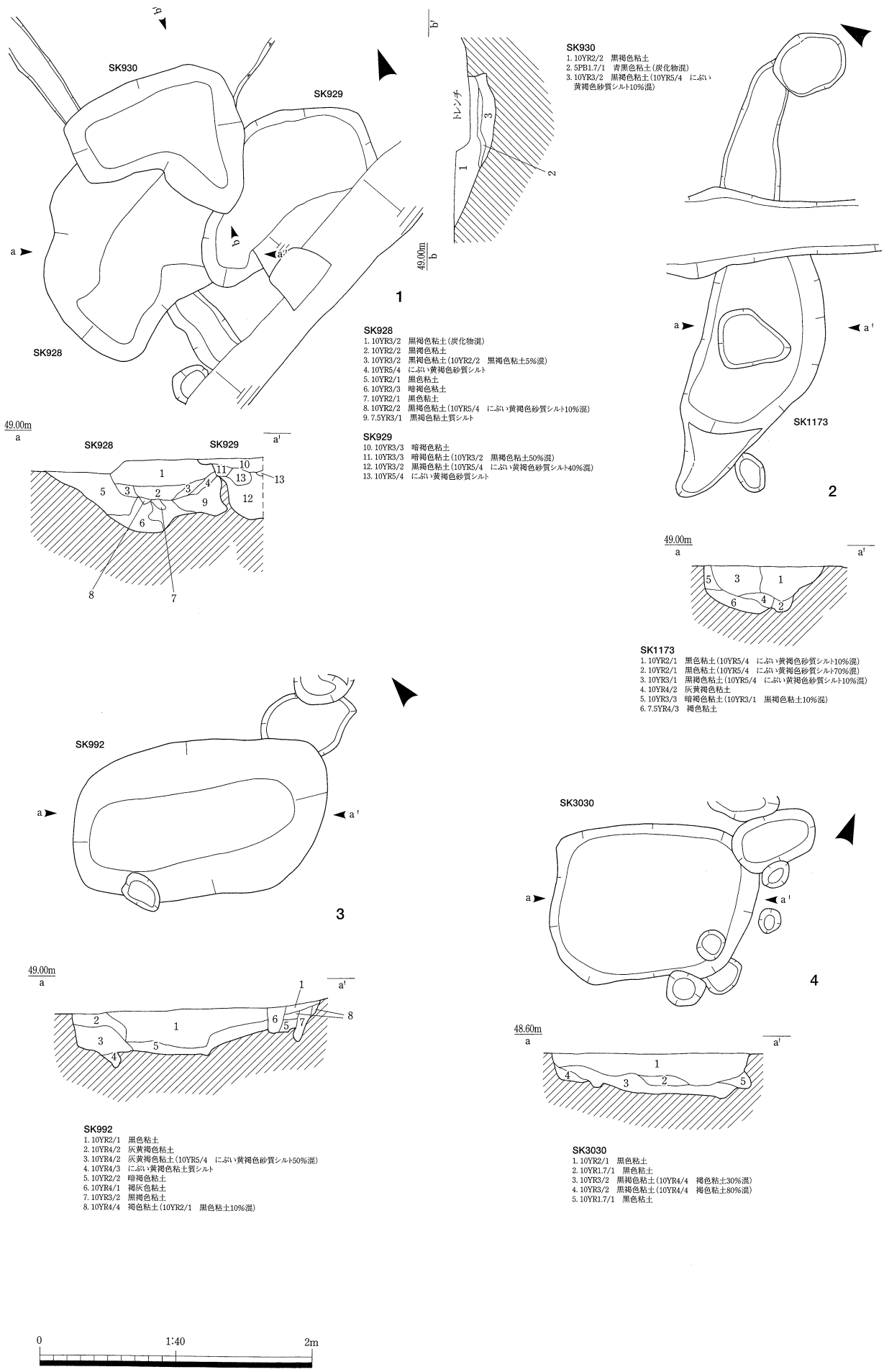
SK425
1. 10YR3/1　黒褐色砂質シルト(炭化物,酸化鉄混)

SK504
1. 10YR2/1　黒色粘土質シルト
2. 10YR2/1　黒色粘土質シルト(10YR4/4　褐色粘土質シルト70%混)

SK505
3. 10YR2/1　黒色粘土質シルト
4. 10YR4/4　褐色粘土質シルト
5. 10YR2/1　黒色粘土質シルト(10YR4/4　褐色粘土質シルト60%混)
6. 10YR2/1　黒色粘土質シルト(10YR4/4　褐色粘土質シルト20%混)

第 106 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SK202　2. SK371　3. SK350　4. SK360・SK406　5. SK425　6. SK504・SK505



SK930
1. 10YR2/2　黒褐色粘土
2. 5PB1.7/1　青黒色粘土(炭化物混)
3. 10YR3/2　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト10%混)

SK928
1. 10YR3/2　黒褐色粘土(炭化物混)
2. 10YR2/2　黒褐色粘土
3. 10YR3/2　黒褐色粘土(10YR2/2　黒褐色粘土5%混)
4. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト
5. 10YR2/1　黒色粘土
6. 10YR3/3　暗褐色粘土
7. 10YR2/1　黒色粘土
8. 10YR2/2　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト10%混)
9. 7.5YR3/1　黒褐色粘土質シルト

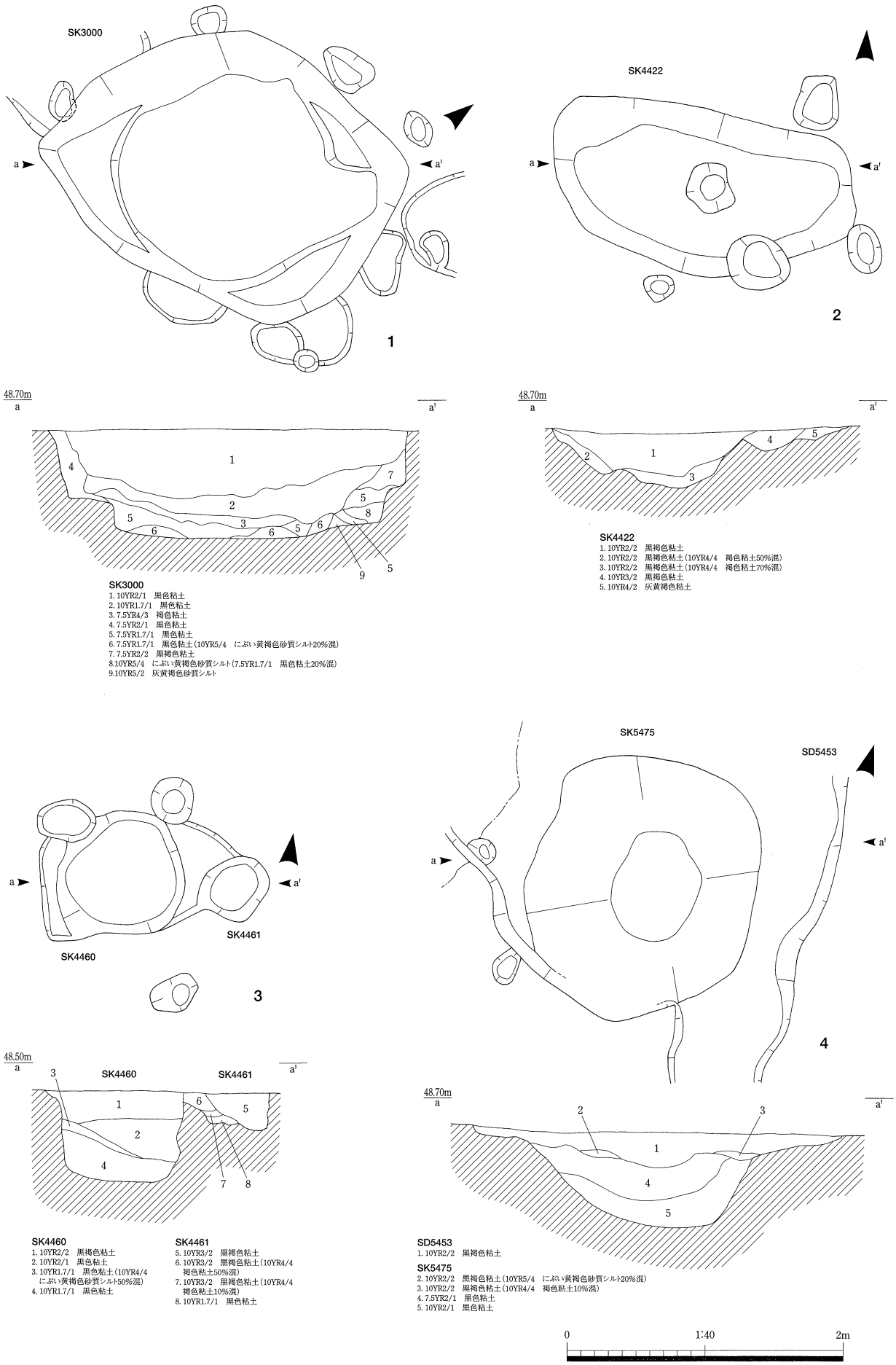
SK929
10. 10YR3/3　暗褐色粘土
11. 10YR3/3　暗褐色粘土(10YR3/2　黒褐色粘土50%混)
12. 10YR3/2　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト40%混)
13. 10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト

SK1173
1. 10YR2/1　黒色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト10%混)
2. 10YR2/1　黒色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト70%混)
3. 10YR3/1　黒褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト10%混)
4. 10YR4/2　灰黄褐色粘土
5. 10YR3/3　暗褐色粘土(10YR3/1　黒褐色粘土10%混)
6. 7.5YR4/3　褐色粘土

SK992
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 10YR4/2　灰黄褐色粘土
3. 10YR4/2　灰黄褐色粘土(10YR5/4　にぶい黄褐色砂質シルト50%混)
4. 10YR4/3　にぶい黄褐色粘土質シルト
5. 10YR2/2　暗褐色粘土
6. 10YR4/1　褐灰色粘土
7. 10YR3/2　黒褐色粘土
8. 10YR4/4　褐色粘土(10YR2/1　黒色粘土10%混)

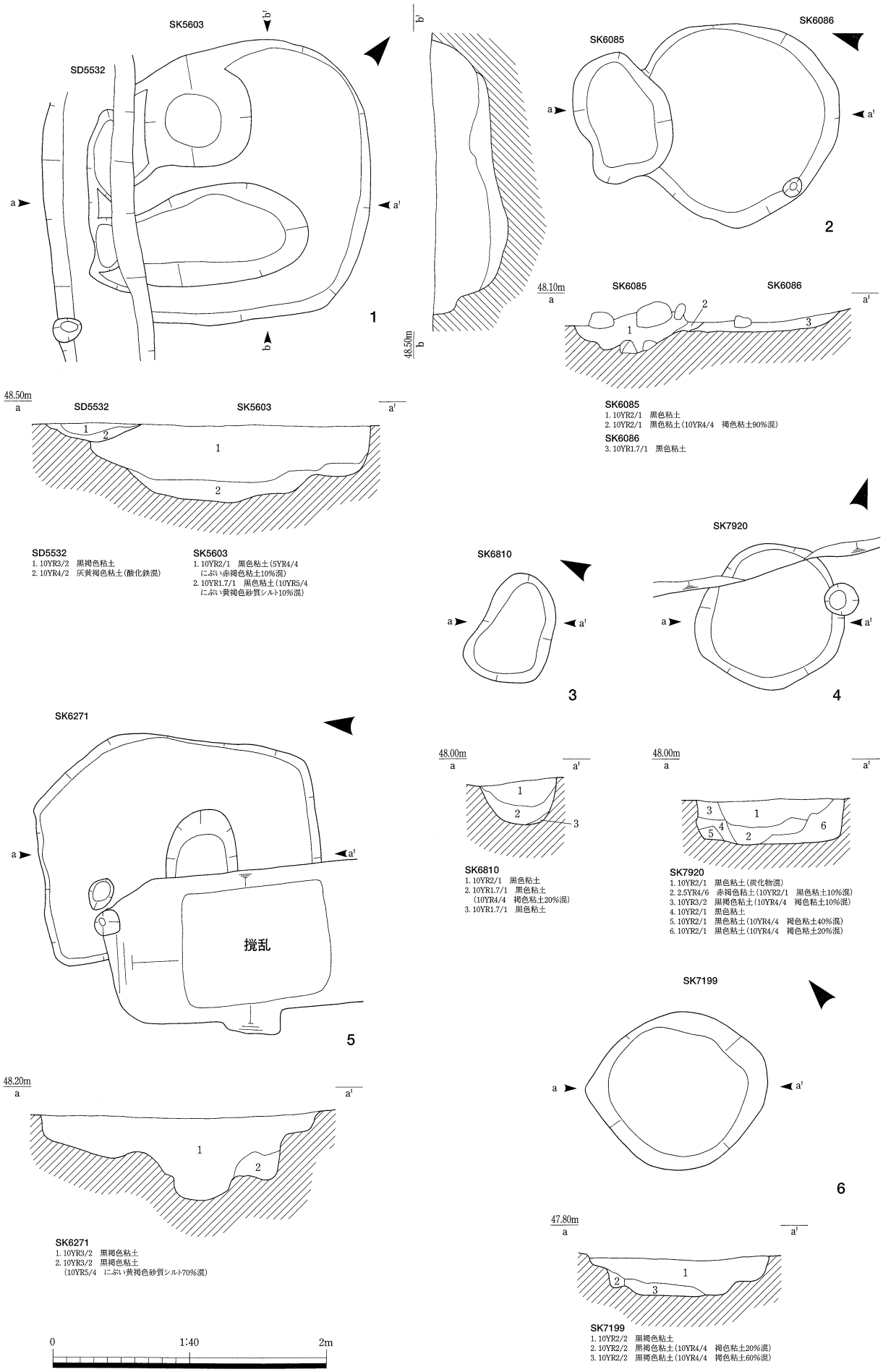
SK3030
1. 10YR2/1　黒色粘土
2. 10YR1.7/1　黒色粘土
3. 10YR3/2　黒褐色粘土(10YR4/4　褐色粘土30%混)
4. 10YR3/2　黒褐色粘土(10YR4/4　褐色粘土80%混)
5. 10YR1.7/1　黒色粘土

第 107 図　柳田遺跡　中世遺構実測図
1. SK928・SK929・SK930　2. SK1173　3. SK992　4. SK3030



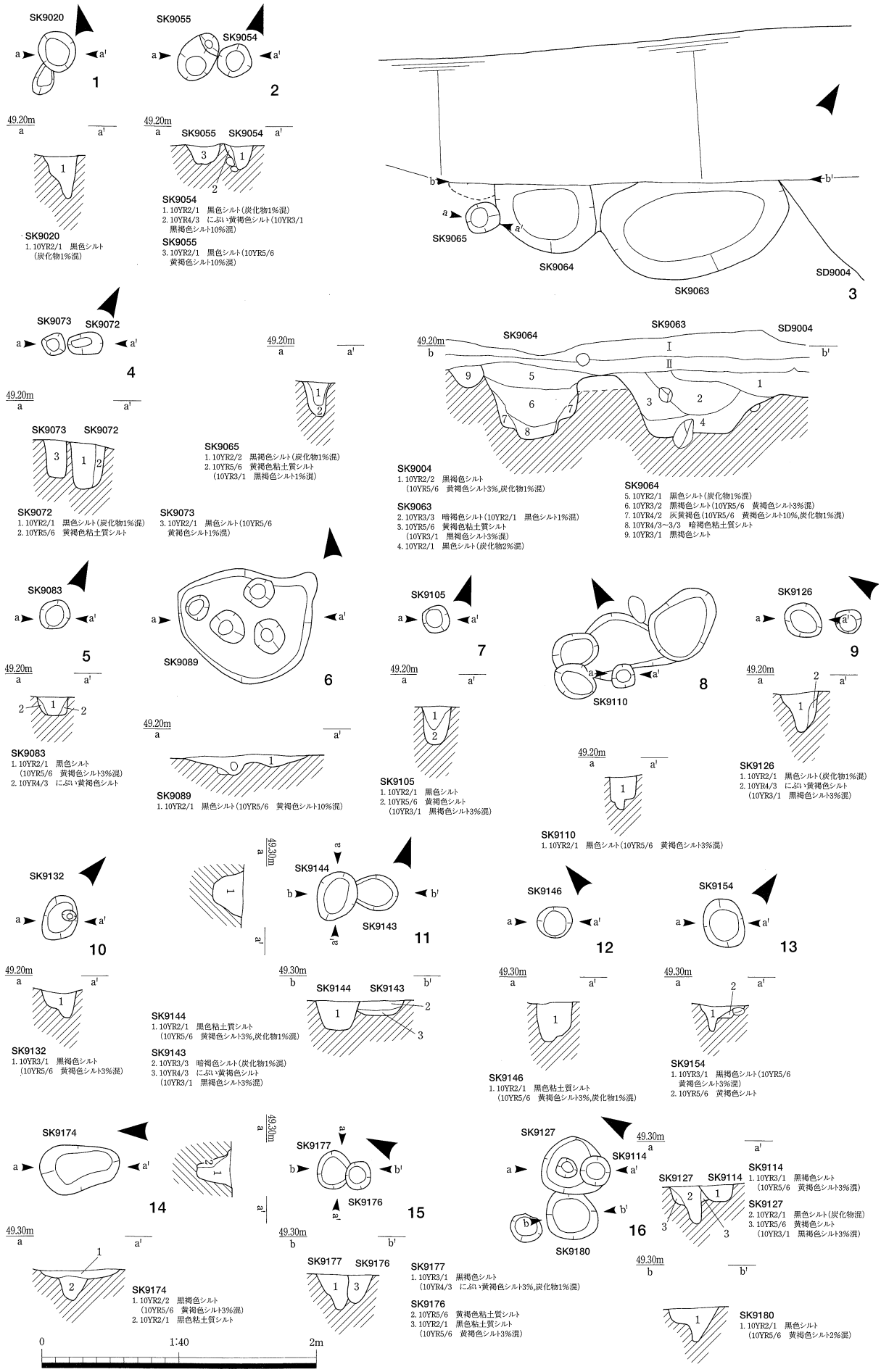
第 108 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SK3000　2. SK4422　3. SK4460・SK4461　4. SK5475・SD5453



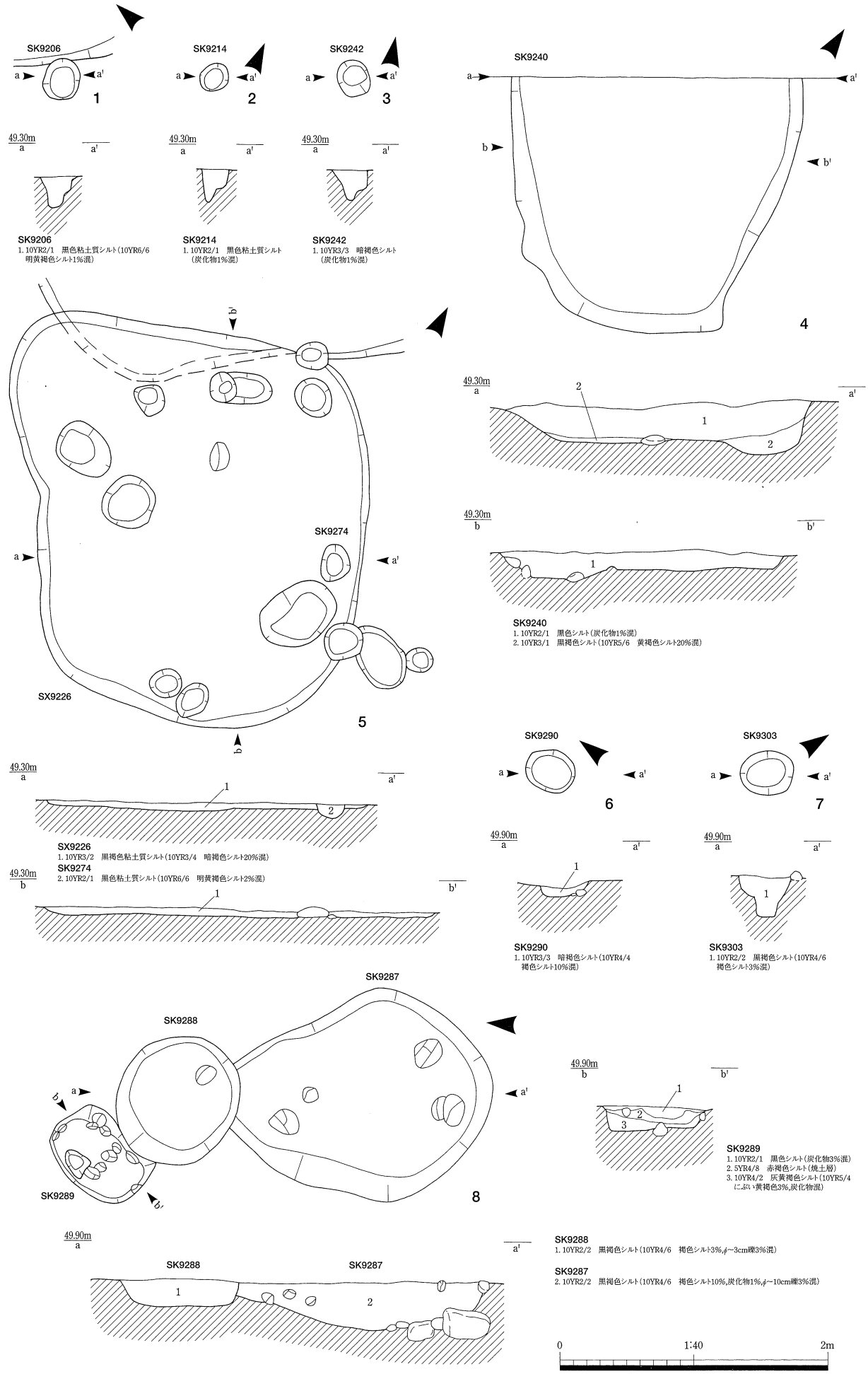
第 109 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SD5532・SK5603　2. SK6085・SK6086　3. SK6810　4. SK7920　5. SK6271　6. SK7199



第 110 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SK9020　2. SK9054・SK9055　3. SK9063・SK9064・SK9065　4. SK9072・SK9073　5. SK9083
6. SK9089　7. SK9105　8. SK9110　9. SK9126　10. SK9132　11. SK9143・SK9144　12. SK9146
13. SK9154　14. SK9174　15. SK9176・SK9177　16. SK9114・SK9127・SK9180



第 111 図　柳田遺跡　中世遺構実測図

1. SK9206　2. SK9214　3. SK9242　4. SK9240　5. SX9226・SK9274　6. SK9290　7. SK9303
8. SK9287・SK9288・SK9289

内面にタール状の油煙が付着する。417 ～ 419 は口縁部に強い一段の横ナデを施す。時期は 13 世紀前半頃のものが大半である。

古瀬戸（第 114 図，図版 63）

421 は古瀬戸の卸皿で，口縁部に明緑黄色の釉がかかり，内底面に卸目を引く。422 は底部回転糸切りの花瓶。423 は三脚の香炉で，内面見込みに焼成時の溶着物が残るもので，製品として流通したものではない可能性のある粗悪品である。

瓷器系陶器（第 114 図，図版 69）

425 は瓷器系陶器で，加賀または越前と思われる甕の肩部破片で，格子と直線を組み合わせたスタンプ文が施される。同様のスタンプ文をもつ破片が少数だが，一定量出土している。

土製品（第 114 図，図版 69）

426 は器種不明の土製品で蓋状を呈する。約 4 ㎜幅の沈線が器面全面に施される。径 15.4 ㎝に復元できる。

中国製磁器（第 114・115 図，図版 65・66）

青磁（428 ～ 453），青白磁（426・427），白磁（688 ～ 705）がある。426 は花文を浮き彫りにした景徳鎮窯青白磁の小壺の蓋，427 は魚文・花文を浮き彫りにした青白磁の皿で，13 世紀代のものである。429 は龍泉窯系の大坏もしくは小盤。428・430 ～ 445 は龍泉窯系，446 は同安窯系の椀で，12 世紀中頃～後半の時期のものが主体をなし，若干 13 世紀前半まで降るものがみられる。433 ～ 436・442・443 は体部外面に蓮弁文を有し，443 はつくりが悪く高台裏まで釉が及ぶ。428・437・438 は口縁部に輪花を有し，内面を 2 本の沈線で区画する。438 は太宰府分類の小椀Ⅰ－ 2 類である。皿は 447・449 が龍泉窯系で，その他は同安窯系で，12 世紀中頃～後半頃のもの。447 は見込みに片彫魚文，448・451・452 はヘラと櫛描きによる点掻文を有する。454 は口縁部に大きめの玉縁を有する椀で，太宰府分類のⅣ類にあたる。455・457 は器壁が薄く，口縁端部が外方に折れて嘴状になるもので，太宰府分類のⅤ－ 4 類またはⅧ－ 3 類か。459 は内面に櫛目文のあるもので，太宰府分類のⅤ類またはⅥ類。

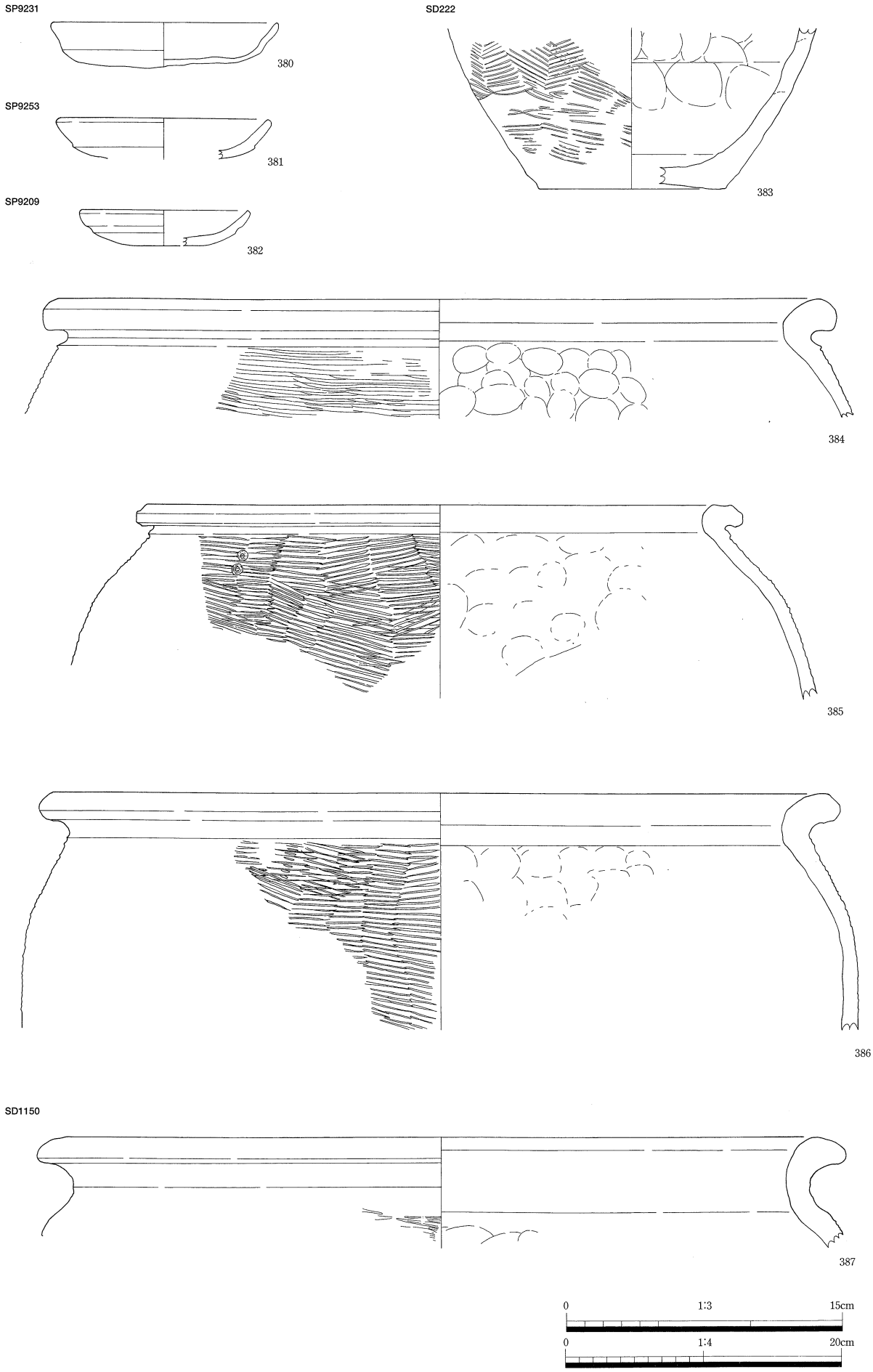
珠洲（第 115・116 図，図版 68・69）

壺（460 ～ 465）・甕（466 ～ 474）・擂鉢（475 ～ 493）があり，擂鉢はⅠ期～Ⅱ期のものが比較的まとまって出土している。484 は口縁を内湾気味におさめる小型の片口鉢で，Ⅰ期に比定される。485 はⅠ期の片口鉢で，口縁端部に波状の施文がみられる。490 の卸目は流水状の波状文を縦方向に入れた加飾性の高いもので，Ⅱ期にあたる。

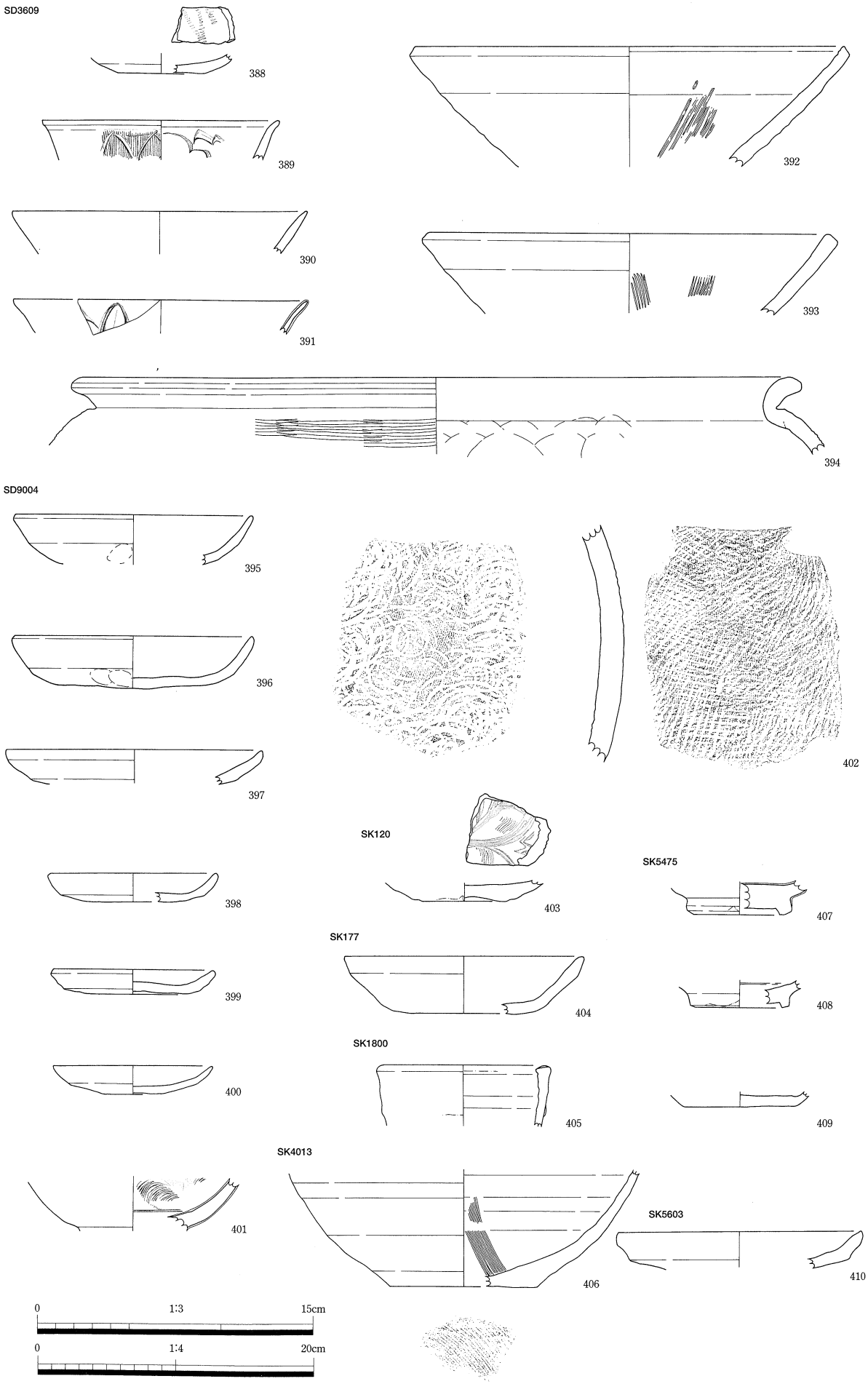
石製品（第 88 図，図版 61）

315・316 は流紋岩製の砥石で，315 は幅 3.1 ㎝の長方形を呈する仕上砥。中世以降のものか。

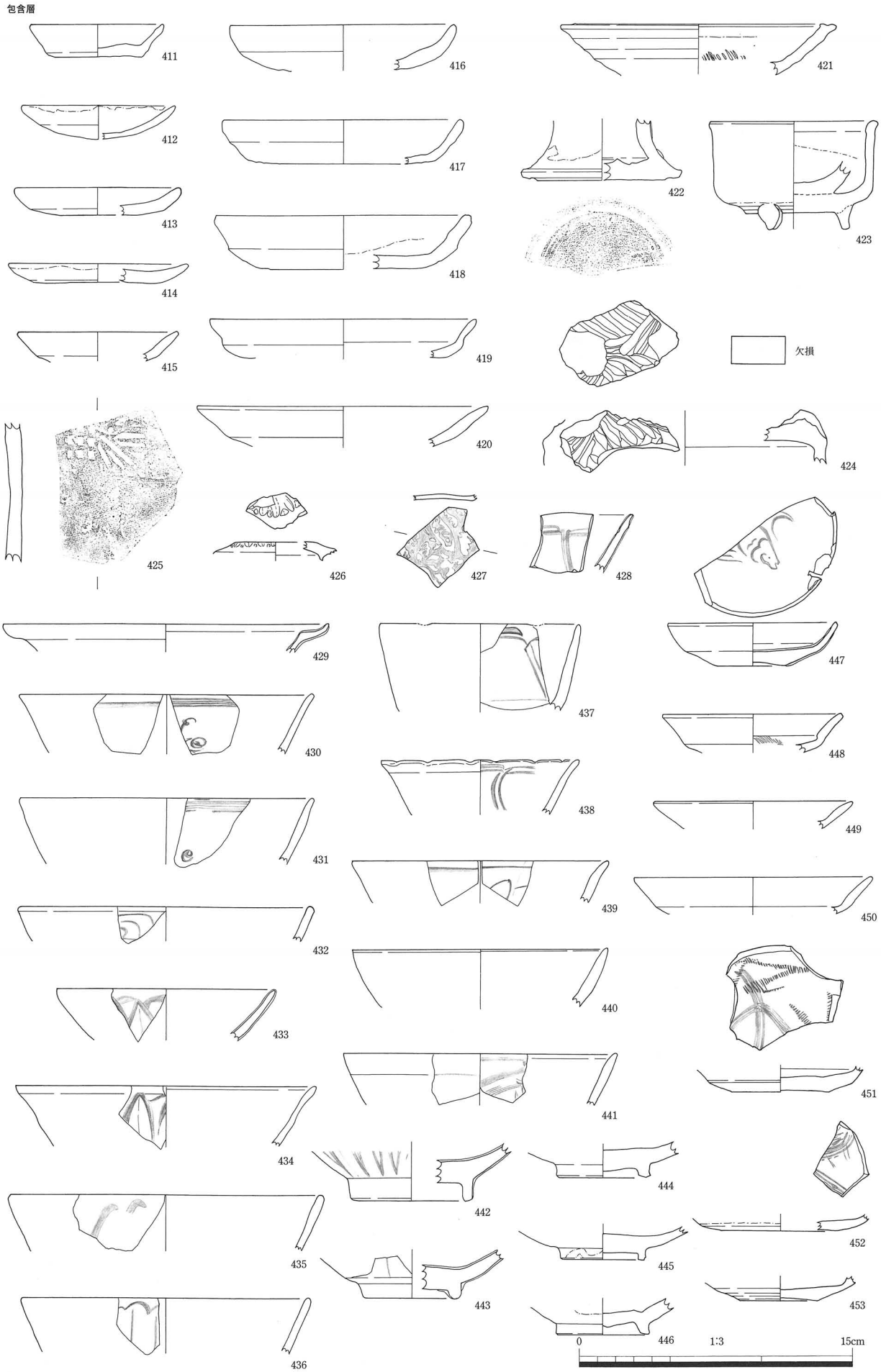
（金三津道子）



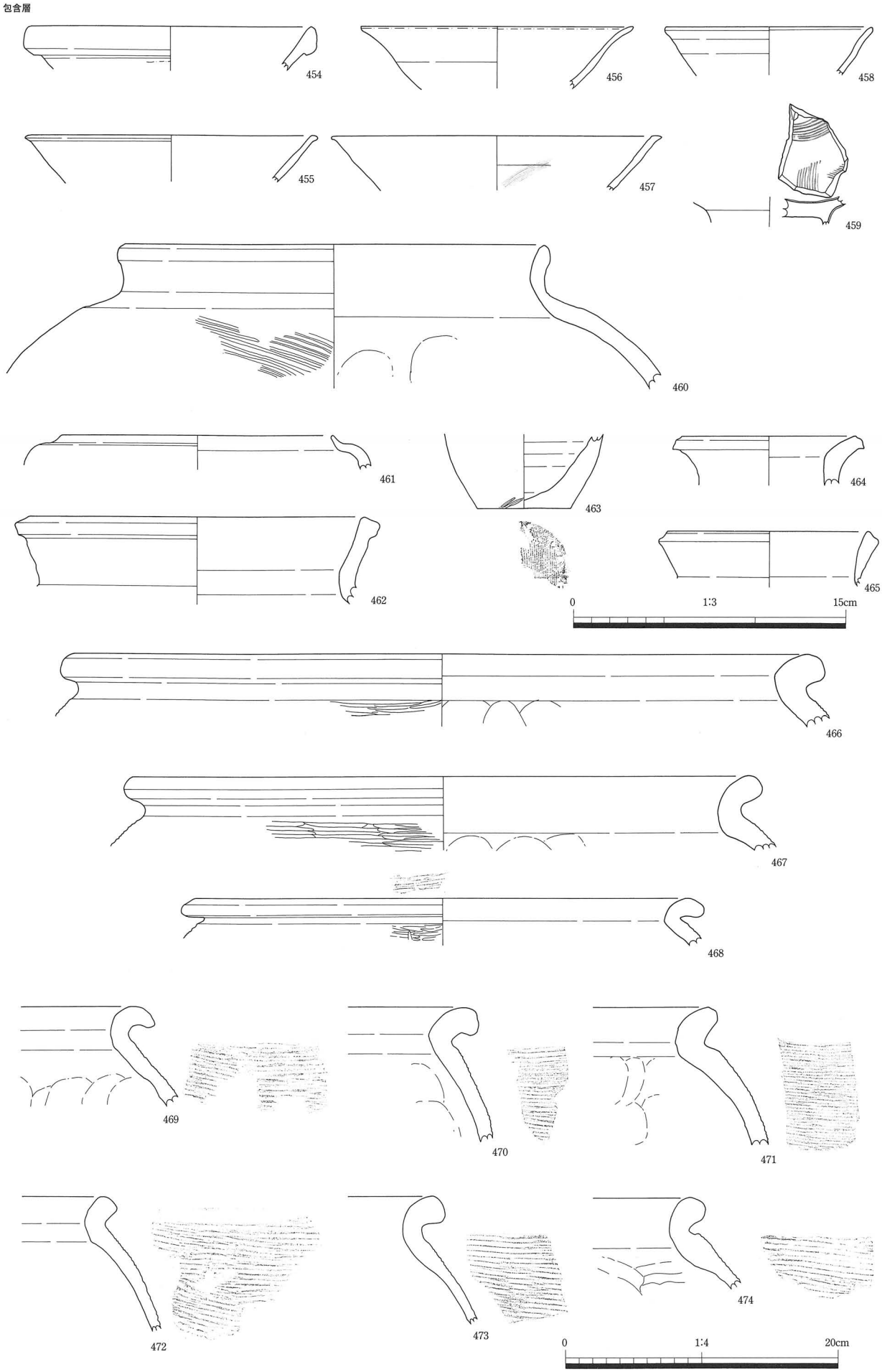
第 112 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（380 ～ 382　1/3, 383 ～ 387　1/4）
SP9231（380）　SP9253（381）　SP9209（382）　SD222（383～386）　SD1150（387）



第 113 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（388 ～ 391・395 ～ 405・407 ～ 410　1/3, 392 ～ 394・406　1/4）
SD3609（388～394）　SD9004（395～402）　SK120（403）　SK177（404）　SK1800（405）
SK4013（406）　SK5475（407～409）　SK5603（410）

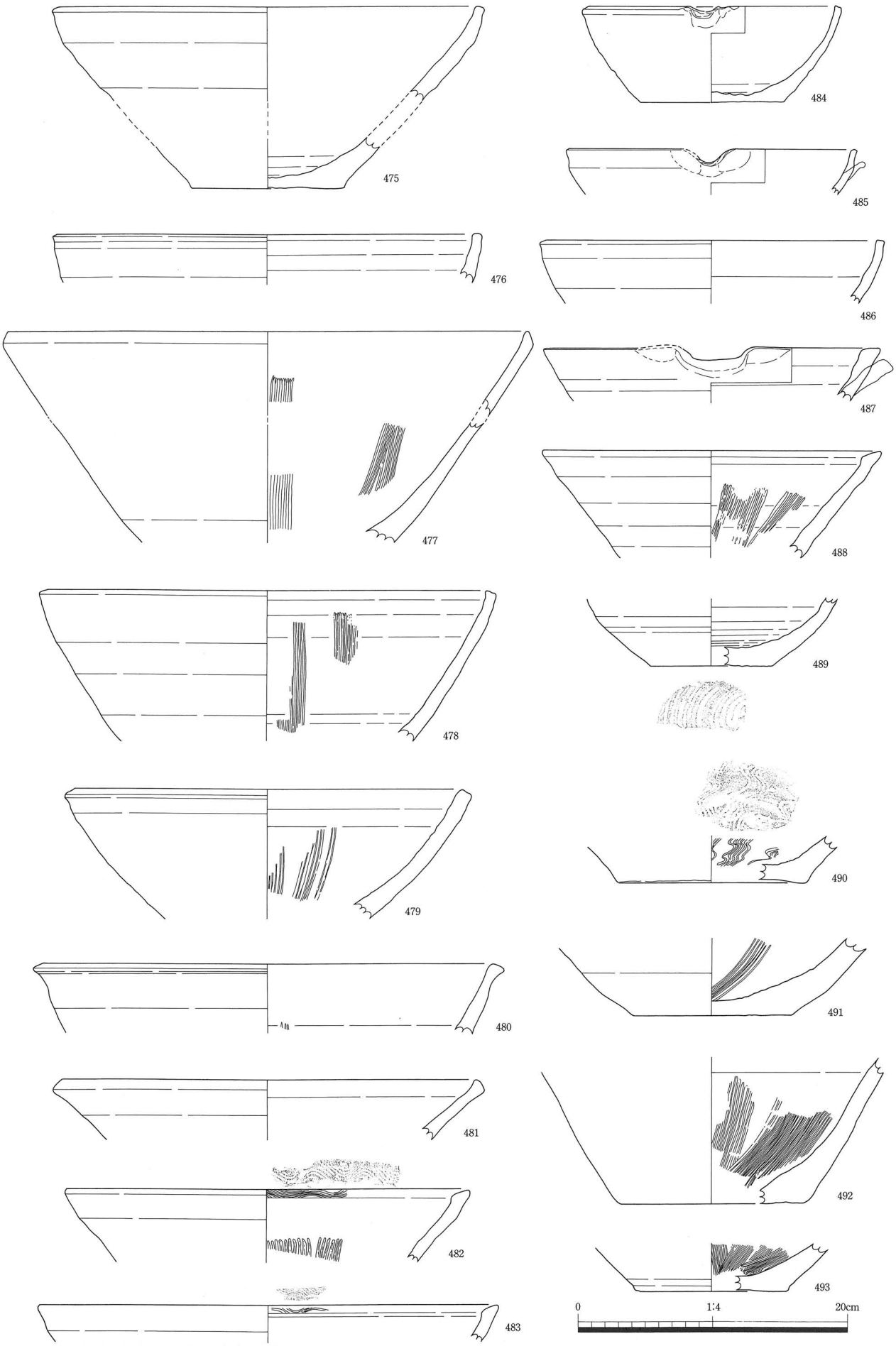


第 114 図　柳田遺跡　中世遺物実測図　(1/3)
包含層



第 115 図　柳田遺跡　中世遺物実測図（454 ～ 465　1/3, 466 ～ 474　1/4）
包含層

包含層



第 116 図　柳田遺跡　中世遺物実測図　(1/4)
包含層

(3) 近世～近代

A　溝・谷

1382 号溝（SD1382, 第 117 図）

B 地区中央西よりに位置し, 南から北に向かって直線的に延びる。表土直下から切り込んでいるため, 近世の溝と考えられる。中央部は, ほ場整備による削平を受けて途切れるが, 方向と埋土が同一であることから同じ溝と考えた。最大幅 2.14m, 深さは最も深い所で 0.28m を測る。埋土は褐灰色～黒褐色粘土を基調とし, 一部に地山のにぶい黄褐色砂質シルトの混入がみられる。遺物は縄文土器小片多数, 石鏃, 石棒, 打製石斧, 磨製石斧, 凹石, 筋砥石, 石剥片, 珠洲甕が出土しているが, 大半は後世の混入によるものと考える。（朝田亜紀子）

9129 号溝（SD9129, 第 119 図）

A 地区中央南よりに位置し, SK9130 の南側に接する。表土直下から切り込んでおり, 近世以降の溝と考える。幅 0.95m 以上, 深さ 0.15m を測り, SK9130 に切られる。出土遺物はない。

9310 号谷（SR9310, 第 118・120 図, 図版 70・72）

A 地区西端に位置する。幅約 22.4m, 深さ 2.4m の谷状地形で, 盛土の下で検出した。A 地区の西半分は 1 ～ 2.5m の盛土が認められるが, この盛土は昭和 50 年代のほ場整備事業によって西側へ向かい急激に落ち込む地形を埋めたものである。この盛土からは縄文土器, 中世土師器, 珠洲, 瓦質土器, 青磁, 白磁, 越中瀬戸, 唐津, 伊万里, 磨製石斧, 打製石斧, 石棒, 石剣, 砥石, 銅銭等の多様な遺物が出土し, 盛土上位（6・7 層）に集中している。本来の SR9310 の埋土である最下層（20 層）から出土したのは近世磁器（494・495）のみである。494 は三対の松と団鶴がコンニャク印判で施された椀で, 495 は網目文の椀, いずれも伊万里で 17 世紀末～ 18 世紀前半頃のものと思われる。

9311 号溝（SD9311, 第 117 図）

SR9310 の東側に位置する幅 0.47m, 深さ 0.21m を測る溝。調査区西半の盛土に切られており, 出土遺物もないので, 時期は特定しがたいが, 近世以降の可能性がある。

B　土坑

1800 号土坑（SK1800, 第 113・119 図）

B 地区中央西よりに位置する。平面形は長方形で, 長さ 2.52m, 幅 1.31m, 深さ 1.37m を測る。掘形は垂直に掘り込まれ, 西側が若干深くなる。埋土上層は砂の混ざる暗灰黄色～黄灰色粘質土, 下層は黒褐色～黒色粘土がレンズ状に自然堆積する。上層から中層にかけて明黄褐色砂質シルトが薄く互層をなす。下層の黒褐色粘土はしまりが弱く, 最下層の黒色粘土は粘性が強い土である。遺物は大半が混入とみられ, 縄文土器小片多数, 磨製石斧, 剥片, 古瀬戸（405）が出土している。405 は古瀬戸の筒形香炉。口縁部に淡緑黄色の灰釉が厚くかかる。

9130 号土坑（SK9130, 第 119 図）

A 地区 Y37 付近に位置する方形の土坑で, 長さ 4.2m, 幅 3.95m, 深さ 0.81m を測る。埋土は人頭大の礫を含む黒褐色シルトを主体としている。南側の底面付近に一部灰や燃やしかすの堆積した箇所があり, 近代以降の攪乱の可能性がある。出土遺物には縄文土器の細片, 中世土師器, 珠洲, 越中瀬戸, 石鍋, 剥片等がある。

C　包含層出土遺物

出土遺物は少なく，近世以降のものはほ場整備時の盛土等に混入したものが大半である。

伊万里（第120図，図版70・72）

皿（502～507）が多く，椀（499～501），紅皿（496），小杯（497），香炉（498），瓶（508）がある。502～507は18世紀代の皿で，502は内面に松竹梅文と見込みにコンニャク印判による五弁花，外面に唐草文の皿。18世紀後半代の波佐見窯系の製品か。496は型押しの白磁紅皿，497は笹葉文の小杯，498は三足の香炉である。499～501は椀で，500はSR9310出土の494と同様の三対の松と団鶴のコンニャク印判が施されたもので，17世紀末～18世紀前半頃のもの。

唐津（第120図，図版72）

唐津は椀（512），皿（513・514），擂鉢（509～511）がある。513・514は内野山窯系の皿で，内面に銅緑釉を施す。17世紀後半～18世紀前半のものである。

越中瀬戸（第121図，図版63・71）

越中瀬戸は比較的まとまった量が出土しており，皿（515～524），椀（527～529），壺（530～540），油徳利（541），擂鉢（542・543），陶錘（525・526）がある。515は見込みに十六弁菊の印花を押捺する灰釉皿で，17世紀代のもの。518～521は高台裏に墨書がみられる皿で，520・521は「十」字状の記号が墨書きされる。520は削りだし高台の削りが深く，断面逆三角形を呈し，登窯期（17・18世紀）のものと思われる。524は灯明受皿で，底部は無釉で糸切り痕がみられる。525・526は陶錘である。527は鉄釉の天目茶椀で，体部に丸みが少なく，口縁部はほぼ直立する。529はやや小振りだが，火入れか。530～540は壺で，530～538は鉄釉の小壺または茶入れで，比較的まとまった量が出土している。541は油徳利の口縁部で，外面に鉄釉がかかる。542・543は擂鉢である。

金属製品（第122図，図版73）

558・560は鉄滓，556・557は釘，550・551は環状，554は毛抜き。553は断面菱形を呈する径4.3㎝の口金状の鉄製品。556は頭部が楕円形に作り出されており，身の部分の断面は円形を呈する。銅銭は全て寛永通宝で，548は背面に11波の波文のあるもので，真鍮四文銭である。549は3枚が重なった状態のもので，一番下の銭は背面上に「文」字が描かれる所謂「文銭」で，寛文8（1668）年～天和3（1683）年の16年間に鋳造されたものである。

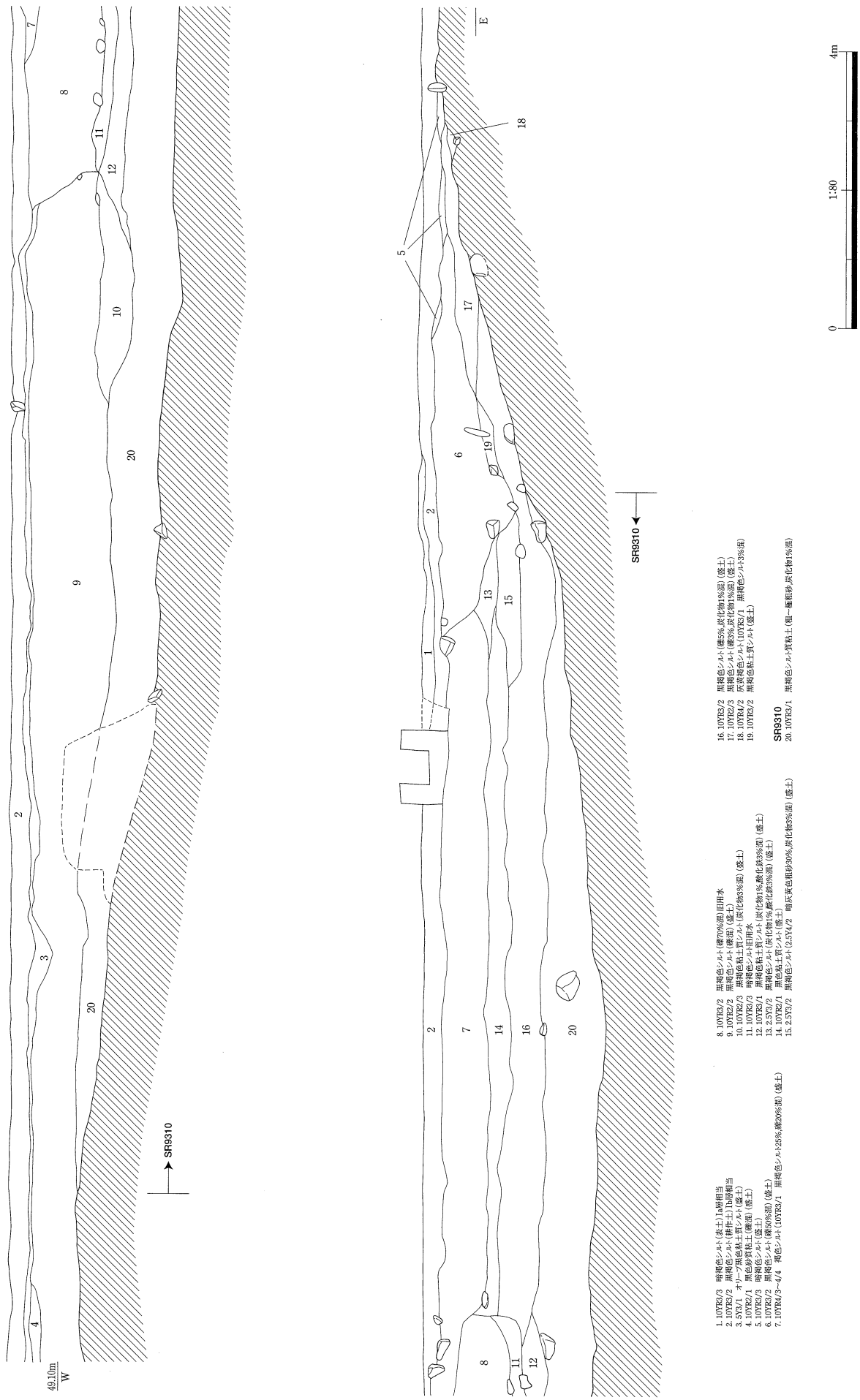
4　まとめ

(1) 縄文時代

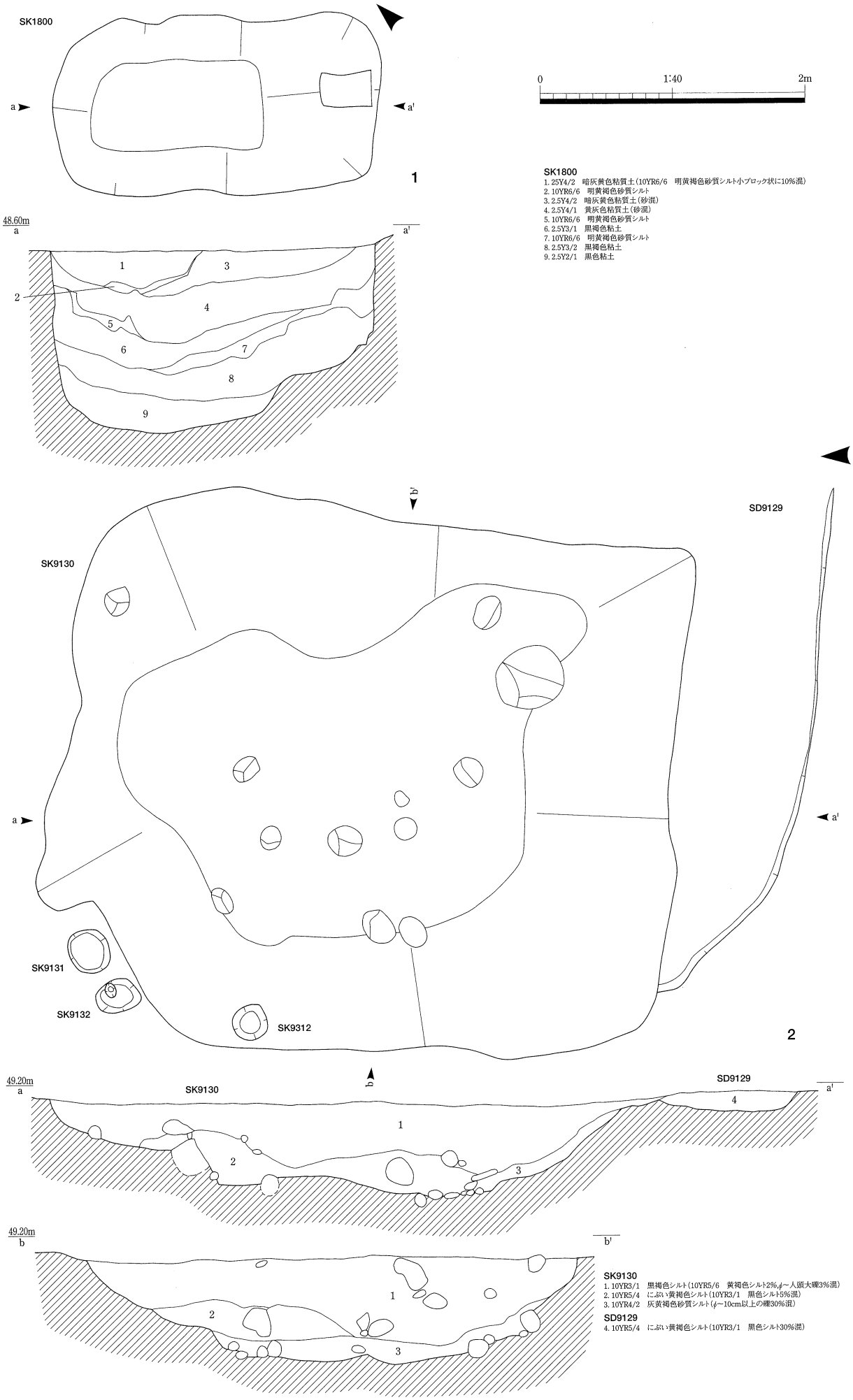
柳田遺跡は古くから縄文時代の遺跡として周知されているが，今回の調査では縄文時代に帰属すると考えられる遺構は極めて少なく，溝1条，土坑6基，倒木痕のみである。後世の攪乱・削平を受けていることもあり，縄文時代の遺構は明確ではない。しかしながら，縄文時代前期後葉～晩期に至る縄文土器のほか，玦状耳飾・磨製石斧・打製石斧・砥石・翡翠や蛇紋岩の原石等の多量の石製品が出土している。なかでも磨製石斧の未成品は多様なものがあり，製作工程を復元し得る各段階の遺物が一定量ずつあり，集落で石器製作を行っていたことが明らかである。ほ場整備等の影響により出土遺物の大半が表土層からの出土であるのは，残念なところである。既往の調査からみて，今回の調査区は，集落の縁辺部にあたり，集落の中心は調査区南側に広がっていたものと推測される。

なお，石製品の石材については，今回石材鑑定を行った結果，石材名称について若干の問題が生じて

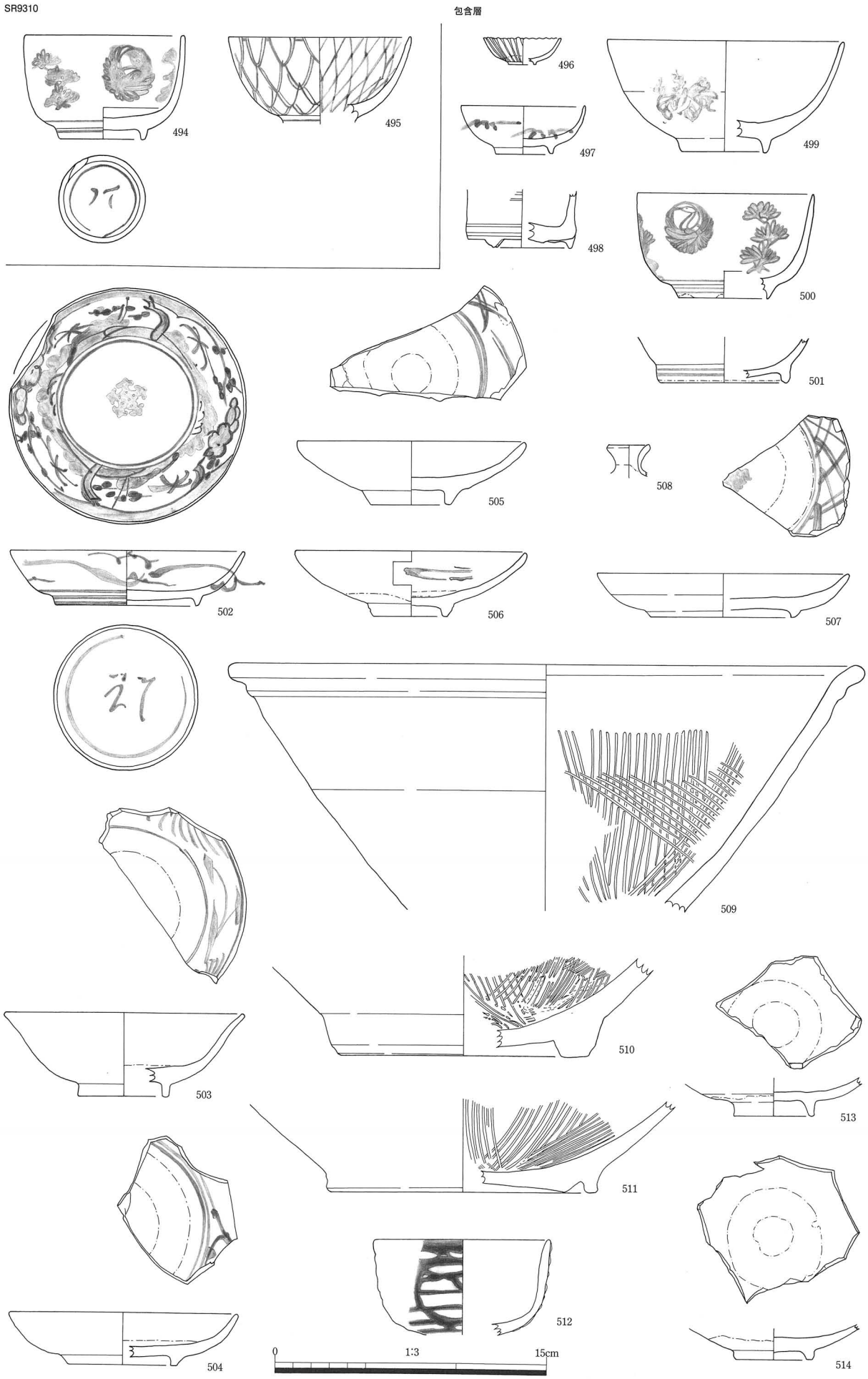
第 117 図　柳田遺跡　近世遺構実測図
1. SD1382　2. SD9311



第 118 図　柳田遺跡　近世遺構実測図
SR9310

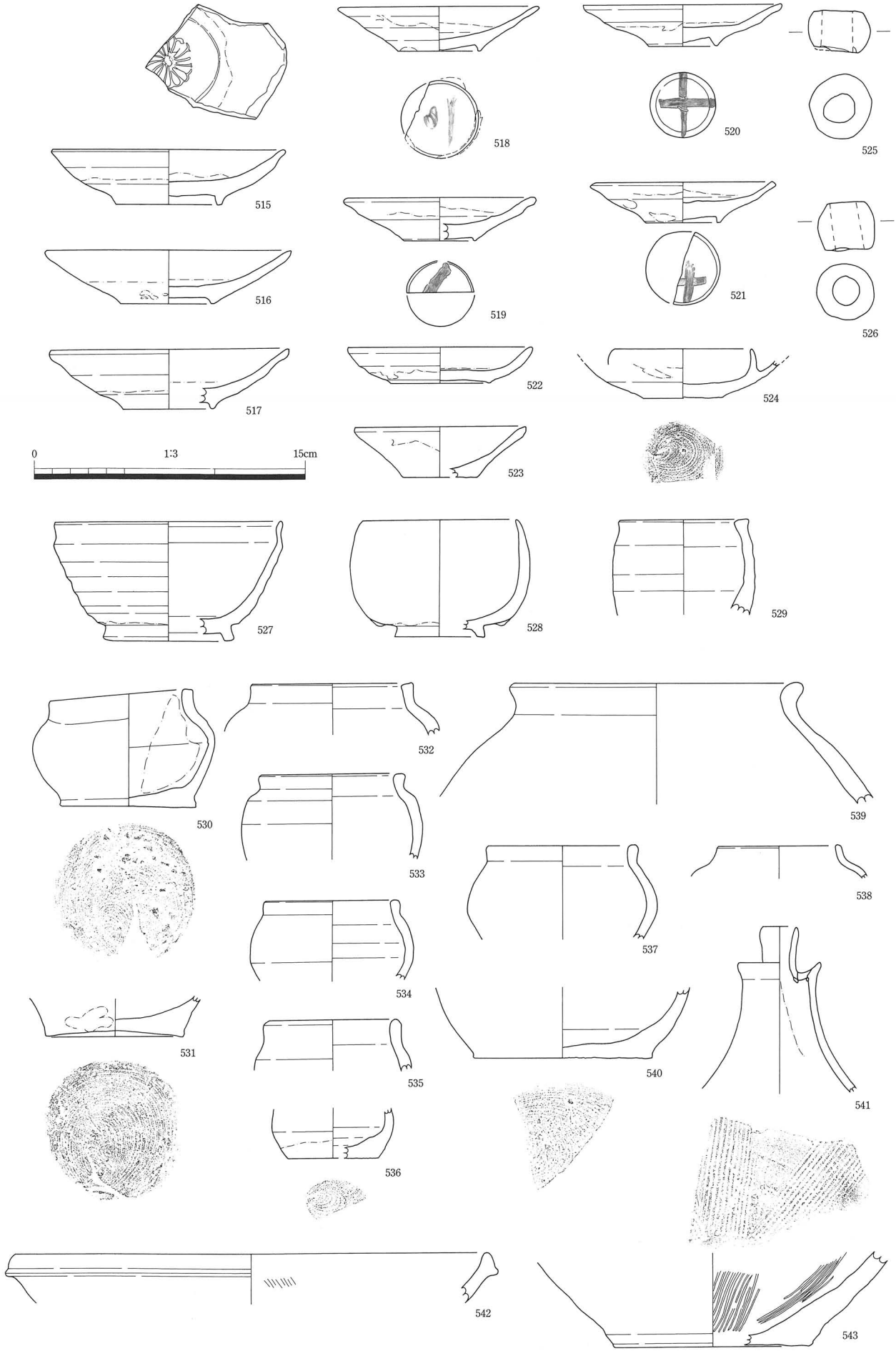


第 119 図　柳田遺跡　近世遺構実測図
1. SK1800　2. SK9130・SD9129

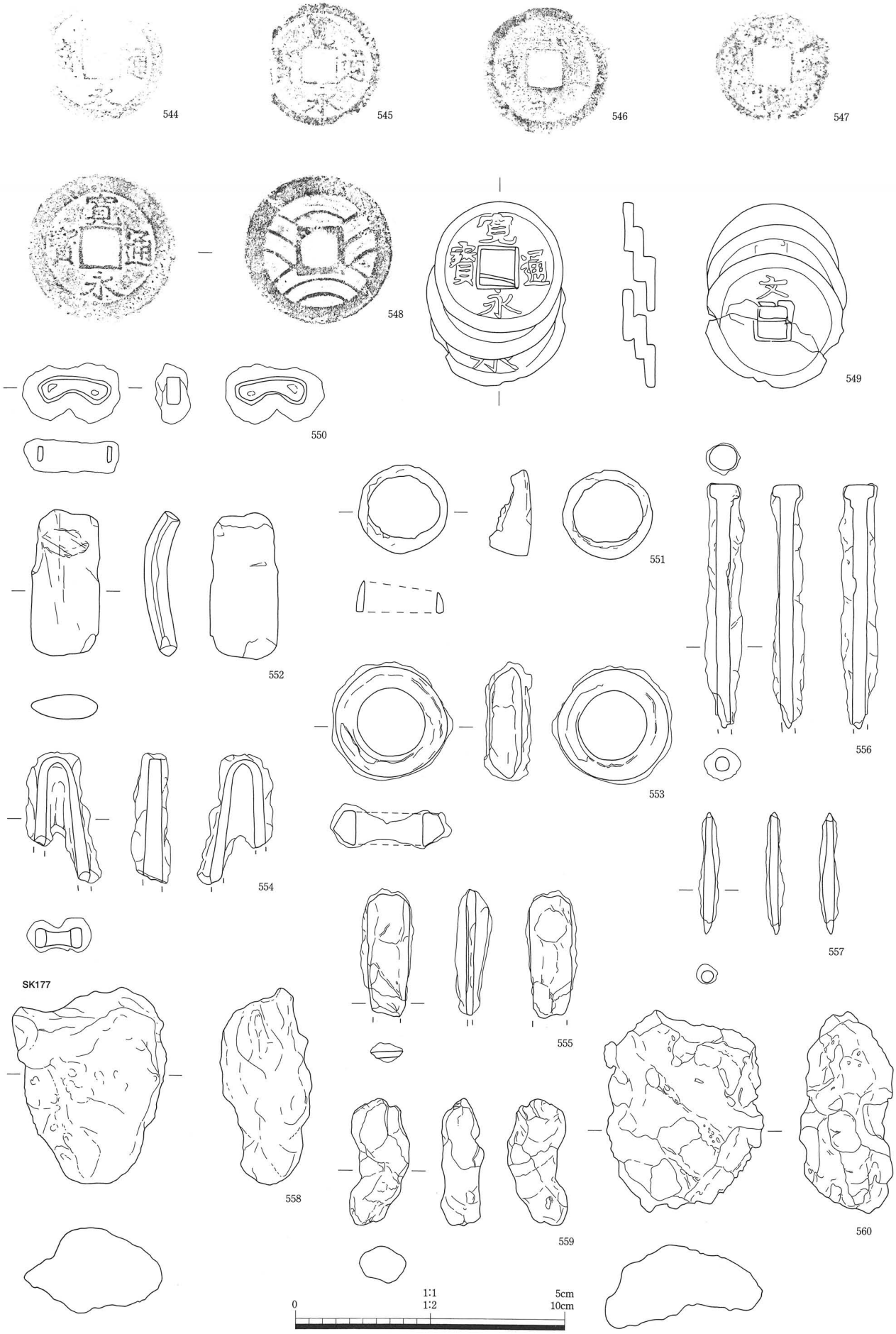


第 120 図　柳田遺跡　近世遺物実測図（1/3）
SR9310（494・495）　包含層

包含層



第 121 図　柳田遺跡　近世遺物実測図（1/3）
包含層



第 122 図　柳田遺跡　近世遺物実測図（544 ～ 552　1/1，553 ～ 560　1/2）
SK177（558）　包含層

いる。従来「蛇紋岩」としてきたものだが，比重等の分析により多くが「透閃石岩（とうせんせきがん）」と判定された。本報告においては，従来の石器群との比較のため，観察表上で『蛇紋岩（透閃石岩）』と表記した。同様に『鉄石英（赤・黄玉石）』という表記を用いた。今後，石材名称については，資料の蓄積を待ち，検討することが必要になってくると思われる。

(2) 中世

調査区東側のＢ地区を中心に，掘立柱建物14棟，土坑，溝が検出されており，本調査区の主体となる時期である。掘立柱建物はＢ地区で３ブロック，Ａ地区で１ブロックにわかれ，それぞれ２～３棟ずつがまとまっている。SB １・SB ２はSD400・SD401により方形に区画されている。また，Ｂ地区ではSD400・SD401のほかにも各ブロック間に区画溝とみられる溝（SD1300・SD3609）がほぼ併走しており，屋敷割りが意識されているといえよう。出土遺物は少なく，12世紀中頃～14世紀代のものがみられる。縄文時代以降は，中世になって人々が定住し集落が営まれるが，出土遺物からは13世紀代にもっとも栄えていたと思われ，15世紀前半に下限がある。

(3) 近世～近代

近世以降の遺構は，溝４条，土坑２基である。出土遺物は，17世紀後半～18世紀前半頃のもので，大半はほ場整備等による盛土内からの出土である。遺構・遺物ともに少なく，中世以降は近世末になってから再び開発され始めたと考えられる。（金三津道子）

注

注１　坂口隆 2003『縄文時代貯蔵穴の研究』小林達雄監修【未完成考古学叢書】

注２　注１に同じ

注３　角張淳一・高橋哲氏の御教示による。
刃部に直交する線状痕，Ｅタイプに近い光沢が縁辺に沿ってみとめられ，使用によって形成されたと考えられる。裏面刃部側が被加工物に接触するような操作方法（皮加工など）に非常に近いものであるとのことである。

注４　山本正敏 1990『北陸自動車道遺跡調査報告　朝日町編５　境Ａ遺跡　石器編』富山県教育委員会
山本正敏 1991「蛇紋岩製磨製石斧の製作と流通」『季刊考古学第35号』雄山閣

注５　第Ⅶ章自然科学分析「４　柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡　黒曜石産地推定」に詳しい。

第 23 表　柳田遺跡　縄文時代　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		特記事項	挿図	写真図版
		幅	深さ			
SD9225	A-SD225	0.96	0.11	全ての遺構に切られる。	68	32

第 24 表　柳田遺跡　縄文時代　土坑・倒木痕一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK208	B-SK208	不整形	(1.35)	(1.17)	0.50	石棒,剥片,磨製石斧,縄文土器		68	32
SX239	B-SX239	不整形	4.53		0.66	縄文土器	倒木痕		
SK544	B-SK544	円	(0.38)	(0.26)	0.10	縄文土器		68	32
SK1246	B-SK1246	円	1.05	0.94	0.35	縄文土器		68	32
SK2281	B-SK2281	円	1.08	1.02	0.20		>SP2297	68	
SX4923	B-SX4923	不整形	3.70			砥石,縄文土器	倒木痕		
SX6656	B-SX6656	不整形	4.37			垂飾	倒木痕		
SK7941	B-SK7941	円	1.25	1.15	0.70	剥片,縄文土器		68	
SK9016	A-SK9016	不整形	1.73	0.73	0.38	縄文土器	<SK9017・SK9018	68	32

※規模の（　）付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第 25 表　柳田遺跡　中世　建物一覧

建物	種別	桁行(m)		梁行(m)		面積(㎡)	棟方位	柱穴規模径(m)	柱穴規模深さ(m)	柱間距離桁(m)	柱間距離梁(m)	出土遺物	挿図	写真図版
SB1	南北棟・側柱	3間	6.58	2間	4.96	32.64	N-10°-W	0.22～0.57	0.11～0.38	1.83～1.97	2.15～2.65	中世土師器(SP297)	92	35
SB2	東西棟・総柱	3間	5.78	2間	4.50	26.01	N-76°-E	0.24～0.42	0.20～0.42	1.67～2.27	北1.32～1.42 南3.05～3.18		92	35
SB3	南北棟・側柱	3間	5.67	2間	4.00	22.68	N-10°-E	0.27～0.48	0.11～0.36	1.51～2.19	1.88～2.28		93	35
SB4	東西棟・側柱	1間	1.92	1間	1.55	2.98	N-72°-E	0.27～0.38	0.15～0.35	1.89～1.95	1.49～1.61		94	35
SB5	南北棟・総柱	2間	4.54	2間	4.17	18.93	N- 5°-E	0.22～0.46	0.22～0.53	2.01～2.45	2.08～2.19		95	35
SB6	側柱?	(2間)	4.17	(1間)	2.86	11.93	N-85°-W	0.36～0.88	0.33～0.44	2.00～2.17	2.86		95	35
SB7	東西棟・総柱	4間	9.83	3間	7.72	75.89	N-88°-E	0.17～0.54	0.14～0.55	2.30～2.72	2.11～2.82	珠洲(SP4741)	96·97	35
SB8	総柱	(1間)	2.54	(1間)	1.42	3.61	N-88°-E	0.26～0.35	0.21～0.57	2.45～2.62	1.37～1.47		96·97	35
SB9	側柱?	(2間)	4.41	(1間)	2.37	10.45	N-84°-E	0.25～0.48	0.30～0.52	2.19～2.22	2.37		94	35
SB10	東西棟・側柱	1間	2.43	1間	2.15	5.22	N-45°-E	0.26～0.30	0.29～0.44	2.41～2.44	2.06～2.23		94	36
SB11	南北棟・総柱	3間	8.50	3間	5.80	49.30	N-13°-E	0.25～0.60	0.06～0.42	2.7～2.8	1.5～2.2	中世土師器(SP9209·SP9253)	98	36
SB12	東西棟・総柱	2間	6.00	2間	5.00	30.00	N-84°-W	0.25～0.44	0.12～0.38	2.3～3.6	2.1～3.1		99	36
SB13	東西棟・側柱	5間	6.30	1間	3.50	22.05	N-50°-E	0.18～0.45	0.07～0.33	1.0～1.4	3.3～3.5	中世土師器(SP9231)	100	36
SB14	東西棟・側柱	2間	4.00	1間	1.80	7.20	N-50°-E	0.19～0.35	0.06～0.19	1.7～2.0	1.8	中世土師器(SP9087)	100	

第 26 表　柳田遺跡　中世　柱穴一覧（１）

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB1	SP176	B-SP176	円	0.50	0.37	0.25				
	SP213	B-SP213	円	0.33	0.28	0.11	縄文土器			
	SP275	B-SP275	円	0.31	0.21	0.34				
	SP282	B-SP282	円	0.57	0.38	0.23	縄文土器			
	SP289	B-SP289	円	0.22	0.17	0.14				
	SP297	B-SP297	円	0.32	0.18	0.38	中世土師器			
	SP368	B-SP368	円	0.53	0.29	0.21				
SB2	SP398	B-SP398	円	0.30	0.26	0.20				
	SP836	B-SP836	円	0.24	0.17	0.27				
	SP853	B-SP853	円	(0.26)	(0.19)	0.26				
	SP857	B-SP857	円	0.24	0.24	0.30				
	SP861	B-SP861	円	(0.28)	(0.27)	0.37				
	SP888	B-SP888	円	0.25	0.25	0.34				
	SP893	B-SP893	円	0.42	0.37	0.31	縄文土器			
	SP896	B-SP896	円	0.28	0.20	0.28				
	SP916	B-SP916	円	0.26	0.26	0.42	縄文土器		92	
SB2·SB3	SP899	B-SP899	円	0.30	0.26	0.32			92·93	
SB3	SP924	B-SP924	円	0.27	0.25	0.15				
	SP959	B-SP959	円	(0.27)	(0.24)	0.11		<SP960		
	SP1157	B-SP1157	円	0.39	0.23	0.36			93	

第26表　柳田遺跡　中世　柱穴一覧（2）

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB3	SP1157	B-SP1157	円	0.39	0.23	0.36			93	
	SP1162	B-SP1162	円	0.48	0.32	0.30			93	
	SP1433	B-SP1433	円	0.31	0.28	0.30		>SK1434	93	
SB4	SP956	B-SP956	円	0.38	0.27	0.34			94	
	SP984	B-SP984	円	(0.28)	(0.24)	0.27	縄文土器		94	
	SP1188	B-SP1188	円	0.38	0.27	0.29		>SK1186·SK1187	94	
	SP1192	B-SP1192	円	0.27	0.25	0.15			94	
SB5	SP2616	B-SP2616	円	0.39	0.31	0.53			95	
	SP2646	B-SP2646	円	0.25	0.25	0.33			95	
	SP2919	B-SP2919	円	0.25	0.25	0.46		>SK2918	95	
	SP2952	B-SP2952	円	0.24	0.24	0.34			95	
	SP2658	B-SP2658	円	0.46	0.38	0.24				
	SP3029	B-SP3029	円	0.22	0.19	0.18		SK3030底面で検出		
	SP3192	B-SP3192	円	0.23	0.19	0.22				
SB6	SP3222	B-SP3222	円	0.42	0.30	0.39			95	
	SP3702	B-SP3702		0.88	0.71	0.20			95	
	SP3708	B-SP3708	円	0.36	0.29	0.33				
	SP3728	B-SP3728	円	0.43	0.34	0.44			95	
SB7	SP4164	B-SP4164	円	0.17	0.17	0.16			97	
	SP4226	B-SP4226	円	0.36	0.32	0.44			97	
	SP4427	B-SP4427	円	0.34	0.34	0.38			97	
	SP4600	B-SP4600	円	0.24	0.22	0.26		>SK4599	97	
	SP4623	B-SP4623	円	0.22	0.17	0.14			97	
	SP4668	B-SP4668	円	0.22	0.20	0.08			97	
	SP4689	B-SP4689	円	0.33	0.32	0.52			97	
	SP4719	B-SP4719	円	0.38	0.29	0.55			97	
	SP4741	B-SP4741	円	0.36	0.34	0.41	珠洲		97	
	SP4752	B-SP4752	円	0.34	0.34	0.46			97	
	SP4782	B-SP4782	円	(0.28)	(0.22)	0.38			97	
	SP4875	B-SP4875	円	0.40	0.34	0.34			97	
	SP4921	B-SP4921	円	(0.54)	(0.26)	0.38		<SK4922	97	
	SP4959	B-SP4959	円	0.22	0.18	0.28			97	
	SP4983	B-SP4983	円	0.24	0.24	0.35			97	
	SP5130	B-SP5130	円	0.30	0.28	0.25			97	
	SP5161	B-SP5161	円	0.47	0.35	0.35			97	
	SP5235	B-SP5235	円	0.28	0.19	0.40			97	
	SP5236	B-SP5236	円	0.28	0.22	0.38			97	
	SP5270	B-SP5270	円	0.30	0.24	0.27			97	
	SP6851	B-SP6851	円	0.44	0.41	0.35			97	
SB8	SP4194	B-SP4194	円	0.28	0.22	0.51	縄文土器		97	
	SP4203	B-SP4203	円	0.35	0.22	0.21			97	
	SP4429	B-SP4429	円	0.32	0.32	0.57			97	
	SP4438	B-SP4438	円	0.26	0.24	0.40			97	
SB9	SP4772	B-SP4772	円	0.25	0.22	0.36			94	
	SP4746	B-SP4746	円	(0.48)	(0.23)	0.52			94	
	SP4800	B-SP4800	円	0.43	0.33	0.45			94	
	SP5463	B-SP5463	円	0.34	0.32	0.43			94	
SB10	SP7146	B-SP7146	円	(0.30)	(0.25)	0.38			94	
	SP7194	B-SP7194	円	0.26	0.22	0.29			94	
	SP7381	B-SP7381	円	0.30	0.20	0.44			94	
	SP7434	B-SP7434	円	0.30	0.28	0.43			94	
SB11	SP9137	A-SP137	円	0.34	0.31	0.23			98	36
	SP9151	A-SP151	円	0.37	0.32	0.14			98	
	SP9160	A-SP160	楕円	(0.60)	(0.30)	0.40		<SP9161	98	
	SP9170	A-SP170	楕円	(0.42)	(0.32)	0.42		>SK9169,<SP9171	98	
	SP9182	A-SP182	円	0.33	0.30	0.12		>SK9183	98	
	SP9199	A-SP199	円	0.38	0.36	0.21		>SD9225·SX9279	98	
	SP9209	A-SP209	円	0.38	0.38	0.37	中世土師器	<SX9226	98	
	SP9217	A-SP217	円	0.36	0.27	0.25			98	
	SP9236	A-SP236	円	0.42	0.32	0.16		>SK9237	98	
	SP9243	A-SP243	楕円	0.50	0.25	0.20			98	
	SP9253	A-SP253	円	0.36	0.30	0.23	縄文土器,中世土師器		98	
	SP9258	A-SP258	円	0.25	0.23	0.06			98	
	SP9262	A-SP262	円	0.27	0.24	0.06			98	
	SP9263	A-SP263	楕円	0.36	0.34	0.16			98	
	SP9312	A-SP312	(円)	0.26	0.26	0.12		<SK9130		
SB12	SP9136	A-SP136	円	0.25	0.25	0.23			99	
	SP9142	A-SP142	円	0.35	0.35	0.18			99	
	SP9148	A-SP148	円	0.29	0.29	0.27			99	

第 26 表　柳田遺跡　中世　柱穴一覧（3）

建物	遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SB12	SP9171	A-SP171	楕円	0.29	0.27	0.16		>SP9170·SX9226	99	
	SP9185	A-SP185	円	0.38	0.32	0.12		>SK9186	99	
	SP9197	A-SP197	円	0.32	0.30	0.38		>SD9225·SX9279	99	
	SP9210	A-SP210	円	0.44	0.34	0.22		>SX9226	99	
	SP9219	A-SP219	円	0.30	0.30	0.22			99	
	SP9254	A-SP254	円	0.29	0.26	0.12			99	
SB13	SP9147	A-SP147	円	0.24	0.24	0.16			100	
	SP9161	A-SP161	円	0.45	0.35	0.33		>SP9160	100	36
	SP9164	A-SP164	楕円	0.40	0.30	0.11			100	
	SP9179	A-SP179	円	0.18	0.18	0.15			100	
	SP9188	A-SP188	円	0.33	0.25	0.07			100	
	SP9192	A-SP192	円	(0.29)	(0.25)	0.20		>SK9194	100	
	SP9196	A-SP196	円	0.23	0.20	0.29		>SX9226	100	
	SP9208	A-SP208	円	0.25	0.21	0.30		>SX9226	100	
	SP9216	A-SP216	円	0.28	0.24	0.12		>SK9215·SK9229	100	
	SP9231	A-SP231	円	0.24	0.22	0.22	中世土師器	地鎮?	100	36
	SP9244	A-SP244	円	0.24	0.24	0.15			100	
	SP9249	A-SP249	円	0.25	0.25	0.09		>SK9251	100	
SB14	SP9087	A-SP87	円	0.26	0.21	0.19	中世土師器	>SK9088	100	
	SP9094	A-SP94	楕円	0.35	0.28	0.06			100	
	SP9101	A-SP101	円	0.19	0.15	0.15			100	
	SP9104	A-SP104	円	0.34	0.34	0.16			100	36
	SP9117	A-SP117	楕円	0.25	0.15	0.13			100	
SA1	SP1012	B-SP1012	円	0.25	0.23	0.25				
	SP1033	B-SP1033	円	0.23	0.20	0.30				
	SP1049	B-SP1049	円	0.28	0.24	0.26			93	
	SP1055	B-SP1055	円	0.23	0.21	0.18	縄文土器			
SA2	SP1211	B-SP1211	円	0.12	0.12	0.52				
	SP1292	B-SP1292	円	0.28	0.22	0.31			93	
	SP1312	B-SP1312	円	(0.21)	(0.17)	0.35				

※規模の（　）付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第 27 表　柳田遺跡　中世　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
		幅	深さ				
SD222	B-SD222	2.27	0.14	打製石斧, 剥片, 磨製石斧, 砥石, すり切り石器, 石錘, 礫器?,鉄滓, 縄文土器, 中世土師器, 珠洲	>SK271	101	
SD400	B-SD400	0.75	0.10	磨製石斧, 打製石斧, 縄文土器	>SK770	101	35
SD401	B-SD401	0.50	0.27	磨製石斧, 剥片, 縄文土器, 中世土師器, 珠洲		101	35
SD616	B-SD616	0.80	0.45	縄文土器, 中世土師器		101	
SD623	B-SD623	1.10	0.18				
SD626	B-SD626	0.76	0.22				
SD927	B-SD927	0.41	0.18	剥片, 縄文土器, 珠洲		102	
SD1053	B-SD1053	0.63	0.24	剥片, 石錘, 縄文土器, 中世土師器, 青磁	>SK1052	102	35·37
SD1149	B-SD1149	0.56	0.35	剥片			
SD1150	B-SD1150	1.35	0.26	石鏃 ,磨製石斧, 砥石, 敲石, 石製品, 石棒, 石錘,石皿, すり石, 凹石, 剥片, 打製石斧, 玉類, 研磨礫, 削器, 台石,炉壁, 縄文土器, 中世土師器, 珠洲,八尾, 青磁		102	35·37
SD1181	B-SD1181	0.61	0.14	中世土師器		102	
SD1193	B-SD1193	0.45	0.07		SD1381と同一か		
SD1300	B-SD1300	0.49	0.26	母岩, 砥石, 剥片, 縄文土器, 中世土師器		102	35
SD1381	B-SD1381	0.64	0.32	磨製石斧, 敲石, 凹石, 石皿, 縄文土器, 珠洲		102	
SD1851	B-SD1851	0.28	0.11	縄文土器	>SK1852·SK1836	101	
SD1864	B-SD1864	1.17	0.13	剥片, 砥石, 磨製石斧, 縄文土器, 青磁	>SK1863	101	
SD3609	B-SD3609	1.20	0.13	石鏃, 磨製石斧, 砥石, 剥片, すり石, 凹石, 敲石, 打製石斧, 研磨礫, 鉄滓, 中世土師器, 珠洲, 青磁		103	37
SD5453	B-SD5453	0.30	0.10	鉄滓		103	
SD5532	B-SD5532	0.66	0.14	剥片, 凹石, 中世土師器		103	
SD9004	A-SD04	3.35	0.35	縄文土器, 須恵器, 中世土師器, 青磁, 石棒, 石刀, 剥片	>SD9040	104	
SD9031	A-SD31	1.12	0.32	黒曜剥片	<SD9040,>SK9021·SK9030	104	
SD9040	A-SD40	0.85	0.44	中世土師器	<SD9004,>SD9031	104	

第28表　柳田遺跡　中世　土坑一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK120	B-SK120	不整形	1.32	1.30	0.46	磨製石斧, 剥片, 縄文土器, 青磁, 中世土師器		105	37
SK177	B-SK177	長方	4.07	2.31	0.58	砥石, 打製石斧, 玉類, 剥片, 磨製石斧, 鉄滓, 縄文土器, 中世土師器	<SK150	105	37
SK189	B-SK189	楕円	1.49	1.31	0.73	剥片, 縄文土器, 中世土師器		105	37
SK190	B-SK190	楕円	(1.47)	(0.86)	0.35	縄文土器		105	37
SK202	B-SK202	円		(1.77)	0.52	縄文土器	<SK181·SK182, >SK203	106	38
SK250	B-SK250	不整形	2.82	1.50	0.48	縄文土器,中世土師器			
SK350	B-SK350	楕円	1.77	1.41	0.30	敲石, 縄文土器, 中世土師器,珠洲		106	38
SK360	B-SK360	楕円	(1.50)	(0.89)	0.38		<SK406	106	38
SK371	B-SK371	楕円	1.04	0.63	0.41	縄文土器		106	38
SK425	B-SK425	楕円	2.23	1.13	0.25	石棒, 縄文土器, 中世土師器		106	38
SK504	B-SK504	楕円	(1.00)	(0.72)	0.25		>SK505	106	
SK505	B-SK505	楕円	(1.54)	(0.91)	0.20		<SK504	106	
SK928	B-SK928	不整形	(1.35)	(1.13)	0.51	縄文土器	<SK929	107	39
SK929	B-SK929	不整形	(1.14)	(0.40)	0.45		>SK928	107	39
SK930	B-SK930	不整形	1.24	1.12	0.36	凹石		107	39
SK992	B-SK992	楕円	1.82	1.14	0.41	縄文土器		107	39
SK1173	B-SK1173	不整形	1.38	0.97	0.35	縄文土器		107	39
SK1867	B-SK1867	円	(1.35)	(1.30)	0.32	打製石斧			
SK3000	B-SK3000	楕円	2.61	2.00	0.77	すり切り石器, 磨製石斧, 剥片, 縄文土器		108	39
SK3030	B-SK3030	不整形	1.47	1.13	0.32	中世土師器			
SK4422	B-SK4422	楕円	2.13	1.20	0.39	剥片, 縄文土器		108	
SK4460	B-SK4460	円		1.03	0.65	縄文土器	>SK4461, 井戸の可能性	108	39
SK5475	B-SK5475	円	1.82	1.50	0.68	剥片, 磨製石斧, 敲石, 砥石, 鉄滓, 縄文土器, 中世土師器, 珠洲, 白磁, 青磁		108	40
SK5603	B-SK5603	円	2.60	2.03	0.52	剥片, 玉類, 磨製石斧		109	40
SK6085	B-SK6085	楕円	0.96	(0.96)	0.19		>SK6086	109	40
SK6086	B-SK6086	円	1.97	1.47	0.28		<SK6085	109	40
SK6271	B-SK6271	不整形	2.12	1.53	0.62			109	
SK6810	B-SK6810	円	0.83	0.65	0.32			109	
SK7199	B-SK7199	円	1.32	1.15	0.26			109	40
SK7920	B-SK7920	円	(1.12)	(1.03)	0.32			109	40
SK8155	B-SK8155	円	1.97	1.54	0.28				
SK9020	A-SK20	円	0.30	0.26	0.30		>SK9021, 柱穴の可能性	110	
SK9054	A-SK54	円	0.24	0.24	0.16	中世土師器	柱痕?	110	
SK9055	A-SK55	楕円	0.33	0.28	0.13			110	
SK9063	A-SK63	楕円	(1.37)	(0.70)	0.48		<SD9004	110	
SK9064	A-SK64	円	(0.70)	(0.48)	0.55		<SK9065, 井戸の可能性	110	
SK9065	A-SK65	円	0.24	0.24	0.24		>SK9064, 柱痕?	110	
SK9072	A-SK72	楕円	0.23	0.14	0.33		柱痕?	110	
SK9073	A-SK73	円	0.15	0.15	0.27			110	
SK9083	A-SK83	円	0.20	0.20	0.13		柱痕?	110	
SK9089	A-SK89	不整形	0.96	0.83	0.08		SB14に伴うか	110	
SK9105	A-SK105	円	0.20	0.20	0.26		柱痕?	110	
SK9110	A-SK110	円	0.17	0.17	0.23		>SK9111, 柱穴の可能性	110	
SK9114	A-SK114	円	0.21	0.21	0.13		>SK9127	110	
SK9126	A-SK126	円	0.25	0.25	0.28		柱痕?	110	
SK9127	A-SK127	円	0.45	0.41	0.26		<SK9114, >SK9180, 柱痕?	110	
SK9132	A-SK132	楕円	0.36	0.25	0.21		柱穴の可能性	110	
SK9143	A-SK143	円	(0.30)	0.26	0.10		<SK9144	110	
SK9144	A-SK144	楕円	0.35	0.28	0.22	中世土師器	>SK9143	110	
SK9146	A-SK146	円	0.25	0.22	0.28		柱穴の可能性	110	
SK9174	A-SK174	楕円	0.58	0.33	0.21		柱穴の可能性	110	
SK9176	A-SK176	円	0.20	0.17	0.19		>SK9177	110	
SK9177	A-SK177	円	(0.26)	(0.20)	0.24		<SK9176, 柱穴の可能性	110	
SK9180	A-SK180	円	0.37	(0.34)	0.24		<SK9127, 柱穴の可能性	110	
SK9206	A-SK206	円	0.30	0.25	0.22		>SD9225·SX9279, 柱痕?	111	41
SK9214	A-SK214	円	0.21	0.19	0.23		柱穴の可能性	111	
SX9226	A-SX226	隅丸	2.91	2.42	0.06		SB13に伴う,>SP9209·SD9225,<SP9171·SK9195·SP9196·SP9208·SP9210·SK9211·SK9212·SK9274·SK9275	111	
SK9240	A-SK240	不整形	(1.90)	2.08	0.20	中世土師器, 珠洲		111	41
SK9242	A-SK242	円	0.26	0.24	0.22		柱穴の可能性	111	
SX9279	A-SX279	不整形	(2.83)	(2.45)	0.09		>SK9203～SK9205·SK9220～SK9223·SD9225·SK9227·SK9277·SK9278, <SP9197·SP9199·SK9206·SK9224		
SK9287	A-SK287	不整形	(1.87)	1.58	0.35		<SK9288	111	
SK9288	A-SK288	円	0.96	0.96	0.20	中世土師器	>SK9287·SK9289	111	
SK9289	A-SK289	楕円	0.75	(0.50)	0.18		<SK9288	111	41
SK9290	A-SK290	円	0.36	0.32	0.06	縄文土器		111	
SK9303	A-SK303	円	0.38	0.32	0.28		柱痕?	111	

※規模の（　）付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第29表　柳田遺跡　近世～中世　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	時期	特記事項	挿図	写真図版
		幅	深さ					
SD1382	B-SD1382	1.91	0.17	石鏃, 砥石, 石棒, 剥片, 凹石, 翡翠原石, 打製石斧, 磨製石斧, 研磨礫, 敲石, 縄文土器, 珠洲	近世	>SK2550·SK2863	117	
SD9129	A-SD129	0.95	0.15		近代～	<SK9130	119	
SR9310	A-SR310	22.40	2.40	縄文土器, 中世土師器, 珠洲, 八尾?, 越前, 瓦質土器, 白磁, 青磁, 越中瀬戸, 唐津, 伊万里, 剥片, 磨製石斧, 打製石斧, 砥石, 石棒, 石剣, 原石?, 銅銭	近世～	>SD9311	118	
SD9311	A-SD311	0.47	0.21		近世～		117	

第30表　柳田遺跡　近世～近代　溝一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	時期	特記事項	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ					
SK1800	B-SK1800		2.52	1.31	1.37	磨製石斧, 剥片, 縄文土器, 瀬戸	近世		113	
SK9130	A-SK130	方	4.20	3.95	0.81	縄文土器, 中世土師器, 珠洲, 剥片, 石鍋?, 越中瀬戸	近代～	>SD9129·SP9312	119	

第31表　柳田遺跡　縄文土器　土製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)				時期	詳細時期	胎土色調	胎土色	備考
							口径	器高	底径	高台径					
69	1	42	SK208		縄文土器	浅鉢	37.6				中期?		10YR6/4	にぶい黄橙色	
	2	42	SK544		縄文土器	深鉢					前期?		10YR5/3	にぶい黄褐色	
	3	42	SK1246		縄文土器	深鉢			10.0		中期～後期		7.5YR6/4	にぶい橙色	
	4	42	SK4575		縄文土器	深鉢			9.0		中期後期～後期前葉		10YR6/4	にぶい黄橙色	
	5	42	SD1150	X63Y85	縄文土器	鉢	15.8				晩期後葉	下野式	10YR7/4	にぶい黄橙色	赤彩7.5R4/6赤色
	6	42	SD3609	X74Y95	縄文土器	深鉢					前期後葉	福浦上層式	10YR6/3	にぶい黄橙色	真脇式?
	7	43	SX4923		縄文土器	深鉢	51.0				後期中葉		10YR6/3	にぶい黄橙色	
70	8	42		X91Y131 Ⅰ	縄文土器	深鉢					前期後葉	福浦上層式	10YR6/4	にぶい黄橙色	
	9	42		X88Y123 Ⅰ	縄文土器	台付鉢			5.6				10YR7/3	にぶい黄橙色	
	10	42		X55Y60 Ⅰ	縄文土器	深鉢	23.4				中期前葉	新保式	10YR5/3	にぶい黄褐色	
	11	42		X95Y30 Ⅰ	縄文土器	深鉢					前期～中期		7.5YR6/4	にぶい橙色	
	12	42		X89Y118 Ⅰ	縄文土器	深鉢					中期中葉		10YR6/3	にぶい黄橙色	
	13	42		X56～58Y72～73 Ⅰ	縄文土器	深鉢					中期後葉	古串田新式	10YR6/3	にぶい黄橙色	
	14	42		X73Y85 Ⅰ	縄文土器	深鉢			9.6		中期～後期		10YR6/3	にぶい黄橙色	
	15	42		X92Y124 Ⅰ	縄文土器	深鉢					後期前葉	気屋式	10YR6/3	にぶい黄橙色	
	16	42		X89Y124 Ⅰ	縄文土器	深鉢					後期後葉		10YR6/3	にぶい黄橙色	
	17	42		X90Y118 Ⅰ	縄文土器	深鉢					後期後葉		7.5YR6/4	にぶい橙色	
	18	42		X71Y79 Ⅰ	縄文土器	深鉢					後期末葉?		10YR6/3	にぶい黄橙色	赤彩10R4/6赤色
	19	42		X57Y74 Ⅰ	縄文土器	注口土器					後期		10YR7/3	にぶい黄橙色	
	20	42		X73Y96 Ⅰ	縄文土器	小型壺					晩期前葉		2.5Y6/2	灰黄色	
	21	42		X93Y124 Ⅰ	縄文土器	浅鉢					晩期中葉	中屋式	10YR4/1	褐灰色	赤彩7.5R4/6赤色
	22	42		X64Y81 Ⅰ	縄文土器	浅鉢	13.4				晩期中葉	中屋式	10YR4/1	褐灰色	赤彩7.5R4/8赤色
	23	42		X62Y79 Ⅱ	縄文土器	深鉢					晩期中葉	中屋式	10YR3/2	黒褐色	
	24	42		X66Y76 Ⅰ～Ⅱ	縄文土器	深鉢					晩期		7.5YR5/4	にぶい褐色	
	25	42		X85Y118 Ⅰ～Ⅱ	土製品	円盤状土製品	4.0	4.0	0.8	14.45			10YR5/2	灰黄褐色	
	26	43		X93Y113 Ⅰ～Ⅱ	土製品	有孔球状土製品	(3.1)	(4.9)	2.1	31.78			10YR7/3	にぶい黄橙色	孔径0.8cm
	27	43		X93Y116 Ⅰ～Ⅱ	土製品	有孔球状土製品	(5.0)	(5.3)	2.5	69.51			10YR5/2	灰黄褐色	孔径0.6cm
	28	43		X99Y118 Ⅰ～Ⅱ	土製品	有孔球状土製品	(6.3)	(4.9)	2.9	72.21			10YR7/3	にぶい黄橙色	孔径0.7cm
	29	43		X73Y83 Ⅰ～Ⅱ	土製品	有孔球状土製品	(3.8)	6.7	3.1	114.58			10YR8/3	浅黄橙色	孔径0.4cm

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
土製品の法量は左から長さ・幅・厚さ・重さ(g)とし，(　)付は現存長を示す。

第32表　柳田遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	時期	胎土色調	胎土色	釉色調	釉色	備考
112	380	63	SK9231		中世土師器	皿	12.1	2.4			13C前半	7.5YR6/6	橙色			
	381	64	SK9253		中世土師器	皿	10.3				13C前半か	7.5YR7/4	にぶい橙色			
	382	64	SK9209		中世土師器	皿	9.0	1.9			13C前半	5YR6/6	橙色			
	383	67	SD222	X59Y75	珠洲	甕			13.6			N6/	灰色			
	384	67	SD222	X59Y75	珠洲	甕	55.0				Ⅲ期?	N5/	灰色			
	385	67	SD222	X57Y76	珠洲	甕	42.4				Ⅳ期?	N5/	灰色			
	386	67	SD222	X62Y73	珠洲	大甕	56.0				Ⅳ期	5PB5/1	青灰色			
	387	67	SD1150	X65Y84	珠洲	甕	53.6				Ⅱ2期	5Y5/1	灰色			SD222　出土胴部片と同一個体
113	388	65	SD3609	X71Y93	青磁	皿			4.8		12C中頃～後半	7.5Y6/1	灰色	7.5Y6/2	灰オリーブ色	同安窯系青磁ⅢI−1b類　D期
	389	65	SD3609	X71Y93	青磁	椀	12.8				12C中頃～後半	2.5Y7/1	灰白色	10Y5/2	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀I−ba類　D期
	390	65	SD3609	X71Y93	青磁	椀	16.0				12C中頃～後半	7.5Y5/1	灰色	7.5Y5/2	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀I類　D期
	391	65	SP3609		青磁	椀	16.0				13C初頭～前半	10Y7/1	灰白色	10GY7/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁椀II−b類　E期
	392	67	SD3609	X76Y95	珠洲	擂鉢	31.2				Ⅲ期	5Y6/1	灰色			SK5475と接合
	393	67	SD3609	X75Y95	珠洲	擂鉢	29.0				Ⅳ期	5GY5/1	オリーブ灰色			
	394	67	SD3609	X74Y95	珠洲	甕	50.8				Ⅳ期	N4/	灰色			
	395	64	SD9004	X41Y45	中世土師器	皿	12.8				13C前半	7.5YR7/6	橙色			
	396	64	SD9004	X46Y40	中世土師器	皿	12.8	2.8			13C前半	7.5YR7/6	橙色			
	397	64	SD9004	X45～46Y40～44	中世土師器	皿	13.8				13C	5YR6/6	橙色			
	398	64	SD9004	X46Y40	中世土師器	皿	8.8	1.5			13C前半	10YR7/4	にぶい黄橙色			
	399	64	SD9004	X46Y40	中世土師器	皿	8.6	1.35			13C前半	5YR7/8	橙色			
	400	64	SD9004	X46Y40	中世土師器	皿	8.6	1.5			13C	7.5YR7/6	橙色			
	401	65	SD9004	X46Y49	青磁	椀					12C中頃～後半	2.5GY6/1	オリーブ灰色	5Y5/2	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀I−2類かI−3類　D期
	402		SD9004	X45Y44	須恵器	甕						5Y6/1	灰色			
	403	65	SK120		青磁	皿			4.6		12C中頃～後半	N6/	灰色	2.5GY6/2	灰黄色	龍泉窯系青磁ⅢI−c類　D期
	404	64	SK177	X56Y73～74	中世土師器	皿	12.8	3.1			13～14C	7.5YR6/6	橙色			
	405		SK1800		瀬戸	筒形香炉	8.7				14C後半～15C前半?	2.5Y7/3	浅黄色	5Y6/3	オリーブ黄色	
	406	67	SK4013	X75～81Y93～115	珠洲	擂鉢			10.8		Ⅱ期	N4/	灰色			静止糸切り,18目一単位のおろし目
	407	65	SK5475		青磁	椀				5.0	12C中頃～後半	2.5Y7/2	灰黄色	5Y5/3	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀I類　D期
	408	65	SK5475		白磁	椀				5.4	13C中頃～14C初頭	5Y8/1	灰白色	10Y7/1	灰白色	白磁椀IX−2類　F期
	409	65	SK5475		白磁	皿			6.0		13C中頃～14C初頭	7.5Y8/1	灰白色	2.5GY7/2	灰色	白磁ⅢIX−1類　F期
	410	64	SK5603		中世土師器	皿	13.2				13～14C	7.5YR7/6	橙色			
114	411	62		X89Y112　I～II	中世土師器	皿	7.2	1.8			13～14C	10YR8/3	浅黄橙色			
	412	62		X88～89Y110～111　I～II	中世土師器	皿	8.4	1.85			15C末～16C	7.5YR8/4	浅黄橙色			
	413	64		X67Y80　I～II	中世土師器	皿	8.9	1.5			13C前半	2.5Y8/2	灰白色			
	414	64		X65Y87　I～II	中世土師器	皿	10.5	1.1	7.0		13～14C	10YR8/3	浅黄橙色			外面口縁・内面全面スス付着
	415	64		X89Y110～112　I～II	中世土師器	皿	8.8				13～14C	10YR7/3	にぶい黄橙色			スス付着
	416	64		X28Y18　I～II	中世土師器	皿	12.2				13C前半	10YR7/4	にぶい黄橙色			
	417	64		X61Y76　I～II	中世土師器	皿	13.0	2.4			13C	7.5YR	にぶい橙色			
	418	64		X46Y57　I～II	中世土師器	皿	13.8	2.9			13C	10YR7/4	にぶい黄橙色			刷毛状撫で,スス付着
	419	64		X76Y100　I～II	中世土師器	皿	14.6				13～14C	7.5YR6/6	橙色			
	420	64		X86Y123　I～II	中世土師器	皿	15.8					10YR7/3	にぶい黄橙色			内面スス?付着
	421	63		X91Y126　I～II	古瀬戸	卸皿	15.0					2.5Y6/1	黄灰色	7.5Y4/3	暗オリーブ色	
	422	63		X88Y125　I～II	古瀬戸	花瓶			8.8			10YR7/1	灰白色	10Y4/2	オリーブ灰色	
	423	63		X57Y59　I	瀬戸?	香炉	9.0	5.9		6.0		10YR6/1	褐灰色	2.5GY6/4	くすんだ黄緑色	三脚　香炉　重ね焼き溶着,未成品
	424	69		X31Y32　I	土製品	?						10YR7/4	にぶい黄橙色			蓋状,推定径15.4cm
	425	69		X47Y41　II	加賀?	甕						7.5YR5/3	にぶい褐色			
	426	65		X76Y97　I～II	青白磁							5Y8/1	灰白色	5G7/1	明緑灰色	
	427	65		X90Y111　I～II	青白磁	皿					13C	N8/	灰白色	5BG7/2	青灰色	青白磁のⅢ, 13C　魚文と花文(凸文)
	428	66		X42Y47　II	青磁	椀?					12C中頃～後半	N7/	灰白色	10Y5/1	灰色	龍泉窯系青磁椀I−4類　D期
	429	66		X88Y106　I～II	青磁		17.8				13C前～14C	2.5Y7/2	灰黄色	10GY6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁大坏か小盤Ⅲ類
	430	66		X90Y111　I～II	青磁	椀	16.0				12C中頃～後半	2.5Y7/2	灰黄色	5Y6/3	オリーブ黄色	龍泉窯系青磁椀I−4類　D期
	431	66		X88Y106　I～II	青磁	椀	15.8					N7/	灰白色	10Y5/2	オリーブ灰色	上田椀cII類
	432	66		X78Y99　I～II	青磁	椀	16.0				12C中頃～後半	5Y7/1	灰白色	2.5GY6/2	灰黄色	龍泉窯系青磁椀I−4類　D期
	433	66		X79Y107　I～II	青磁	椀	12.0				13C初頭～前半	N7/	灰白色	10G6/2	緑みの灰色	龍泉窯系青磁椀II−b類　E期
	434	66		X74Y89　I～II	青磁	椀	16.4				13C初頭～前半	5Y7/1	灰白色	5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀II−b類　E期
	435	66		X90Y123　I～II	青磁		17.0				14C後～15C?	N6/	灰色	10Y5/2	オリーブ灰色	上田BII類かEII類かEⅢ類 文様不鮮明　蓮弁か
	436	66		X71Y95　I～II	青磁	椀	15.6				15C後～16C?	N5/	灰色	7.5GY6/1	緑灰色	上田椀BIV'
	437	66		X70Y84　I～II	青磁	椀	11.0				12C中頃後半	5Y7/1	灰白色	5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀I−4類　輪花 D期
	438	66		X91Y115　I～II	青磁	小椀	10.8				12C中頃～後半	5Y7/2	灰白色	5GY7/1	暗オリーブ灰色	龍泉窯系青磁小椀I−2類　D期
	439	66		X88Y114　I～II	青磁	椀	14.0				12C中頃～後半	7.5Y6/1	灰色	10Y5/2	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀I−2類　D期
	440	66		X78Y99　I～II	青磁	椀	14.0				12C中頃～後半	N6/	灰色	2.5GY5/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀I−1a類　D期
	441	66		X95Y117　I～II	青磁	椀	15.0				12C中頃～後半	10Y7/1	灰白色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁椀I−2類　D期
	442	66		X54Y71　I～II	青磁	椀				6.6		2.5Y7/1	灰白色	2.5GY6/1	オリーブ灰色	上田BⅢかIV類
	443	66		X90～91Y116　I～II	青磁	椀				5.0	13C初頭～前半	2.5Y7/1	灰白色	7.5Y5/3	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁椀II−b類　鎬蓮弁文,粗悪品,高台内側まで釉及ぶ　E期
	444	66		X62Y80　I～II	青磁	椀				5.1		N8/	灰白色	7.5GY7/2	くすんだ青白色	龍泉窯系青磁　浅形椀I類かII類
	445	66		X65Y69　I	青磁	椀				4.5	14C初頭～15C中	N7/	灰白色	7.5GY7/2	くすんだ青白色	上田椀IV類以降　G～H期
	446	66		X79Y105　I～II	青磁	椀				5.0	12C中頃～後半	N6/	灰色	5Y6/2	灰オリーブ色	同安窯系青磁椀I類　D期
	447	66		X46Y44　I	青磁	皿	9.2	2.35	4.0		12C中頃～後半	5Y6/1	灰色	10Y6/2	オリーブ灰色	龍泉窯系青磁ⅢI～2d類 片彫魚文　D期
	448	66		X59Y74　I～II	青磁	皿	9.7				12C中頃～後半	5Y6/1	灰色	7.5GY6/1	緑灰色	同安窯系青磁ⅢI−b類　D期
	449	66		X58Y77　I～II	青磁	皿	10.8				12C中頃～後半	5Y7/1	灰白色	5Y5/3	灰オリーブ色	龍泉窯系青磁ⅢI類　D期
	450	66		X74Y91　I～II	青磁	皿	13.0				12C中頃～後半	10Y7/1	灰白色	2.5G7/1	明オリーブ灰色	同安窯系青磁ⅢI類　D期
	451	66		X55Y64　I	青磁	皿			5.2		12C中頃～後半	5Y6/1	灰色	7.5Y6/2	灰オリーブ色	同安窯系青磁ⅢI−2b類　D期
	452	66		X46Y41　II	青磁	皿			6.3		12C中頃～後半	N6/	灰色	2.5GY6/2	灰黄色	同安窯系青磁ⅢI−1b類　D期
	453	66		X60Y70　I～II	青磁	皿			4.2		12C中頃～後半	2.5Y8/1	灰白色	5Y7/2	灰白色	同安窯系青磁ⅢI−1a類　D期
115	454	65		X51Y48　II	白磁	椀	15.4				11C後半～12C前半	2.5Y7/2	浅黄色	2.5Y7/2	灰黄色	白磁椀IV類　C期
	455	65		X88Y107　I～II	白磁	椀	15.3					7.5Y7/1	灰白色			白磁椀V−4類かVII−1類かVII−3類
	456	65		X58Y64　I	白磁	椀	15.0				13C中頃～14C初頭	N8/	灰白色	5GY8/1	灰白色	白磁椀IX類　F期
	457	65		X75Y106　I～II	白磁	椀	18.0					5Y7/1	灰白色	5Y6/2	灰オリーブ色	白磁椀V−4類かVII−1類かVII−3類
	458	65		X70Y95　I～II	白磁	皿	11.2				13C中頃～14C初頭	2.5Y8/1	灰白色	7.5Y7/2	灰白色	白磁ⅢIX−b類かIX−c類　F期
	459	65		X52Y51　II	白磁	椀					12～13C?	10Y8/1	灰白色	5Y7/2	灰白色	白磁椀V類かVI類
	460	69		排土中	珠洲	壺	23.0				V期	2.5Y6/1	黄灰色			
	461	69		X84Y112　I～II	珠洲	壺	14.6				II～III期?	N4/	灰色			
	462	69		X67Y78　I～II	珠洲	壺	18.1				V期?	N6/	灰色			

第32表　柳田遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧（2）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	高台径	時期	胎土色調	胎土色	釉色調	釉色	備考
115	463	69		X62Y80　I～II	珠洲	壺						N6/	灰色			静止糸切り
	464	69		X93Y131　I～II	珠洲	壺	9.4				I～II期	2.5Y7/2	灰黄色			
	465	69		X93Y122　I～II	珠洲	壺	11.0				IV期?	5B5/1	青灰色			
	466	69		X?Y?　I～II	珠洲	甕	53.8				V期?	N6/	灰色			
	467	69		X65Y68　I	珠洲	甕	45.6					10Y4/1	灰色			
	468	69		X61Y78　I～II	珠洲	甕	36.0				III期	N4/	灰色			
	469	69		排土中	珠洲	甕					II期	10GY4/1	暗緑灰色			
	470	69		X78Y100　I～II	珠洲	甕					III期	N5/	灰色			
	471	69		X93Y118　I～II	珠洲	甕					III期?	N5/	灰色			
	472	69		X45Y45　II	珠洲	甕					IV2期～V期　14C	5Y6/1～5/1	灰色			
	473	69		X21Y2　II	珠洲	甕					V期	5Y5/1	灰色			
	474	69		X61Y65　I	珠洲	甕					V期?	N3/	暗灰色			
116	475	68		I～II	珠洲	擂鉢	31.0		11.4		I期	N5/	灰色			
	476	68		X36Y27　I	珠洲	擂鉢	31.4				II期?	5PB2/1	青黒色			
	477	68		X75Y84　I～II	珠洲	擂鉢	49.6				III期?	5Y6/1	灰色			
	478	68		X95Y131　I～II	珠洲	擂鉢	32.4				IV期	N3/	暗灰色			
	479	68		X69Y85　I～II	珠洲	擂鉢	28.8				IV期	2.5Y6/1	黄灰色			
	480	68		X26Y10　II	珠洲	擂鉢	33.0				IV期	5Y5/1	灰色			
	481	68		X93Y124　I～II	珠洲	擂鉢	30.6				IV期	N4/	灰色			
	482	68		X57Y58　I	珠洲	擂鉢	29.8				V期	10Y5/1	灰色			口縁波状文
	483	68		X49Y45　II	珠洲	擂鉢	34.0				V期	10Y5/1	灰色			口縁波状文
	484	69		X78Y101　I～II	珠洲	片口鉢	18.3	7.1	10.6		I期	5PB4/1	暗青灰色			
	485	68		X42Y33　I	珠洲	片口鉢	21.2				I期	N4/	灰色			口縁波状文
	486	68		X88Y113　I～II	珠洲	擂鉢	24.4				I期	5Y5/1	灰色			
	487	68		X73Y82　I～II	珠洲	片口鉢	23.6					10Y5/1	灰色			
	488	68		X50Y46　II	珠洲	擂鉢	25.0				V期　14C	2.5Y6/1～6/2	灰黄色			
	489	68		X64～83Y84～100　I～II	珠洲	擂鉢			9.2		I～II期?	2.5Y7/1	灰白色			静止糸切り、板目?
	490	68		X50Y47　II	珠洲	擂鉢			14.0		II2期?	5B4/1	暗青灰色			
	491	68		X87Y109　I～II	珠洲	擂鉢			12.0		I～II期?	N6/	灰色			
	492	68		X79Y103　I～II	珠洲	擂鉢			13.6			2.5Y7/3	浅黄色			
	493	68		X26～27Y17　II	珠洲	擂鉢			11.3			5B2/1	青黒色			
120	494	70	SR9310	X28Y16	伊万里	椀	8.8	5.7		4.7	18C～	N8/	灰白色	5GY8/1	灰白色	コンニャク印判　高台裏に記号?
	495	72	SR9310	X25Y5	伊万里	椀	10.0				18C～	N8/	灰白色	5GY8/1	灰白色	網目文　染付5B3/1暗青灰色
	496	72		X29Y16　II	伊万里	紅皿	4.2	1.4	1.5		18C～	5Y8/1	灰白色	N8/	灰白色	
	497	70		X26Y18　II	伊万里	杯（紅皿?）	6.8	2.6		3.15	18C～19C	N8/	灰白色	10Y8/1	灰白色	笹葉文　染付7.5GY4/1暗緑灰色
	498	72		X26～27Y17　II	伊万里	香炉				5.6				10G7/2	緑みの灰色	
	499	72		X30Y16　I	伊万里	椀	13.0	6.1		4.7	18C	N8/	灰白色	7.5GY8/1	明緑灰色	蛇ノ目釉はぎ　コンニャク印判 染付5B4/1暗青灰色
	500	72		X59Y62　I	伊万里	椀	9.7	5.8		4.9	18C	N8/	灰白色	5GY8/1	灰白色	コンニャク印判
	501	72		X29Y18　II	伊万里	瓶				6.8		2.5Y8/2	灰白色	5B4/1	暗青灰色	
	502	70		X29Y16　II	伊万里	皿	13.0	3.0		7.8	18C～	5Y8/1	灰白色	10Y8/1	灰白色	染付　見込みコンニャク印判 松竹梅文
	503			X29Y16　II	伊万里	椀	13.0	4.6		4.9		N8/	灰白色	2.5PB4/6	くすんだ青色	
	504	72		X27Y18　II	伊万里	皿	12.3	2.8		5.9		10Y7/1	灰白色	10Y4/2	オリーブ灰色	
	505	72		X29Y16　II	伊万里	皿	12.4	4.5		4.4		10Y7/1	灰白色	7.5B4/3	くすんだ青色	
	506			X29Y16　II	伊万里	皿	12.6	3.6		4.0		N8/	灰白色	10BG4/1	暗青灰色	
	507	72		X42Y47　II	伊万里	皿	13.8	2.4		8.0	18C	N8/	灰白色	10Y8/1	灰白色	蛇ノ目釉はぎ　格子文 釉5B4/暗青灰色
	508	72		X58Y77　I～II	近世陶器		2.1					10Y7/1	灰白色	10Y7/1	灰白色	
	509	72		X42Y46　II	唐津	擂鉢	34.2				17C後～	10R4/6	赤色	5YR1.7/1	黒色	
	510	72		X42Y42　II	唐津	擂鉢				13.8		5YR4/1	褐灰色	7.5YR3/2	黒褐色	内面重ね焼き痕, 高台裏砂付着
	511	70		X28Y16　II	唐津	擂鉢				14.6		10R4/6	赤色	2.5YR2/1	赤黒色	重ね焼き痕
	512	72		X29Y15　II	唐津	椀	9.5					2.5Y7/2	灰黄色	10YR2/3	黒褐色	内野山窯系?
	513	72		X49Y49　II	唐津	皿				4.4	17C末～18C	2.5Y6/3	にぶい黄色	2.5Y4/4	オリーブ褐色	蛇ノ目釉はぎ　内野山窯系
	514	72		X29Y16　II	唐津	皿				4.2	17～18C	10YR7/3	にぶい黄橙色	7.5Y5/3	灰オリーブ色	内野山窯系
121	515	71		X30Y16　II	越中瀬戸	皿（丸皿）	13.0	3.0		5.8	16～17C	5YR6/3～5/3	にぶい赤褐色	2.5Y6/3	にぶい黄色	見込み印花　16弁（単弁）の菊　灰釉
	516	71		X87～91Y102～123　I～II	越中瀬戸	皿	13.3	2.9		5.1		5Y7/1	灰白色	10Y5/3	灰オリーブ色	見込み　重ね焼き痕
	517	71		X95Y124　I～II	越中瀬戸	皿	13.0	3.3		5.0		10YR7/2	にぶい黄橙色	5Y5/4	オリーブ色	内面　重ね焼き痕
	518	71		X58Y65　I～II	越中瀬戸	皿	10.8	2.5		4.6	17C～	7.5YR7/3	にぶい橙色	7.5YR3/3	暗褐色	高台裏　墨書, 内面　重ね焼き痕
	519	71		X74Y89　I　II	越中瀬戸	皿	10.6	2.35		4.0	17C～	7.5YR7/3	にぶい橙色	7.5Y5/3	灰オリーブ色	墨書あり
	520	71		X65Y82　I～II	越中瀬戸	皿	11.0	2.3		3.8	17C～	10YR8/3	浅黄橙色	5Y8/2	灰白色	墨書あり
	521	71		X62Y84　I～II	越中瀬戸	皿	9.7	2.2		4.2	17C～	7.5YR6/4	にぶい橙色	7.5YR4/3	褐色	高台裏　墨書
	522	71		X65Y87　I～II	越中瀬戸	皿	10.2	2.0		5.6		2.5Y6/2	灰黄色	2.5Y8/1	灰白色	
	523			X55Y60　I～II	越中瀬戸	皿	9.4	2.8	4.3			10YR7/2	にぶい黄橙色	10YR6/6	明黄褐色	底部回転糸切り
	524	71		X27Y18　II	越中瀬戸	灯明受皿			4.4			2.5YR6/6	橙色	7.5R2/1	赤黒色	底部回転糸切り
	525	63		X61Y65　I	越中瀬戸	陶錘	2.1	3.4	1.1	22.50		10YR8/3	浅黄橙色	7.5YR3/2	黒褐色	孔径1.7cm
	526	63		X93Y124　I～II	越中瀬戸	陶錘	2.5	3.1	0.7	22.03		7.5YR7/3	にぶい橙色	7.5YR5/4	にぶい褐色	孔径1.5cm
	527	71		X64Y82　I～II	越中瀬戸	天目茶椀	12.4	6.6		6.2		2.5Y6/1	黄灰色	10YR3/3	暗褐色	
	528			X29Y18　I	越中瀬戸?	椀	8.5	6.4		5.0	17C?	2.5Y7/1	灰白色	7.5YR2/1	黒色	
	529	71		X51Y49　II	越中瀬戸	椀	6.8					2.5Y8/3	浅黄色	10YR3/3	暗褐色	
	530	62		X29Y15　II	越中瀬戸	小壺	7.9	6.2	7.5		17～18C?	5YR6/4	にぶい橙色	2.5YR3/2	暗赤褐色	底部糸切り　茶入れか
	531	71		X27Y18　II	越中瀬戸	壺			7.6			7.5YR7/3	にぶい橙色	2.5YR2/1	赤黒色	底部回転糸切り
	532	71		X58Y64　I	越中瀬戸	壺	8.8					2.5Y7/3	浅黄色	10YR3/3	暗褐色	
	533	71		X41Y49　II	越中瀬戸	壺	8.8					5YR7/6	橙色	7.5YR3/2	黒褐色	被熱している（断面スス?付着）
	534	71		X58Y64　I	越中瀬戸	壺	7.2					10YR7/2	にぶい黄橙色	5YR3/3	暗赤褐色	
	535	71		X58Y64　I	越中瀬戸	壺	7.0					10YR7/4	にぶい黄橙色	7.5YR3/4	暗褐色	
	536	71		X57Y65　I	越中瀬戸	壺			5.0			2.5Y7/3	浅黄色	10YR3/4	暗褐色	
	537	71		X30Y16　II	越中瀬戸	壺	8.2					5YR7/6	橙色	5YR4/2	灰褐色	内面スス?付着
	538	71		X96Y137　I～II	越中瀬戸	壺	6.7					10YR6/2	灰黄褐色	10YR2/1	黒色	
	539	71		X29Y17　II	越中瀬戸	壺	15.7					10YR8/3	浅黄橙色	7.5YR3/3	暗褐色	
	540	71		X64Y84　I～II	越中瀬戸	壺			9.8			2.5Y8/2	灰白色	7.5YR4/3	褐色	底部回転糸切り
	541	62		X28Y16　II	越中瀬戸?	油徳利?	1.8					2.5Y7/3	浅黄色	10YR1.7/1	黒色	
	542	71		X58Y64　I～II	越中瀬戸	擂鉢	26.0					10YR7/3	にぶい黄橙色	7.5YR3/2	黒褐色	
	543	71		X75Y84　I～II	越中瀬戸	擂鉢			10.7			7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR4/4	にぶい赤褐色	13目一単位のおろし目

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
土製品の法量は左から長さ・幅・厚さ・重さ（g）とした。

第33表　柳田遺跡　石製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量(cm·g) 長さ	幅	厚さ	重さ	備考
71	30	47		X19Y2　Ⅱ層	打製石斧	ホルンフェルス	10.49	4.87	2.16	137.80	刃部摩耗→土ズレか
	31	45		X79Y107　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	安山岩	10.97	4.49	2.05	134.91	側面つぶれ顕著
	32	45		X89Y124　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	10.02	5.00	2.21	140.03	
	33	45		X68Y92　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	10.12	3.80	1.94	112.10	
	34	46		X64Y68　Ⅰ層	打製石斧	流紋岩	9.85	4.11	1.24	66.56	
	35	45		X64Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	12.18	5.07	1.91	144.47	
	36	45		X94Y116　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	12.33	4.41	3.04	176.75	
	37	46		X86Y115　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	9.41	4.80	1.45	77.11	
	38	46		X58Y60　Ⅰ層	打製石斧	はんれい岩	12.10	5.79	2.31	213.95	刃部摩耗→土ズレか
	39	47	SD222	X63Y72	打製石斧	砂岩	12.86	5.57	2.42	222.86	
	40	46		X60Y64　Ⅰ層	打製石斧	流紋岩	12.86	4.31	1.96	126.39	
	41	47		表採	打製石斧	砂岩	13.53	6.01	2.84	282.30	
	42	47		X62Y74　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	16.70	6.60	2.84	336.24	
72	43	47		X50Y48　Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	16.51	6.47	4.21	591.70	
	44	47	SD1150	X67Y82	打製石斧	砂岩	11.12	5.26	1.56	105.74	両端とも刃部として使用か
	45	47		X41Y35　Ⅱ層	打製石斧	砂岩	11.34	5.86	2.01	146.20	
	46	47		X37Y39　Ⅱ層	打製石斧	ホルンフェルス	11.06	4.85	1.92	138.90	
	47	44		X66Y72　Ⅰ層	打製石斧	砂岩	10.94	6.04	1.60	117.75	
	48	46		X73Y92　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	結晶質凝灰岩	10.74	6.22	1.84	147.89	
	49	44		X86Y118　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	アプライト	12.82	5.84	2.02	158.40	
	50	50		X60Y65　Ⅰ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	11.80	5.94	2.70	276.74	
	51	46		X59Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	頁岩	9.90	5.10	2.53	126.49	
	52	46		X59Y74　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	角閃岩	14.16	6.86	2.17	290.44	
	53	51		X58Y74　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	11.52	5.76	1.71	146.09	
	54	51		X65Y84　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	8.44	5.35	1.78	88.39	
	55	45		Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	片麻岩	14.41	6.01	3.26	317.84	自然礫か
73	56	44		X87Y108　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	角閃岩	8.73	4.90	1.30	68.69	
	57	52		X82Y116　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	4.07	2.21	0.83	7.91	
	58	51		X76Y105　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	6.60	3.56	2.02	58.91	
	59	45		X71Y86　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	頁岩	11.36	5.21	1.89	123.91	刃部摩耗→土ズレか
	60	45		X94Y116　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	8.56	3.82	1.81	72.51	
	61	44		X92Y129　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	流紋岩	13.84	7.40	2.63	287.64	側面つぶれ顕著
	62	44		X91Y117　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	頁岩	9.63	4.87	1.88	90.48	
	63	44		X78Y90　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	8.58	4.43	1.42	61.28	
	64	46		X86Y110　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	流紋岩	11.28	5.46	1.75	111.03	
	65	44		X94Y117　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	緑色凝灰岩	7.98	4.46	1.29	50.60	
	66	44		X80Y108　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	15.15	8.23	2.76	391.44	刃部摩耗痕あり,刃部再整形か
	67	46		X58Y59　Ⅰ層	打製石斧	流紋岩	10.58	5.49	1.74	124.40	
	68	46		X70Y85　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	頁岩	9.41	4.38	1.71	68.16	
	69	49		X82Y108　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	6.60	4.64	1.10	36.73	
	70	45		X85Y106　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	15.65	7.61	4.03	553.65	
74	71	44		X82Y116　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	10.64	5.46	2.01	149.79	刃部摩耗→土ズレか
	72	47		X46Y44　Ⅱ層	打製石斧	砂岩	12.08	7.51	2.22	208.40	
	73	46		X82Y116　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	7.93	4.37	1.44	60.08	部分ミガキ
	74	47		大久保氏表採	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	10.27	5.17	2.34	173.00	部分ミガキ
	75	47	SD1150	X66Y83	打製石斧	砂岩	13.34	5.86	1.84	157.36	側面片側つぶし,縦斧か
	76	46		X64Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	10.93	6.28	2.04	125.41	
	77	46		X60Y70　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	13.67	6.34	2.08	193.67	
	78	46		X61Y65　Ⅰ層	打製石斧	流紋岩	13.22	6.85	2.13	196.04	側面片側つぶし,縦斧か
	79	45		X77Y93　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	11.72	5.74	2.26	161.18	
	80	44		X88Y114　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	頁岩	7.68	6.04	1.67	72.70	
	81	46	SK177	X58Y73　上層	打製石斧(未成品)	砂岩	15.95	8.86	3.36	502.06	
	82	47	SD1150	X70Y81	打製石斧	砂岩	12.38	8.27	2.98	265.22	
75	83	47		不明　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	15.53	7.72	3.40	450.00	
	84	47		X49Y45　Ⅱ層	打製石斧	砂岩	11.31	7.46	1.94	143.10	刃部摩耗→土ズレか
	85	44		X93Y118　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	流紋岩	12.29	7.63	2.77	233.97	
	86	46	SD400	X58Y78	打製石斧	デイサイト	11.50	8.29	3.01	350.82	
	87	47	SD1150	X66Y83	打製石斧	砂岩	12.96	8.22	2.34	240.00	
	88	44		X81Y115　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	11.20	9.06	2.03	172.49	
	89	44		X92Y130　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	安山岩	12.63	8.72	2.64	285.29	
	90	46		X58Y62　Ⅰ層	打製石斧	砂岩	14.25	10.12	3.43	528.43	
76	91	47	SD1150	X65Y84	打製石斧	頁岩	7.76	5.62	1.69	73.41	
	92	44		X88Y117　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	頁岩	9.30	6.52	2.34	142.25	
	93	44		X70Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	ドレライト	12.18	6.65	2.26	243.43	
	94	47		X36Y28　Ⅱ層	打製石斧	砂岩	10.56	5.55	1.90	111.90	
	95	44		X70Y81　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	砂岩	14.16	6.15	2.46	282.06	刃部摩耗→土ズレか
	96	47		大久保氏表採	打製石斧	閃緑斑岩	20.24	10.14	3.16	750.00	
77	97	50		X40Y46　Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	4.95	1.65	0.57	7.10	
	98	50		X40Y46　Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	4.09	1.65	0.46	6.40	
	99	50		X30Y17	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	4.40	1.48	0.89	11.80	
	100	49		X91Y124　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.91	1.60	0.83	11.26	
	101	49		X92Y117　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.41	1.90	0.54	10.46	
	102	49		X60Y72　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	1.28	1.15	0.46	0.88	
	103	49		X89Y123　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.49	2.56	0.86	22.15	
	104	51		X60Y80　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.71	2.66	1.10	26.21	
	105	49		X94Y127　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	3.03	1.55	0.44	2.77	
	106	49		X67Y73　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.93	3.17	1.25	30.43	
	107	50		X51Y47	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	3.93	2.37	1.08	14.80	
	108	50		X26Y18	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.30	3.14	0.93	28.40	
	109	49		X64Y76　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.86	3.61	1.20	31.92	
	110	49		X67Y88　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.24	4.27	1.28	35.66	刃こぼれ後磨き直しか

第33表　柳田遺跡　石製品一覧（2）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量（cm・g）				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
77	111	49		X91Y88　I～II層	磨製石斧	頁岩?	6.44	3.17	0.97	27.48	
	112	49		X87Y110　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	4.00	1.81	0.75	8.80	
	113	49		X73Y103　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	6.41	3.06	1.22	39.54	
	114	49		X88Y109　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	3.82	1.68	0.57	5.65	
	115	48		X65Y81　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	7.43	3.31	1.57	57.68	
	116	48		排土中	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	8.11	4.16	1.37	67.71	
	117	48		X57Y65　I層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	8.07	4.52	1.26	78.29	刃こぼれ→使用痕か
	118	49	SX239		磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	7.99	3.27	1.07	45.45	
	119	49	SD222	X63Y72	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	7.97	3.68	1.14	47.66	
	120	48		X84Y112　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	9.08	4.91	1.55	99.97	
	121	48		X71Y94　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	8.21	3.80	1.31	70.90	
	122	48		X77Y94　I～II層	磨製石斧	角閃岩	8.69	3.83	2.31	123.32	
	123	48		X60Y80　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	8.76	4.43	2.37	136.35	
	124	50		X50Y49	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	7.50	4.24	2.01	114.10	
	125	48		X81Y113　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	7.52	3.50	1.85	83.03	
	126	49	SK1800		磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	4.14	2.26	0.81	12.83	楔に転用
78	127	49		X45Y57　I層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	4.29	3.19	1.01	20.82	刃こぼれ→使用痕か
	128	49		X71Y80　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	5.07	2.87	0.93	19.57	
	129	48		X60Y64　I層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	8.76	4.83	1.76	114.29	刃こぼれ→使用痕か
	130	49		X86Y108　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	5.21	2.34	0.84	14.63	
	131	49		X93Y122　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	5.13	2.54	1.23	22.25	
	132	49		X94Y124　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	5.65	2.43	1.15	24.70	
	133	48		X81Y109　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	10.36	5.18	2.66	219.70	
	134	48		X59Y64　I層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	10.54	5.50	2.36	241.98	
	135	48		X94Y117　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	11.63	5.99	2.54	290.85	
	136	48		X64Y81　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	12.90	7.10	2.82	361.76	
	137	49		X87Y118　I～II層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	6.17	1.72	0.60	9.67	
	138	50		X27Y15	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	8.72	5.09	2.05	163.60	
	139	50		X28Y16	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	9.10	5.17	2.12	190.00	
	140	48		X62Y66　I層	磨製石斧	蛇紋岩（透閃石岩）	16.23	5.15	3.08	405.16	
79	141	52		X86Y115　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.58	2.01	0.67	13.05	
	142	50		X71Y89　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	8.03	4.16	1.49	172.38	
	143	51		X61Y76　I～II層	磨製石斧（未成品）	頁岩	6.12	3.59	1.41	47.56	
	144	48		X49Y61　I層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	6.89	4.25	1.41	67.88	
	145	52		X71Y95　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	4.96	2.75	1.13	23.66	
	146	51		X57Y74　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	6.05	3.23	1.03	32.14	1
	147	51		X75Y98　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	7.44	3.50	1.30	51.41	1
	148	51		X87Y114　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	8.35	4.50	2.59	127.37	1
	149	51		X78Y113　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.76	3.00	1.73	32.62	1
	150	49		X99Y118　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.88	3.15	1.79	44.25	1
	151	45		X68Y93　I～II層	磨製石斧（未成品）	角閃岩	9.54	4.91	2.23	154.77	1
	152	52		X90Y109　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	4.43	2.63	0.75	11.74	1
	153	45		X89Y117　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	10.87	5.08	2.55	202.31	1
	154	50		X61Y63　I層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	10.03	5.77	2.50	200.72	1
	155	50		X80Y100　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	12.16	6.56	2.90	317.97	1
	156	50		X82Y117　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	13.63	7.05	3.75	545.93	1
	157	47	SD1150	X65Y83	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	17.03	9.81	4.98	1055.00	1
80	158	49		X82Y110　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	4.73	1.95	0.73	10.45	2
	159	51		X84Y105　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.42	3.03	1.15	27.40	2
	160	51		X79Y98　I層（撹乱）	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	6.97	4.09	1.69	76.22	2
	161	52		X77Y105　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	3.80	2.50	0.84	10.85	2
	162	52		X68Y89　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.49	2.44	1.15	22.93	2
	163	52		X96Y125　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.78	2.50	1.13	25.24	2
	164	51		X89Y112　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	6.36	3.86	1.31	50.69	2
	165	51		X92Y117　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	5.43	3.86	1.36	46.32	2
	166	51		X61Y76　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	9.27	4.57	2.08	120.65	2
	167	51		X77Y109　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	7.10	4.52	2.26	96.22	2
	168	44		X78Y108　I～II層	磨製石斧（未成品）	緑色岩	9.43	4.30	1.98	111.39	2
	169	51		X76Y97　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	7.37	3.80	2.02	85.05	2
	170	45		X94Y124　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	12.17	5.92	2.87	260.94	2
	171	51		X63Y69　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	8.46	3.88	2.02	86.63	2
	172	51		X61Y65　I層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	9.49	4.72	1.96	134.75	2
	173	50		X85Y112　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	11.73	7.34	2.24	309.29	2
	174	51		X67Y85　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	10.04	3.60	1.57	79.26	2
	175	45		X94Y116　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	10.32	6.14	3.52	284.28	2
81	176	50		X80Y100　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	10.83	6.17	3.37	331.43	3
	177	50		X78Y100　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	9.88	6.16	3.61	348.90	3
	178	51		X75Y95　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	9.51	4.77	2.78	170.18	3
	179	50		X43Y38　II層	磨製石斧（未成品）	ドレライト	10.42	7.29	3.67	453.60	3
	180	48		X58Y57　I層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	10.98	7.87	5.34	655.00	3
	181	51		X93Y124　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	9.38	4.41	2.97	171.27	3
	182	50	SD1150	X64Y84	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	14.32	8.09	5.11	1000.00	3
	183	59	SD1150	X65Y84	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	8.77	5.86	4.27	388.63	3
	184	51		X74Y99　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	6.77	3.96	1.47	53.16	4
	185	51		X65Y84　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	7.31	3.45	1.63	71.91	4
	186	52		X73Y99　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	2.44	1.79	0.62	4.43	4
	187	52		X70Y86　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	4.30	2.61	0.70	13.28	4
	188	52		X89Y108　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	4.38	2.78	0.76	15.07	4
	189	52		X82Y112　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	4.01	2.52	1.06	18.46	4
	190	51		X89Y124　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	6.13	3.11	1.29	36.10	5
	191	51		X79Y95　I～II層	磨製石斧（未成品）	蛇紋岩（透閃石岩）	7.47	3.86	1.27	59.53	5

第33表　柳田遺跡　石製品一覧（3）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重さ	備考
81	192	51		X74Y99　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	蛇紋岩(透閃石岩)	7.79	3.26	1.06	32.03	側面すり切り
82	193	55		X59Y70　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.23	1.26	0.35	0.36	黒曜18　諏訪星ヶ台群産
	194	55		X80Y111　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.20	1.28	0.35	0.34	黒曜20　諏訪星ヶ台群産
	195	55		X79Y107　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.78	1.82	0.36	0.68	黒曜14　諏訪星ヶ台群産
	196	54		X77Y105　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	瑪瑙	1.32	2.76	0.36	0.72	
	197	55		X63Y75　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.57	1.48	0.44	0.74	黒曜19　諏訪星ヶ台群産
	198	54		X87Y110　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	碧玉	1.67	1.80	0.52	1.11	
	199	54		X95Y124　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	流紋岩	1.99	1.87	0.52	1.62	
	200	54		X71Y79　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	瑪瑙	1.90	1.68	0.43	1.06	
	201	54	SD1382	X63Y87	石鏃	チャート	2.08	1.42	0.38	1.01	
	202	54		X82Y95　Ⅰ層	石鏃	チャート	2.11	1.68	0.45	1.17	
	203	54		X72Y82　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	チャート	1.99	1.52	0.32	0.84	
	204	54		X68Y84　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	鉄石英(黄玉石)	1.88	1.74	0.38	1.09	
	205	54		X88Y124　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	チャート	2.60	1.56	0.42	1.36	
	206	54		X83Y108　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	下呂石	2.37	1.65	0.38	1.11	
	207	54		X85Y106　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	チャート	2.61	1.55	0.44	1.48	
	208	55		X75Y91　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	2.38	1.88	0.40	1.12	黒曜13　諏訪星ヶ台群産
	209	54		X92Y117　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	硬質頁岩	1.68	1.53	0.35	0.66	
	210	54		X77Y100　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	ガラス質安山岩	1.59	1.59	0.34	0.90	
	211	54	SD3609	X75Y95	石鏃	碧玉	1.80	1.53	0.41	0.68	
	212	54		X79Y95　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	下呂石	3.16	1.21	0.44	1.74	
	213	55		X79Y104　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.95	1.54	0.56	1.23	黒曜26　諏訪星ヶ台群産
	214	55		X80Y93　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	2.43	1.78	0.69	2.49	黒曜5　諏訪星ヶ台群産
	215	54		X86Y106　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	チャート	2.89	1.69	0.71	3.00	錐に転用
	216	54	SD1150	X64Y84	石鏃(平基)	チャート	1.84	1.48	0.28	0.55	
	217	55		X93Y115　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	2.09	2.00	0.91	3.77	黒曜25　諏訪星ヶ台群産
	218	54		X94Y118　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	碧玉	2.02	1.11	0.55	1.08	
	219	54		X97Y131　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	鉄石英(赤玉石)	2.96	1.18	0.36	1.07	
	220	54		X88Y110　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	下呂石	2.89	1.24	0.41	1.19	
	221	55		X95Y131　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	黒曜石	1.61	1.49	0.31	0.65	黒曜21　諏訪星ヶ台群産
83	222	55		X93Y113　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	黒曜石	2.03	1.41	0.35	0.72	黒曜15　諏訪星ヶ台群産
	223	55		X63Y68　Ⅰ層	石鏃(有茎)	黒曜石	2.29	1.48	0.38	0.88	黒曜16　諏訪星ヶ台群産
	224	55		X96Y124　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	黒曜石	2.16	1.69	0.41	1.05	黒曜12　諏訪星ヶ台群産
	225	54		X68Y77　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	チャート	2.43	1.62	0.39	1.16	
	226	54		X85Y107　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	チャート	2.35	1.74	0.49	1.98	
	227	55		X61Y76　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	黒曜石	2.26	1.27	0.39	0.80	黒曜17　諏訪星ヶ台群産
	229	54		X85Y111　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	碧玉	2.36	1.22	0.45	1.03	
	230	54		X79Y95　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	瑪瑙	2.32	1.07	0.46	0.95	
	231	54	SD1150	X67Y82　中層	石鏃(有茎)	碧玉	3.01	1.13	0.44	1.54	
	232	54		X82Y111　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	珪質頁岩	3.32	1.55	0.50	2.09	
	233	54		X88Y106　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	流紋岩	3.23	1.72	0.45	2.03	
	234	54		X70Y85　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	瑪瑙	2.81	1.44	0.61	0.83	
	235	55		X67Y85　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	黒曜石	2.32	1.29	0.45	1.34	黒曜6　諏訪星ヶ台群産
	236	54		X74Y100　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	ガラス質安山岩	2.38	1.47	0.52	3.66	
	237	54		X78Y97　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃	流紋岩	4.40	1.72	0.68	2.53	
	238	54		X68Y86　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	チャート	3.67	1.55	0.47	3.59	
	238	54		X94Y127　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	瑪瑙	3.98	1.43	0.83	1.01	
	239	54		X86Y105　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(有茎)	瑪瑙	2.82	1.27	0.49	1.52	
	240	54		X89Y105　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(未成品)	チャート	2.12	1.62	0.55	1.66	
	241	55		X87Y109　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(未成品)	黒曜石	1.86	1.39	0.41	0.84	黒曜23　諏訪星ヶ台群産
	242	54		X82Y105　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(未成品)	瑪瑙	2.24	1.63	0.66	1.95	
	243	54		X73Y101　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(未成品)	碧玉	2.29	1.60	0.53	1.81	
	244	54		X75Y90　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(未成品)	チャート	2.31	2.08	0.50	1.97	
	245	56		X73Y82　Ⅰ～Ⅱ層	石鏃(未成品)	チャート	3.14	1.84	0.60	3.23	
	246	55		X63Y66　Ⅰ層	石鏃(未成品)	鉄石英(赤玉石)	2.30	1.34	0.57	1.59	有茎
84	247	54		X85Y110　Ⅰ～Ⅱ層	石槍(基部)	チャート	2.50	2.08	0.65	2.41	
	248	55		X41Y46　Ⅱ層	石槍?	黒曜石	2.23	1.97	0.94	4.00	黒曜3　諏訪星ヶ台群産
	249	55		X76Y101　Ⅰ～Ⅱ層	石匙	チャート	2.92	4.16	1.04	9.16	
	250	55		X99Y118　Ⅰ～Ⅱ層	石匙	黒曜石	2.86	3.22	0.84	3.87	黒曜11　諏訪星ヶ台群産
	251	55		X81Y105　Ⅰ～Ⅱ層	石匙?	鉄石英(赤玉石)	3.28	2.10	1.13	5.05	
	252	55		X93Y115　Ⅰ～Ⅱ層	石匙	鉄石英(黄玉石)	2.81	3.32	0.70	4.18	
	253	55		X81Y97　Ⅰ～Ⅱ層	石匙	流紋岩	1.84	3.93	0.78	4.62	
	254	56		X88Y113　Ⅰ～Ⅱ層	石錐	鉄石英(赤玉石)	3.08	1.62	0.68	3.28	
	255	55		X87Y114　Ⅰ～Ⅱ層	石錐	黒曜石	2.98	1.14	0.52	0.76	黒曜24　諏訪星ヶ台群産
	256	54		X78Y113　Ⅰ～Ⅱ層	石錐	流紋岩	2.82	1.01	0.65	1.56	
	257	55		X89Y113　Ⅰ～Ⅱ層	石錐	碧玉	2.49	1.44	1.02	3.34	
	258	55		X74Y83　Ⅰ～Ⅱ層	石錐	黒曜石	1.80	0.57	0.42	0.47	黒曜8　産地不明
	259	55		X92Y118　Ⅰ～Ⅱ層	石錐	硬質頁岩	1.58	1.44	0.42	0.63	
	260	55		X81Y99　Ⅰ～Ⅱ層	石錐?	鉄石英(赤玉石)	1.71	1.20	0.57	1.22	
	261	56		X80Y105　Ⅰ～Ⅱ層	二次加工剥片	碧玉	2.78	2.63	0.73	4.65	
	262	56		X78Y110　Ⅰ～Ⅱ層	削器	ガラス質安山岩	2.91	1.62	0.63	3.80	
	263	56		X58Y64　Ⅰ層	削器	流紋岩	3.69	4.74	1.01	16.36	
	264	55		X62Y80　Ⅰ～Ⅱ層	削器	黒曜石	1.79	2.00	0.60	1.92	黒曜4　諏訪星ヶ台群産
	265	55		X82Y105　Ⅰ～Ⅱ層	削器	黒曜石	3.49	1.69	0.84	3.42	黒曜10　諏訪星ヶ台群産
	266	56		X68Y78　Ⅰ～Ⅱ層	削器	碧玉	3.98	2.76	0.87	6.42	二次的加工
	267	56		X95Y131　Ⅰ～Ⅱ層	削器?	流紋岩	3.95	4.23	1.15	21.98	
85	268	55		X63Y76　Ⅰ～Ⅱ層	剥片石器	黒曜石	4.11	2.40	1.03	10.44	黒曜7　諏訪星ヶ台群産
	269	55		X76Y88　Ⅰ～Ⅱ層	剥片石器	黒曜石	2.81	1.48	0.83	2.09	黒曜9　諏訪星ヶ台群産
	270	56	SD1150	X64Y83	石核	黒曜石	4.64	3.34	2.37	33.33	黒曜22　諏訪星ヶ台群産
	271	56		X80Y96　Ⅰ～Ⅱ層	石核	硬質頁岩	7.18	3.31	3.45	92.98	
	272	52		X93Y113　Ⅰ～Ⅱ層	不明石器	流紋岩	3.64	2.70	1.17	15.19	

第33表　柳田遺跡　石製品一覧（4）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量（cm・g）				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
85	273	58		X95Y124　I～II層	不明石製品	頁岩	8.03	6.37	2.46	142.33	
	274	58		X68Y81　I～II層	礫器?	緑色凝灰岩	7.61	2.70	1.52	51.27	
86	275	59		X61Y82　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	6.67	6.01	3.85	227.88	
	276	59		X88Y110　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	6.00	5.65	3.16	165.58	
	277			X78Y90　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	7.45	4.91	2.92	137.40	
	278	59		X77Y95　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	7.33	3.85	3.26	145.74	
	279	59		X92Y124　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	6.63	5.77	3.19	191.93	
	280	59		X70Y96　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	9.04	6.21	4.10	342.04	
	281	59		X73Y95　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	9.53	7.26	3.17	291.82	
	282	59		X74Y89　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	7.98	5.80	3.14	219.67	
	283	59		X75Y84　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	8.34	5.70	4.20	299.50	
	284	59		X89Y112　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	7.45	5.88	2.84	214.40	
	285			X77Y96　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	4.50	3.82	3.05	78.10	
	286	59		X83Y106　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	13.80	8.39	5.17	900.00	
	287	45		X85Y104　I～II層	敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	12.45	7.02	3.83	395.89	
87	288	59	SK208		敲石	蛇紋岩(透閃石岩)	10.54	6.78	3.08	384.14	
	289	60	SK930		凹石	砂岩	12.18	6.92	4.72	520.97	敲石としても使用
	290	60	SP5532		凹石	安山岩	20.28	15.31	8.96	3770.0	
	291	60		X63Y66　I層	凹石	砂岩	12.51	5.69	4.17	401.55	
	292	60		X79Y101　I～II層	凹石	安山岩	9.59	8.58	6.57	770.00	
	293	60		X70Y83　I～II層	凹石	砂岩	8.39	8.36	4.17	430.71	
	294	60	SD3609	X71Y93	凹石	砂岩	8.90	9.00	3.90	429.95	
	295	60		X87Y115　I～II層	凹石	砂岩	9.04	8.69	4.23	510.00	
88	296	58		X70Y81　I～II層	石錘	砂岩	5.25	3.38	1.15	33.95	
	297	58		X85Y105　I～II層	石錘	凝灰岩	4.10	3.38	1.32	27.80	
	298	58		X84Y100　I～II層	石錘	安山岩	4.99	3.02	1.15	26.00	
	299	58		X86Y105　I～II層	石錘	安山岩	4.18	3.09	1.54	30.65	
	300	58		X86Y109　I～II層	石錘	安山岩	4.22	3.95	1.54	32.80	
	301	58		X87Y114　I～II層	石錘	安山岩	5.08	4.37	2.27	77.13	
	302	58		X88Y109　I～II層	石錘	砂岩	4.67	4.81	1.38	38.16	
	303	58		X74Y86　I～II層	石錘	砂岩	5.61	4.22	1.60	53.62	
	304	58	SD1150	X65Y84	石錘	頁岩	5.85	4.45	1.17	49.52	
	305	58	SD222	X60Y74	石錘	安山岩	5.01	4.45	1.62	51.55	
	306	58	SD1053	X70Y79	石錘	砂岩	5.78	4.85	1.23	50.31	
	307	58		X92Y122　I～II層	石錘	砂岩	7.02	5.10	1.99	95.44	
	308	58	SK42506		石錘	頁岩	6.31	4.80	1.55	63.61	
	309	58		X59Y63　I層	石錘	頁岩	5.10	3.07	0.77	20.48	有溝
	310	58		X67Y83　I～II層	石錘	砂岩	3.53	3.53	1.60	30.27	有溝
	311	61	SD1150	X70Y80	砥石	砂岩	14.43	9.19	5.02	1090.00	
	312	61	SD222	X60Y74	砥石	砂岩	13.31	6.84	3.96	464.04	
	313	61	SP5473	中層	砥石	流紋岩	9.39	6.73	6.06	382.58	
	314	61	SP1010		砥石	流紋岩	7.52	7.50	2.56	147.19	
	315	61	SK77	X58Y74	砥石	流紋岩	7.04	3.19	1.07	43.23	中世?
	316	61		X27Y16	砥石	流紋岩	5.68	3.42	2.11	54.30	中世?
89	317	61	SD1382	X64Y86	筋砥石	砂岩	5.60	5.42	2.10	62.78	
	318	61		X61Y65　I層	筋砥石	砂岩	6.92	10.76	2.66	214.36	
	319	61		X79Y110　I層	筋砥石	砂岩	10.94	9.46	3.99	380.97	
	320	61		X63Y68　I層	筋砥石	砂岩	23.24	17.39	8.59	3630.00	
	321	60		X88Y123	石皿	砂岩	11.50	6.89	6.23	587.75	
	322	60		X97Y119　I～II層	石皿	砂岩	6.92	8.36	4.78	203.73	
	323	60		X79Y101　I～II層	石皿	砂岩	11.42	10.53	3.98	558.18	筋砥石?
	324	56		X60Y64　I層	石冠	流紋岩	5.66	6.63	4.96	139.35	IV類
	325	57		X30Y24　II層	石剣?	ホルンフェルス	6.54	2.37	1.96	47.20	
	326	57		X93Y123　I～II層	石剣	ホルンフェルス	4.35	1.72	1.25	11.32	
	327	57		X23Y21　I層	石剣	砂岩	6.97	2.69	2.07	67.10	
90	328	57		X64Y83　I～II層	石棒	角閃岩	2.73	3.18	0.88	10.68	線刻
	329	57		X79Y110　I～II層	石棒	粘板岩	3.19	2.00	0.97	8.80	線刻
	330	57		X79Y96　I～II層	石棒	ホルンフェルス	5.00	3.57	3.13	65.31	被熱
	331	57	SD1382	X64Y86	石棒	頁岩	13.72	5.96	2.53	59.22	
	332	57		X67Y78	石棒	緑色片岩	5.67	2.54	1.39	33.26	
	333	57		X65Y72　I～II層	石棒	蛇紋岩(透閃石岩)	5.85	3.87	2.76	84.53	
	334	57		X72Y93　I～II層	石棒	点紋白雲母片岩	5.19	2.59	1.38	25.40	
	335	57		X89Y106　I～II層	石棒	蛇紋岩(透閃石岩)	4.03	1.73	1.10	8.79	
	336	57		X93Y116　I～II層	石棒	蛇紋岩(透閃石岩)	8.45	3.27	2.87	120.33	
	337	57		X77Y108　I～II層	石棒	ホルンフェルス	7.57	2.01	1.70	38.89	
	338	57		X82Y116　I～II層	石棒	緑色片岩	8.04	2.03	1.77	52.29	
	339	57		X70Y91　I～II層	石棒	はんれい岩	6.42	5.61	2.85	184.54	
	340	57	SK425		石棒	緑色片岩	7.69	4.34	2.37	107.48	
	341	57		X65Y72　I～II層	石棒	頁岩	9.06	5.17	2.93	131.43	
	342	57	SD9004	X45Y46	石棒	火山礫凝灰岩	16.63	5.53	5.51	815.00	
	343	56	SD9004	X45Y45	石刀	緑色片岩	20.31	3.79	2.58	382.90	
	344	57		X80Y112　I～II層	石刀	頁岩	6.84	2.09	2.20	40.64	線刻
	345	57		X65Y86　I層	石刀	点紋緑泥片岩	7.93	3.32	1.51	47.78	頭部線刻
	346	57		X75Y89　I～II層	石刀	粘板岩	5.20	1.90	0.59	6.04	線刻
	347	57		X89Y108　I～II層	石刀	ホルンフェルス	4.45	1.62	1.23	10.23	
	348	57		X28Y16	石刀	緑色岩	7.73	3.09	1.26	51.20	
	349	57		X63Y87　I～II層	石刀	緑色片岩	9.85	1.87	1.53	35.23	
	350	57	SK177	9T	石刀	点紋緑泥片岩	11.03	3.17	2.01		
91	351	56		X65Y78　I～II層	三脚石器	流紋岩	3.26	3.85	0.97	13.29	
	352	53		X70Y85　I～II層	玦状耳飾	滑石	2.92	1.81	0.87	6.00	
	353	53		X71Y98　I～II層	玦状耳飾	滑石	2.31	1.21	0.52	2.26	

第33表　柳田遺跡　石製品一覧（5）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量(cm·g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
91	354	53		X84Y110　I～Ⅱ層	玦状耳飾	蛇紋岩(透閃石岩)	3.04	2.36	0.34	2.94	
	355	53		X76Y104　Ⅱ層	玦状耳飾	滑石	4.34	3.09	0.67	12.08	
	356	53		X85Y109　I～Ⅱ層	玦状耳飾	蛇紋岩(透閃石岩)	3.00	2.87	0.45	5.84	
	357	53		排土中	玦状耳飾	滑石	2.74	1.63	0.73	4.46	
	358	53		X72Y98　I～Ⅱ層	玦状耳飾	蛇紋岩(透閃石岩)	3.18	1.58	0.37	1.99	
	359	53		X66Y86　I層	玦状耳飾	滑石	4.84	2.91	0.52	10.48	
	360	53		X87Y112　I～Ⅱ層	玦状耳飾	滑石	3.32	2.32	0.64	6.51	
	361	53		X72Y97　I～Ⅱ層	玦状耳飾	滑石	2.26	2.78	0.56	4.72	
	362	53		X64Y76　I～Ⅱ層	玦状耳飾(未成品)	滑石	3.85	4.99	0.75	18.91	
	363	53		X68Y81　I～Ⅱ層	玦状耳飾(未成品？)	流紋岩	2.77	3.64	0.54	6.54	
	364	52		X74Y97　I～Ⅱ層	玉類	滑石	2.23	0.83	0.57	1.56	
	365	52		X81Y109　I～Ⅱ層	玉類	滑石	2.95	1.61	0.58	3.17	
	366	53		X88Y111　I～Ⅱ層	垂飾	滑石	2.99	1.90	0.67	5.38	勾玉形一部欠損
	367	52		X67Y94　I～Ⅱ層	管玉	滑石	2.62	1.42	1.01	5.12	一部欠損
	368	52		X82Y100　I～Ⅱ層	管玉(未成品)	滑石	1.84	0.99	0.91	2.95	
	369	52		X94Y115　I～Ⅱ層	玉類(丸玉)	翡翠	1.06	1.05	0.84	0.84	
	370	52		X90Y111　I～Ⅱ層	玉類(未成品)	滑石	1.81	1.59	0.94	3.51	
	371	53		X65Y72　I～Ⅱ層	垂飾(未成品)	滑石	2.04	1.53	0.55	3.10	
	372	52		X89Y108　I～Ⅱ層	玉類(未成品)	滑石	2.46	1.87	1.21	8.71	穿孔あり(未貫通)
	373	53	SX6656	上層	垂飾	滑石	4.50	2.12	0.76	14.08	
	374	52		X58Y74　I～Ⅱ層	玉類(未成品)	翡翠	1.59	1.01	0.51	1.52	
	375	52		X75Y89　I～Ⅱ層	玉類(未成品)	翡翠	1.23	1.36	0.37	0.80	
	376	53		X75Y94　I～Ⅱ層	垂飾(未成品)	蛇紋岩(透閃石岩)	3.74	2.24	0.54	6.70	穿孔あり(未貫通)
	377	53		X89Y124　I～Ⅱ層	垂飾(未成品)	蛇紋岩(透閃石岩)	4.78	4.31	2.09	75.49	
	378	53		排土中	垂飾(未成品)	蛇紋岩(透閃石岩)	5.03	4.15	1.56	48.17	
	379	53		X89Y108　I～Ⅱ層	垂飾(未成品)	蛇紋岩(透閃石岩)	5.14	3.87	0.58	22.09	

※石材は第Ⅶ章「5　富山県竹ノ内Ⅱ遺跡外における石材鑑定」に詳しい。
表中で「蛇紋岩（透閃石岩）」としているものは，従来，蛇紋岩と称してきたものだが，石材鑑定の結果，比重等により透閃石岩と判別されたものである。
ここでは，従来との比較のため「蛇紋岩（透閃石岩）」と表記する。同様に赤玉石・黄玉石としているものは，従来，鉄石英と称しているものと同じである。

第34表　柳田遺跡　金属製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm·g)				備考
							長さ	幅	厚さ	重さ	
122	544	73		X27Y16	銭	銅	2.2	2.2	0.1	0.8	寛永通寶
	545	73		X81Y113　I～Ⅱ層	銭	銅	2.2	2.4	0.2	1.6	寛永通寶
	546	73		X27Y16	銭	銅	2.3	2.3	0.1	1.5	寛永通寶
	547	73		X91Y111　I層	銭	銅	2.2	2.1	0.2	1.5	
	548	73		X25Y17	銭	銅	2.7	2.7	0.1	1.6	寛永通寶
	549	73		X64Y83　I～Ⅱ層	銭	銅	2.5	2.5	0.2	8.2	寛永通寶3枚融着,重さは3枚分
	550	73		X86Y122　I～Ⅱ層	輪状	鉄	1.8	1.0	0.6	1.0	
	551	73		X65Y85　I～Ⅱ層	環状	銅	1.6	0.9	1.2(孔径)	1.4	
	552	73		X77Y94　I～Ⅱ層	板状	銅	2.7	1.5	0.5	5.4	
	553	73		X85Y105　I～Ⅱ層	環状	鉄	4.3	4.3	1.6	57.0	口金?
	554	73		X95Y124　I～Ⅱ層	毛抜き?	鉄	4.9	2.4	1.5	11.6	
	555	73		X79Y96　I～Ⅱ層	板状	鉄	4.8	2.0	1.1	11.4	
	556	73		X86Y107　I～Ⅱ層	釘	鉄	9.0	1.2	1.2	21.1	
	557	73		X62Y81　I～Ⅱ層	釘	鉄	4.6	0.7	0.7	2.2	
	558	73	SK177	X56Y73　上～中層	鉄滓		7.3	6.1	3.4	146.1	
	559	73		X78Y95　I～Ⅱ層	塊状	鉄	4.6	1.9	1.2	23.7	
	560	73		X86Y111　I～Ⅱ層	鉄滓		7.3	5.8	3.3	144.8	

第Ⅴ章　下山新東遺跡

1　既往の調査

下山新東遺跡の立地する朝日町大家庄地区は，昭和47（1972）年から県営ほ場整備事業が進められており，同地区内に位置する多くの遺跡について，富山県教育委員会と朝日町教育委員会により事前の発掘調査が行われている。下山新東遺跡は，昭和52（1977）年，高橋遺跡の発掘調査中に行われた分布調査により発見された遺跡である[注1]。このときの調査では，朝日町教育委員会によって1m四方の試掘坑が5～10m間隔に設けられ，遺物包含層の有無や地山の深さなどが確認された。遺物は縄文時代前期後半から晩期後半までの土器片と石鏃，越中瀬戸が出土している。

平成12（2000）年には，財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所によって北陸新幹線建設事業に先立つ包蔵地確認調査が行われた。建設予定地内に33本のトレンチを入れて調査した結果，ほ場整備による削平が広く認められたが，2箇所で縄文時代と考えられる土坑や遺物包含層の広がりを確認した[注2]。平成14（2002）年には遺物包含層の残存する範囲について，本調査を実施した[注3]。

平成17（2005）年には，朝日町教育委員会によって農免農道新川中部地区整備事業に先立つ発掘調査が行われた[注4]。土坑9基が検出され，縄文土器片数点，石製品1点，陶磁器1点が出土している。

2　基本層序

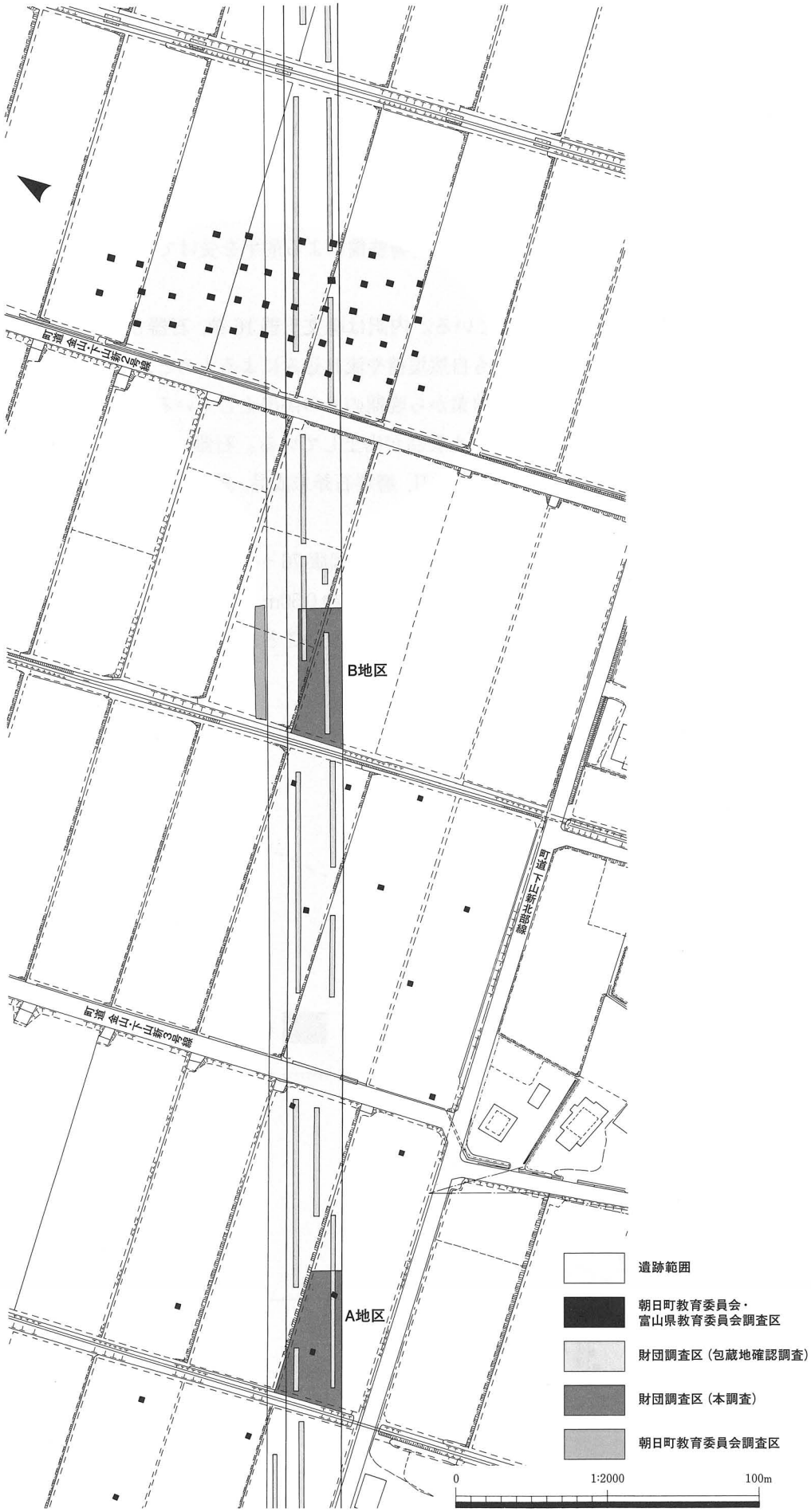
基本層序は，土層中に包含する遺物の年代を基に設定している。土層の堆積が安定しているA地区を基準に，Ⅰ層：表土・盛土，Ⅱ層：縄文時代遺物包含層，Ⅲ層：無遺物層（遺構検出面），Ⅳ層：無遺物層とした。調査地の標高は60～61mを測る。B地区では平均して約0.5m標高が高いため，ほ場整備の影響を強く受けており，広い範囲で基本層が削平されている。

縄文時代の遺物包含層であるⅡ層は，黒色粘土質シルトを基調として砂粒が混ざる土層である。A地区では全域に認められ，旧地形の傾斜に従って，南東部分は薄く，北西部分は厚い堆積が認められる。B地区は調査区の中央部から西半部にかけて谷状に落ち込む地形となっており，Ⅱ層はこの範囲にのみ残存する。B地区東半部では，Ⅱ層は削平されている。

Ⅲ層は上からⅢa層，Ⅲb層に細分した。無遺物層である。A地区のⅢa層は暗赤褐色粘土質シルト，Ⅲb層は黒色シルトを基調とし，地形が緩やかに落ち込むA地区北西部では，若干粘性が増す傾向にある。

B地区のⅢa層は，東半部では削平されているため西半の谷部にのみ残存する。黒褐色粘土質シルトを基調とし，A地区よりも暗く粘性の強い土質となっている。Ⅲb層は黒色粘土質シルトで，北東部を除く全域に残存する。縄文時代遺構検出面はⅢa層上面であるが，B地区では削平を受けている部分が多いため，南東部ではⅢb層，北東部ではⅣ層がそれぞれ遺構検出面となっている。

Ⅳ層はA地区で暗褐色シルト，B地区で褐色粘土質シルトを基調とする無遺物層である。B地区東半部で特に多くの礫が混ざる。



第 123 図　下山新東遺跡　遺跡範囲・調査位置図（1：2,000）

3　遺構・遺物

(1) 縄文時代

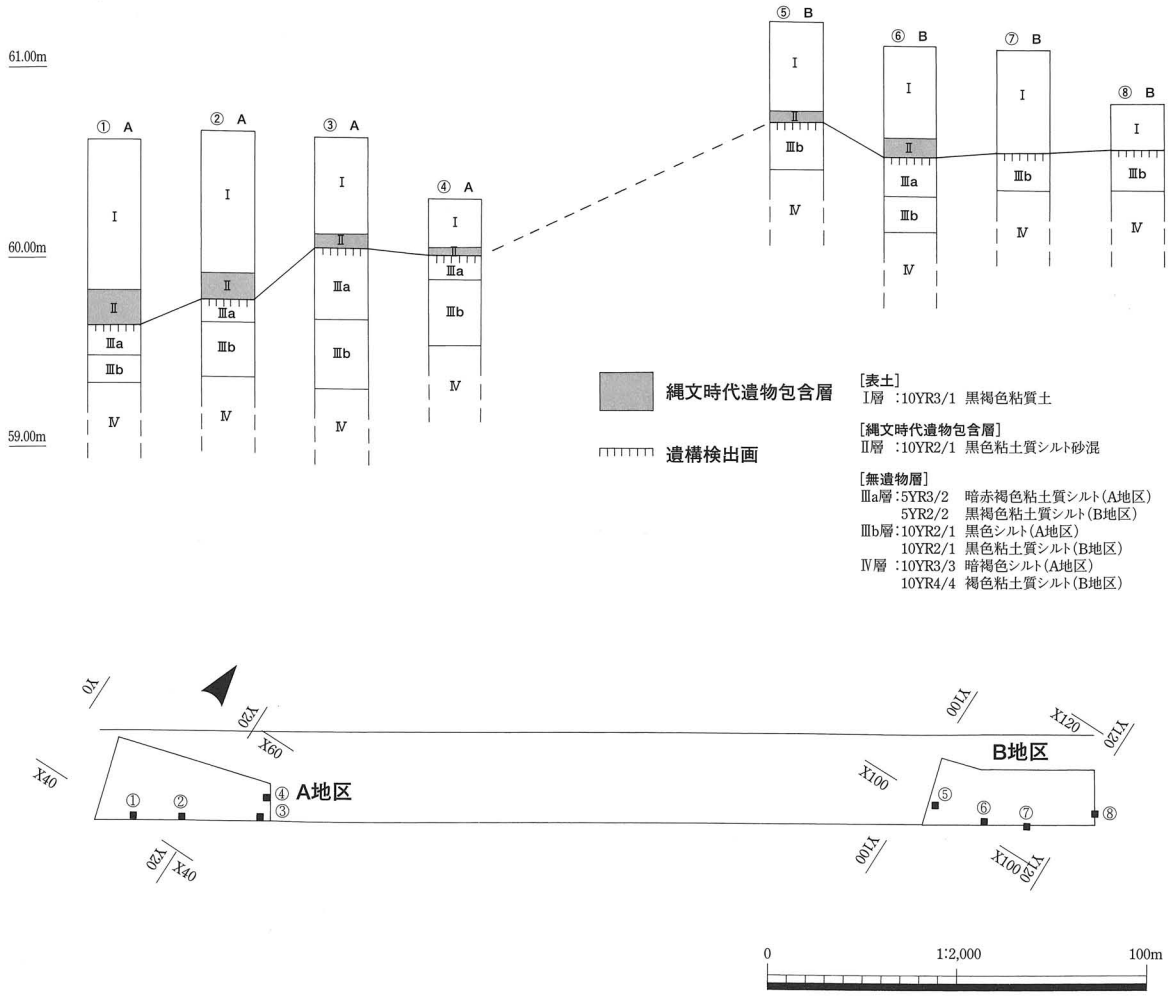
A 地区では土坑，B 地区では谷と土坑を検出した。A 地区では基本層は安定して存在するものの，近世以降の用水や溝，暗渠等による攪乱が多くみられる。B 地区では西半部が浅い谷地形となっており，埋土上層から縄文時代の遺物が出土している。B 地区の土坑の多くは東半部で検出しているが，東半のうち北側の田面が一段下がった範囲は，ほ場整備による削平を受けているため，遺構は南東部を中心に検出した。

遺物はコンテナで 21 箱出土している。内訳は縄文土器 16 箱，石器 5 箱である。谷 SR123 や土坑から出土したものについてはいずれも自然堆積や流れ込みによるものと思われ，人為的な埋設等と考えられるものはない。縄文土器は中期前葉から晩期のものが出土しているが，全て小片で全体が復元できるものはない。土製品は土偶と円盤状土製品が出土している。石器は，石鏃，石錐，打製石斧，磨製石斧，石錘，鋸歯縁石器，削器，砥石，敲石，石刀，磨製石斧未成品，垂飾未成品等がある。

A　谷

123 号谷（SR123，第 126・127・129 ～ 132 図，図版 76 ～ 80）

B 地区西半部に位置する。最大幅 26.65m，深さ約 0.50m を測る。埋土は基本層のⅡ層・Ⅲ層である。自然地形であることとⅢ層から遺物が出土していないことから，谷南部のトレンチと重複する部分を掘



第 124 図　下山新東遺跡　基本層序模式図（1：2,000）

削して深さ及び埋土を確認するに留め，谷全体の掘削はⅢ層の中程で止めた。

遺物は，縄文土器（6～43・57），土製品（58・59），石器（80～105）が出土している。6は前期後半，7は中期前葉（新崎式）の深鉢。8は口縁部に半隆起線を巡らせる中期の浅鉢である。9は隆帯上にヘラ刻みをもつ深鉢の口縁部片。10・11は粘土帯上の刻みや幅広の沈線文がみられるもので，中期後葉に位置づけられる。12～15は深鉢の底部。12は器壁が薄く底部から屈曲して胴部に延びる。後期中葉。13～15も中期から後期の時期に収まると考えられる。16・17は縄文の施される中期前葉の粗製深鉢。18・19は橋状把手の付く浅鉢で中期後葉～後期前葉に多くみられるものである。

20～30・38・57は後期の土器である。20は口縁部に2条引いた平行沈線の間を楕円形に抉るもので，後期前葉（前田式）に比定できる。21は三角形連続刺突文，22・26は沈線文のあるもので後期前葉（気屋式）に比定される。23～25・27は後期中葉（加曽利B式併行）の土器。23は波状口縁で外面にLR縦縄文，内面に沈線と刻みを施し，孔が貫通する。24は羽状縄文と矢羽根状沈線文のある深鉢胴部。25は斜縄文とナデによる無文帯，27は羽状縄文がみられる。38は幅広の沈線を平行に引く深鉢で後期後葉（井口式）。28・30は斜縄文と沈線がある小片で後期後葉（八日市新保式）に比定される。29は小瘤を貼り付けて上からヘラ状具で三回刺突を加える後期後半のものである。57は注口土器の輪状の把手。表面を丁寧に磨き，渦状の沈線文と鋭い刺突を加えている。後期前葉。

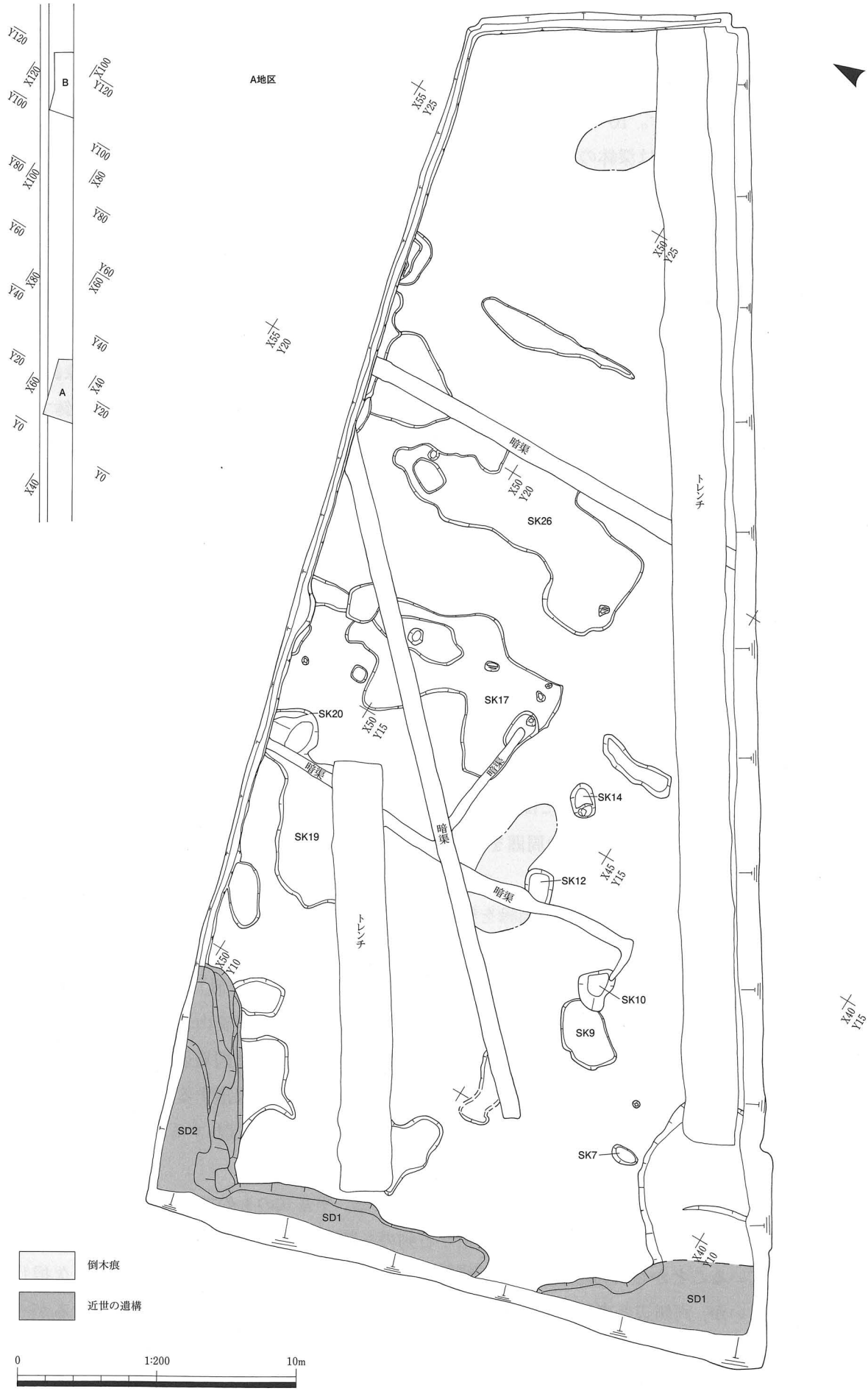
31～37・39～43は晩期の土器である。31は条痕文を施す小片で晩期中葉（中屋式）か。32～35・37は沈線を平行に引くもので，33は内外面，他は外面に赤彩がみられる。36は小型土器の底部で外面に赤彩がみられる。32と36は胎土や色調から同一個体の可能性がある。39は器表面に丁寧な磨きと沈線文がある浅鉢。40～42は口縁部に沈線を引くもので胎土が精良である。43は口縁部に連続刺突を施す。晩期後葉（下野式）に比定される。

58は中空の土偶と考えられる。3方が面取りされ，表面には浅い沈線状の窪みが非対称にみられる。うち2面を直径3㎜の孔が真直ぐに貫通しており，耳部分に相当すると思われる。内面には2方向から粘土が接着した痕跡がみられ，内表面にはナデ等の調整はなされていないことから中空であったと考えられる。59は円盤状土製品。土器片の周囲を円形に打ち欠いている。沈線文がみられることから後期前半の時期が考えられる。

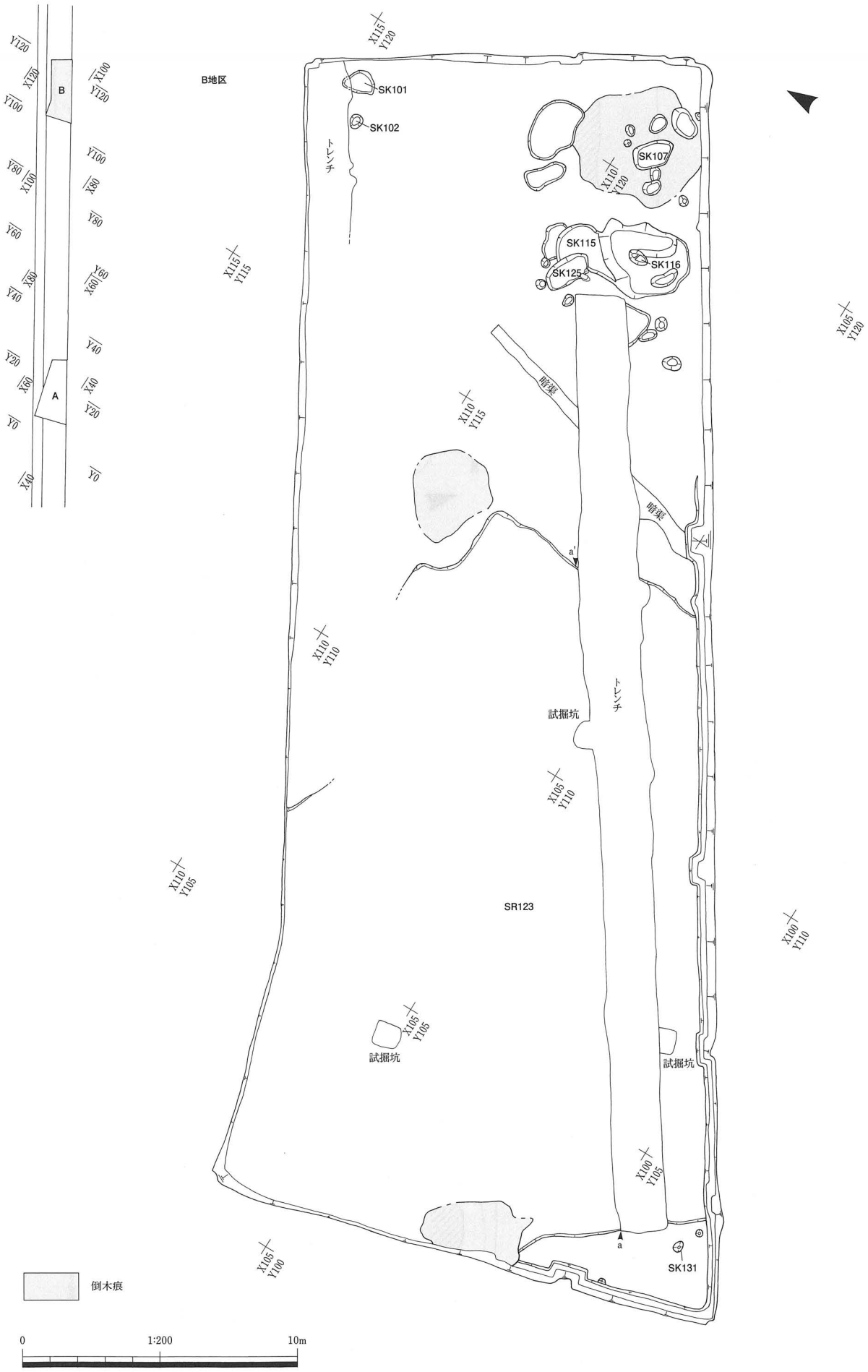
80～88は打製石斧。剥片を素材とし周縁を整形加工している。80～84は刃部・基部を欠損するものが多いが，短冊形となるようである。85・86も短冊形であるが，刃部に向かいやや開く形態をとる。84は基部に摩耗痕がみられ，85は刃部表裏に土ずれ痕がみられる。87は撥形，88は分銅形のもの。石材は，80が蛇紋岩（透閃石岩），82・84・87がデイサイト，83が砂岩，86が安山岩系である。

89～93は磨製石斧である。いわゆる定角式のもので石材は蛇紋岩（透閃石岩）・角閃岩？である。89の基部は左右対称ではなく，片側に丸い自然面を残している。刃部を欠損する。90は側辺に敲打痕が残る刃部片。91～93は基部を欠損するもの。91･92は刃部が僅かに刃こぼれする。92は刃部に向かって側辺が二等辺三角形状に開く。

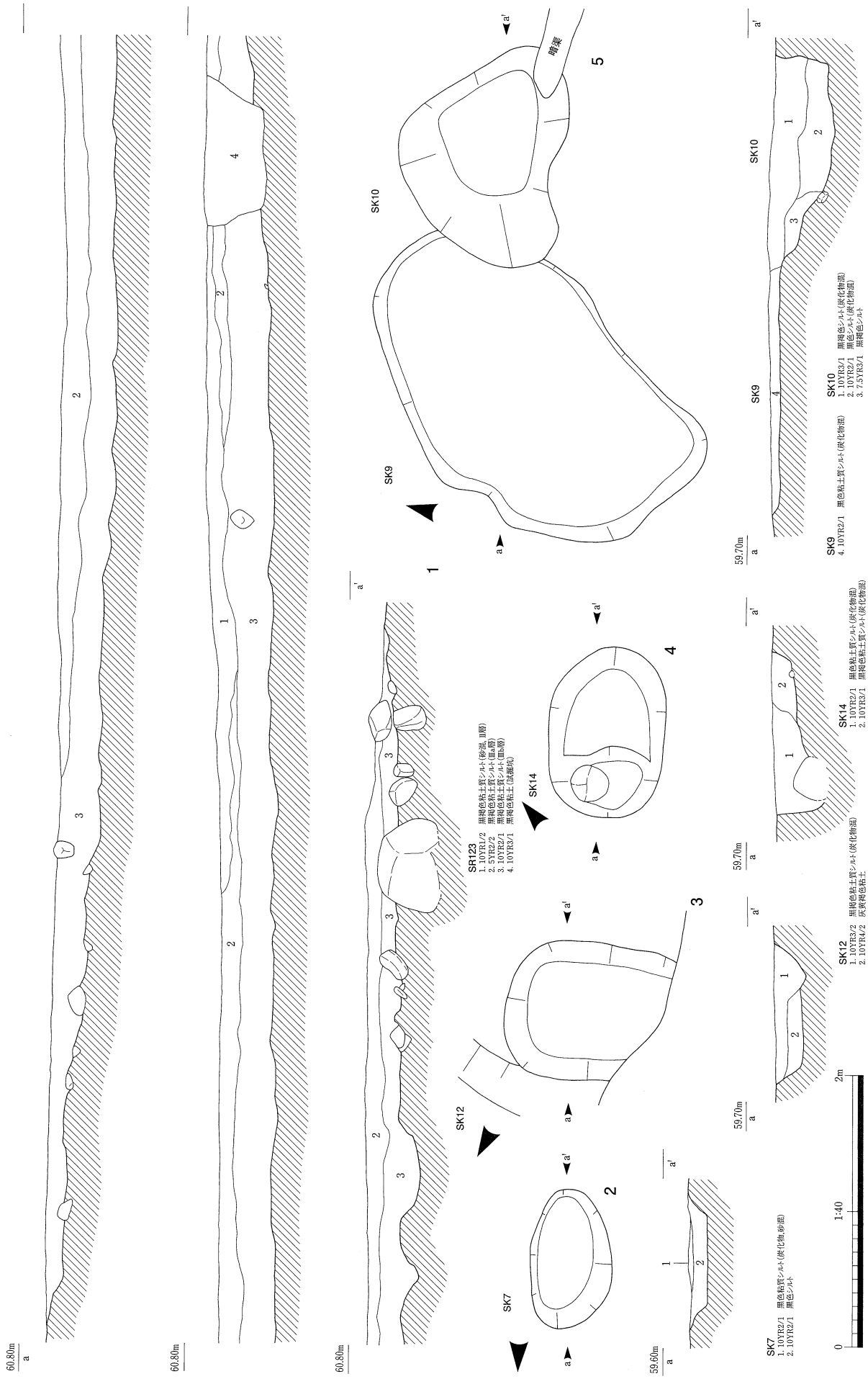
94は石錐の先端部断片。石材はチャートである。95は石鏃。平基式のもので先端が僅かに欠損する。小型で0.5gと軽い。チャート製。96～98は石刀か石剣の一部で96は頭部が残る。頁岩製。99は側辺に面をつくっていることから石刀とした。点紋緑泥片岩製。100は擦り切り石器か。上下端を欠損し全体に摩滅が著しいが，両側辺と裏面に擦痕が残る。砂岩製。101は垂飾未成品。全面を研磨するが一部に前段階の調整である剥離が残る。中央やや上よりに片面から穿孔されているが途中で中止する。石材は蛇紋岩（透閃石岩）。102は石錘。楕円形礫の両端を両面から打ち欠く。103は黒曜石の縦長剥片



第 125 図　下山新東遺跡　縄文時代遺構全体図



第 126 図　下山新東遺跡　縄文時代遺構全体図



第 127 図　下山新東遺跡　縄文時代遺構実測図

1. SR123　2. SK 7　3. SK12　4. SK14　5. SK 9 ・10

の側辺に押圧剥離で鋸歯状の刃部を形成する石器である。104は鉄石英（黄玉石）の剥片。105は翡翠の剥片である。

B　土坑

4号土坑（SK 4，第131図，図版79）

A地区北西に位置し，近世の溝SD 2に切られる。平面形は不整形で，長さ1.66m，深さ0.05mを測る。埋土は褐灰色粘土の単層である。遺物は打製石斧（79）が出土している。79は両面加工で，基部を欠損する。石材は頁岩である。

7号土坑（SK 7，第127図）

A地区南西に位置する。平面形は楕円形で，長径1.01m，深さ0.14mを測る。埋土は黒色シルトを基調とし，上層に基本層のⅡ層に対応する黒色粘土質シルトが薄く被る。遺物は出土していない。

9号土坑（SK 9，第127・129図，図版76）

A地区南西に位置し，SK10に切られる。平面形は不整形で，長さ1.81m，深さ0.08mを測る。浅く不安定な形状であり，地形の窪みと考えられる。埋土は炭化物の混ざる黒色粘土質シルトの単層で，Ⅱ層に対応する。遺物は縄文土器（1）が出土している。1は沈線で曲線文を描く深鉢の口縁部片である。沈線内に三角形の刺突と押し引きがみられ，後期前葉の気屋Ⅰa式に比定できる。

10号土坑（SK10，第127図，図版74）

A地区南西に位置する。西部分でSK9を切り込み，東部分で暗渠に切られる。平面形は楕円形で，長径1.55m，短径1.20m，深さ0.45mを測る。埋土上層は黒褐色シルト，下層は黒色シルトを基調とし，炭化物が僅かに混ざる。遺物は縄文土器小片が出土している。

14号土坑（SK14，第127図）

A地区中央南西よりに位置する。平面形は楕円形で，長径1.23m，短径0.84mを測る。深さは南西の最深部で0.30mを測る。埋土は北東部で黒褐色粘土質シルト，深い南西部で黒色粘土質シルトを基調とし，いずれも炭化物が混ざる。遺物は出土していない。

17号土坑（SK17，第129図，図版74・76・78）

A地区中央北よりに位置する。平面形は不整形で，長さ8.08m，深さ0.09mを測る。浅く不安定な形状であり，地形の窪みと考えられる。埋土は炭化物の混ざる黒色粘土の単層で，Ⅱ層に対応する。遺物は縄文土器（2・3）が出土している。2は下部に剥離痕がみられることから，土器の口縁部に付く装飾と思われる。半隆起線と三叉文状の彫り込みがあり，中期中葉（天神山式）に比定できる。3は外全面にLR斜縄文を施す中期前葉の深鉢口縁部片である。

19号土坑（SK19，第129図，図版76）

A地区中央北よりに位置する。平面形は不整形で，長さ4.95m，深さ0.17mを測る。浅く不安定な形状であり，地形の窪みと考えられる。埋土上層はⅡ層に対応する黒色粘土，下層は黒褐色粘土質シルトで，いずれも僅かに炭化物が混ざる。遺物は縄文土器（4）が出土している。4は器表面を丁寧に磨く浅鉢で，中期後葉（串田新式）に比定できる。

20号土坑（SK20，第128図，図版74）

A地区中央北端に位置する。北側は調査区外にかかり，西側は暗渠，南側はトレンチに切られる。平面形は不整形で，南北の長さは1.63m，深さ0.52mを測る。埋土は3層からなり，上層は基本層のⅡ層に対応する黒色粘土，中層は黒褐色粘土質シルト，下層はⅢb層の黒色シルトを基調とし，いずれにも炭化物が混ざる。遺物は縄文土器小片が出土している。

26 号土坑（SK26，第 129 図，図版 76）

A 地区中央東よりに位置する。平面形は不整形で，長さ 9.78m，深さ 0.09m を測る。浅く不安定な形状であり，地形の窪みと考えられる。埋土は黒色粘土の単層で，Ⅱ層に対応する。遺物は縄文土器（5）が出土している。5 は刻印蓮華文を施す深鉢の口縁部片である。中期前葉（新崎式）である。

101 号土坑（SK101，第 128 図，図版 75）

B 地区北東角に位置する。一段下がった田面に位置しているためほ場整備の影響を受け，上面が削平されていると思われる。検出面はⅣ層である。平面形は楕円形で，長径 1.18m，短径 0.88m，深さ 0.16m を測る。埋土は炭化物混じりの黒色粘土質シルトを基調とし，肩部には黒褐色シルトがみられる。遺物は出土していない。

102 号土坑（SK102，第 128 図）

B 地区北東角の SK101 西側に位置する。SK101 と同様に検出面はⅣ層で，上面が削平されていると考えられる。長径 0.49m，短径 0.46m の円形に近い穴で，深さは 0.14m を測る。埋土は黒褐色シルトを基調とし，下層にはⅣ層の褐色粘土質シルトが混ざる。遺物は出土していない。

107 号土坑（SK107，第 128 図，図版 75）

B 地区南東角に位置する。倒木痕と重複し，これを切る。南西部分では SK108 を切る。検出面はⅢ b 層で，上面が若干削平されている可能性がある。平面形は楕円形で，長径 1.43m，短径 0.95m，深さは 0.14m を測る。埋土上層は炭化物混じりの黒色粘土質シルト，下層は黒褐色シルトを基調とする。遺物は出土していない。

115 号土坑（SK115，第 128 図，図版 75）

B 地区南東の SK107 西側に位置する。SK107 と同様に検出面はⅢ b 層で，上面が若干削平されている可能性がある。長さ 4.4m，幅 2.8m を測る不整形な土坑で，深さは南部分で浅く 0.04m，中央の最深部で 0.46m を測る。埋土は黒色粘土質シルトを基調とするもので，場所によっては黒褐色シルトやⅣ層の褐色粘土質シルトが混ざる。遺物は出土していない。

131 号土坑（SK131，第 128 図）

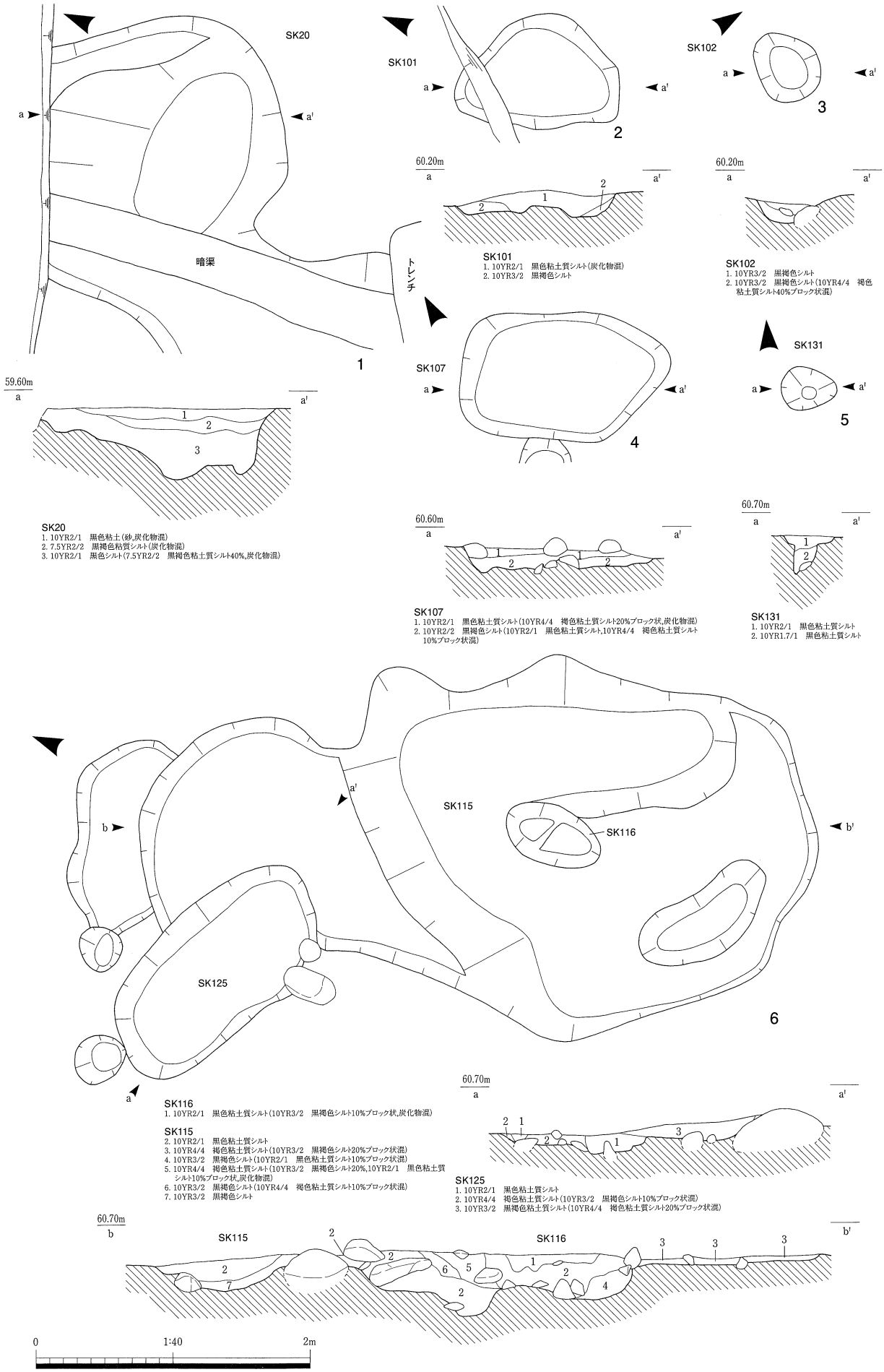
B 地区南西角に位置する。直径 0.32 ～ 0.40m の円形の穴で，深さは 0.27m を測る。埋土は黒色粘土質シルトであるが，下層はより黒色が強くなり粘性が増す。遺物は出土していない。

C　包含層出土遺物

縄文土器（第 130 図，図版 77）

44 は蓮華文，45 はこれに類する半截竹管の刺突がある深鉢で中期前葉（新崎式）に比定できる。46 ～ 53 は半截竹管文やヘラ刻目，爪形文，三叉文などがあるもので，中期前葉～中葉に位置づけられる。56 は有孔鍔付土器。口縁部は直立して延び，鍔の上半部まで残存する。小孔は 3 箇所残存しており，内面へ向かって斜めに貫通する。中期中葉（古府式）のものか。

54・55 は台付鉢の脚部。54 には断面三角形の貼り付け突線文がみられ，後期初頭（岩峅野式）に比定できる。60 は小型土器の底部である。61 ～ 76 は後期の土器である。61 は口縁部が無文，胴部が縄文の深鉢である。62 は沈線文，63 は粘土帯の上を連続刺突するもので後期初頭（前田式）。64 ～ 72 は沈線文や連続刺突をもつもので，後期前葉（気屋式）に比定される。72 は大きな波状口縁になる浅鉢で，福野町安居五百歩遺跡に類例がある[注5]。73・74 は粗製深鉢の口縁部。75 ～ 77 は深鉢の底部。75 には縦の隆帯と沈線がみられ，中期後葉と考えられる。

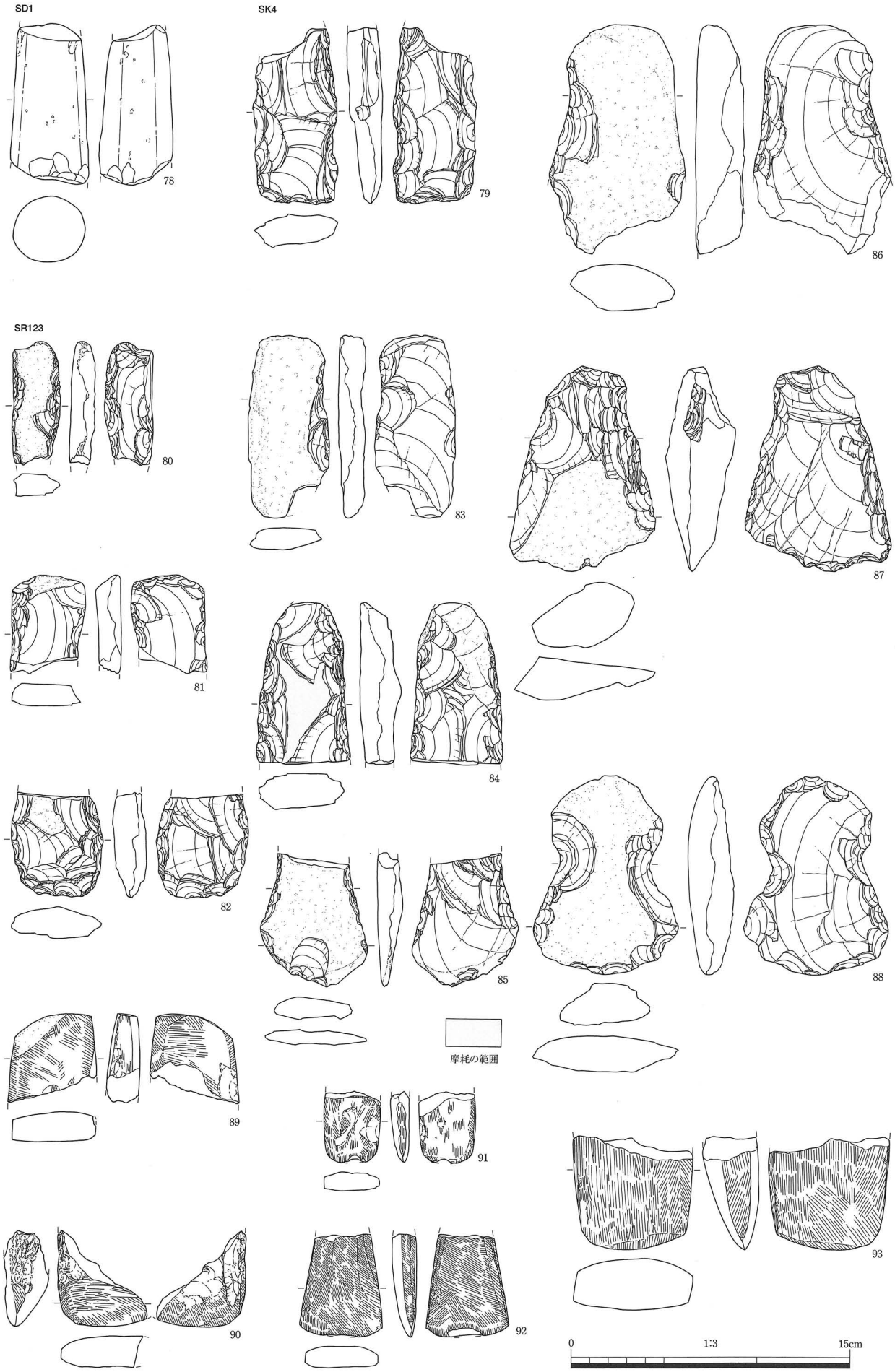


第 128 図　下山新東遺跡　縄文時代遺構実測図

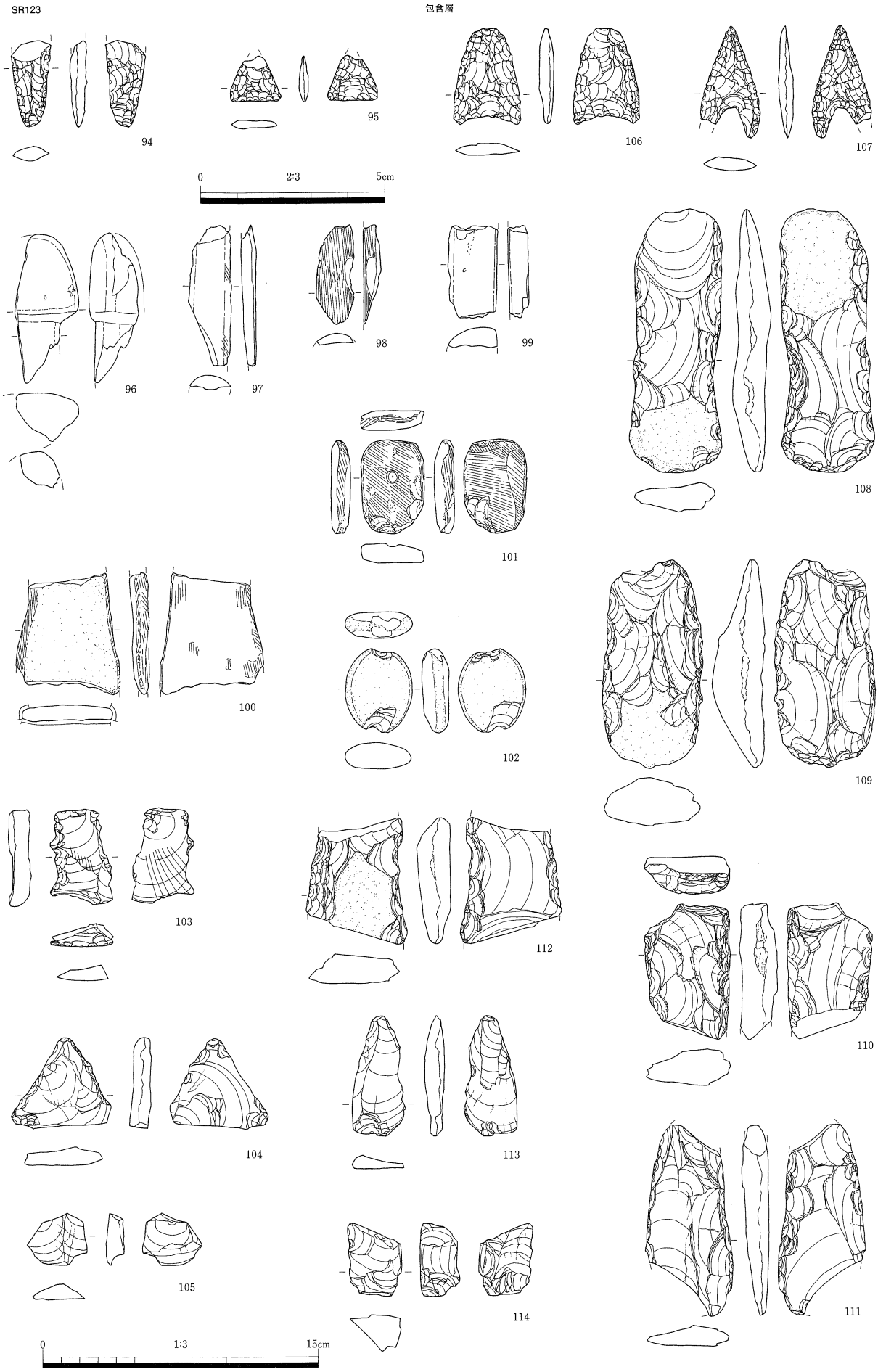
1. SK20　2. SK101　3. SK102　4. SK107　5. SK131　6. SK115・SK116・SK125

第 129 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
SK9 (1)　SK17 (2・3)　SK19 (4)　SK26 (5)　SR123 (6～43)

第 130 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
SR123 (57～59)　包含層

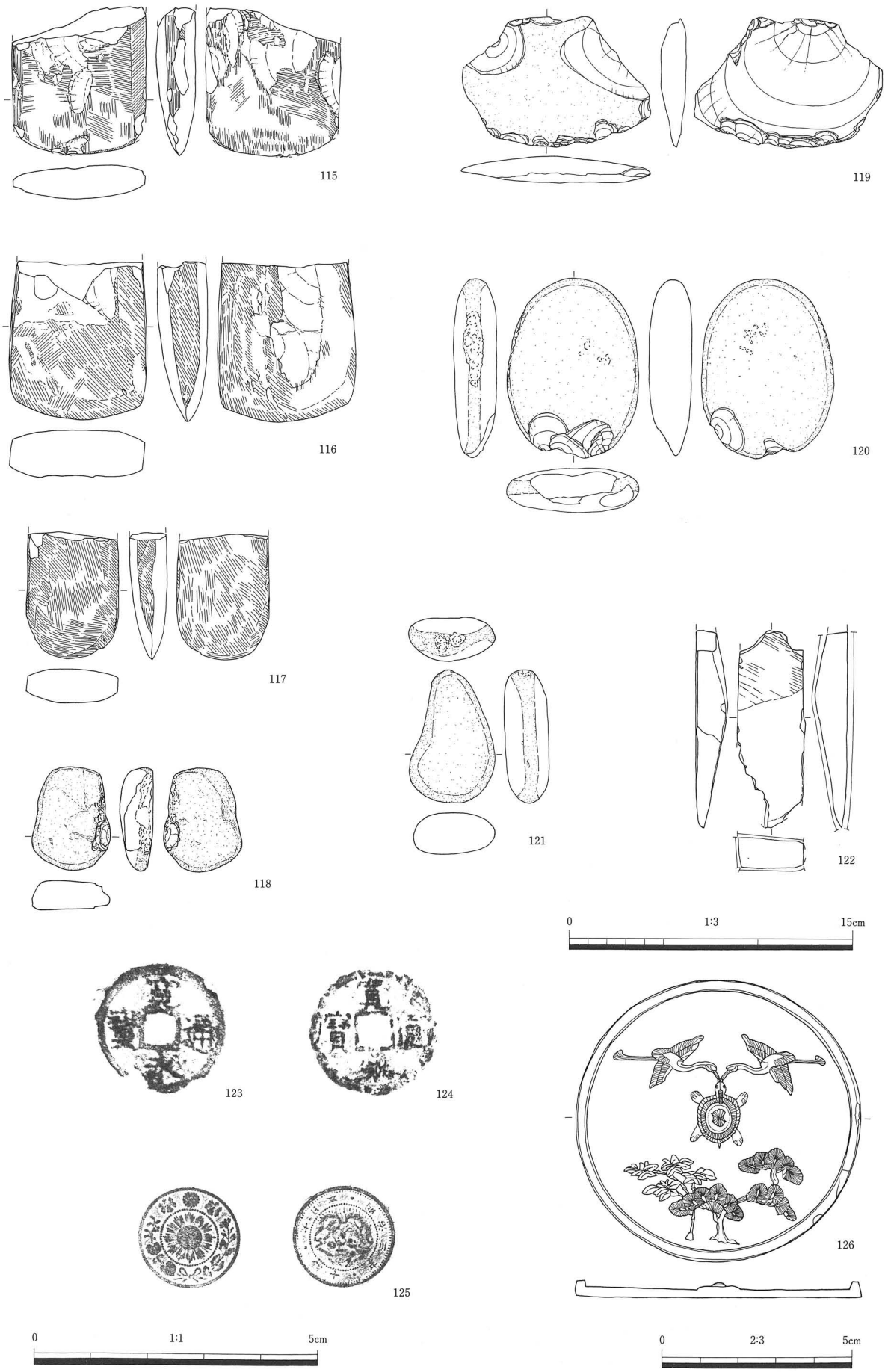


第 131 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
SD1 (78)　SK4 (79)　SR123 (80～93)



第 132 図　下山新東遺跡　縄文時代遺物実測図（96～102・108～112　1/3，94・95・103～107・113・114　2/3）
SR123（94～105）　包含層

包含層



第 133 図　下山新東遺跡　縄文時代・近世遺物実測図（123 ～ 125　1/1，115 ～ 122　1/3，126　2/3）
包含層

石製品（第 131 ～ 133 図，図版 78 ～ 80）

106・107 は石鏃。凹基式のもので 106 の先端部には衝撃による剥離がみられる。石材は 106・107 ともチャート。108 ～ 112 は打製石斧。108 は両面とも直接打撃で加工されるが表裏に自然面を残しており，礫素材と考えられる。109 は剥片素材を両面加工している。110 ～ 112 も剥片素材で，周縁を加工する。石材は 108・112 が砂岩，109 が蛇紋岩（透閃石岩），110・111 がデイサイトである。113 は鉄石英（黄玉石）の剥片。114 は瑪瑙の剥片。115 ～ 117 は磨製石斧。いずれも定角式のもので基部を欠損する。118 は片側辺に剥離と敲打痕のある蛇紋岩（透閃石岩）の自然石。磨製石斧未成品としたが，石材が翡翠に近く，玉の未成品となる可能性もある。119 は大型削器。剥片の末端辺を直接打撃で加工して刃部としている。砂岩製。120・121 は敲石。120 は側縁に敲打痕があり先端部に剥離がある。砂岩。121 は自然礫のやや尖った先端部に敲打痕がみられる。石材は翡翠である。

(2) 近世～近代

A 地区の西部分で近世～近代の溝 2 条を検出している。平成 12（2000）年度に実施した包蔵地確認調査の際，A 地区の西に隣接する 32 トレンチにおいて江戸時代の建物跡を確認している[注6]ことから，この集落に伴う遺構であると考えられる。遺物はコンテナで陶磁器 4 箱，金属製品 1 箱分が出土している。陶磁器，陶錘，砥石，銭（寛永通寶，10 銭銀貨），和鏡がある。また，その他としては、土師器椀（古代の遺物）が出土している。

A　溝

1 号溝（SD1，第 125・131・134 図，図版 78・81）

A 地区西端を調査区に沿って北流する。西肩は調査区外にかかるため，東肩のみ検出した。中程で流路が西に逸れるため一旦途切れるが，埋土から同じ溝として扱った。現在 A 地区西側を農業用水路が通っていることから，ほ場整備以前に使用されていた水路の跡と考えられる。Ⅰ層直下から切り込んでおり，調査区南壁で確認した切り込み面からの深さは，最深部で 1.07m を測る。埋土は上層に黒褐色粘質土，下層に褐灰色砂質土が堆積し，上層には直径 1 ～ 3 ㎝の礫が多く混ざる。遺物は石剣か石刀（78），越中瀬戸（127），近世～近代の陶磁器が出土している。78 は礫に混ざって出土しているため強いローリングを受けており，両端部が欠損して全体に摩滅が著しい。断面形が僅かに両側面に稜を持っているため，石剣である可能性が高い。石材は頁岩。混入と考えられる。127 は越中瀬戸の火入れ。底部は削り出しの輪高台で口縁部に鉄釉がかかる。内底面に重ね焼きの跡が薄く残る。

2 号溝（SD2，第 125・134 図，図版 81）

A 地区北西角に位置する。SD1 から直角に近い角度で分岐し，北東の方向へ向かう。南肩のみ検出し，北側の肩は調査区外へ広がる。埋土上層は黄灰色粘土質シルト，中層は褐灰色粘土質シルト，下層は灰黄褐色粗砂をそれぞれ基調とし，中層には褐灰色の細砂が薄い帯状に混ざる。中層と下層の間には酸化鉄の沈着がみられた。遺物は，縄文土器，越中瀬戸（128・129），近世～近代の陶磁器（130・131），伊万里（132 ～ 135）が出土している。128・129 は越中瀬戸の丸椀。黒褐色の鉄釉がかかるが，128 は粒状に釉がはじかれて滑らかではない。18 ～ 19 世紀の製品と考えられる。130 は陶器の椀。浅黄色の胎土に透明釉がかかる。131 は体部から内面に施釉し，見込みを蛇の目釉剥ぎする皿。内面に笹文を描き，高台には白色の化粧土を施す。132 ～ 135 は伊万里。132 は内面に花文，外面に唐草文を描く椀。133 も椀で，見込みにハリ跡が 2 箇所残る。134 は見込みに五弁花のコンニャク印判を押す椀。135 は内面に楼閣山水文を描く皿。いずれも 18 世紀後半以降のものである。

B　包含層出土遺物

土器・陶磁器（第134図，図版81・82）

136～153は越中瀬戸である。136～140は皿。136・137の内底面には釉止めの段が薄く残るが，138～140には段がみられない。17世紀後半～18世紀のものが中心である。140は内全面に鉄釉をかけており，見込みに重ね焼き痕が輪状に残る。141は向付。体部に鉄釉を施す。142･143は鉄釉の小壺。144～148は壺類。いずれも肩の張らない器形である。149～151は擂鉢。150の内面は摩耗して卸目が薄くなっている。152・153は陶錘。断面形は円形と楕円形とがある。表面には鉄釉がかかる。154・155は古代土師器椀の底部。外底面に回転糸切り痕が残る。9～10世紀のものである。

石製品（第133図，図版82）

122は砥石である。周縁が脆くなっており欠損部が多いが，上部を大きく欠くのみでおおむねの形を残している。流紋岩の中砥石で，砥面は表面・片側面・裏面の3面である。中世から近世にかけてのもので，産地は天草の可能性が高い。

金属製品（第133図，図版82）

123・124は銅銭。寛永通寶であるが，123は古寛永（1634年～1656年鋳造），124は新寛永（1668年～幕末まで鋳造）。125は旭日竜10銭銀貨で明治三年鋳造。126は蓬莱鏡（松竹双鶴鏡）。直立中縁で，亀形鈕に2羽の鶴が嘴を接する。下方に松樹と岩から茂る笹竹を描く。京都の「木瀬浄阿弥」工房作の可能性があり，1560年代～1590年代に製作されたものである[注7]。

4　まとめ

下山新東遺跡では，縄文時代と近世～近代の遺構を検出した。

縄文時代の遺構としては土坑があるが，共伴遺物が少なく性格の不明なものが多い。自然地形の谷からは中期から後期の遺物が出土しているが，土器はすべて細片で全体が復元できるものはない。谷に故意に集積されたり廃棄されたような出土状況ではなく，遺物散布地の域を出ないものであると考えられる。石器は石斧類が多くみられる傾向にあるが，完形品や基部が残るものは少なく，大半が破片であり，下山新東遺跡が集落から外れた位置にあったことが推測できる。舟見野扇状地上には，不動堂遺跡や下山新遺跡などの大規模集落遺跡が同時期に存在しており，下山新東遺跡はここから人々が断続的に訪れるような地域に属していたと捉えられる。

縄文時代以降は近世に至るまで積極的な土地利用はなされていない。平安時代の土師器が僅かに出土しているが遺構は認められない。本格的に土地開発されるのは近世に入ってからである。調査区内では近世の溝を検出しており，隣接地で江戸時代の建物を確認していることからこれに関わりのあるものと考えられる。遺物は16世紀後半～19世紀のものが出土しているが，中心は17世紀後半～18世紀代にあると考えられる。

（朝田亜紀子）

注

注1　朝日町教育委員会1978『富山県朝日町大家庄地区内埋蔵文化財予備調査概要 下山新東遺跡 高橋遺跡』

注2　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所2001『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（2）竹ノ内Ⅱ遺跡 柳田遺跡 井ノ口城跡 下山新東遺跡 下山新遺跡』

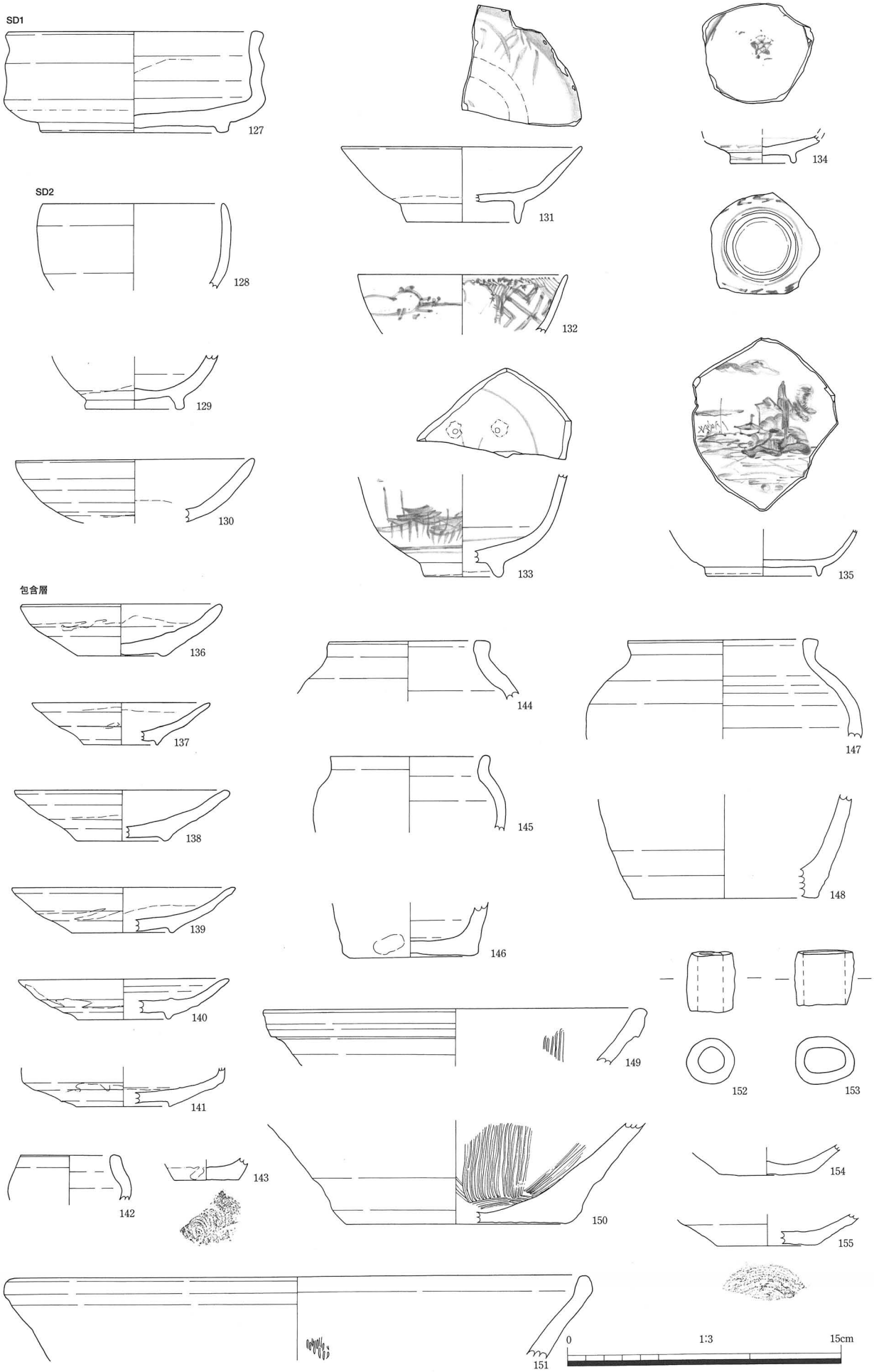
注3　本書

注4　朝日町教育委員会2006『富山県朝日町柳田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡 発掘調査報告書』

注5　福野町教育委員会1990『富山県福野町安居五百歩遺跡Ⅰ（縄文時代編）』

注6　注2に同じ

注7　久保智康氏の御教示による。



第 134 図　下山新東遺跡　古代・近世～近代遺物実測図　(1/3)
SD 1 (127)　SD 2 (128 ～ 135)　包含層

第35表　下山新東遺跡　縄文時代　谷一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	挿図	写真図版
		幅	深さ			
SR123	B-SR23	22.00～26.65	0.50	縄文土器, 土製品, 土偶, 円盤状土製品, 打製石斧, 磨製石斧, 石錐, 石鏃, 石刀類, 擦り切り石器, 垂飾未成品, 石錘, 鋸歯縁石器, 剥片	126·127	

第36表　下山新東遺跡　縄文時代　土坑一覧

遺構	旧遺構番号	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
			長さ	幅	深さ				
SK4	A-SK04	不整形	(1.66)	1.35	0.05	打製石斧	<SD2	131	
SK7	A-SK07	楕円	1.01	0.60	0.14			127	
SK9	A-SK09	不整形	(1.81)	1.90	0.08	縄文土器	<SK10	127	
SK10	A-SK10	楕円	1.55	1.20	0.45	縄文土器	>SK9	127	74
SK14	A-SK14	楕円	1.23	0.84	0.30			127	
SK17	A-SK17	不整形	8.08	4.27	0.09	縄文土器			74
SK19	A-SK19	不整形	4.95	(2.02)	0.17	縄文土器			
SK20	A-SK20	楕円	(1.63)	(1.50)	0.52	縄文土器		128	74
SK26	A-SK26	不整形	9.78	2.12	0.09	縄文土器			
SK101	B-SK01	楕円	1.18	0.88	0.16			128	75
SK102	B-SK02	楕円	0.49	0.46	0.14			128	
SK107	B-SK07	楕円	1.43	0.95	0.14		>SK108	128	75
SK108	B-SK08	円	(0.47)	(0.36)	0.05		<SK107		75
SK115	B-SK15	楕円	4.40	2.80	0.45			128	75
SK131	B-SK31	円	0.40	0.32	0.27			128	

※規模の(　)付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第37表　下山新東遺跡　近世～近代　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	特記	挿図	写真図版
		幅	深さ				
SD1	A-SD01	3.02	1.07	石剣?, 越中瀬戸, 近世～近代陶磁器	用水跡	125	
SD2	A-SD02	2.62	0.62	縄文土器, 越中瀬戸, 近世陶磁器, 伊万里, 近代陶磁器	>SK4,SD1から分岐する	125	

第38表　下山新東遺跡　縄文土器・土製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	文様の特徴
129	1	76	SK9	1層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋Ia式	5YR5/4	にぶい赤褐色	白色粒･透明粒･骨針	沈線内に三角形の押し引きあり
	2	78	SK17	X50Y17　1層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒	口縁部の突起, 半截竹管文と三叉文
	3	76	SK17	X51Y16　1層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	LR斜縄文
	4	76	SK19	X50Y14　2層	縄文土器	浅鉢	24.6			中期後葉	串田新式	2.5Y6/2	灰黄色	白色粒･透明粒･骨針	口縁部に段をもち外反する
	5	76	SK26	X48Y20　1層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･骨針	刻印蓮華文
	6	76	SR123	X107Y106　1層	縄文土器	深鉢				前期後半		7.5YR4/2	灰褐色	白色粒･骨針	爪形文, 三角形の抉り
	7	76	SR123	X107Y104　1層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR5/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･砂粒	縦の半隆起線と無文帯, 格子目文
	8	76	SR123	X103Y105　1層	縄文土器	浅鉢				中期中葉		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･骨針	口縁部に半隆起線を1条引く
	9	76	SR123	X106Y110　1層	縄文土器	深鉢				中期中葉		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	隆帯上ヘラ刻み
	10	76	SR123	X106Y106　1層	縄文土器	深鉢				中期後葉	串田新Ⅱ式	5YR5/4	にぶい赤褐色	白色粒･砂粒･骨針	隆帯上に貝殻文を施す
	11	76	SR123	X106Y107　1層	縄文土器	深鉢				中期後葉	串田新Ⅱ式	10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	隆帯上に縄文を施す, 斜めの沈線文
	12	76	SR123	X107Y107　1層	縄文土器	深鉢			11.6	後期中葉		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒･砂粒･骨針	外面ナデ, 底部スダレ状圧痕
	13	76	SR123	X104Y106･107　1層	縄文土器	深鉢			12.3	中期～後期		10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒･骨針	RL縦縄文, 底部網代圧痕
	14	76	SR123	X108Y106　1層	縄文土器	深鉢			6.6	中期～後期		10YR4/1	褐灰色	白色粒･透明粒	ナデ
	15	76	SR123	X102Y110　1層	縄文土器	深鉢			9.0	中期～後期		10YR4/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	RL縦縄文, 底部網代圧痕
	16	76	SR123	X103Y108　1層	縄文土器	深鉢				中期前葉		10YR7/2	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒･骨針	口唇部に半隆起線を1条引く, LR斜縄文
	17	76	SR123	X105Y103　1層	縄文土器	深鉢				中期前葉		10YR8/2	灰白色	白色粒･透明粒･砂粒	RL斜縄文
	18	76	SR123	X108Y110　1層	縄文土器	浅鉢				中期後葉～後期前葉	串田新式～前田式	10YR4/1	褐灰色	白色粒･透明粒	橋状把手
	19	76	SR123	X107Y107　1層	縄文土器	浅鉢				中期後葉～後期前葉	串田新式～前田式	10YR6/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･砂粒	橋状把手
	20	76	SR123	X105Y108　1層	縄文土器	深鉢				後期前葉	前田式	10YR4/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･骨針	2条の平行沈線間に列点を押し並べる
	21	76	SR123	X104Y108　1層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋Ib式	7.5YR5/3	にぶい褐色	白色粒･透明粒･骨針	三角形刺突文
	22	76	SR123	X107Y107　1層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･骨針	沈線文
	23	76	SR123	X106Y106　1層	縄文土器	深鉢				後期中葉	加曽利B1式併行	10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒･透明粒･砂粒	外面RL縦縄文, 内面沈線, 口縁部ヘラ刻目文, 波状口縁, 突起･孔あり
	24	76	SR123	X105Y108　1層	縄文土器	深鉢				後期中葉	加曽利B1式併行	10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	羽状縄文と矢羽状沈線文
	25	76	SR123	X106Y106　1層	縄文土器	深鉢				後期中葉	加曽利B1式併行	10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒･透明粒	RL斜縄文とナデ消し
	26	76	SR123	X106Y107　1層	縄文土器	浅鉢				後期前葉		10YR8/3	浅黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	波状口縁, 沈線
	27	76	SR123	X106Y108　1層	縄文土器	深鉢				後期中葉	酒見式	10YR5/2	灰黄褐色	白色粒･砂粒	羽状縄文
	28	76	SR123	X105Y107　1層	縄文土器	深鉢				後期後葉	八日市新保式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒	口縁部にRL斜縄文, 沈線3条巡らす
	29	76	SR123	X107Y104　1層	縄文土器	深鉢				後期後葉		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒･透明粒･砂粒	斜縄文, 瘤貼付の上からヘラ刺突, 沈線文
	30	76	SR123	X106Y108　1層	縄文土器	深鉢				後期後葉	八日市新保式	10YR4/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･砂粒	波状口縁, 縄文と沈線文
	31	76	SR123	X106Y109　1層	縄文土器	深鉢				晩期中葉	中屋式	10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒	条痕文
	32	76	SR123	X104Y110　1層	縄文土器	浅鉢				晩期後葉	下野式	10YR7/2	にぶい黄橙色	白色粒	沈線文, 赤彩部分10R5/6赤色
	33	76	SR123	X103Y109　1層	縄文土器	浅鉢				晩期後葉	下野式	10YR7/4	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒	沈線文, 赤彩部分7.5R4/6赤色
	34	76	SR123	X105Y109　1層	縄文土器	浅鉢				晩期後葉	下野式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒	沈線文, 赤彩部分7.5R4/6赤色
	35	76	SR123	X105Y106　1層	縄文土器	浅鉢	4.4			晩期後葉	下野式	2.5Y7/2	灰黄色	白色粒	沈線文, 赤彩部分7.5R4/6赤色
	36	76	SR123	X107Y118　1層	縄文土器	小型土器			4.8	晩期後葉	下野式	2.5Y7/2	灰黄色	白色粒	ナデ, 外面赤彩, 赤彩部分10R4/8赤色
	37	76	SR123	X105Y108　1層	縄文土器	深鉢				晩期後葉	下野式	7.5YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･骨針	沈線文
	38	76	SR123	X102Y108　1層	縄文土器	深鉢				後期後葉	井口式	10YR4/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･骨針	沈線
	39	76	SR123	X106Y110　1層	縄文土器	浅鉢				晩期後葉	下野式	10YR3/2	黒褐色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	沈線文, ミガキ
	40	76	SR123	X108Y111　1層	縄文土器	浅鉢				晩期後葉	下野式	7.5YR5/3	にぶい褐色	白色粒･透明粒･砂粒	沈線文
	41	76	SR123	X108Y107　1層	縄文土器	深鉢				晩期後葉	下野式	7.5YR7/3	にぶい橙色	白色粒･透明粒	波状口縁, 沈線文
	42	76	SR123	X106Y110　1層	縄文土器	深鉢				晩期後葉	下野式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒･砂粒	沈線2条
	43	76	SR123	X104Y109　1層	縄文土器	深鉢				晩期後葉	下野式	2.5Y7/3	浅黄色	白色粒･透明粒･砂粒	口唇部縄文押圧

第38表　下山新東遺跡　縄文土器・土製品一覧（2）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	文様の特徴
130	44	77		X41Y9　I層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR5/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	刻印蓮華文
	45	77		X47Y09　II層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	7.5YR4/2	灰褐色	白色粒･砂粒･骨針	半隆起線と蓮華文風の刻み
	46	77		X50Y19　II層	縄文土器	深鉢				中期中葉		5YR4/1	褐灰色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	隆帯上ヘラ刻み
	47	77		X51Y16　II層	縄文土器	深鉢				中期前葉～中葉		7.5YR2/1	黒色	白色粒･砂粒･骨針	隆帯上に爪形文を施す
	48	77		X52Y17　II層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR4/3 7.5YR4/2	にぶい黄褐色 灰褐色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	隆帯上に爪形文を施す，口縁部に装飾あり
	49	77		X48Y17　II層	縄文土器	深鉢				中期初頭		7.5YR6/3	にぶい橙色	白色粒･砂粒	半隆起線とヘラ刻目文
	50	77		X51Y15　II層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR4/2	灰黄褐色	白色粒･透明粒	波状口縁，外面半隆起線，内面玉と三角形抉り
	51	77		X47Y18　II層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR3/1	黒褐色	白色粒･骨針	隆帯上綾杉状刻み，無文帯ヘラ刻目文と三叉文彫込み
	52	77		X44Y16　II層	縄文土器	深鉢				中期中葉	古府式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒･砂粒	波状口縁，三角彫去なし
	53	77		X46Y16　II層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR6/2	灰黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	W字の変形した隆帯貼り付け，爪形文
	54	77		X44Y09　II層	縄文土器	台付鉢			10.0	後期初頭	岩峅野式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒	脚部，断面三角形の貼り付け突線文
	55	77		X47Y15　II層	縄文土器	台付鉢			8.2	中期～後期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	脚部，ナデ
	56	78		X48Y19　II層･ X50Y16　暗渠	縄文土器	有孔鍔付土器	18.8			中期中葉	古府式	2.5YR6/6	橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	孔3箇所残存
	57	78	SR123	X104Y109　1層	縄文土器	注口土器				後期前葉	堀之内式併行	10YR4/1	褐灰色	白色粒･骨針	沈線文と刺突
	58	78	SR123	X107Y105　1層	土製品	土偶	4.2	2.6	1.1	後期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	中空，外面ナデと浅い沈線，孔径3㎜
	59	77	SR123	X106Y108　1層	土製品	円盤状土製品	3.4	3.2	0.8	後期前半		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒･砂粒	斜縄文と沈線文
	60	77		X51Y16　II層	縄文土器	小型土器			4.0	中期後葉?		10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒	ナデ
	61	77		X47Y16　II層	縄文土器	深鉢				中期末～後期前半		7.5YR4/2	灰褐色	白色粒･透明粒･骨針	口縁部ナデ，LR斜縄文
	62	77		X51Y15　II層	縄文土器	浅鉢				後期前葉	前田式	10YR6/2	灰黄褐色	白色粒･砂粒･骨針	沈線文
	63	77		X49Y11　II層	縄文土器	深鉢				後期初頭	前田式併行	10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･透明粒･砂粒･骨針	＞字状の連続刺突
	64	77		X52Y23　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋Ia式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒･砂粒･骨針	三角形連続刺突
	65	77		X48Y9　II層	縄文土器	浅鉢				後期前葉		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒･透明粒･骨針	口縁部に沈線と円形刺突
	66	77		X49Y18　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒･砂粒･骨針	渦巻き状の沈線文と円形刺突
	67	77		X50Y12　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒	沈線，円形刺突，LR斜縄文
	68	77		X47Y09　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	10YR6/2	灰黄褐色	白色粒･砂粒･骨針	指頭による円形凹みと三角形連続刺突
	69	77		X48Y10　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒･透明粒･砂粒	＜字の沈線文と円形刺突
	70	77		X48Y09　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	10YR5/2	灰黄褐色	白色粒･砂粒	三角形連続刺突
	71	77		X49Y16　II層	縄文土器	深鉢				後期前葉	気屋式	7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒･砂粒･骨針	沈線文，円形刺突
	72	77		X48Y17　II層	縄文土器	浅鉢				後期前葉	気屋式	10YR4/2	灰黄褐色	白色粒･骨針	大波状口縁，沈線による区画内を円形連続刺突する，ミガキ
	73	77		X47Y16　II層	縄文土器	深鉢				中期～後期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒	口縁部ナデ，RL縦縄文
	74	77		X50Y21　II層	縄文土器	深鉢				中期～後期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒･砂粒･雲母･骨針	RL斜縄文
	75	77		X45Y17　II層	縄文土器	深鉢				中期後葉	串田新式	5YR6/6	橙色	白色粒･砂粒･骨針	縦の隆帯と沈線
	76	77		X51Y20　II層	縄文土器	深鉢			7.7	中期～後期		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒･砂粒･骨針	LR斜縄文，底部網代圧痕
	77	77		X48Y10　II層	縄文土器	深鉢			6.4	中期～後期		10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒･砂粒･骨針	底部網代圧痕

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
土製品の法量は左から長さ・幅・厚さとした。

第39表　下山新東遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	胎土色調		釉色調		釉薬	備考
	127	81	SD1	X41Y9	越中瀬戸	火入れ	14.1	5.5	10.3	17C～18C前半	10YR6/3	にぶい黄橙色	7.5YR4/3	褐色	鉄釉	
	128	81	SD2		越中瀬戸	丸椀	10.0	4.7		18～19C	10YR6/4	にぶい黄橙色	7.5YR1.7/1	黒色	鉄釉	
	129	81	SD2	X50Y9	越中瀬戸	丸椀		2.9	5.4	18～19C	2.5Y6/1	黄灰色	N1.5/0	黒色	鉄釉	
	130	82	SD2		近世陶器	椀	13.0	3.4		18C～19C中頃か	2.5Y7/4	浅黄色			透明釉	産地不明
	131	82	SD2		近世陶器	皿	13.2	4.1	6.2	19C	10YR7/4	にぶい黄橙色	2.5Y7/3	浅黄色	釉	白化粧土:10YR8/1灰白色 染付:2.5Y5/1黄灰色 地方窯(中国地方か)
	132	82	SD2		伊万里	椀	11.4	3.2		18C末葉～19C前葉	2.5GY8/1	灰白色	2.5GY8/1	灰白色	白磁釉	染付:2.5PB3/6くすんだ青色
	133	82	SD2		伊万里	椀		5.7	4.4	19C前葉～幕末頃	7.5Y8/1	灰白色	7.5GY8/1	明緑灰色	白磁釉	染付:7.5B5/3暗青灰色, 二次被熱
	134	82	SD2		伊万里	椀		1.4	3.6	18C後半	7.5Y8/1	灰白色	7.5Y8/1	灰白色	白磁釉	染付:7.5B4/4くすんだ青色
	135	82	SD2		伊万里	皿		2.5	6.2	18C後半	N8/0	灰白色	5GY8/1	明緑灰色	白磁釉	染付:7.5B3/4くすんだ青色
	136	81		X41Y11　Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	10.8	2.9	4.8	17C中頃	7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR3/1	黒褐色	鉄釉	
	137	81		X105Y108　Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	9.8	2.3	4.1	17C中頃	2.5Y7/3	浅黄色	5YR3/4	暗赤褐色	鉄釉	
	138	81		X106Y104　Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	11.5	2.8	5.0	17C後半～18C	5YR6/4	にぶい橙色	2.5Y6/3	にぶい黄色	灰釉	
	139	81		X105～106Y104～105 Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	12.2	2.5	5.6	17C後半～18C	2.5Y6/1	黄灰色	7.5YR4/3	褐色	鉄釉	
134	140	81		X108Y111　Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	11.5	2.2	5.1	17～18C	10YR7/3	にぶい黄橙色	7.5YR3/2	黒褐色	鉄釉	内全面施釉
	141	81		X40Y10　Ⅰ層	越中瀬戸	向付		2.2	5.1	17C後半～18C	10YR6/1	褐灰色	7.5YR4/3	褐色	鉄釉	
	142	81		X104Y112　Ⅱ層	越中瀬戸	小壺	5.5	2.5		17～18C	2.5Y6/2	灰黄色	7.5YR3/3	暗褐色	鉄釉	
	143	81		X104Y110　Ⅰ～Ⅱ層	越中瀬戸	小壺		1.2	3.6	17～18C	10YR8/4	浅黄橙色	7.5YR4/1	褐灰色	鉄釉	
	144	81		X102Y111　Ⅱ層	越中瀬戸	壺	8.7	3.3		17～18C	10YR6/3	にぶい黄橙色	5YR4/2	灰褐色	鉄釉	
	145	81		X102Y109　Ⅱ層	越中瀬戸	壺	8.7	4.1		17～18C	7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR3/2	暗赤褐色	錆釉	
	146	81		X47Y15　Ⅱ層	越中瀬戸	壺		3.0	7.1	17～18C	7.5YR6/4	にぶい橙色	5YR4/2	灰褐色	錆釉	
	147	81		X105Y111　Ⅰ層	越中瀬戸	壺	10.4	5.4		17～18C	7.5YR6/2	灰褐色	5YR3/1	黒褐色	鉄釉	
	148	81		X101Y108　Ⅱ層	越中瀬戸	壺		5.6	10.0	17～18C	7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR3/1	黒褐色	錆釉	
	149	81		X106Y112　Ⅱ層	越中瀬戸	擂鉢	20.7	3.1		17～18C	5YR6/4	にぶい橙色	7.5YR4/2	灰褐色	鉄釉	
	150	81		X104Y104　Ⅱ層	越中瀬戸	擂鉢		5.5	12.6	17～18C	2.5Y7/2	灰黄色	5YR4/1	褐灰色	錆釉	
	151	81		X44Y9　Ⅰ層	越中瀬戸	擂鉢	31.8	4.6		17～18C	10YR7/3	にぶい黄橙色	2.5YR4/4	にぶい赤褐色	錆釉	
	152	81		X104Y108　Ⅱ層	越中瀬戸	陶錘	3.1	2.6	23.18	17～18C	10YR7/2	にぶい黄橙色	7.5YR4/3	褐色	鉄釉	孔径1.4cm
	153	81		X106Y109　Ⅱ層	越中瀬戸	陶錘	2.8	3.2	26.71	17～18C	10YR7/2	にぶい黄橙色				孔径1.4～2.3cm(楕円)
	154	81		X103Y110　Ⅱ層	土師器	椀		1.6	5.0	9～10C	7.5YR6/4	にぶい橙色	10YR4/1	褐灰色	鉄釉	
	155	81		X101Y106　Ⅱ層	土師器	椀		1.7	5.4	9～10C	7.5YR6/4	にぶい橙色				

※法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
土製品の法量は左から長さ・幅・重さ(g)とした。

第40表　下山新東遺跡　石製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	石材	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重さ	備考
131	78	78	SD1	X39Y9	石刀か石剣	頁岩	8.7	4.2	4.0	223.1	摩滅著しい，両端欠損
	79	79	SK4		打製石斧	デイサイト	9.5	4.5	1.9	93.5	両面加工，基部欠損
	80	79	SR123	X106Y108　1層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	6.6	2.6	1.4	37.1	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	81	79	SR123	X102Y108　1層	打製石斧	流紋岩	5.3	4.1	1.4	39.7	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	82	79	SR123	X105Y110　1層	打製石斧	デイサイト	5.7	4.9	1.8	63.8	剥片素材，両面加工，基部欠損
	83	79	SR123	X107Y112　1層	打製石斧	砂岩	9.8	4.3	1.4	79.4	剥片素材，周縁加工，刃部一部欠損
	84	79	SR123	X104Y103　1層	打製石斧	デイサイト	8.7	5.0	2.2	105.8	剥片素材，周縁加工，基部磨摩耗痕あり，刃部欠損
	85	79	SR123	X105Y105　1層	打製石斧	頁岩	7.2	5.7	1.4	60.0	剥片素材，周縁加工，刃部表裏に土ずれ痕あり，基部欠損
	86	79	SR123	X106Y112　1層	打製石斧	安山岩	12.3	7.3	2.6	260.0	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	87	79	SR123	X107Y107　1層	打製石斧	デイサイト	11.0	7.9	3.8	248.5	剥片素材，周縁加工
	88	79	SR123	X104Y104　1層	打製石斧	流紋岩	10.7	7.8	2.5	197.1	剥片素材，周縁加工，刃部に刃こぼれあり
	89	80	SR123	X106Y108　1層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	4.8	4.8	1.8	57.0	刃部欠損
	90	80	SR123	X102Y108　1層	磨製石斧	角閃岩?	5.2	4.8	2.4	52.9	刃部の断片
	91	80	SR123	X104Y106　1層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	3.8	3.0	1.0	20.9	基部欠損
	92	80	SR123	X106Y111　1層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	5.6	4.4	1.3	52.3	基部欠損
	93	80	SR123	X107Y111　1層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	6.1	6.4	3.0	153.0	基部欠損
132	94	78	SR123	X105Y108　1層	石錐	チャート	2.4	1.1	0.5	1.0	先端部
	95	78	SR123	X105Y105　1層	石鏃	チャート	1.3	1.4	0.3	0.5	先端部欠損
	96	78	SR123	X108Y106　1層	石刀か石剣	頁岩	8.1	3.5	2.7	62.8	頭部の断片
	97	78	SR123	X105Y107　1層	石刀か石剣	粘板岩	7.7	2.3	0.8	17.0	
	98	78	SR123	X103Y110　1層	石刀か石剣	頁岩	5.4	2.0	1.0	10.4	
	99	78	SR123	X106Y111　1層	石刀	点紋緑泥片岩	5.0	2.7	1.1	24.5	
	100	80	SR123	X102Y110　1層	擦切石器	砂岩	6.6	5.6	1.1	48.8	3面に研磨痕あり
	101	78	SR123	X106Y107　1層	垂飾(未成品)	蛇紋岩(透閃石岩)	5.1	3.5	1.1	34.1	全面研磨痕あり，片面穿孔
	102	80	SR123	X107Y106　1層	石錘	蛇紋岩(透閃石岩)	4.6	3.6	1.5	34.2	
	103	78	SR123	X105Y108　1層	鋸歯縁石器	黒曜石	1.7	2.6	0.6	2.4	両側辺に鋸歯状の刃部あり,黒曜2　諏訪星ヶ台群産
	104	78	SR123	X106Y109　1層	剥片	鉄石英(黄玉石)	2.5	2.7	0.6	3.5	
	105	78	SR123	X106Y110　1層	剥片	翡翠	1.4	1.7	0.5	1.2	
	106	78		X50Y20　Ⅱ層	石鏃	チャート	2.6	1.8	0.4	1.9	先端部衝撃剥離
	107	78		X53Y26　Ⅱ層	石鏃	チャート	3.1	1.6	0.4	1.5	脚部欠損
	108	79		X50Y11　Ⅱ層	打製石斧	砂岩	14.3	5.1	2.1	156.4	礫素材，両面加工
	109	79		Ⅱ層	打製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	11.3	5.4	2.8	200.9	剥片素材，両面加工
	110	79		X45Y13　Ⅱ層	打製石斧	デイサイト	7.4	4.6	2.1	83.1	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	111	79		X48Y10　Ⅱ層	打製石斧	デイサイト	10.4	4.7	1.5	65.8	剥片素材，周縁加工，基部・刃部欠損
	112	79		X45Y11　Ⅱ層	打製石斧	砂岩	6.9	5.5	1.8	80.9	剥片素材，周縁加工，基部・刃部欠損
	113	78		X47Y14　Ⅱ層	剥片	鉄石英(黄玉石)	3.3	1.5	0.6	2.3	
	114	78		X49Y10　Ⅱ層	剥片	瑪瑙	2.0	1.5	1.1	3.1	
133	115	80		X49Y10　Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩(透閃石岩)	7.8	7.1	2.1	182.7	基部欠損
	116	80		X52Y21　Ⅱ層	磨製石斧	角閃岩	8.4	7.3	2.7	294.7	基部欠損
	117	80		X47Y15　Ⅱ層	磨製石斧	蛇紋岩	6.7	4.9	2.0	95.1	基部欠損
	118	80		X49Y16　Ⅱ層	磨製石斧未成品	蛇紋岩(透閃石岩)	5.5	4.1	1.8	65.0	片側面に剥離・敲打痕あり
	119	80		X49Y21　Ⅱ層	大型削器	砂岩	6.8	9.9	1.4	103.3	剥片素材，末端辺を直接打撃で加工
	120	80		X45Y12　Ⅱ層	敲石	砂岩	9.4	7.0	2.3	224.4	側面に敲打痕あり
	121	80		X51Y16　Ⅱ層	敲石	翡翠	7.0	4.5	2.3	115.3	末端に敲打痕あり
	122	82		X50Y10　Ⅱ層	砥石	流紋岩	10.4	3.6	1.7	74.7	砥面は3面

※石材は第Ⅶ章「5　富山県竹ノ内Ⅱ遺跡外における石材鑑定」に詳しい。
表中で「蛇紋岩（透閃石岩）」としているものは，従来，蛇紋岩と称してきたものだが，石材鑑定の結果比重等により透閃石岩と判別されたものである。
ここでは，従来との比較のため「蛇紋岩（透閃石岩）」と表記する。同様に黄玉石としているものは，従来，鉄石英と称しているものと同じである。

第41表　下山新東遺跡　金属製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重さ	備考
133	123	82		X104Y113 Ⅱ層	銭	銅	2.4	2.4	0.2	1.7	寛永通寶
	124	82		X113Y116 Ⅱ層	銭	銅	2.4	2.4	0.2	1.7	寛永通寶
	125	82		X99Y105 Ⅱ層	銭	銀	1.9	1.9	0.2	2.2	旭日竜10銭銀貨
	126	82		X105Y110 Ⅱ層	和鏡	銅	7.7	7.7	0.5	97.9	

第Ⅵ章　下山新遺跡

1　既往の調査

下山新遺跡は古くから縄文時代の遺物が採集されており，馬坂遺跡と呼ばれていた。早川荘作氏は『越中史前文化』（昭和11年刊行）の中で，愛本新・栃木山遺跡出土遺物とともに下山新遺跡出土遺物を紹介している[注1]。『富山県朝日町下山新遺跡第1次発掘調査概報』によると，中村奇霙氏による丹念な採集調査の結果，遺跡の範囲は東西150m，南北200mの範囲にわたることが知られていたという。また同報文中には，昭和24（1949）年頃，道路工事中に炉跡が発見されたり，昭和45（1970）年の県道舟見入善線の拡張工事中に多量の遺物が出土したことなどが触れられている。

昭和47（1972）年から昭和51（1976）年にかけて，朝日町教育委員会と富山県教育委員会によって，ほ場整備事業に先立つ発掘調査が行われた。昭和47年には遺跡を大きく第1～第4地点の4地区に区切り，1区画2m四方として調査が行われた[注2]。遺跡の北東部分にあたる第1地点では石組炉が5基発見され，縄文時代中期前葉（新崎式）の一括遺物が出土している。同様に遺跡の南西部分にあたる第4地点では中期後葉（串田新式）の竪穴住居1棟が検出されている。翌昭和48年には第4地点の竪穴住居検出地周辺が調査され，中期中葉（古府式）のピット郡が検出された。また第3地点（遺跡の北西部分）では，中期中葉の石組炉とこれに重複する竪穴住居が確認されている[注3]。

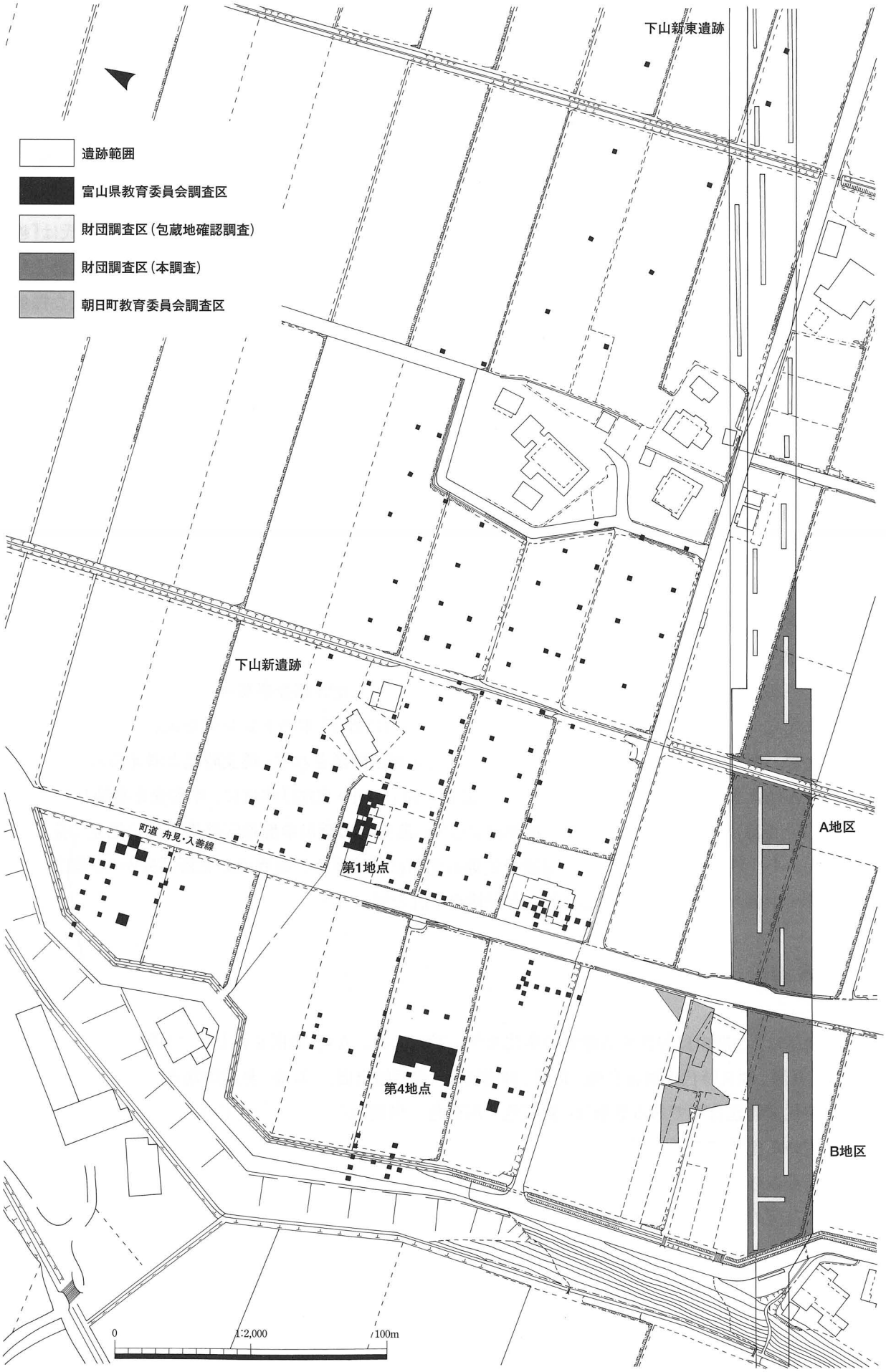
平成12（2000）年には，財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所によって，北陸新幹線建設事業に先立つ包蔵地確認調査が行われた。建設予定地内に計13本のトレンチを入れて遺構の有無を確認したが，遺跡の南端部にあたることから竪穴住居などは確認されず，縄文時代と考えられる穴や谷を確認するに留まった[注4]。この結果を受けて平成13・14（2001・2002）年度に，本調査を実施した。

平成17（2005）年には，朝日町教育委員会によって，農免農道新川中部地区整備事業に先立つ発掘調査が行われた。調査地は，北陸新幹線建設予定地の北側に隣接する。調査地の北西部分から，縄文時代中期前葉～中葉の石組炉4基，埋甕2基などが検出された[注5]。

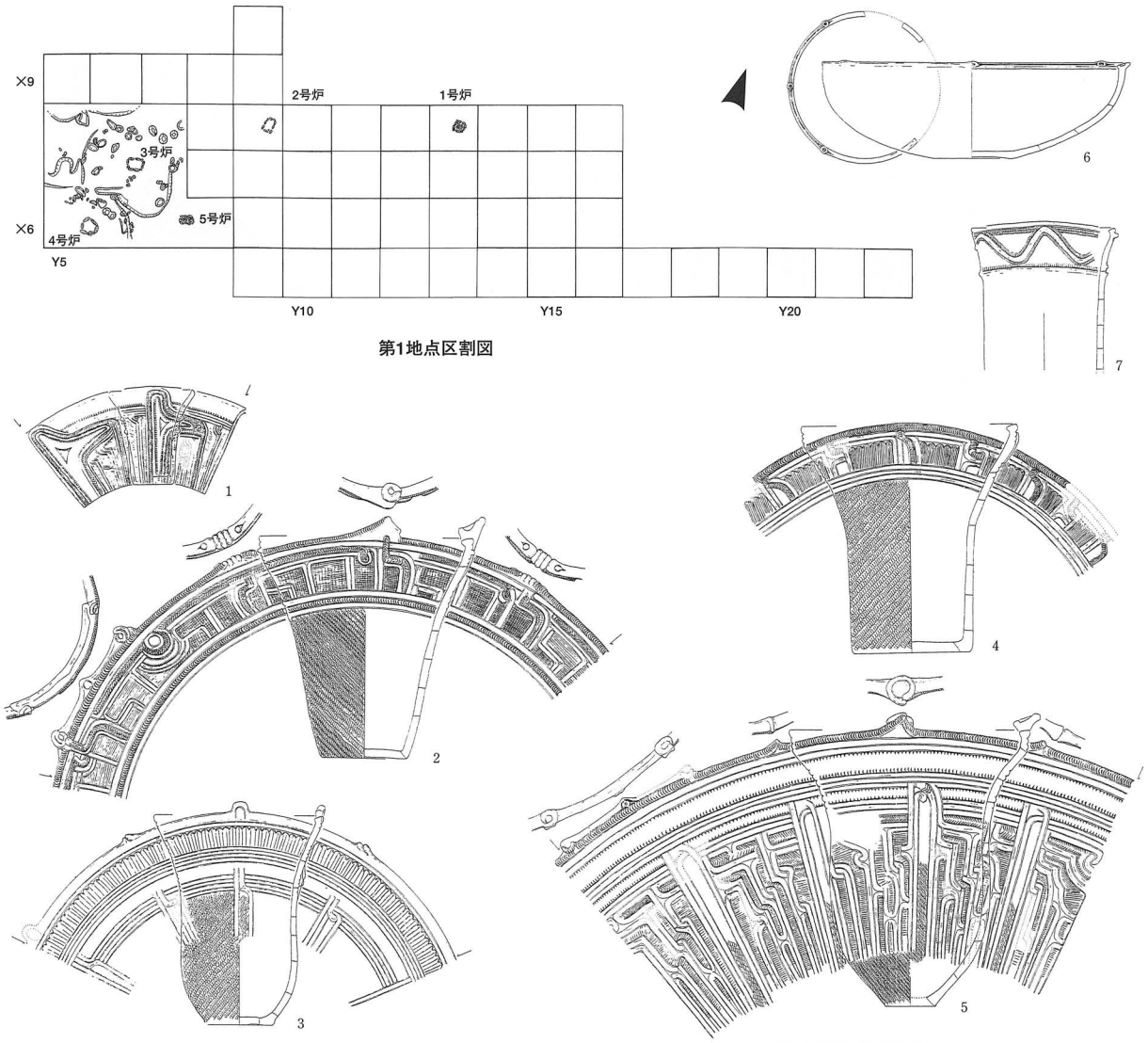
2　基本層序

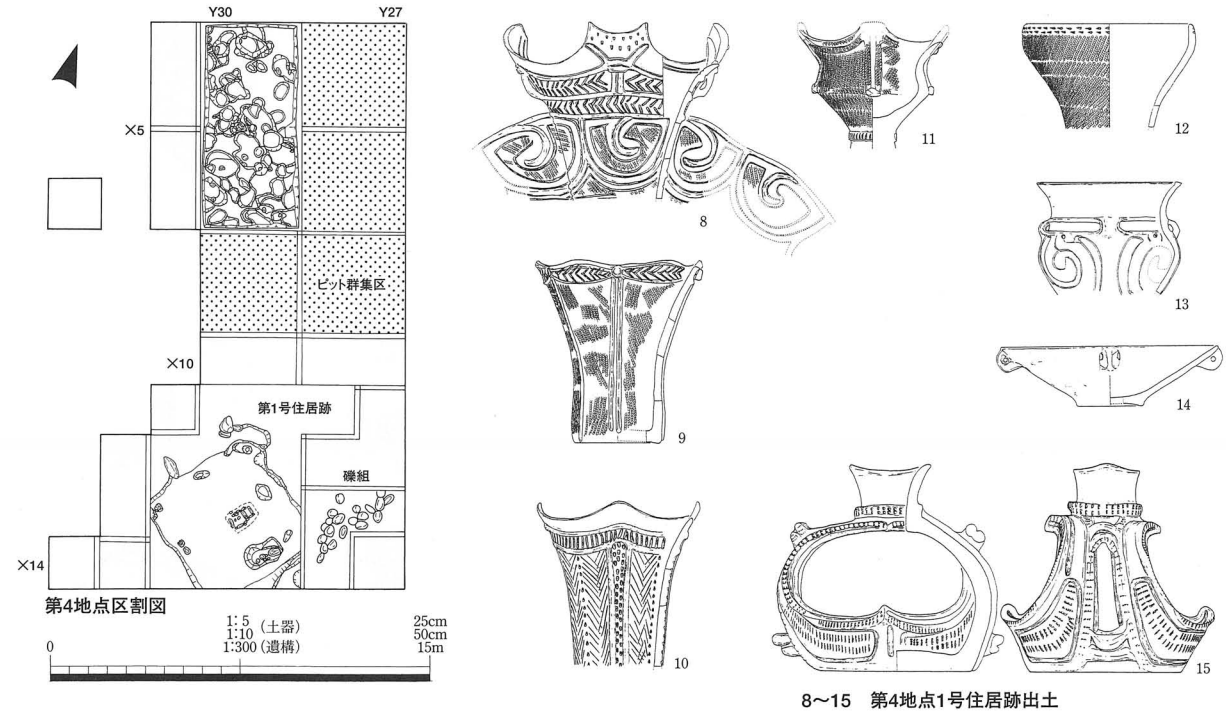
基本層序は，土層中に包含する遺物の年代を基に設定した。A・B地区を通じて，Ⅰ層：耕作土・盛土・整地層，Ⅱ層：縄文時代遺物包含層，Ⅲ層：無遺物層（遺構検出面），Ⅳ層：無遺物層とした。

縄文時代遺物包含層であるⅡ層は，褐灰色・灰褐色・黒褐色を呈する砂混じりの粘土で，比較的固くしまっている土層である。調査部分によりⅡa層，Ⅱb層に細分でき，下層は黒色味を帯びて炭化物が混ざる所もみられる。B地区南西端とA地区北東端においては，後世の削平を受けて残存していない[注6]。またA・B地区の境にある県道舟見・入善線の周辺は旧地形で微高地になっていたと思われ，この範囲でもⅡ層が残存しない所が多い。縄文時代の遺構はⅡb層直下から切り込んでいる。調査区内に倒木痕が多くみられるが，これらも同様にⅡb層直下から切り込んでおり，縄文時代の遺構に切られるものも認められる。よって，倒木痕の大半は縄文時代遺構形成時期と同時期か，それ以前のものであると考えられる。Ⅲ層は黒色・黒褐色を呈する粘土質シルトで，無遺物層である。腐葉土が長期間堆積して形成



第 135 図　下山新遺跡　遺跡範囲・調査位置図　（1：2,000）



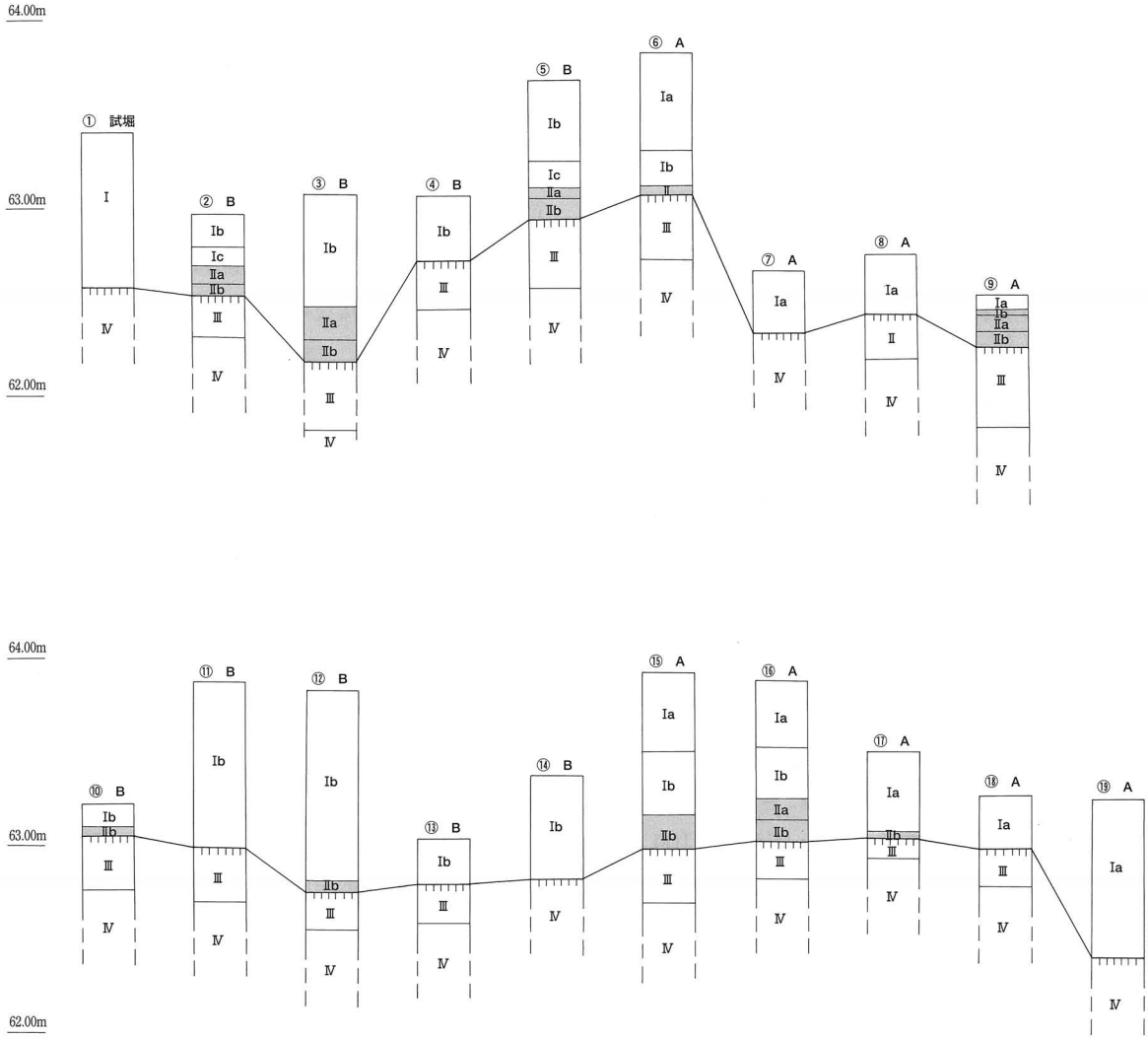


第 136 図　下山新遺跡　既往の調査 1　（遺構 1：300，遺物 1 ～ 14　1/10，15　1/5）

富山県教育委員会 1973『富山県朝日町下山新遺跡第 1 次発掘調査概報』
富山県教育委員会 1974『富山県朝日町下山新遺跡第 2 次発掘調査概報』
から転載，再トレースにあたり，一部改変した。

第 137 図　下山新遺跡　既往の調査 2　（遺構 1：400，遺物 1/5）

朝日町教育委員会 2006『富山県朝日町柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡発掘調査報告書』から転載，一部改変した。



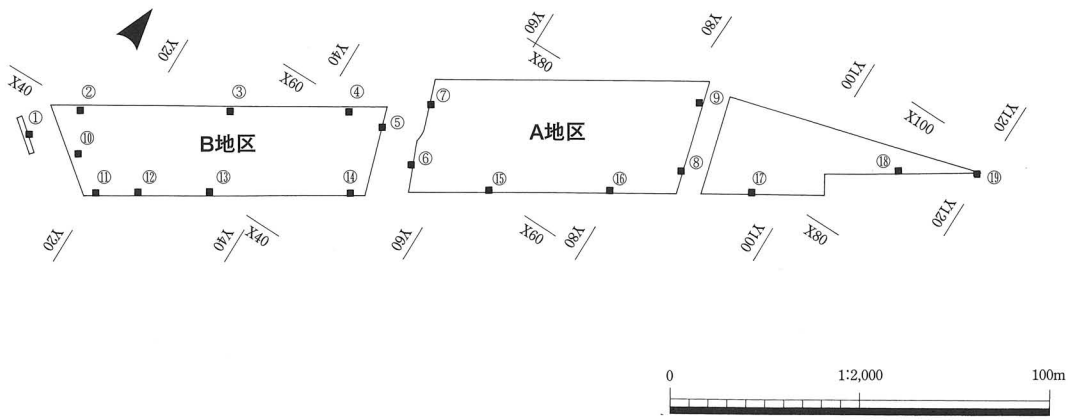
縄文時代遺物包含層

遺構検出面

[表土・整地層]
Ⅰa層：10YR3/2　黒褐色砂質シルト
Ⅰb層：10YR4/1　褐灰色粘土質シルト(A地区)
2.5Y4/3　オリーブ褐色シルト(B地区)
Ⅰc層：2.5Y5/2　暗灰黄色土(B地区)

[縄文時代遺物包含層]
Ⅱa層：7.5YR4/1　褐灰色砂質土(A地区)
7.5YR4/2　灰褐色粘質土，粗砂混(B地区)
Ⅱb層：7.5YR3/1　黒褐色粘土質シルト，砂混(A地区)
7.5YR4/2　灰褐色粘質土，炭化物混(B地区)

[無遺物層]
Ⅲ層：7.5YR1.7/1　黒色枯土質シルト(A地区)
10YR3/1　黒褐色枯土質シルト(B地区)
Ⅳ層：7.5YR5/6　明褐色粘土(A地区)
10YR5/6　黄褐色砂質土(B地区)



第 138 図　下山新遺跡　基本層序模式図　(1:2,000)

されたものと考えられ，空気を多く含む軽くて粒子の細かい土層である。本来であればこの上面が縄文時代の遺構検出面であるが，Ⅲ層の土質が軟質で安定しないことや，Ⅱ層とⅢ層の識別が困難なことから，便宜的にⅣ層近くの色調が褐色を帯びてくる斬移層まで掘り下げて，遺構の検出を行った。Ⅲ層は明褐色・黄褐色の固くしまった粘土を基調とする。A 地区西端から B 地区にかけて砂が混ざり，砂質土となる場所もある。Ⅲ層と同様に無遺物層である。A・B 地区を通じてほぼ全域に大小の礫が多く混ざっており，A 地区中央部や B 地区西部の限られた範囲のみ，礫が若干少ない傾向にある。朝日町教育委員会による発掘調査の報文中，竪穴住居周辺にはほとんど礫がみられないことが記されており[注7]，このことからも今回の調査地が遺跡の縁辺に位置することが推測できる。調査地の標高は 62 ～ 64m を測る。過去の調査事例から，下山新遺跡の中心は，今回の調査地から北西へ 100 ～ 150m 向かった場所の，標高 50 ～ 60m を測る台地上に位置すると考えられる。

3　遺構・遺物

(1) 縄文時代

遺構には，谷，土坑，被熱痕がある。谷は A 地区で 2 条検出している（SR123・169）。いずれも南東から北西方向へ向かう流路状の浅い落ち込みである。土坑・被熱痕は，主なもので A 地区で 12 基，B 地区で 11 基を検出している。これらは，埋土に焼土を含むもの（SK50・52・66・140・173・193・201・411）と，含まないもの（SK19・109・164・174・181・191・203・287・327・329・362・376・377・386・391）に大別できる。焼土を含まない土坑の埋土は，上層で基本層のⅡ層，下層でⅢ層を基調としており，特にⅢ層には炭化物が多く混ざる傾向にある。大半は出土遺物を伴わないことから，性格が不明である。また，埋土に焼土を含む土坑のうち，レンズ状の堆積をみせ，中層から下層にかけて焼土が確認出来たもの（SK52・66・173・193）については，被熱痕とした。概して掘り込んだ様子は顕著ではなく，上面で焚き火などをしたことによる土色の変化と考えられる。

遺物はコンテナで 37 箱出土している。内訳は土器が 10 箱，石器が 27 箱で，大半が遺物包含層から出土している。縄文土器は破片のみで，全体が復元できるようなものはない。中期前葉から後期のものがみられるが，主体は中期にある。石器は，打製石斧，磨製石斧，石鏃，石匙，鋸歯縁石器，ヘラ状石器，削器，石錘，すり石，敲石，砥石，石棒，磨製石斧未成品が出土している。

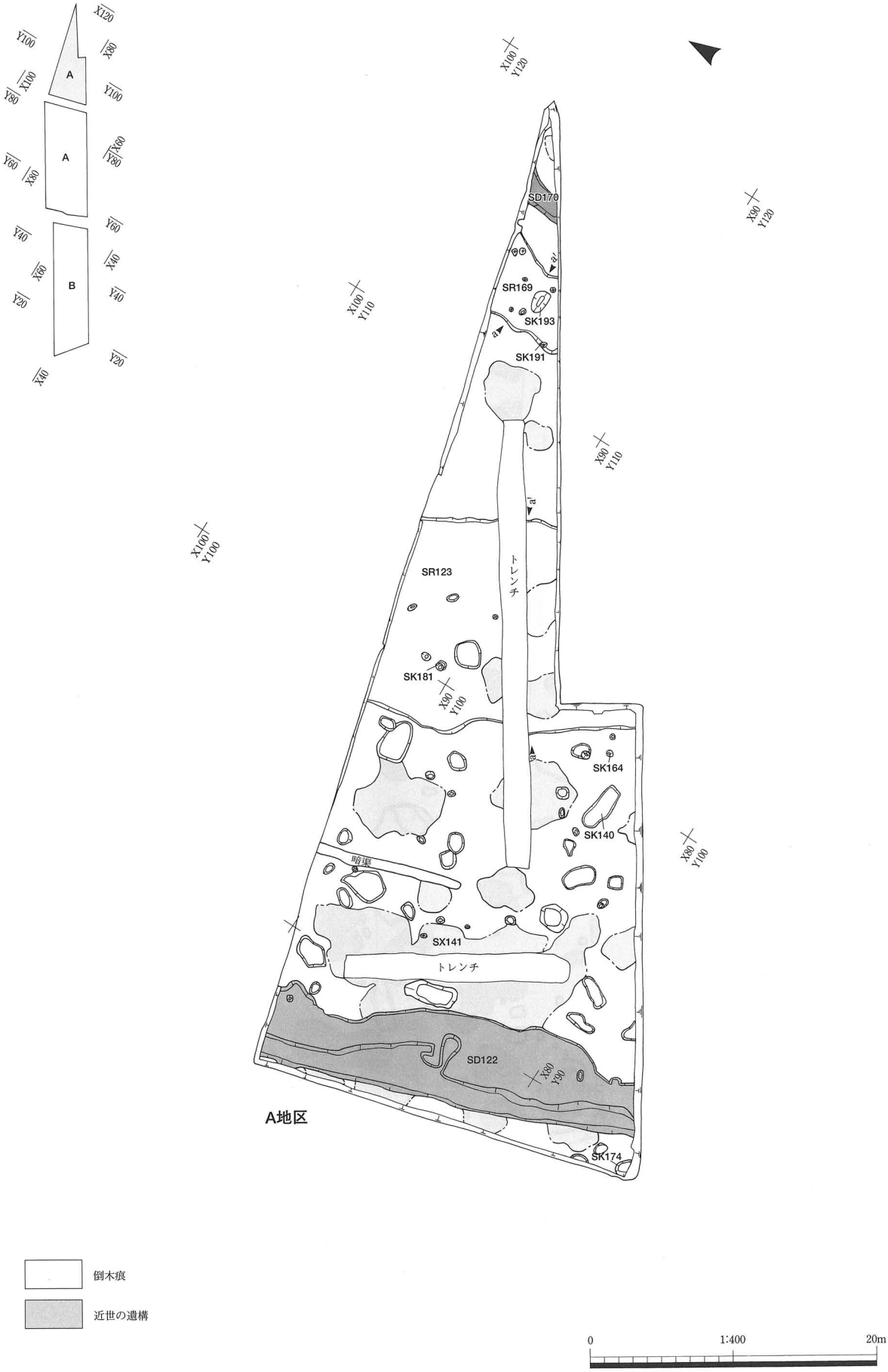
A　谷

123 号谷（SR123，第 142 図，図版 84）

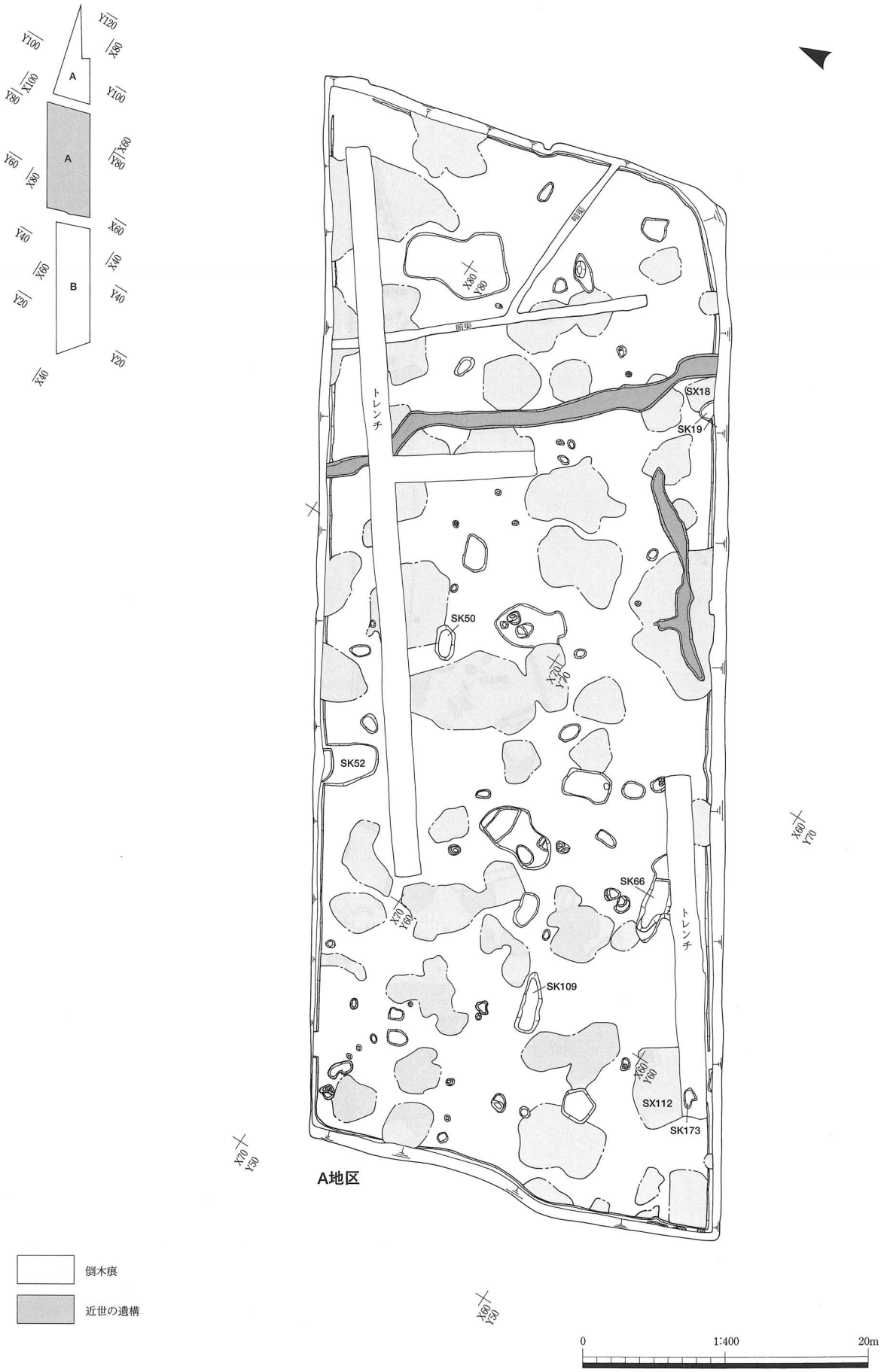
A 地区北東部に位置する。最大幅 15.20m を測り，中心に向かって緩やかに深くなる谷である。検出面から地山のⅣ層までの深さは 0.55m を測る。埋土は基本層のⅡb 層・Ⅲ層が自然堆積したものであるが，Ⅲ層は全体に厚く堆積し，Ⅱb 層は若干窪んだ中央部分に薄く堆積する。Ⅲ層上面が本来の検出面であることを考えると，更に浅い窪地状の自然地形であった可能性が高い。上層（Ⅱb 層）から縄文土器の小片が出土している。

169 号谷（SR169，第 142 図，図版 84）

A 地区北東の端部近くに位置する。最大幅 5.85m を測る緩やかな落ち込みである。検出面から地山のⅣ層までの深さは 0.17m を測る。埋土は基本層のⅢ層が自然堆積したものである。SR123 の例から考えると埋土上層にはⅡb 層に対応する土層が薄く堆積していた可能性もあるが，上層は削平されていて確認できなかった。遺物は出土していない。



第 139 図　下山新遺跡　縄文時代遺構全体図
A 地区



第 140 図　下山新遺跡　縄文時代遺構全体図
A 地区

第 141 図　下山新遺跡　縄文時代遺構全体図
B 地区

第 142 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図

1. SR123　2. SR169

B　土坑・被熱痕

19 号土坑（SK19，第 143 図）

A 地区西部南東端に位置する。南側は調査区外にかかるため北側の約半分を検出している。倒木痕 SX18 と重複しており，遺構の検出作業が困難であったため，検出面が低く，且つ平面形が一回り小さくなっている。調査区壁の断面において，切り込み面がⅡb 層直下であること，SX18 を切り込んでいること，東西の長さが約 3.2m，検出面からの深さが 0.54m を測ることを確認している。埋土は黒褐色粘土質シルトや暗赤褐色粘土質シルトなど 5 層からなり，炭化物を多く含む。縄文土器の小片が出土している。

50 号土坑（SK50，第 143 図，図版 85）

A 地区西部中央に位置する。長径 2.40m，短径 1.29m の楕円形で深さは 0.19m を測る。埋土は黒褐色粘土質シルトを基調とし，北東部分の上層に焼土（赤褐色粘土）の堆積がみられた。遺構の底面や壁面には被熱した様子は見られなかったため，別の場所で形成された焼土が SK50 内部に堆積したと考えられる。埋土全体に炭化物が多く含まれており，このうち同定可能な炭化材 3 点について樹種同定を行った。いずれもクリであるとの結果を得ている。遺物は出土していない。

52 号土坑（SK52，第 143 図，図版 85）

A 地区西部中央北端に位置する。北側は調査区外にかかるため南部分を検出している。平面形では東西の長さは 2.83m，調査区壁までの南北の長さは 3.71m を測るが，調査区壁の断面において検出面における東西の長さは約 5m を測っており，本来一回り大きな規模であった可能性が高い。切り込み面はⅡb 層直下である。埋土は土坑内全域で黒色粘土質シルトを基調としており，北側の一段掘り窪められた範囲においてのみ，暗赤褐色・暗赤灰色粘土質シルトの焼土・炭化物層を検出した。埋土全体に炭化物が含まれており，焚き火の跡と考えられる。縄文土器の小片が出土している。

66 号土坑（SK66，第 144 図，図版 85）

A 地区西部南西に位置する。南側はトレンチにかかるが，長径 6.48m，短径 2.02m の長大な楕円形を呈する。埋土上層は炭化物混じりの黒褐色粘土質シルト，中層は暗赤褐色粘土質シルトを基調とする焼土がみられた。焼土層は土坑内のほぼ全域に広がっており，焚き火の跡と考える。出土遺物はない。

109 号土坑（SK109，第 145 図）

A 地区西部中央西よりに位置する。長径 4.25m，短径 1.63m の楕円形を呈する。上層には黒褐色，下層には黒色で粘性の強い粘土質シルトが堆積しており，炭化物を多く含む。このうち同定可能な炭化材 3 点について樹種同定を行った。いずれもクリであるとの結果を得ている。遺物は，指頭圧痕の残る焼成粘土塊と縄文土器の小片が出土している。

140 号土坑（SK140，第 144 図，図版 85）

A 地区東部中央南よりに位置する。長径 3.30m，短径 1.08m の楕円形を呈する。暗赤灰色・暗赤褐色粘土質シルトの焼土層が土坑全域の上層に広がっており，下層に炭化物混じりの赤黒色・黒色粘土質シルトが堆積している。SK50 と同様に他の場所で形成された焼土が SK140 内部に埋められたものと考えられる。遺物は出土していない。

173 号土坑（SK173，第 145 図）

A 地区西部南西に位置する。長さ 0.86 ～ 1.36m の不整形な土坑である。トレンチの底面で倒木痕 SX112 と重複して検出しているため，上面がかなり削平されていると考えられる。土層断面は倒木痕に類似するが，色調が周囲の遺構と異なり赤色味を帯びることから，被熱痕のひとつとして捉えたい。

おそらく，上面で焚き火などをした結果，被熱によりⅣ層の土の色調が変化したものであろう。遺物は出土していない。

174 号土坑（SK174，第 145 図）

A 地区東部南西角に位置する。南側は調査区外にかかるため，北側半分を検出している。調査区壁の断面において，Ⅱ b 層直下から切り込んでいること，東側は近世の溝 SD122 に切られていることを確認している。また，検出した平面形は東西 1.30m，深さ 0.38m を測るが，切り込み面における遺構の幅は約 2m，深さ 0.82m を測っており，一回り規模が大きい土坑であった可能性が高い。埋土上層は黒褐色粘土質シルト，下層は黒色粘土質シルトを基調とし，上面のⅡ b 層との境には褐灰色細砂が薄く堆積する。遺物は出土していない。

181 号土坑（SK181，第 145 図，図版 85）

A 地区東部中央に位置する。直径 0.66 ～ 0.73m の円形の穴で，北西側が一段深く掘り込まれており，深さ 0.56m を測る。埋土は炭化物混じりの黒色粘土質シルトの単層である。遺物は出土していない。

191 号土坑（SK191，第 145 図）

A 地区東部北東角の SR169 西肩に位置する。直径 0.35 ～ 0.45m，深さ 0.08m を測る浅い円形の穴である。埋土は黒色粘土質シルトを基調とし，粒状の炭化物を多く含む。遺物は出土していない。

193 号土坑（SK193，第 145 図，図版 85）

A 地区東部北東角の SR169 底面で検出した被熱痕である。長径 1.60m，短径 0.99m の楕円形を呈し，深さは 0.35m を測る。上層には黒色粘土質シルトが堆積しており，中層から下層にかけて暗赤褐色粘土質シルトの焼土がみられる。遺物は出土していない。

201 号土坑（SK201，第 146 図）

B 地区中央西より北端に位置する。北側は調査区外にかかるため，南側半分を検出している。検出した平面形は幅 0.84m の楕円形を呈し，深さ 0.24m を測る。調査区壁断面において，Ⅱ b 層直下から切り込むこと，切り込み面から底面までの深さは最大 0.28m を測ることを確認している。埋土は黒褐色粘質土を基調とし，炭化物と焼土を多く含む。遺物は出土していない。

203 号土坑（SK203，第 146 図）

B 地区北東部に位置する。長径 0.76m，短径 0.41m の楕円形で，深さは 0.45m を測る。断面形は逆三角形状を呈し，中央部が擂鉢状に深くなる。埋土は黒褐色粘質土を基調とし，底部近くの壁面にはⅣ層（黄褐色砂質土）の混入が見られる。遺物は出土していない。

329 号土坑（SK329，第 146 図，図版 86）

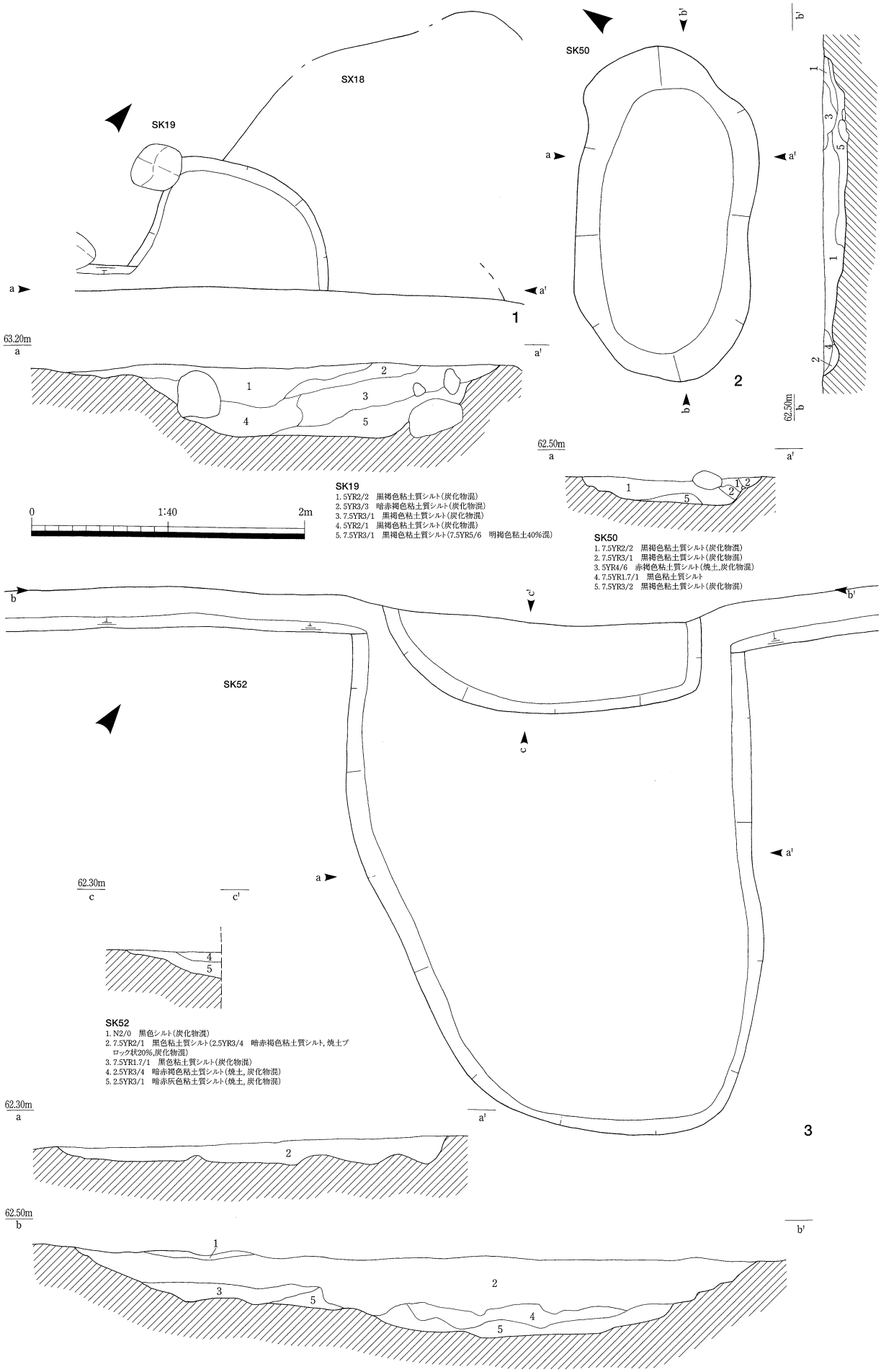
B 地区中央西よりに位置する。直径 1m のややいびつな円形で，深さは 0.27m を測る。埋土は灰褐色粘質土を基調とし，中層にしまりの良い黒褐色粘質土が堆積する。遺物は出土していない。

377 号土坑（SK377，第 146 図）

B 地区中央北よりに位置する。北側がトレンチにかかるため，南側の一部を検出している。長さは最大で 4.68m を測る大きな半円形を呈する。埋土は灰褐色粘質土の単層で，深さは最も深いところで 0.16m と浅い。縄文土器の小片が出土している。

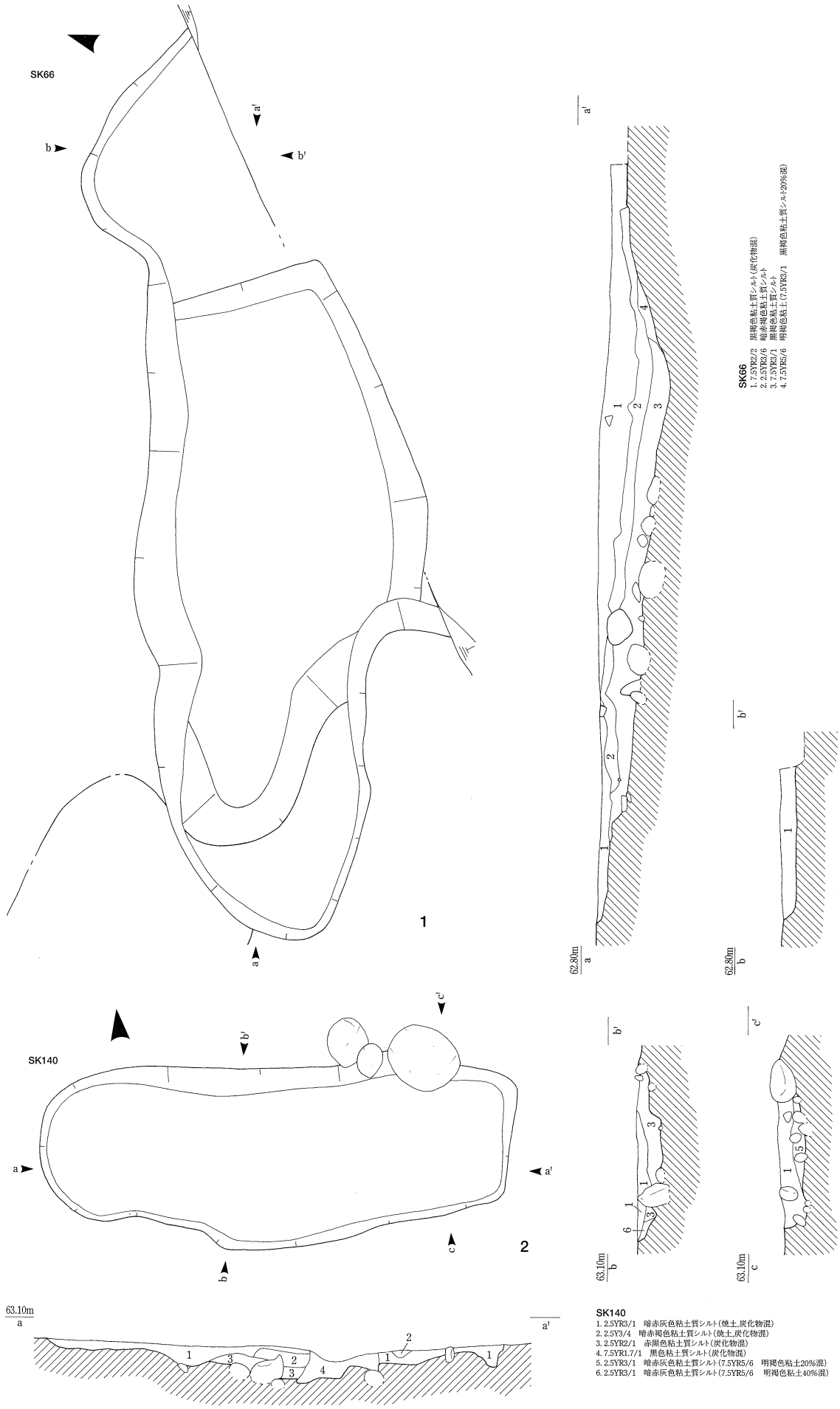
386 号土坑（SK386，第 146 図，図版 86）

B 地区中央南端に位置する。長径 0.42m，短径 0.35m の楕円形の穴で，深さは 0.11m を測る。埋土は黒褐色粘質土を基調とし，遺構の上層には炭化物が偏在していた。このうち同定可能な炭化材 3 点について樹種同定を実施し，いずれもクリであるとの結果を得ている。また遺構埋土については，花粉分析



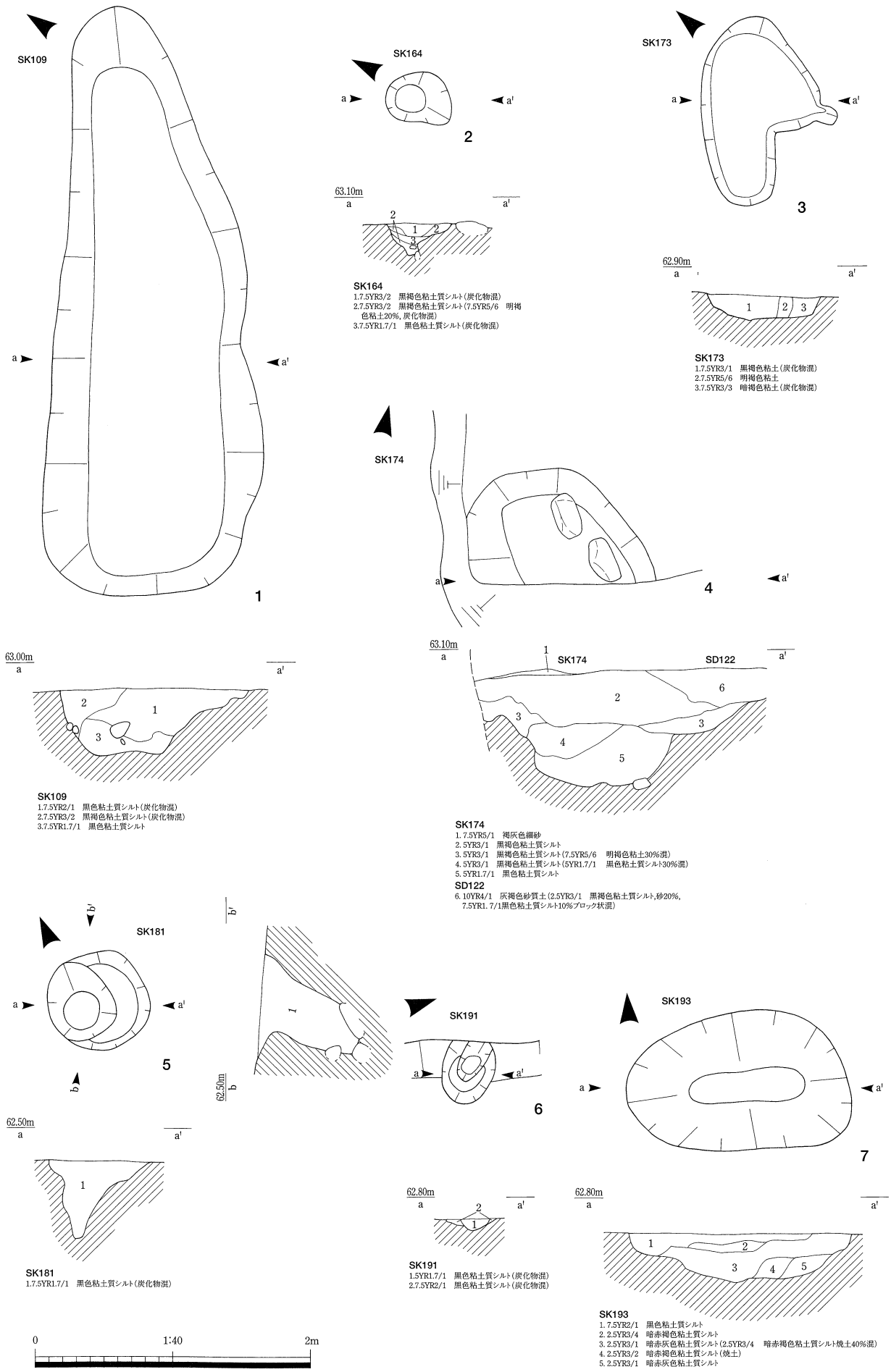
第 143 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図

1. SK19　2. SR50　3. SK52



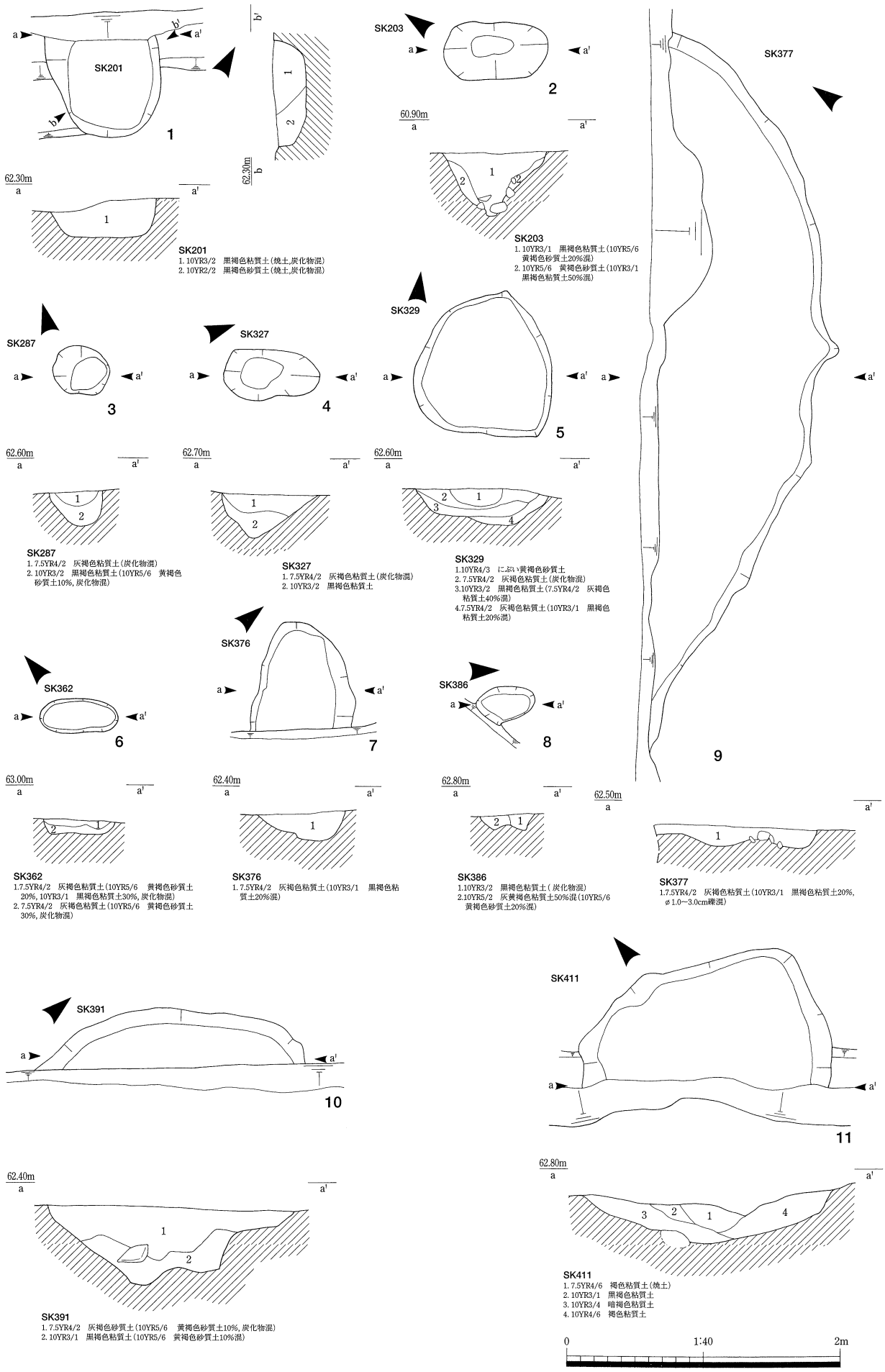
第 144 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図

1. SK66　2. SK140



第 145 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図

1. SK109　2. SK164　3. SK173　4. SK174　5. SK181　6. SK191　7. SK193



第 146 図　下山新遺跡　縄文時代遺構実測図

1. SK201　2. SK203　3. SK287　4. SK327　5. SK329　6. SK362　7. SK376　8. SK386　9. SK377
10. SK391　11. SK411

と植物珪酸体の分析を併せて行った。土器等の遺物は出土していない。

411 号土坑（SK411，第 146 図）

B 地区西端北よりに位置する。西側が調査区外にかかるため，東側半分を検出している。長さ 1.7m の円形になると思われ，深さは 0.29m を測る。埋土上層に褐色粘質土を基調とする焼土が堆積する。遺物は出土していない。

C　包含層出土遺物

縄文土器（第 147・148 図，図版 87 ～ 89）

1 ～ 3 は口縁部に蓮華文をもつ深鉢。中期前葉の新崎式に比定される。4 ～ 23・25 は半截竹管で器面を飾る深鉢で，隆帯上に爪形文や綾杉状刻みを施すものもある。中期中葉を中心とするが，12・19 は中期前葉に遡る。24 は無文で口縁部に突起を持つ。26 は手づくねの小型土器。内外面に指頭痕が残る。27 ～ 38 は浅鉢。器表面に磨きや丁寧なナデを施しているが，36 には特に丁寧な横方向の磨きが残る。27 は口縁部に玉抱き三叉文を彫り込む。28 ～ 32 は口縁部に半截竹管文をもつ。27・30 は中期前葉，他は中期中葉を中心とする時期である。39 ～ 43 は貝殻腹縁文と沈線文が施されるもので，中期後葉の串田新式に比定される。44･45 は断面三角形状の突線文を縦位に貼り付け，底部に網代圧痕が残る。同一個体の可能性がある。後期初頭の岩峅野式に比定できる。46 は頸部に沈線を持つ深鉢。後期初頭。47 は縄文と沈線で大木式の文様構成を持つ。中期後半。48 は沈線文を持つ口縁部小片。前期末か。49 は細かい爪形文を押す口縁部片。新道式か。50 は横位に隆起線が 3 条みられる浅鉢。内面に丁寧な磨きが残る。後期初頭（岩峅野式）に比定される。53 ～ 66 は粗製土器の口縁部。67 ～ 75 は底部片で，胴部下半に縄文が施される。概ね中期を中心とする時期に収まるものである。

土製品（第 148 図，図版 88）

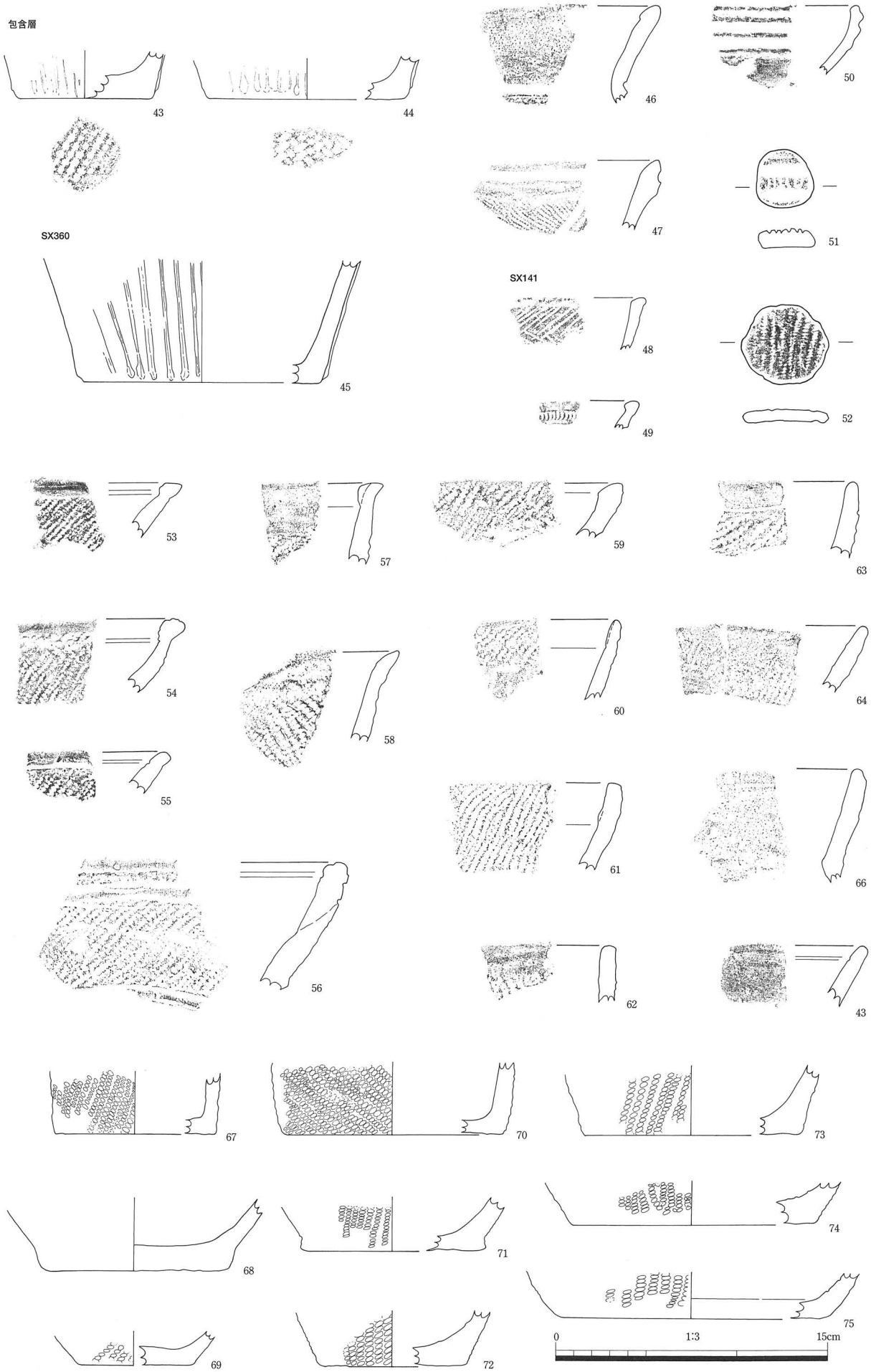
51・52 は円盤状土製品である。B 地区の遺物包含層から出土している。土器片の周囲を打ち欠いて円形にする。51 は半隆起線とヘラの連続刺突文，52 には RL 縄文がみられる。

石製品（第 149 ～ 157 図，図版 89 ～ 97）

76 は横型石匙。丁寧な両面加工を施し，刃部は規則的な押圧剥離で形成する。石材はサヌカイト。77 はヘラ状石器。横長剥片の周囲に直接打撃を加え，素材剥片の縁辺を刃部とする。石材は硬質頁岩。78 は尖頭器の先端部断片。縁辺に押圧剥離がみられる。石材は鉄石英（黄玉石）。79 ～ 83 は削器。剥片の縁辺部を加工して刃部とするもので，79・81 ～ 83 はバルブを直接打撃で除去している。84 は剥片の周縁を加工するもので，礫器とした。砂岩製。85 は剥片の縁辺に直接打撃で鋸歯状の刃部を作り出す。砂岩製。86 は黒曜石の小角礫の縁辺に使用による微細剥離痕がみられる。

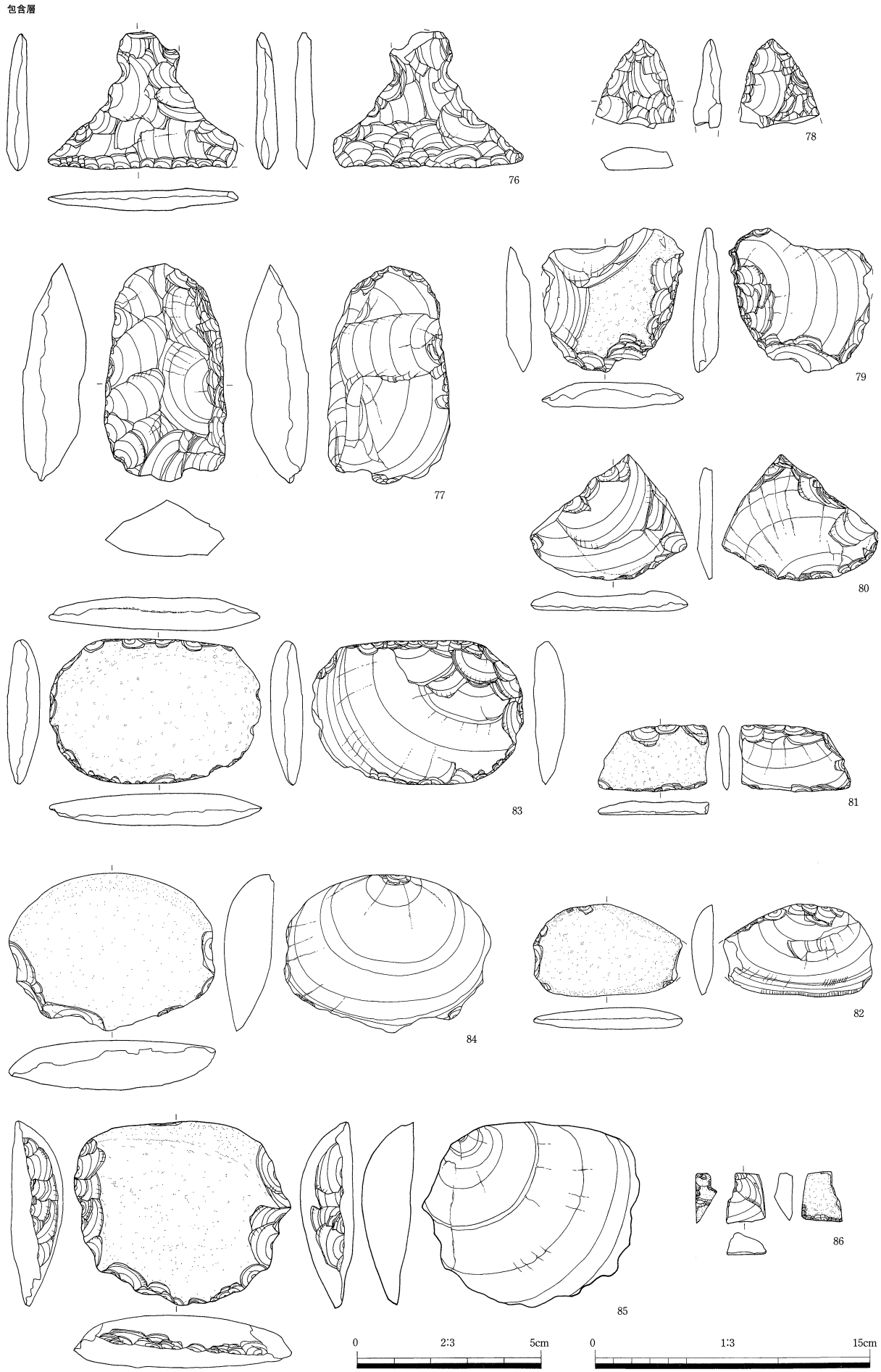
87 ～ 142 は打製石斧である。形態は短冊形 52 点，撥形 2 点，分銅形 2 点で，短冊形が最も多い構成である[注8]。石材は砂岩が最も多く 20 点，次いでデイサイトが 10 点，流紋岩が 9 点，頁岩 4 点，ホルンフェルス 3 点等である。87 ～ 96 は短冊形の打製石斧。基部幅と刃部幅は，殆ど同じ長さか，若干刃部に向かって広がっている。側辺部は直線的なものが多いが，96 は僅かに内側へ湾曲している。剥片素材で周縁を加工するものが多いが，90・94 は礫を素材として両面を直接打撃により加工している。87 ～ 89 の刃部表裏には土ずれ痕がみられ，88 の基部には摩耗痕が残る。91・93 は刃部が刃こぼれする。94・96 の側辺部には丁寧な敲打痕がみられる。97 ～ 100 は基部幅よりも刃部幅が長いが，1.5 倍に満たないもの。短冊形に分類されるが，両側辺が内湾して撥状に近い形状となる。剥片を素材とし，周縁を直接打撃で加工する。101・102 は撥形の打製石斧。刃部幅が基部幅の 1.5 倍以上あり，全長が最大幅の 2 倍に満たないものである。剥片素材で 101 の周縁には加工がみられるが，102 は小型のため，剥片の縁辺

第 147 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

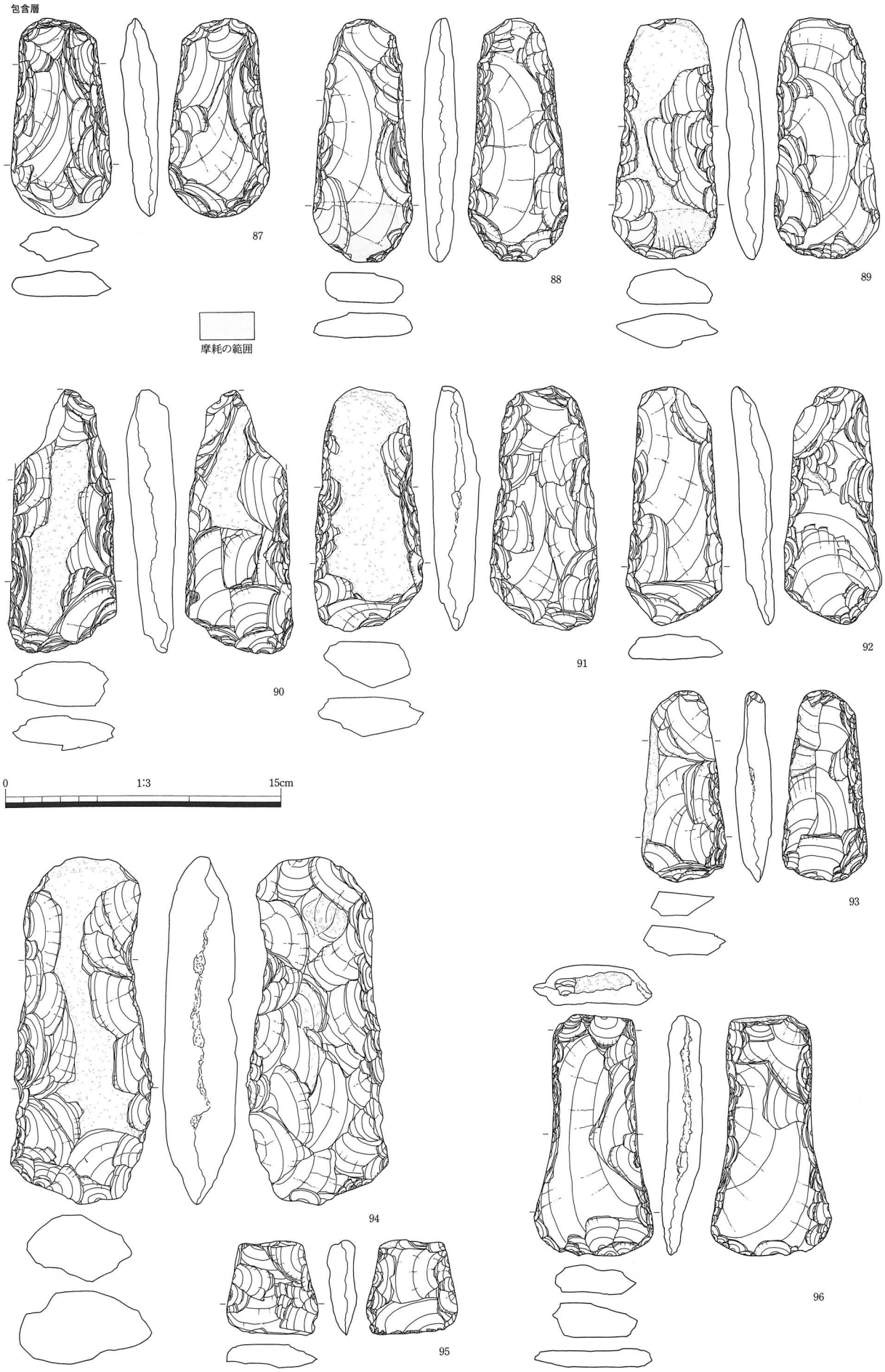


第 148 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)

SX360(45)　SX141(48)　包含層

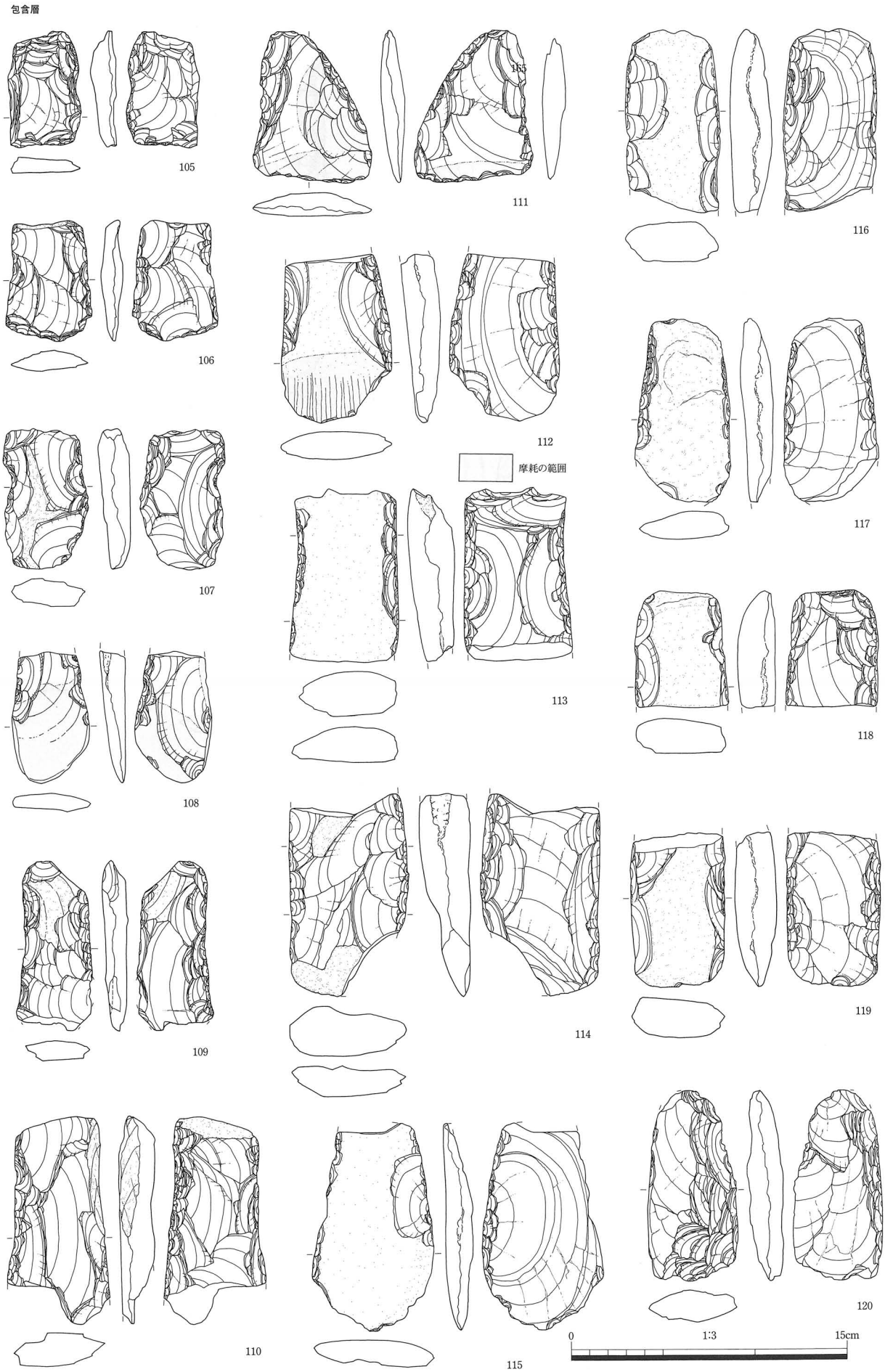


第149図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　（76・77・78　2/3，79～86　1/3）
包含層



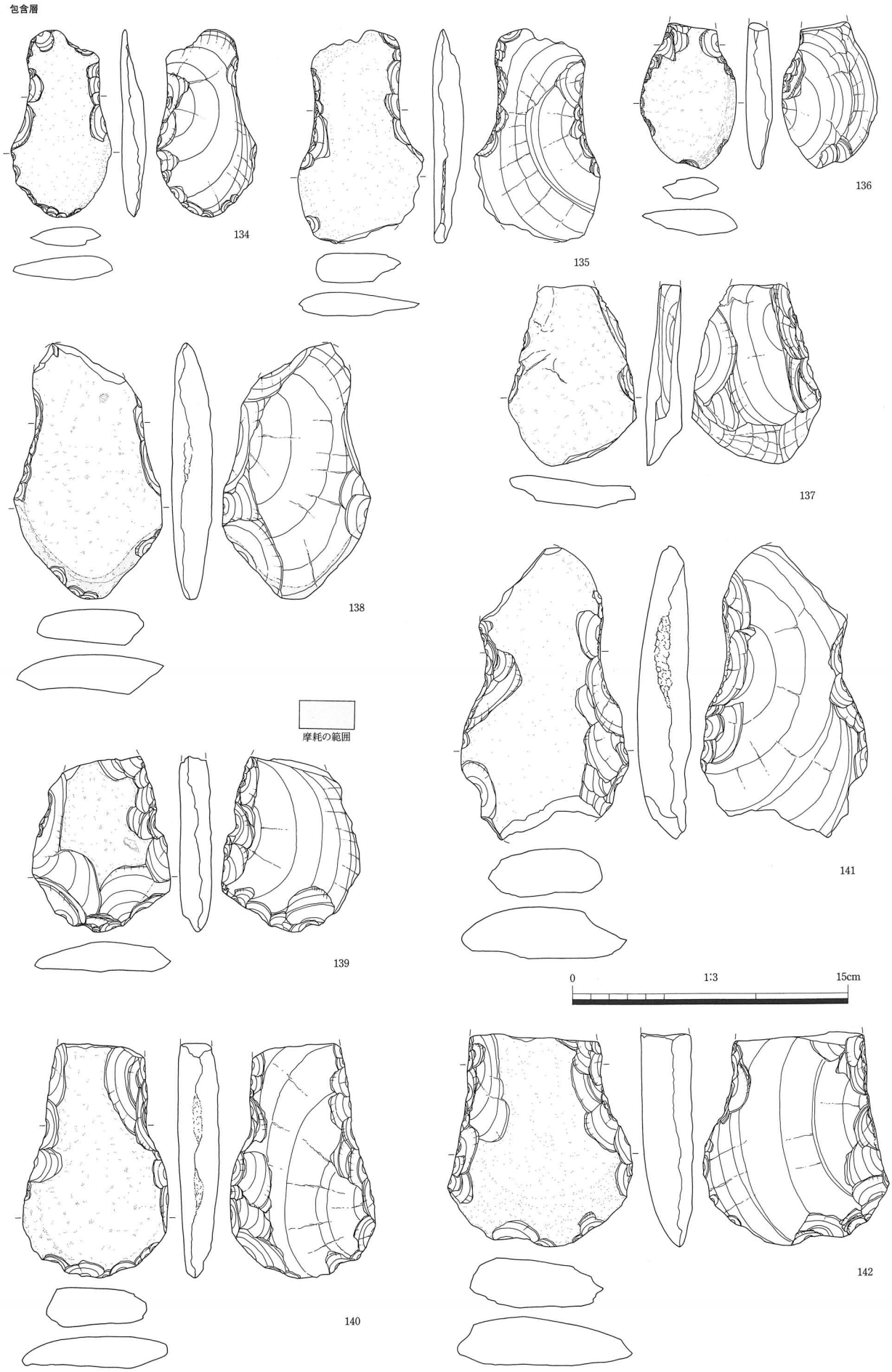
第 150 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

第 151 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

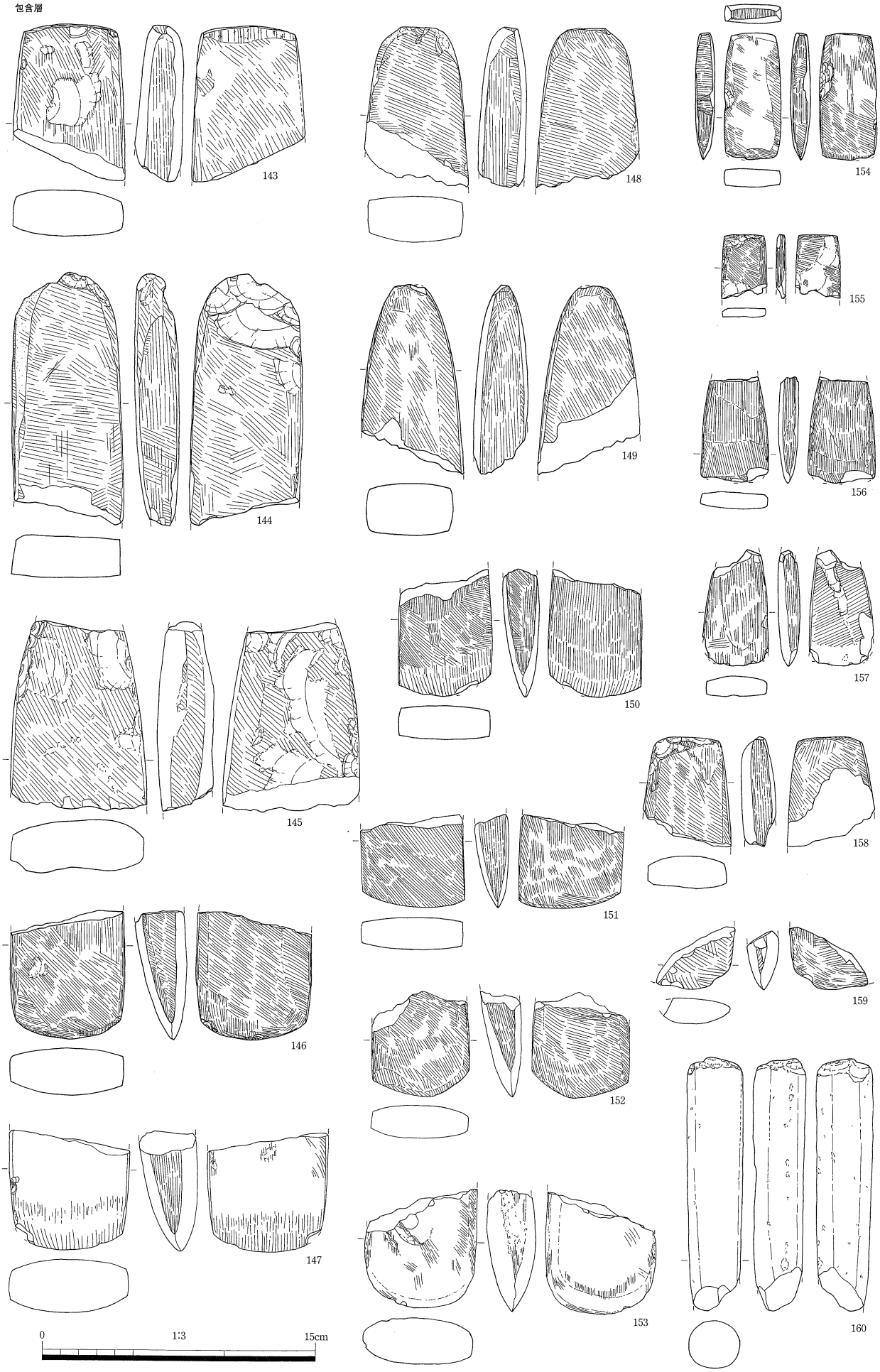


第 152 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

第 153 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
SX3 (130)　SX54 (129)　包含層



第 154 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

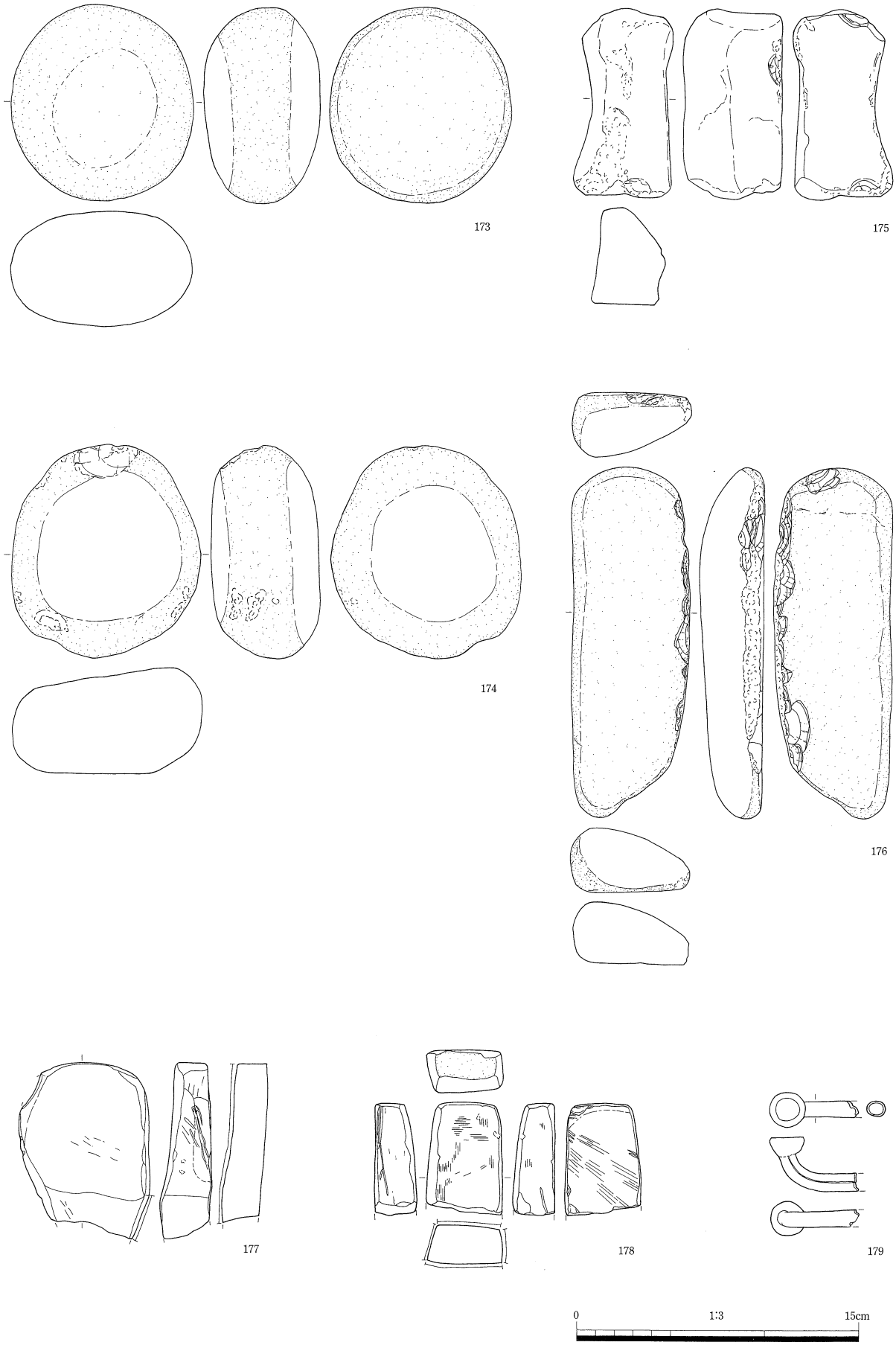


第 155 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

包含層

第 156 図　下山新遺跡　縄文時代遺物実測図　(1/3)
包含層

包含層



第 157 図　下山新遺跡　縄文時代・近世遺物実測図　(1/3)
包含層

をそのまま刃部とする。101の側辺部には敲打痕がみられる。103・104は分銅形の打製石斧。中央部両側辺を大きく抉り，上下端を刃部とする。103の抉り部分には丁寧な敲打痕がみられる。105～142は大きく欠損するもの，調整が簡易で形態が不安定な打製石斧をまとめた。105～131は短冊形のもので，長方形に近い形状を示すものである。132～142も短冊形に分類されるが基部幅よりも刃部幅が長くなるもの。いずれも剥片を素材とし，周縁部を直接打撃で加工する。108・111・112・138・139には刃部に土ずれ痕がみられる。113の基部は一度欠損したものが再加工されている。114・141の側辺には丁寧な敲打痕がみられる。120の刃部は刃こぼれする。

143～159は磨製石斧である。150の刃部表裏には線状の使用痕がみられる。154は小型の完形品である。石材は143･147が凝灰岩他は蛇紋岩（透閃石岩）である。160は石棒。基部を敲打により整形する。先端部の破損は，石棒の基部側を手に持つか何らかの固定をした後，突くような動作をした結果生じたことが伺える。161～171は磨製石斧未成品。石材は161が結晶片岩，他は全て蛇紋岩（透閃石岩）である。161～168は原石の両側辺に剥離と敲打を加える。169は表裏に研磨痕がみられる。170は扁平な楕円形礫の片側辺を敲打し，反対の側辺を研磨する。171には擦り切り技法がみられる。172は磨製石斧の断片に剥離がみられる。磨製石斧への再加工が試みられたものか。173・174はすり石。円礫の表裏をすり面とする。174は周縁を敲石として使用した可能性がある。175・176は敲石。角張る側辺部に敲打痕が残る。177は砥石。表面と側面が砥面として使用される。

(2) 近世～近代

A　溝

122号溝（SD122，第139・158図，図版98）

A地区東部西端を調査区に沿って北流する。現在A地区の東部と西部の境に農業用水路が通っていることから，ほ場整備以前に使用されていた水路の跡と考えられる。Ⅰ層直下から切り込んでおり，切り込み面からの深さは最深部で0.67mを測る。埋土は黄灰色砂質土を基調とし，黒褐色粘土質シルトや黒色粘土質シルトが帯状・ブロック状に混入する。下層には黒褐色粘土やグライ化された暗青灰色粘土が堆積する。本来，幅2m程度の溝であったと思われるが，調査区南壁の断面からは東から西へ3回流路の改変が行われていることがわかり，結果，最大幅は6.32mを測る。遺物は縄文土器，越中瀬戸（180），伊万里（181）が出土した。180は越中瀬戸の灯明受皿。受け部の短い，浅く広がった器形である。体部は回転ナデ，外底面は回転糸切り。口縁部から内全面に鉄釉を施す。18世紀後半～19世紀のものである。181は銅板型紙刷りの皿。明治以降のものである。

170号溝（SD170，第139・158図，図版98）

A地区東部東端を北流する。Ⅰａ層直下から切り込んでいることから近代の遺構と考えられる。最大幅2.77m，切り込み面からの深さは最深部で0.65mを測る。埋土はレンズ状の堆積を示しており，上層は黒褐色砂質土，中層に褐灰色粘質土，下層に灰黄褐色砂が堆積する。遺物は，越中瀬戸（182・183），肥前（184），伊万里が出土している。182・183は越中瀬戸の小壺。鉄釉が施される。18世紀代のものである。184は唐津の刷毛目皿である。

B　包含層出土遺物

陶磁器（第158図，図版97・98）

185～203は越中瀬戸である。185～189は皿。185のみ内底面に釉止めの段が薄く残るため，17世紀中頃，他は17世紀後半～18世紀代と考えられる。189は体部外面に段が入る。蓋かと思われたが僅

かに残る高台内面が無釉であったため，皿とした。190･191は向付。いずれも内底面に釉止めの段が残る。192～194は丸椀。黒褐色の鉄釉を施すもので，18世紀代。195は天目茶椀。胎土が灰色で黒色粒を含むため，東黒牧窯の可能性がある。196～198は擂鉢。198は内面の卸目が消えるまで使い込んでいる。199～201は壺。肩の張らない器形で18世紀代のものか。202・203は匣鉢の底部である。外底面に回転糸切り痕を残す。204は唐津の擂鉢。鉄釉を施す。205は瓦器の火鉢。口縁部から垂下する突帯を貼り付ける。206は伊万里の皿。見込みを蛇の目釉剥ぎし，体部内面に二重格子文を描く。207は伊万里の人形。型打成形で頭部に継ぎ目が残る。全面に白磁釉をかける。

石製品（第157図，図版97）

178は砥石。石材は流紋岩で，中砥石である。4面が砥面となる。正面の砥面が斜めに反りの入った湾曲をみせており，鎌などを研いだものと思われる。中世以降のものである。

金属製品（第157図，図版97）

179は煙管の雁首。脂返しが大きく湾曲して火皿にとりつくもので，火皿と首部の接合部に補強帯はみられない。18世紀前半のものである。

4　まとめ

下山新遺跡では，縄文時代と近世～近代の遺構を検出した。縄文時代の遺構としては，谷，土坑，被熱痕を検出するにとどまった。谷は自然地形の浅いもので，遺物の出土も少ない。土坑についても大半は共伴遺物がなく，性格が不明である。包含層から出土した遺物の分布も特定地域に偏ることなく調査区全域に散見される。遺跡の中心は，過去の調査で中期中葉～後葉の竪穴住居が確認されている北西部にあったと思われ，今回の調査区は遺跡の縁辺部の様相を呈している。今回の調査では，埋土に焼土が認められる土坑4基，レンズ状の堆積がみられる被熱痕4基が確認でき，焚き火の可能性に触れられる遺構である。自然科学分析の結果，土坑埋土に含まれていた炭化材はいずれもクリであり，ササ属の茎葉も燃料として使用されていたことが判った[注9]。縄文時代の集落縁辺部における土地活用の一例として捉えたい。近世～近代の遺構としては溝がある。調査区内からは，17世紀後半以降，18世紀代の陶磁器が出土しており，この頃から付近が開発され始めたと考えられる。　（朝田亜紀子）

注

注1　早川荘作 1936『越中史前文化』

注2　富山県教育委員会 1973『富山県朝日町下山新遺跡第1次発掘調査概報』

注3　富山県教育委員会 1974『富山県朝日町下山新遺跡第2次発掘調査概報』

注4　財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所 2001『北陸新幹線関係埋蔵文化財包蔵地調査報告（2）竹ノ内Ⅱ遺跡 柳田遺跡 井ノ口城跡 下山新東遺跡 下山新遺跡』

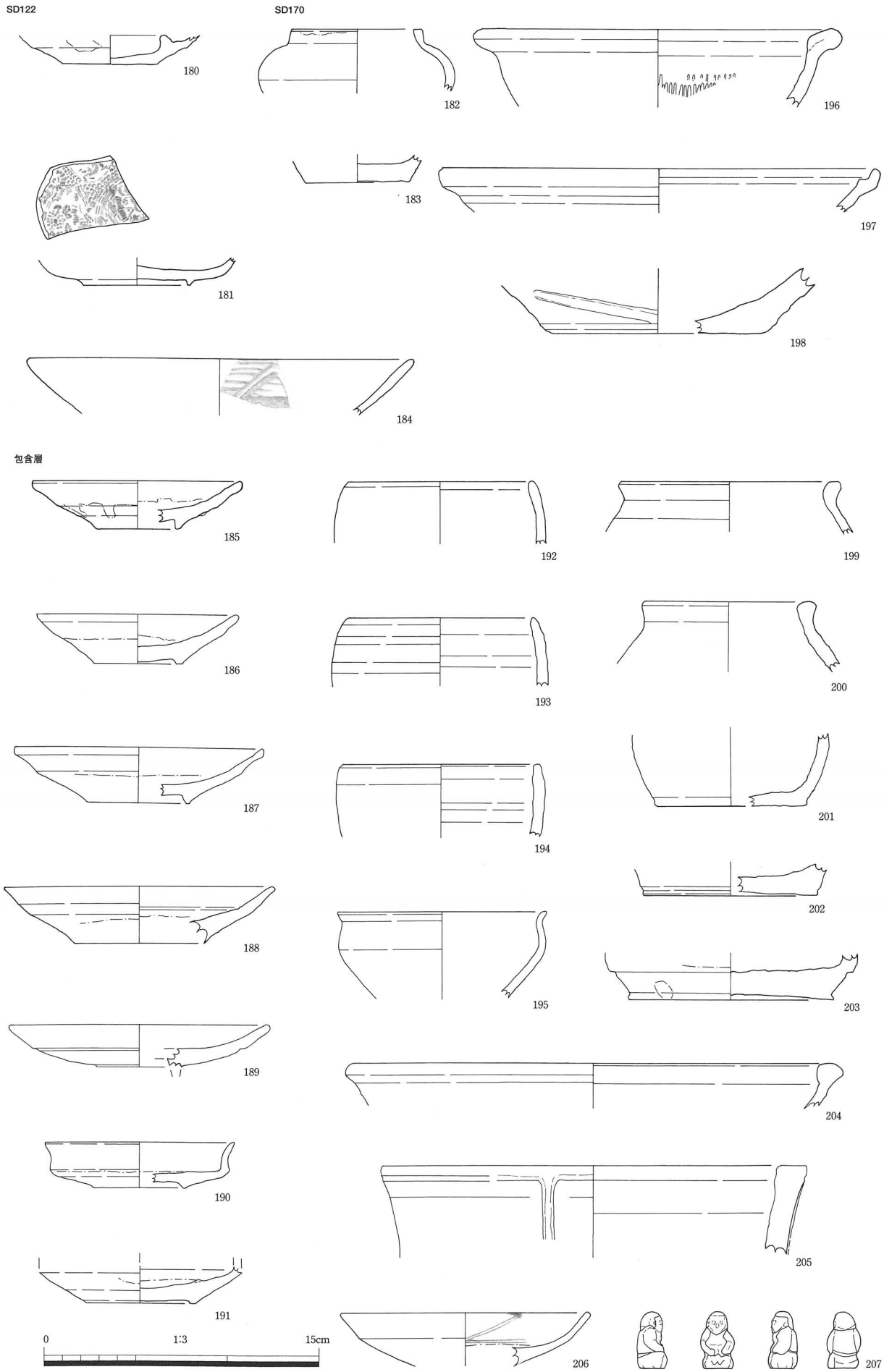
注5　朝日町教育委員会 2006『富山県朝日町柳田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡 発掘調査報告書』

注6　第138図の土層柱状図①で示した試掘位置については，平成13（2001）年10月9日に財団法人富山県文化振興財団埋蔵文化財調査事務所が調査したものである。トレンチを入れた結果，耕作土の直下がⅣ層となっており，遺物も出土しなかったことから，B地区西側から段丘崖の範囲については，本調査の必要なしと判断した。

注7　注5に同じ

注8　打製石斧の形態分類は，鈴木次郎「3.石器Ⅱ打製石斧」『縄文文化の研究 第7巻 道具と技術』に拠った。

注9　第Ⅶ章自然科学分析「6　下山新遺跡における自然科学分析」に詳しい。



第 158 図　下山新遺跡　近世遺物実測図　(1/3)
SD122（180・181）　SD170（182・183・184）　包含層

第 42 表　下山新遺跡　縄文時代　谷一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	挿図	写真図版
		幅	深さ			
SR123	A-SR123	13.51～15.20	0.55	縄文土器	142	84
SR169	A-SR169	4.23～5.85	0.17		142	84

第 43 表　下山新遺跡　縄文時代　土坑・被熱痕一覧

遺構	旧遺構番号	遺構種類	平面形	規模(m)			出土遺物	特記	挿図	写真図版
				長さ	幅	深さ				
SK19	A-SK19	土坑	楕円	(1.37)	(0.95)	0.54	縄文土器	>SX18	143	
SK50	A-SK50	土坑	楕円	2.40	1.29	0.19		炭化材樹種同定(クリ)	143	84
SK52	A-SK52	被熱痕	楕円	(3.71)	2.83	0.20～0.60	縄文土器		143	84
SK66	A-SK66	被熱痕	不整	6.48	(2.02)	0.12～0.45			144	84
SK109	A-SK109	土坑	楕円	4.25	1.63	0.48	縄文土器,焼成粘土塊	炭化材樹種同定(クリ)	145	
SK140	A-SK140	土坑	不整	3.30	1.08	0.16～0.23			144	85
SK164	A-SK164	土坑	円	0.46	0.36	0.22			145	
SK173	A-SK173	被熱痕	不整	1.36	8.60	0.17		>SX112	145	
SK174	A-SK174	土坑	円	(1.30)	(0.82)	0.38		<SD122	145	
SK181	A-SK181	土坑	円	0.73	0.66	0.56			145	85
SK191	A-SK191	土坑	円	(0.45)	0.35	0.08		埋土に炭化物を含む	145	
SK193	A-SK193	被熱痕	楕円	1.60	0.99	0.35		<SR169	145	85
SK201	B-SK01	土坑	円	0.84	(0.77)	0.24			146	
SK203	B-SK03	土坑	楕円	0.76	0.41	0.45			146	
SK287	B-SK87	土坑	円	0.40	0.40	0.25			146	
SK327	B-SK127	土坑	楕円	0.69	0.44	0.32			146	
SK329	B-SK129	土坑	隅丸	1.00	1.00	0.27			146	86
SK362	B-SK162	土坑	楕円	0.51	0.24	0.21			146	
SK376	B-SK176	土坑	楕円	(0.78)	0.67	0.20	縄文土器		146	
SK377	B-SK177	土坑	楕円	4.68	(1.15)	0.16	縄文土器		146	
SK386	B-SK186	土坑	楕円	0.42	0.35	0.11		炭化材樹種同定(クリ), 花粉分析, 植物珪酸体分析	146	86
SK391	B-SK191	土坑	楕円	1.85	(0.43)	0.58			146	
SK411	B-SK211	土坑	円	1.70	(0.84)	0.29			146	

規模の(　)付数値は切り合いなどによる現存長を示す。

第 44 表　下山新遺跡　縄文時代　倒木痕一覧

遺構	旧遺構番号	出土地点	平面形	規模(m)			出土遺物	特記事項
				長さ	幅	深さ		
SX2	A-SX 2	X82～85Y83～85	不整形	(5.36)	(3.81)	0.76	縄文土器	
SX3	A-SX 3	X83～87Y79～82	不整形	(10.00)	(5.07)	0.95	打製石斧	
SX6	A-SX 6	X75～78Y79～82	不整形	(7.30)	(3.45)		縄文土器	
SX18	A-SX18	X70～72Y81～82	不整形	(2.65)	(2.10)	0.63		<SK19
SX21	A-SX21	X72～73Y77～78	不整形	2.15	1.95	0.45	縄文土器	
SX37	A-SX37	X67～69Y72～75	不整形	(10.47)	(5.42)	0.75	縄文土器	
SX39	A-SX39	X71～75Y74～77	不整形	6.96	4.75	0.45	縄文土器	
SX54	A-SX54	X71～72Y59～60	不整形	3.70	2.83	0.65	打製石斧	
SX61	A-SX61	X67～68Y68～69	不整形	(3.06)	(2.90)	0.48		<SK62
SX79	A-SX79	X64～66Y62～64	不整形	4.70	(3.85)		縄文土器	
SX112	A-SX112	X58～61Y59～61	不整形	(5.70)	(5.23)			底面で被熱痕跡(SK173)を確認
SX141	A-SX141	X81～90Y87～91	不整形	19.34	3.05	0.72	縄文土器	
SX297	B-SX97	X44～46Y36～37	楕円	3.56	2.33	0.57	縄文土器	
SX360	B-SX160	X36～39Y19～24	不整形	10.81	1.79	0.80	縄文土器	
SX385	B-SX185	X37～38Y30～31	不整形	3.49	2.41	0.70	縄文土器	
SX393	B-SX193	X48Y25～26	楕円	(2.00)	(1.58)		縄文土器	<SK201
SX394	B-SX194	X57～58Y44～46	不整形	(6.00)	3.00		縄文土器	SK395と重複,新旧関係不明
SX395	B-SX195	X56～57Y46～47	不整形	4.21	1.72			SK394と重複,新旧関係不明
SX398	B-SX198	X47～48Y36～39	不整形	(3.74)	6.23		縄文土器	

規模の(　)付数値は切り合いなどによる現存長を示す。
平面形のみ確認したものは, 深さを空欄とした。

第 45 表　下山新遺跡　近世～近代　溝一覧

遺構	旧遺構番号	規模(m)		出土遺物	特記	挿図	写真図版
		幅	深さ				
SD122	A-SD122	4.10～6.32	0.67	縄文土器, 越中瀬戸, 伊万里	用水跡	139	
SD170	A-SD170	1.47～2.77	0.65	越中瀬戸, 肥前, 伊万里		139	

第46表　下山新遺跡　縄文土器・土製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	文様の特徴
147	1	87		X40Y21　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒	蓮華文
	2	87		X76Y70　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	7.5YR6/6	橙色	白色粒・砂粒・骨針	半隆起線とヘラ連続刻み
	3	87		X46Y27　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・砂粒	爪形文と蓮華文
	4	87		X84Y82　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉～中葉		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・砂粒	隆帯上に爪形文を施文
	5	87		4T　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・骨針	波状口縁，爪形文と半隆起線，斜縄文RL
	6	87		X80Y88　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉		10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	半隆起線と爪形文
	7	87		X64Y69　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉		10YR8/2	灰白色	白色粒・砂粒	半隆起線とヘラ刻み
	8	87		X69Y75　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉～中葉		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・砂粒・骨針	半隆起線
	9	87		X79Y71　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	半隆起線
	10	87		X46Y27　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒	半隆起線，波状口縁
	11	87		X76Y70　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	隆帯と半隆起線による渦巻文，三角形彫去あり
	12	87		X64Y67　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒・雲母・骨針	RLの斜縄文地に縦の半隆起線を引く，三角形彫去あり
	13	87		X75Y80　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	波状口縁・口縁部に玉抱き三叉文あり，隆帯上に爪形文を施文
	14	87		X68Y68　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒	隆帯上に爪形文を施文，突起貼付け
	15	87		X81Y80　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	5YR6/6	橙色	白色粒・透明粒	波状口縁，隆帯上に爪形文施文，三角形彫去あり
	16	87		X60Y45　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR7/6	橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	隆帯上ヘラ刻み，コスモス文，三角形彫去あり
	17	87		X46Y35　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・透明粒	波状口縁，隆帯上綾杉状刻み，口縁部に玉を置く，三角形彫去なし
	18	87		X84Y82　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・透明粒・砂粒・雲母	隆帯上綾杉状刻み
	19	87		X89Y86　Ⅰ～Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉～中葉		7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒	縦の半隆起線文
	20	87		X62Y64　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒	玉と三叉文の彫込み，突起貼り付け
	21	87		X60Y57　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	RL斜縄文，渦巻文貼り付け
	22	87		X69Y75　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	5YR4/2	灰褐色	白色粒・砂粒・骨針	隆帯上爪形文施文，半隆起線と三叉文
	23	87		X51Y31　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期中葉	天神山式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒	隆帯上爪形文施文，眼鏡状突起，渦巻文
	24	87		X80Y81　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新崎式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・骨針	突起
	25	87		X40Y21　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉～中葉		10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒	コスモス文
	26	88		X48Y21　Ⅱ層	縄文土器	小型土器	5.0	2.3	1.4	縄文		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・砂粒	指頭圧痕
	27	88		X80Y81　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期前葉	新崎式	10YR6/3	浅黄橙色	白色粒・透明粒・骨針	玉抱き三叉文
	28	88		X43Y32　トレンチ	縄文土器	浅鉢				中期中葉	天神山式	7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒	半截竹管で横線と円を押し引く
	29	88		X84Y83　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期中葉	天神山式	5YR6/6	橙色	白色粒・透明粒・砂粒	半隆起線
	30	88		表採　Ⅰ層	縄文土器	浅鉢				中期前葉	新崎式	10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒・砂粒	半隆起線
	31	88		X48Y27　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期前葉～中葉		10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒	半隆起線
	32	88		X46Y35　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期中葉		10YR3/1	黒褐色	白色粒・透明粒	半隆起線
	33	88		X78Y73　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期		10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	口唇部三叉文彫込み
	34	88		X78Y77　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	口唇部半截竹管押し引き
	35	88		X81Y78・X81Y80 Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・骨針	口唇部半截竹管押し引き
	36	88		X46Y35　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期		10YR4/2	灰黄褐色	白色粒・骨針	外面横方向の細かい磨き
	37	88		X40Y21　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期		7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・砂粒・骨針	口唇部半截竹管押し引き
	38	88		X40Y28　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期		10YR7/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒	口唇部半截竹管押し引き

第46表　下山新遺跡　縄文土器・土製品一覧（2）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	時期	詳細時期	胎土色調		胎土の特徴	文様の特徴
147	39	88		X65Y62　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				中期後葉	串田新式	7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・砂粒	区画内に貝殻連続刺突
	40	87		X65Y70　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期後葉	串田新1式	10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒	隆帯に貝殻文を施す，幅広の半隆起線
	41	87		X68Y58　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期後葉	串田新1式	5YR4/3	にぶい赤褐色	白色粒・透明粒・砂粒	口縁部に櫛状具連続刺突
	42	87		X47Y30　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期後葉	串田新式	5YR5/6	明赤褐色	白色粒・砂粒	縦方向の沈線
148	43	87		X46Y35　Ⅱ層	縄文土器	深鉢			7.4	中期後葉	串田新式	10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・砂粒	縦方向の隆帯と細沈線，底部網代圧痕
	44	87		X40Y20　Ⅱ層	縄文土器	深鉢			11.0	後期初頭	岩峅野式	7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	ジ101と同一個体か，断面三角形状の貼り付け突線文，底部網代圧痕
	45	87	SX360		縄文土器	深鉢			11.0	後期初頭	岩峅野式	10YR7/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒	断面三角形状の貼り付け突起文，底部網代圧痕
	46	89		X50Y35　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				後期初頭	前田式	10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	口縁部ナデ，横沈線
	47	89		X41Y26　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				後期後半		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	細かい縄文と沈線文
	48	89	SX141	X85Y91	縄文土器	深鉢				前期末?		10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒	矢羽状沈線
	49	89		X80Y78　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期前葉	新道式?	10YR5/2	灰黄褐色	白色粒・砂粒	連続ヘラ刻み
	50	88		X75Y64　Ⅱ層	縄文土器	浅鉢				後期初頭	岩峅野式	10YR4/2	灰黄褐色	白色粒・骨針	横3条 隆起線
	51	88		X55Y38　Ⅱ層	土製品	円盤状土製品	3.2	3.2	0.8	中期中葉		5YR6/6	橙色	白色粒	半隆起線上をヘラ連続刻み
	52			X45Y20　Ⅱ層	土製品	円盤状土製品	4.3	4.9	0.6	中期		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒	RL縦縄文
	53			X51Y34　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	口縁部ナデ，LR斜縄文
	54	88		X47Y24　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		5YR6/6	橙色	白色粒・透明粒・砂粒	口縁部半截竹管押し引き，LR斜縄文
	55	88		X32Y41　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		7.5YR7/3	にぶい橙色	白色粒・砂粒	口縁部外面半截竹管押し引き，内面沈線，LR斜縄文
	56	88		X75Y69　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		7.5YR4/2	灰褐色	白色粒・透明粒・骨針	口縁部(2条)と頸部に半隆起線，RL斜縄文
	57	88		X69Y75　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		5YR6/6	橙色	白色粒・透明粒・砂粒	口縁部ナデ，LR斜縄文
	58	88		X45Y22　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒・雲母・骨針	口縁部ナデ，RL斜縄文
	59	88		X63Y60　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		10YR4/2	灰黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	LR斜縄文
	60	88		X66Y62　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒・透明粒・砂粒	LR斜縄文
	61	88		X64Y69　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・骨針	LR斜縄文
	62	88		X62Y65　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・透明粒・骨針	口縁部ナデ，RL斜縄文
	63	88		X70Y77	縄文土器	深鉢				中期		10YR5/3	にぶい黄褐色	白色粒・透明粒・雲母・骨針	口縁部ナデ，縄文との境に横沈線，LR斜縄文
	64	89		4T⑥	縄文土器	深鉢				中期		7.5YR6/3	にぶい褐色	白色粒・砂粒・骨針	口縁部ナデ，RL縦縄文
	65	89		X67Y71　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期～後期		10YR7/3	にぶい黄橙色	白色粒・砂粒	口縁部ナデ，口唇部に浅い横沈線
	66	89		X43Y35　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期～後期		7.5YR5/4	にぶい褐色	白色粒・砂粒	口縁部ナデ，内面に横沈線1条引く
	67	88		X82Y80　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		7.5YR6/6	橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	LR斜縄文
	68	89		X46Y33　Ⅱ層	縄文土器	深鉢			10.3	中期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	表面摩滅
	69	88		X40Y26　Ⅱ層	縄文土器	深鉢			6.4	中期		5YR4/6	赤褐色	白色粒・砂粒	RL斜縄文
	70	88		X60Y57　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期		10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・骨針	RL斜縄文
	71	89		X56Y41　Ⅱ層	縄文土器	深鉢			10.2	中期～後期		10YR6/4	にぶい黄橙色	白色粒・砂粒	RL縦縄文
	72	89		X66Y66　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期～後期		7.5YR6/4	にぶい橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	RL縦縄文
	73	89		X35Y22　Ⅱ層	縄文土器	深鉢			12.0	中期～後期		7.5YR7/4	にぶい橙色	白色粒・砂粒	RL縦縄文
	74	89		X62Y64　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期～後期		10YR6/3	にぶい黄橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	RL縦縄文
	75	89		X70Y75　Ⅱ層	縄文土器	深鉢				中期～後期		5YR6/6	橙色	白色粒・透明粒・砂粒・骨針	RL縦縄文

法量の数値は残存部が少なく計測不能な場合は空欄とした。
土製品の法量は左から長さ・幅・厚さとした。

第47表　下山新遺跡　土器・陶磁器・土製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	器種	法量(cm)			時期	胎土色調		釉色調		釉薬	備考
							口径	器高	底径							
158	180	98	SD122	X67Y87	越中瀬戸	灯明受皿		1.6	5.2	18C後半～19C	2.5Y8/3	淡黄色	10R3/1	暗赤灰色	鉄釉	
	181	98	SD122	X83Y89	近世磁器	皿		1.5	5.9	明治以降	2.5GY8/1	灰白色	2.5GY8/1	灰白色	白磁釉	染付5PB4/8青色，二次被熱
	182	98	SD170		越中瀬戸	壺	7.0	3.4		18C	10YR7/4	にぶい黄橙色	5YR4/1	褐灰色	鉄釉	
	183	98	SD170		越中瀬戸	壺		1.2	5.6	18C	7.5YR7/4	にぶい橙色	5YR3/1	黒褐色	鉄釉	
	184	98	SD170		唐津	皿	21.0	3.0		18C	10YR5/3	にぶい黄褐色			透明釉	刷毛目
	185	97		不明	越中瀬戸	丸皿	11.4	2.6	4.7	17C中頃	7.5YR7/4	にぶい橙色	2.5Y8/2	灰白色	灰釉	
	186	97		X48Y27　Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	11.0	2.7	4.8	17C後半～18C	7.5YR7/3	にぶい橙色	5Y6/2	灰オリーブ色	灰釉	
	187	97		X46Y31　Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	13.6	3.0	5.6	17C後半～18C前半	10YR7/4	にぶい黄橙色	7.5YR3/1	黒褐色	鉄釉	
	188	97		X92Y111　Ⅰ層	越中瀬戸	丸皿	14.7	3.1	7.1	18C	10YR7/2	にぶい黄橙色	2.5Y5/3	黄褐色	灰釉	
	189	97		X68Y76　Ⅰ～Ⅱ層	越中瀬戸	丸皿	14.2	2.2		18～19C	10YR5/1	褐灰色	7.5YR3/4 7.5YR1.7/1	暗褐色 黒色	鉄釉	体部外面に稜が入る
	190	97		X88·89Y95　Ⅱ層	越中瀬戸	向付	10.2	2.5	5.0	17C後半～18C	10YR5/2	灰黄褐色	5YR3/2	暗赤褐色	鉄釉	
	191	97		X49Y31　Ⅱ層	越中瀬戸	向付		1.9	5.9	17C中頃	10YR7/2	にぶい黄橙色	7.5YR4/3	褐色	鉄釉	
	192	97		X72Y82	越中瀬戸	丸椀	10.1	3.3		18C	10YR7/2	にぶい黄橙色	7.5YR2/1	黒色	鉄釉	
	193	97		X78Y76　Ⅰ～Ⅱ層	越中瀬戸	丸椀	10.1	3.6		18C	2.5Y7/2	灰黄色	10YR1.7/1	黒色	鉄釉	
	194	97		X59Y62	越中瀬戸	丸椀	10.7	4.0		18C	10YR7/2	にぶい黄橙色	10YR3/1	黒褐色	鉄釉	
	195	97		X116Y113　Ⅱ層	越中瀬戸	天目茶椀	7.8	4.6		17Cか	10YR5/1	褐灰色	7.5YR3/3 N1.5/0	暗褐色 黒色	鉄釉	東黒牧窯(文珠寺稗田窯)か
	196	98		X74Y73　Ⅰ～Ⅱ層	越中瀬戸	擂鉢	17.2	4.2		18C	5YR7/3	にぶい橙色	7.5YR5/2	灰褐色	錆釉	
	197	98		X62Y65　Ⅱ層	越中瀬戸	擂鉢	23.5	2.4		17C中頃～後半	10YR7/2	にぶい黄橙色	7.5YR3/4	暗褐色	錆釉	
	198	98		X46Y35　Ⅱ層	越中瀬戸	擂鉢		3.5	12.4	18C	10YR8/3	浅黄橙色	2.5YR4/2	灰赤色	錆釉	
	199	98		X90Y107　Ⅱ層	越中瀬戸	壺	11.7	2.7		18C	5YR5/4	にぶい赤褐色	5YR3/1	黒褐色	錆釉	
	200	98		X76Y80　Ⅱ層	越中瀬戸	壺	9.1	3.8		18C	7.5YR6/3	にぶい褐色	5YR4/2	灰褐色	錆釉	
	201	98		X73Y81　Ⅰ層	越中瀬戸	壺		3.9	8.1	18C	10YR6/4	にぶい黄橙色	7.5YR3/1	黒褐色	錆釉	
	202	98		X50Y35　Ⅱ層	越中瀬戸	匣鉢		1.7	9.5	18C	10YR5/2	灰黄褐色	7.5YR4/2	灰褐色	錆釉	
	203	98		X68Y77　Ⅱ層	越中瀬戸	匣鉢		2.5	11.0	18C	10YR7/2	にぶい黄橙色	5YR2/2	黒褐色	鉄釉	
	204	98		X74Y78　Ⅰ～Ⅱ層	唐津	擂鉢	25.6	2.4			2.5YR5/6	明赤褐色	5YR4/3	にぶい赤褐色	鉄釉	
	205	98		X69Y78　Ⅰ～Ⅱ層	瓦器	火鉢	23.1	5.0			2.5Y6/3	にぶい黄色				黒変
	206	98		X96Y81　Ⅱ層	伊万里	皿	13.5	3.0		18C後半	5GY8/1	灰白色	5GY8/1	灰白色	白磁釉	染付10G5/1緑灰色，蛇の目釉剥ぎ，二重格子文
	207	98		X73Y81　Ⅰ～Ⅱ層	伊万里	人形					N8/0	灰白色	N8/0	灰白色	白磁釉	

第48表　下山新遺跡　石製品一覧（1）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm・g) 長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴
149	76	89		X67Y70　Ⅱ層	横形石匙	3.8	5.2	0.6	8.7	サヌカイト	両面加工，刃部は押圧剥離
	77	89		X63Y58　Ⅱ層	ヘラ状石器	6.0	3.4	1.7	33.9	硬質頁岩	横長剥片の周囲を直接打撃で加工
	78	90		X40Y21　Ⅱ層	尖頭器	2.4	2.2	0.8	3.7	鉄石英（黄玉石）	剥片素材，直接打撃で成形，刃部は押圧剥離
	79	94		X80Y78　Ⅰ～Ⅱ層	削器	7.9	7.7	1.4	90.3	頁岩	剥片素材，打瘤を直接打撃で除去
	80	94		X81Y82　Ⅱ層	削器	6.9	8.5	1.2	51.0	流紋岩	剥片裏面に直接打撃で刃部形成
	81	94		X37Y17　Ⅱ層	削器	3.7	6.1	0.8	16.8	粘板岩	剥片素材，打瘤を直接打撃で除去
	82	94		X70Y75　Ⅱ層	削器	5.1	8.1	1.3	56.1	頁岩	剥片素材，縁辺に研磨痕あり
	83	94		X54Y33　Ⅱ層	大型削器	7.9	11.5	1.8	191.9	砂岩	剥片素材，直接打撃で刃部形成
	84	94		X39Y22　トレンチ	礫器	8.6	11.2	2.7	294.1	砂岩	剥片周辺に二次加工あり
	85	94		X74Y72　Ⅱ層	鋸歯縁石器	10.0	11.8	2.9	388.7	砂岩	剥片素材，直接打撃により縁辺を鋸歯状に加工
	86	97		X44Y23　Ⅱ層	使用痕剥片	2.7	2.1	1.2	5.4	黒曜石	縁辺に微細剥離痕あり 黒曜1　諏訪星ヶ台群産
150	87	91		X80Y79　Ⅱ層	打製石斧	10.8	5.4	2.0	127.2	凝灰岩	剥片素材，周縁加工，刃部表裏に土ずれ痕あり
	88	91		X47Y31　Ⅱ層	打製石斧	13.2	5.4	2.0	155.2	流紋岩	剥片素材，周縁加工，刃部に土ずれ痕，基部に摩耗痕あり
	89	91		X71Y81　Ⅱ層	打製石斧	13.1	5.7	2.1	182.0	砂岩	剥片素材，周縁加工，刃部表裏に土ずれ痕あり
	90	91		X68Y73　Ⅱ層	打製石斧	14.3	5.9	2.7	227.0	流紋岩	礫素材，両面加工，基部欠損
	91	91		X39Y15　Ⅱ層	打製石斧	13.3	5.9	2.6	248.7	蛇紋岩(透閃石岩)	剥片素材，周縁加工，刃部に刃こぼれ痕あり
	92	91		X44Y26　Ⅱ層	打製石斧	13.0	5.3	2.3	33.5	凝灰岩	剥片素材，周縁加工
	93	91		X50Y33　Ⅱ層	打製石斧	10.4	4.6	2.0	97.4	流紋岩	剥片素材，周縁加工，刃部に刃こぼれ痕あり
	94	91		X49Y41　Ⅱ層	打製石斧	18.9	7.7	4.0	680.0	蛇紋岩(透閃石岩)	礫素材，両面加工，側片に敲打痕あり
	95	91		X40Y14　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	5.2	4.9	1.6	44.6	頁岩	両面加工
	96	91		X64Y67　Ⅱ層	打製石斧	13.1	6.5	2.1	189.1	頁岩	剥片素材，周縁加工，側片に敲打痕あり
151	97	92		X75Y72　Ⅱ層	打製石斧	14.3	8.7	3.0	385.0	ホルンフェルス	剥片素材，周縁加工
	98	92		X68～79Y69～76　Ⅱ層	打製石斧	14.6	8.6	2.9	388.8	流紋岩	剥片素材，周縁加工
	99	92		X51Y34　Ⅱ層	打製石斧	16.1	7.2	2.5	267.0	流紋岩	剥片素材，周縁加工
	100	92		X40Y21　Ⅱ層	打製石斧	12.7	7.5	2.1	212.9	頁岩	剥片素材，周縁加工
	101	91		X78Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	15.7	10.7	3.4	643.0	凝灰岩	剥片素材，周縁加工
	102	91		X90Y100　Ⅱ層	打製石斧	8.2	5.1	1.4	46.9	砂岩	剥片素材，周縁加工
	103	94		X72Y82　Ⅱ層	打製石斧	15.6	8.8	3.0	492.8	砂岩	剥片素材，抉り部に敲打痕あり
	104	94		X67Y71　Ⅱ層	打製石斧	5.5	6.5	1.3	47.5	砂岩	剥片素材，刃部の断片
152	105	91		X46Y31　Ⅱ層	打製石斧	6.3	4.0	1.4	35.7	デイサイト	剥片素材，周縁加工
	106	91		X36Y18　Ⅱ層	打製石斧	6.6	4.6	1.2	30.8	デイサイト	剥片素材，周縁加工
	107	92		X69Y76　Ⅱ層	打製石斧	7.7	4.6	1.8	65.5	デイサイト	剥片素材，両面加工
	108	92		X68～79Y69～76　Ⅱ層	打製石斧	7.2	4.2	1.4	47.9	ホルンフェルス	剥片素材，周縁加工，刃部表裏に土ずれ痕あり，基部欠損
	109	92		X68～79Y69～76　Ⅱ層	打製石斧	9.3	4.1	1.4	54.8	デイサイト	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	110	92		X80Y81　Ⅱ層	打製石斧	11.3	5.5	1.9	132.4	デイサイト	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	111	92		X48Y39　Ⅱ層	打製石斧	8.3	6.4	1.3	60.1	デイサイト	剥片素材，周縁加工，刃部に土ずれ痕，基部に摩耗痕あり
	112	92		X75Y68　Ⅱ層	打製石斧	9.1	6.0	2.1	134.5	砂岩	剥片素材，周縁加工，刃部表に土ずれ痕あり
	113	92		X73Y66　Ⅱ層	打製石斧	9.4	5.9	2.6	195.5	ホルンフェルス	剥片素材，周縁加工，基部再加工，刃部欠損
	114	92		X43Y24　Ⅱ層	打製石斧	11.0	6.5	2.8	206.9	砂岩	剥片素材，周縁加工，側片に敲打痕あり，基部・刃部欠損
	115	92		X65Y57　Ⅱ層	打製石斧	11.3	6.6	1.6	115.8	砂岩	剥片素材，周縁加工
	116	92		X53Y41　Ⅱ層	打製石斧	10.0	5.2	2.3	151.1	砂岩	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	117	92		X78Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	10.0	5.2	1.8	108.3	頁岩	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	118	92		X84Y81　Ⅱ層	打製石斧	6.4	5.1	2.1	97.4	アプライト	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	119	93		X82Y84　Ⅱ層	打製石斧	8.4	5.1	2.2	139.3	砂岩	剥片素材，周縁加工，基部欠損
	120	93		X68Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	10.3	4.9	1.9	112.7	結晶片岩	剥片素材，周縁加工，刃部に刃こぼれ痕あり
153	121	93		X49Y31　Ⅱ層	打製石斧	9.2	4.4	1.8	86.8	砂岩	剥片素材，周縁加工
	122	93		X55Y41　Ⅱ層	打製石斧	9.3	5.2	1.8	127.3	片麻岩	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	123	93		X44Y19　Ⅱ層	打製石斧	10.2	5.3	1.8	92.0	デイサイト	剥片素材，周縁加工
	124	93		X81Y80　Ⅱ層	打製石斧	9.0	5.8	0.9	60.8	流紋岩	周縁加工，基部欠損
	125	93		X47Y33　Ⅱ層	打製石斧	10.4	6.3	1.9	154.2	砂岩	剥片素材，周縁加工
	126	93		X41Y22　Ⅱ層	打製石斧	13.2	5.0	2.1	129.3	デイサイト	剥片素材，周縁加工
	127	93		X56Y57　Ⅱ層	打製石斧	7.0	5.0	1.9	79.5	砂岩	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	128	93		X43Y26　Ⅱ層	打製石斧	7.8	7.9	3.6	76.2	デイサイト	剥片素材，片側縁加工，刃部欠損
	129	93	SX54		打製石斧	7.6	6.0	2.0	94.3	デイサイト	剥片素材，片側縁加工，基部欠損
	130	93	SX3	X84Y81	打製石斧	15.7	6.7	3.3	377.5	砂岩	剥片素材，周縁加工
	131	93		X66Y66　Ⅱ層	打製石斧	12.0	6.3	2.0	146.9	流紋岩	剥片素材，周縁加工，基部・刃部欠損
	132	93		X64Y67　Ⅱ層	打製石斧	10.2	6.0	1.7	114.2	砂岩	剥片素材，周縁加工，基部欠損
	133	93		6T　No.3　Ⅱ層	打製石斧	9.3	8.1	2.1	155.4	流紋岩	剥片素材，周縁加工
154	134	93		X91Y107　Ⅱ層	打製石斧	10.2	5.5	1.4	72.8	砂岩	剥片素材，周縁加工
	135	94		X59Y45　Ⅱ層	打製石斧	11.6	6.8	1.7	119.5	流紋岩	剥片素材，周縁加工，刃部欠損
	136	94		X78Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	7.9	5.2	1.4	63.5	砂岩	剥片素材，周縁加工，基部欠損
	137	94		X80Y80　Ⅱ層	打製石斧	9.8	7.0	2.0	120.5	流紋岩	剥片素材，周縁加工，基部欠損
	138	94		X81Y75　Ⅱ層	打製石斧	14.0	8.1	2.2	272.1	安山岩	剥片素材，周縁加工，刃部表裏に土ずれ痕あり，基部欠損
	139	94		X51Y38　Ⅱ層	打製石斧	9.6	7.5	1.8	161.3	砂岩	剥片素材，周縁加工，刃部表に土ずれ痕あり，基部欠損
	140	94		X78Y76　Ⅰ～Ⅱ層	打製石斧	12.8	7.9	2.3	287.4	砂岩	剥片素材，周縁加工，基部欠損
	141	94		X38Y20　Ⅱ層	打製石斧	15.9	9.1	3.0	430.9	砂岩	剥片素材，周縁加工，側片に敲打痕あり，基部・刃部欠損
	142	94		Ⅱ層	打製石斧	11.5	10.0	2.8	404.2	砂岩	剥片素材，周縁加工，基部欠損
155	143	95		X55Y40　Ⅱ層	磨製石斧	8.6	6.2	2.6	189.5	凝灰岩	刃部欠損
	144	95		X52Y34　Ⅱ層	磨製石斧	13.8	6.2	2.5	332.8	蛇紋岩(透閃石岩)	基部・刃部欠損
	145	95		X61Y44　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	10.4	7.5	3.1	395.7	蛇紋岩(透閃石岩)	基部・刃部欠損
	146	95		X72Y79　Ⅱ層	磨製石斧	7.0	6.3	2.8	201.6	蛇紋岩(透閃石岩)	基部欠損
	147	95		X68Y63　Ⅱ層	磨製石斧	6.6	6.6	3.2	18.0	凝灰岩	基部欠損
	148	95		X74Y79　Ⅱ層	磨製石斧	8.7	5.7	2.6	198.0	蛇紋岩(透閃石岩)	刃部欠損
	149	95		X81Y83　Ⅱ層	磨製石斧	10.4	5.7	3.0	239.2	蛇紋岩(透閃石岩)	刃部欠損
	150	95		X58Y58　Ⅱ層	磨製石斧	7.0	5.1	2.0	113.8	蛇紋岩(透閃石岩)	刃部表裏に使用痕あり，基部欠損
	151	95		X60Y59　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧	5.2	5.7	1.9	87.3	蛇紋岩(透閃石岩)	基部欠損
	152	95		X73Y84　Ⅱ層	磨製石斧	5.8	5.4	2.2	94.2	蛇紋岩(透閃石岩)	基部欠損
	153	95		X68Y73　Ⅱ層	磨製石斧	6.6	6.1	2.7	146.8	蛇紋岩(透閃石岩)	基部欠損
	154	95		X84Y82　Ⅱ層	磨製石斧	6.9	3.1	1.1	50.8	蛇紋岩(透閃石岩)	完形
	155	95		X60Y58　Ⅱ層	磨製石斧	3.5	2.5	0.6	8.9	蛇紋岩(透閃石岩)	刃部欠損
	156	95		X38Y17　Ⅱ層	磨製石斧	5.8	3.7	1.1	44.2	蛇紋岩(透閃石岩)	基部・刃部欠損
	157	95		X61Y65　Ⅱ層	磨製石斧	6.4	3.5	1.2	40.1	蛇紋岩(透閃石岩)	基部欠損

第48表　下山新遺跡　石製品一覧（2）

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	法量(cm·g) 長さ	幅	厚さ	重さ	石材	特徴
155	158	95		X44Y19　Ⅱ層	磨製石斧	6.0	4.8	1.9	71.7	蛇紋岩(透閃石岩)	刃部欠損
	159	95		X53Y35　Ⅱ層	磨製石斧	3.3	4.6	1.8	22.8	蛇紋岩(透閃石岩)	刃部の断片
	160	90		X50Y37　Ⅱ層	石棒	13.9	3.1	2.9	216.0	緑泥片岩	基部に敲打痕あり
156	161	96		X55Y40　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	9.8	5.5	1.4	311.4	結晶片岩	礫の半面を直接打撃で加工
	162	96		X55Y36　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	8.8	3.9	1.7	67.6	蛇紋岩(透閃石岩)	扁平礫の半面を直接打撃で加工
	·163	96		X69Y76　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	7.7	5.0	2.3	125.7	蛇紋岩(透閃石岩)	扁平礫の周囲を直接打撃で加工
	164	96		X79Y76　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	4.9	2.6	0.9	18.9	蛇紋岩(透閃石岩)	扁平礫の両側辺を直接打撃で加工
	165	96		X68～79Y69～76　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	6.2	3.7	1.2	40.0	蛇紋岩(透閃石岩)	扁平礫の両側辺を直接打撃で加工
	166	96		X38Y48　トレンチ	磨製石斧(未成品)	14.3	8.0	3.3	459.8	蛇紋岩(透閃石岩)	礫の周囲を直接打撃で加工
	167	96		X42Y22　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	11.0	5.8	3.5	272.7	蛇紋岩(透閃石岩)	礫の周囲を直接打撃で加工
	168	96		X75Y72　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	7.7	2.7	1.8	59.7	蛇紋岩(透閃石岩)	棒状礫の両側辺に敲打痕あり
	169	96		X73Y81　Ⅰ～Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	7.7	4.0	1.7	63.4	蛇紋岩(透閃石岩)	礫の周囲を剥離して整形した後，研磨する
	170	96		X81Y75　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	10.6	4.2	2.1	155.2	蛇紋岩(透閃石岩)	扁平礫の片側辺を研磨，反対側辺に敲打痕あり
	171	96		X80Y78　Ⅱ層	磨製石斧(未成品)	8.4	4.4	2.8	102.4	蛇紋岩(透閃石岩)	側面に擦切痕あり
	172			X69Y76　Ⅱ層	磨製石斧断片	5.9	3.9	1.4	38.8	蛇紋岩(透閃石岩)	磨製石斧断片の周囲を直接打撃で加工
157	173	96		X47Y27　トレンチ	すり石	10.4	9.7	6.2	800.0	安山岩	表裏に摩耗痕あり
	174	96		X69Y76　Ⅱ層	すり石	11.3	10.1	5.8	935.0	花崗岩	表裏に摩耗痕，側面に敲打痕あり
	175	96		X65Y70　Ⅱ層	敲石	10.1	5.3	5.3	401.3	流紋岩	側辺に敲打痕あり
	176	96		X37Y27　Ⅱ層	敲石·すり石	18.6	6.3	3.4	640.0	閃緑岩	側辺に敲打痕·擦痕あり
	177	90		X74Y78　Ⅰ～Ⅱ層	砥石	9.3	7.0	2.8	237.0	砂岩	砥面は表と側面の2面
	178	97		X48Y28　Ⅱ層	砥石	6.0	4.1	2.3	92.4	流紋岩	砥面は表裏と両側面の4面

※石材は第Ⅶ章「5　富山県竹ノ内Ⅱ遺跡外における石材鑑定」に詳しい。
表中で「蛇紋岩（透閃石岩）」としているものは，従来，蛇紋岩と称してきたものだが，石材鑑定の結果比重等により透閃石岩と判別されたものである。
ここでは，従来との比較のため「蛇紋岩（透閃石岩）」と表記する。同様に黄玉石としているものは，従来，鉄石英と称しているものと同じである。

第49表　下山新遺跡　金属製品一覧

挿図	遺物	写真図版	遺構	出土地点	種類	材質	法量(cm·g) 長さ	幅	厚さ	重さ
157	110	97		X75Y69　Ⅰ～Ⅱ層	煙管	銅	5.6	1.0	0.9	11.0

第Ⅶ章　自然科学分析

竹ノ内Ⅱ遺跡・柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡では，遺物整理期間（平成19・20年度）に自然科学分析を行い，広い分野からの遺跡の理解を深めることに努めた。

平成19年度は，下山新遺跡を対象に実施した。下山新遺跡では縄文時代中期～後期の焚き火跡と考えられる土坑を検出しており，遺構の性格及び，当時の周辺環境や植生を検討することを目的とし，樹種同定（炭化材同定），種実同定，花粉分析，植物珪酸体分析を行った。

平成20年度は，竹ノ内Ⅱ遺跡を対象とした樹種同定，種実同定，炭化米ＤＮＡ分析，漆塗膜分析，炭化材放射性炭素年代測定と，竹ノ内Ⅱ遺跡外３遺跡を対象とした石材鑑定，黒曜石産地推定を行った。竹ノ内Ⅱ遺跡では12世紀後半～15世紀にかけての集落跡を検出したＡ地区の遺構出土植物遺体を試料とし，当時の木材利用ならびに植物栽培及び利用状況を検討することを目的とした。また，柱根とみられる炭化材を試料とし，掘立柱建物の時期を検討するために放射性炭素年代測定を実施した。漆塗膜分析はＳＥ600出土の漆器２点について，漆器の材料と塗装工程の情報を得るために実施した。石材鑑定は４遺跡出土の石製品について，当時の石材利用を検討することを目的として行い，このうち柳田遺跡・下山新東遺跡・下山新遺跡出土の黒曜石26点について黒曜石産地推定を併せて行った。

各分析の種類，対象，分析者等は以下に一覧表で示す。

分析種類	分析名	分析者名	分析年度	対象	
樹種同定	下山新遺跡における自然科学分析	（株）古環境研究所	平成19年度	下山新遺跡	炭化材9点
	竹ノ内Ⅱ遺跡における自然科学分析		平成20年度	竹ノ内Ⅱ遺跡	炭化材12点
					漆器1点
					下駄1点
種実同定	下山新遺跡における自然科学分析		平成19年度	下山新遺跡	土坑（焚き火跡）埋土
	竹ノ内Ⅱ遺跡における自然科学分析		平成20年度	竹ノ内Ⅱ遺跡	種子17式
花粉分析	下山新遺跡における自然科学分析		平成19年度	下山新遺跡	土坑（焚き火跡）埋土
植物珪酸体分析			平成19年度	下山新遺跡	土坑（焚き火跡）埋土
炭化米DNA分析	竹ノ内Ⅱ遺跡における自然科学分析		平成20年度	竹ノ内Ⅱ遺跡	炭化米12粒
漆塗膜分析	竹ノ内Ⅱ遺跡出土漆器の科学分析	漆器文化財科学研究所 四柳嘉章	平成20年度	竹ノ内Ⅱ遺跡	漆器2点
放射性炭素年代測定	竹ノ内Ⅱ遺跡出土遺物の放射性炭素年代測定	（株）加速器研究所	平成20年度	竹ノ内Ⅱ遺跡	炭化材（柱根）3点
石材鑑定	竹ノ内Ⅱ遺跡における自然科学分析	（株）古環境研究所	平成20年度	竹ノ内Ⅱ遺跡 柳田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡	石製品509点
黒曜石産地推定	竹ノ内Ⅱ遺跡における自然科学分析		平成20年度	柳田遺跡 下山新東遺跡 下山新遺跡	黒曜石26点

第50表　自然科学分析一覧

1　富山県竹ノ内II遺跡における自然科学分析

株式会社　古環境研究所

I. 樹種同定

1. はじめに

木材はセルロースを骨格とする木部細胞の集合体であり，解剖学的形質から，概ね属レベルの同定が可能である。木材は，花粉等の微化石に比べて移動性が少ないことから，比較的近隣の森林植生の推定が可能であり，遺跡から出土したものについては，木材の利用状況や流通を探る手がかりとなる。

2. 試料

試料は，竹ノ内II遺跡より出土した木材2点(漆器椀，下駄)と炭化材12点の計14点である。なお炭化材については，同じ番号の試料に複数の樹種が存在したものは，各々枝番号を付けて区別した。

3. 方法

試料のうち木材は，カミソリを用いて試料の新鮮な横断面(木口と同義)，放射断面(柾目と同義)，接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し，生物顕微鏡によって40～1000倍で観察した。また，炭化材については，試料を割折して新鮮な横断面(木口と同義)，放射断面(柾目と同義)，接線断面(板目と同義)の基本三断面の切片を作製し，落射顕微鏡によって50～1000倍で観察した。同定は，解剖学的形質および現生標本との対比によって行った。

4. 結果

表1に結果を示し，主要分類群の顕微鏡写真を図版に示す。以下に同定の根拠となった特徴を記す。

スギ　*Cryptomeria japonica D.Don*　スギ科　図版1

仮道管，樹脂細胞および放射柔細胞から構成される針葉樹材である。

横断面：早材から晩材への移行はやや急で，晩材部の幅が比較的広い。樹脂細胞が見られる。

放射断面：放射柔細胞の分野壁孔は典型的なスギ型で，1分野に2個存在するものがほとんどである。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型で，10細胞高以下のものが多い。樹脂細胞が存在する。

以上の形質よりスギに同定される。スギは本州，四国，九州，屋久島に分布する。日本特産の常緑高木で，高さ40m，径2mに達する。材は軽軟であるが強靭で，広く用いられる。

クリ　*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*　ブナ科　図版2

横断面：年輪のはじめに大型の道管が，数列配列する環孔材である。晩材部では小道管が，火炎状に配列する。早材から晩材にかけて，道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔である。放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は単列の同性放射組織型である。

以上の形質よりクリに同定される。クリは北海道の西南部，本州，四国，九州に分布する。落葉の高

木で，通常高さ 20m，径 40cm ぐらいであるが，大きいものは高さ 30m，径 2m に達する。耐朽性が強く，水湿によく耐え，保存性の極めて高い材で，現在では建築，家具，器具，土木，船舶，彫刻，薪炭，椎茸ほだ木など広く用いられる。

ブナ属　*Fagus*　**ブナ科**　図版 3・4

横断面：小型でやや角張った道管が，単独あるいは 2 ～ 3 個複合して密に散在する散孔材である。早材から晩材にかけて，道管の径は緩やかに減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔および階段穿孔である。放射組織はほとんど平伏細胞からなるが，ときに上下端のみ方形細胞が見られる。

接線断面：放射組織はまれに上下端のみ方形細胞が見られるがほとんどが同性放射組織型で，単列のもの，2 ～数列のもの，大型の広放射組織のものがある。

以上の形質よりブナ属に同定される。ブナ属には，ブナ，イヌブナがあり，北海道南部，本州，四国，九州に分布する。落葉の高木で，通常高さ 20 ～ 25m，径 60 ～ 70cm ぐらいであるが，大きいものは高さ 35m，径 1.5m 以上に達する。材は堅硬かつ緻密で靱性があるが，保存性は低い。容器などに用いられる。

コナラ属コナラ節　*Quercus sect. Prinus*　**ブナ科**　図版 5

横断面：年輪のはじめに大型の道管が，1 ～数列配列する環孔材である。晩材部では薄壁で角張った小道管が，火炎状に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で，放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で，単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属コナラ節に同定される。コナラ属コナラ節にはカシワ，コナラ，ナラガシワ，ミズナラがあり，北海道，本州，四国，九州に分布する。落葉高木で，高さ 15m，径 60cm ぐらいに達する。材は強靭で弾力に富み，建築材などに用いられる。

コナラ属クヌギ節　*Quercus sect. Aegilops*　**ブナ科**　図版 6

横断面：年輪のはじめに大型の道管が，1 ～数列配列する環孔材である。晩材部では厚壁で丸い小道管が，単独でおよそ放射方向に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で，放射組織は平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で，単列のものと大型の広放射組織からなる複合放射組織である。

以上の形質よりコナラ属クヌギ節に同定される。コナラ属クヌギ節にはクヌギ，アベマキなどがあり，本州，四国，九州に分布する。落葉の高木で，高さ 15m，径 60cm に達する。材は強靭で弾力に富み，器具，農具などに用いられる。

ニレ属　*Ulmus*　**ニレ科**　図版 7

横断面：年輪のはじめに中型から大型の道管が 1 ～ 3 列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して花束状，接線状，斜線状に比較的規則的に配列する。早材から晩材にかけて道管の径は急激に減少する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で，小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織は同性で，すべ

て平伏細胞からなる。

接線断面：放射組織は同性放射組織型で，1～5細胞幅ぐらいである。

以上の形質よりニレ属に同定される。ニレ属にはハルニレ，オヒョウなどがあり，北海道，本州，四国，九州，沖縄に分布する落葉の高木である。材は器具，旋作，薪炭などに用いられる。

ケヤキ　*Zelkova serrata Makino*　**ニレ科**　図版8

横断面：年輪のはじめに大型の道管が1～2列配列する環孔材である。孔圏部外の小道管は多数複合して円形，接線状ないし斜線状に配列する。

放射断面：道管の穿孔は単穿孔で，小道管の内壁にはらせん肥厚が存在する。放射組織はほとんどが平伏細胞であるが，上下の縁辺部のものは方形細胞でしばしば大きくふくらんでいる。

接線断面：放射組織は異性放射組織型で，上下の縁辺部の細胞のなかには大きくふくらんでいるものがある。幅は1～7細胞幅である。

以上の形質よりケヤキに同定される。ケヤキは本州，四国，九州に分布する。落葉の高木で，通常高さ20～25m，径60～70cmぐらいであるが，大きいものは高さ50m，径3mに達する。材は強靭で従曲性に富み，建築，家具，器具，船，土木などに用いられる。

タケ亜科　*Bambusoideae*　**イネ科**　図版9

横断面：基本組織である柔細胞の中に並立維管束が不規則に分布する。並立維管束は木部と師部からなり，その周囲に維管束鞘が存在する。

放射断面及び接線断面：柔細胞及び維管束，維管束鞘が桿軸方向に配列している。

以上の形質よりタケ亜科に同定される。

散孔材　*diffuse-porous wood*

横断面：小型の道管が散在する。

放射断面：道管と放射組織が存在する。

接線断面：道管と多列幅の放射組織が存在する。

以上の形質より散孔材に同定される。なお，本試料は小片で保存状態が悪く，広範囲の観察が困難であったため，散孔材の同定にとどめる。

5. 所見

同定の結果，竹ノ内Ⅱ遺跡の木材2点のうち，漆器椀はケヤキであった。ケヤキは，縄文時代以降現在まで伝統的に木地に用いられる材である。概して，強靱で従曲性に富んだ材であり，耐朽性，保存性が高く，水湿にもよく耐える。温帯に分布する落葉高木で，谷沿いなどの適潤な肥沃地に生育する。下駄はスギであった。スギは加工工作が容易な上，大きな材がとれる良材であり，建築材はもとより板材や小さな器具類に至るまで幅広く用いられる。温帯に広く分布し，とくに積雪地帯や多雨地帯で純林を形成する針葉樹である。

炭化材は，クリ4点，ブナ属7点，コナラ属コナラ節1点，コナラ属クヌギ節1点，ニレ属1点，タケ亜科1点，散孔材2点であった。クリは，温帯に広く分布する落葉高木であり，暖温帯と冷温帯の中間域では純林を形成することもある。乾燥した台地や丘陵地を好み，二次林要素でもある。ブナ属にはブ

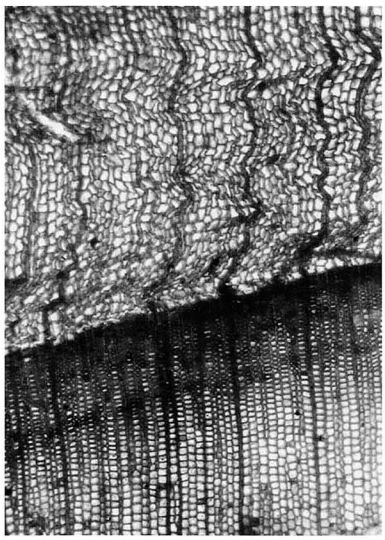
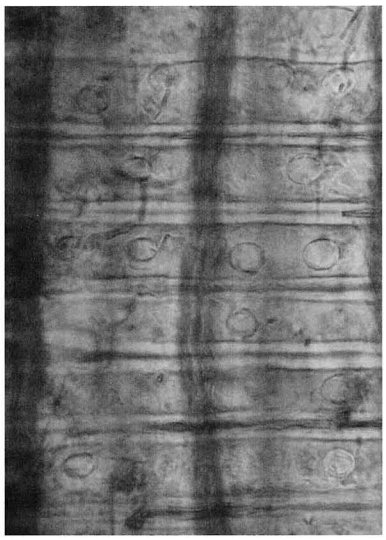
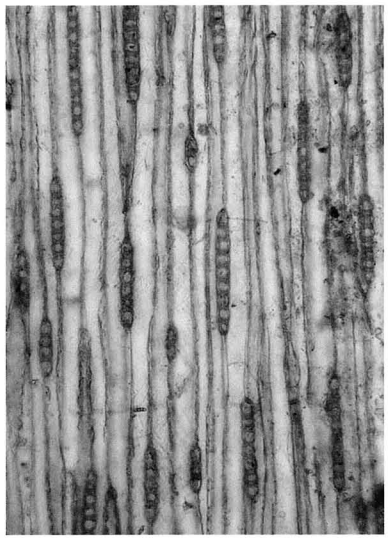
ナとイヌブナがあり，温帯上部の冷温帯から温帯中間域の落葉広葉樹林帯に分布する落葉高木で，冷温帯落葉広葉樹林の代表的なブナ林を形成する。コナラ属コナラ節は，温帯を中心に広く分布する落葉高木で，日当たりの良い山野に生育する。ミズナラなどの冷温帯落葉広葉樹林の主要構成要素や暖温帯性のナラガシワ，二次林要素でもあるコナラなどが含まれる。コナラ属クヌギ節にはクヌギとアベマキがあり，温帯に広く分布する落葉高木で乾燥した台地や丘陵地に生育し，二次林要素でもある。ニレ属は温帯を中心に広く分布する落葉高木で，ハルニレとオヒョウは山地に，アキニレは水辺等に生育する。タケ亜科は温暖な地域を好んで生育する。いずれの樹種も温帯域に分布する樹種であり，遺跡周辺および周辺地域で生育し，地域的な流通で得られる樹種である。

参考文献

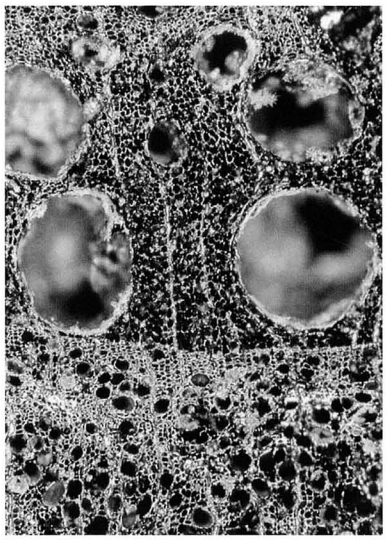
佐伯浩・原田浩（1985）針葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.20-48.
佐伯浩・原田浩（1985）広葉樹材の細胞．木材の構造，文永堂出版，p.49-100.
島地謙・伊東隆夫（1988）日本の遺跡出土木製品総覧，雄山閣，p.296
山田昌久（1993）日本列島における木質遺物出土遺跡文献集成，植生史研究特別第１号，植生史研究会，p.242

No.	遺跡	遺構コード	出土地点	種類	備考	結果（学名／和名）	
4-①	17TUⅡ	A1-SP70	中～下層	炭化材	SB15	*Quercus sect. Aegilops*	コナラ属クヌギ節
4-②	17TUⅡ	A1-SP70	中～下層	炭化材	SB15	*Fagus*	ブナ属
4-③	17TUⅡ	A1-SP70	中～下層	炭化材	SB15	*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ
6-①	17TUⅡ	A1-SP70	下層	炭化材	SB15	*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ
6-②	17TUⅡ	A1-SP70	下層	炭化材	SB15	*Fagus*	ブナ属
7	17TUⅡ	A1-SP141		炭化材	SB16	*Fagus*	ブナ属
11	17TUⅡ	A1-SP164		炭化材	SB16	*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ
12	17TUⅡ	A1-SP169		炭化材	SB18	*Castanea crenata Sieb. et Zucc.*	クリ
14-①	17TUⅡ	A1-SP210		炭化材	SB16	*Fagus*	ブナ属
14-②	17TUⅡ	A1-SP210		炭化材	SB16	*diffuse-porous wood*	散孔材
18	17TUⅡ	A1-SP287	中～下層	炭化材	SB21	*Fagus*	ブナ属
22-①	17TUⅡ	A1-SP511		炭化材	SB17	*Bambusoideae*	タケ亜科
22-②	17TUⅡ	A1-SP511		炭化材	SB17	*Fagus*	ブナ属
24	17TUⅡ	A1-SP518	上～中層	炭化材	SB16	*Fagus*	ブナ属
27	17TUⅡ	A1-SE600	底面直上	漆器椀		*Zelkova serrata Makino*	ケヤキ
28-①	17TUⅡ	B1-SK77		炭化材		*Ulmus*	ニレ属
28-②	17TUⅡ	B1-SK77		炭化材		*Quercus sect. Prinus*	コナラ属コナラ節
28-③	17TUⅡ	B1-SK77		炭化材		*diffuse-porous wood*	散孔材
29	17TUⅡ	C1-SK184		下駄		*Cryptomeria japonica D.Don*	スギ

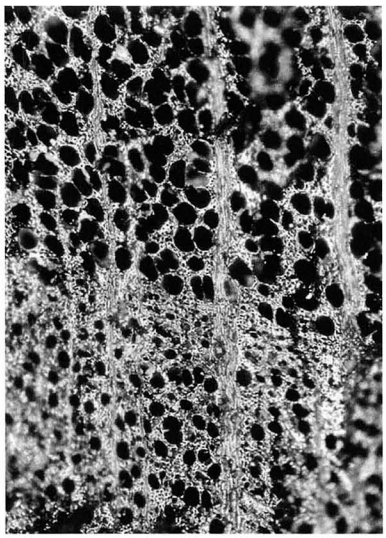
表１　竹ノ内Ⅱ遺跡における樹種同定結果

横断面 ―――― ：0.5mm　放射断面 ―――― ：0.05mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
1．29　17TUⅡ　C1-SK184　下駄　スギ

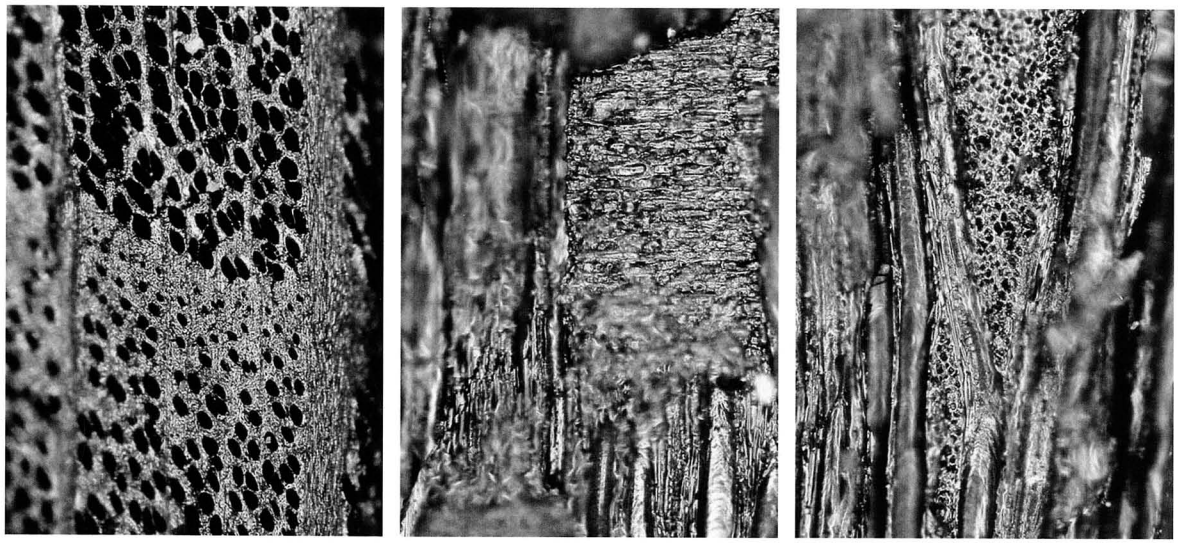


横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
2．12　17TUⅡ　A1-SP169　炭化材　SB18　クリ

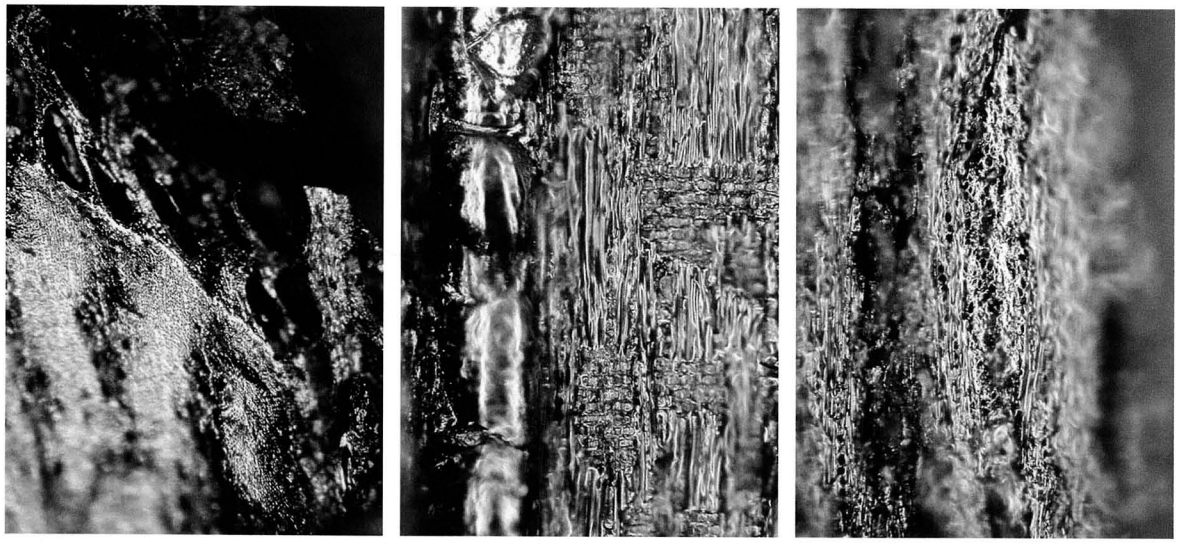


横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
3．7　17TUⅡ　A1-SP141　炭化材　SB16　ブナ属

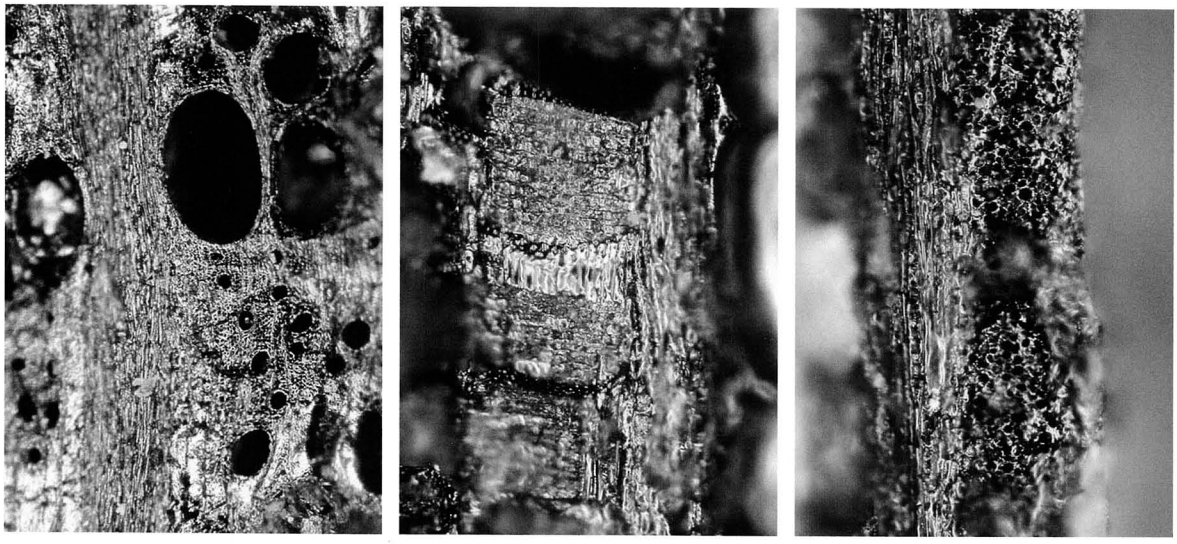
竹ノ内Ⅱ遺跡の木材及び炭化材　Ⅰ



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
4．18　17TUⅡ　A1-SP287　中～下層　炭化材　SB21　ブナ属



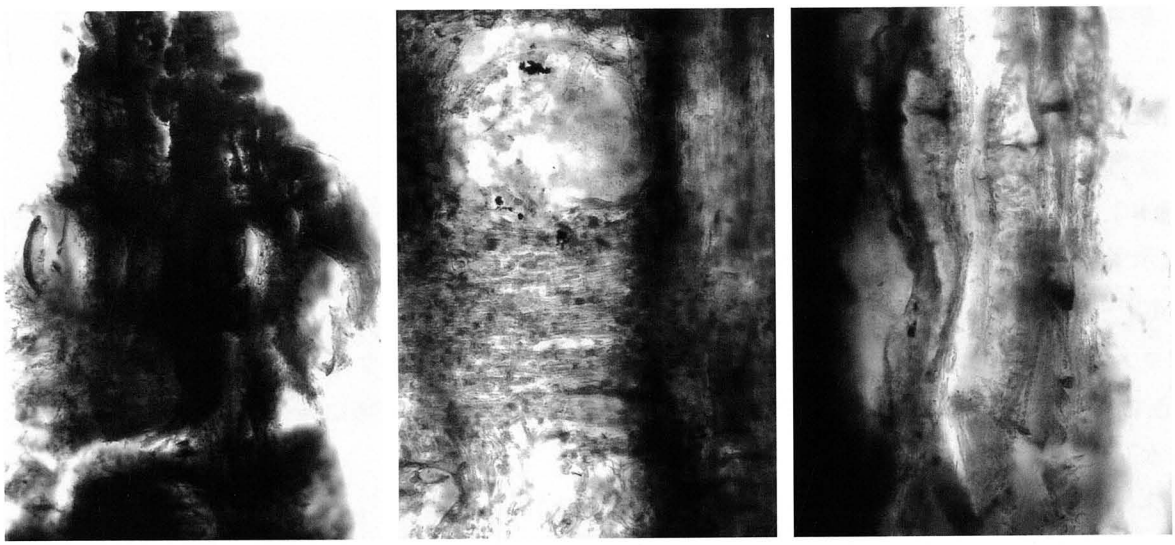
横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
5．28-②　17TUⅡ　B1-SK77　炭化材　コナラ属コナラ節



横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
6．4-①　17TUⅡ　A1-SP70　中層～下層　炭化材　SB15　コナラ属クヌギ節

竹ノ内Ⅱ遺跡の木材及び炭化材　Ⅱ

横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
7．28-①　17TUⅡ　B1-SK77　炭化材　ニレ属



横断面 ―――― ：0.5mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
8．27　17TUⅡ　A1-SE660　底面直上　漆器椀　ケヤキ

横断面 ―――― ：0.4mm　放射断面 ―――― ：0.2mm　接続断面 ―――― ：0.2mm
9．22-①　17TUⅡ　A1-SP551　炭化材　SB17　タケ亜科

竹ノ内Ⅱ遺跡の木材及び炭化材　Ⅲ

II. 種実遺体同定

1. はじめに

植物の種子や果実は比較的強靱なものが多く，堆積物中に残存する。堆積物から種実を検出しその群集の構成や組成を調べ，過去の植生や群落の構成要素を明らかにし古環境の推定を行うことが可能である。また，出土した単体試料等を同定し，栽培植物や固有の植生環境を調べることができる。

2. 試料

試料は，水洗選別済みの炭化物で，No1 ～ No3，No5，No8 ～ No10，No13，No15 ～ No17，No19 ～ No21，No23，No25 ～ No26 の計 17 点である。試料の詳細を表 1 に示す。

3. 方法

試料を肉眼及び双眼実体顕微鏡で観察し，形態的特徴および現生標本との対比によって同定を行った。結果は同定レベルによって科，属，種の階級で示す。

4. 結果

(1) 分類群

樹木 1，草本 8 の計 9 分類群が同定された。学名，和名および粒数を表 1 に示し，主要な分類群を写真に示す。以下に同定の根拠となる形態的特徴を記載する。

〔樹木〕

・アカメガシワ　Mallotus japonicus Muell. et Arg.　種子（破片）　トウダイグサ科

黒色で球形を呈し，「Y」字状のへそがある。表面にはいぼ状の突起が密に分布する。

〔草本〕

・イネ　Oryza sativa L.　穎（破片）・果実（完形・破片）　イネ科

穎は茶褐色で扁平楕円形を呈し，下端に枝梗が残る。表面には微細な顆粒状突起がある。完形のものは無かった。

果実は炭化しているため黒色である。長楕円形を呈し，胚の部分がくぼむ。表面に数本の筋が走る。

・イヌビエ属　Echinochloa　穎　イネ科

茶褐色で楕円形を呈す。表面には微細な縦方向の模様がある。

・オオムギ　Hordeum vulgare L.　果実　イネ科

炭化しているため黒色で，楕円形を呈す。腹部の端には胚がある。背面には縦に一本の溝がある。側面の形は曲率が大きく，胚と胚乳との接する輪郭線は山形である。

・ムギ類（オオムギ - コムギ）Hordeum-Triticum　果実（破片）　イネ科

オオムギもしくはコムギと思われるが，発泡し破片のためムギ類とした。

・イシミカワ　Polygonum perfoliatum L.　果実　タデ科

黒色で，やや光沢がある。円形を呈し，一端にへそ部がある。断面は円形に近い三角形である。

・タデ属　Polygonum　果実（破片）　タデ科

黒褐色で先端がとがる卵形を呈す。断面は三角形である。

・ササゲ属　Vigna　子葉（完形・破片）　マメ科

黒色で楕円形を呈す。へそは縦に細長い。

ササゲ属にはリョクトウ，アズキ，ササゲなどの栽培植物が含まれるが，現時点ではこれらの識別は困難とされている。

・マメ科　Leguminosae　子葉・サヤ（破片）　マメ科

黒色で楕円形を呈し，縦に一本の溝状の筋が走る。

・不明種実―種実と思われるが，炭化しているため発泡し鑑別点が観察できないため不明種実とした。

・不明―炭化しているため発泡し破片のため，種実かどうか不明のため不明とした。

（2）種実群集の特徴

・No1

アカメガシワ 1，イネ 3，ムギ類 1 が同定された。

・No2

タデ属 2 が同定された。

・No3

イネ 4 が同定された。

・No5

イネ 5 が同定された。ほかに不明 1，砂塊 1 が認められた。

・No8

イネ 44，ササゲ属 1 が同定された。ほかに炭化材 2 が認められた。

・No9

イシミカワ 2 が同定された。

・No10

イネ 2，マメ科 3 が同定された。

・No13

イネ 13，オオムギ 2，ムギ類 2 が同定された。

・No15

イネ 46，オオムギ 3，ムギ類 5，ササゲ属 1 が同定された。ほかに炭化物 3，炭化材 1 が認められた。

・No16

イネ 1 が同定された。ほかに不明種実 4 が認められた。

・No17

イネ 1 が同定された。

・No19

イネ 25，ムギ類 1 が同定された。ほかに炭化材 1 が認められた。

・No20

イヌビエ属 1 が同定された。

・No21

イネ 24，オオムギ 1 が同定された。ほかに不明 1，炭化材 1 が認められた。

・No23

イネ 6，オオムギ 3 が同定された。ほかに炭化物 1，炭化材 1 が認められた。

No.	遺構コード	出土地点	分類群 学名	分類群 和名	部位	個数	備考
1	A1-SP70	上層	*Mallotus japonicus* Muell. et Arg.	アカメガシワ	種子(破片)	1	
			Oryza sativa L.	イネ	果実	2	
					果実(破片)	1	
			Hordeum - Triticum	ムギ類	果実	1	
2			*Polygonum*	タデ属	果実(破片)	2	
3		中～下層	*Oryza sativa* L.	イネ	果実	2	
					果実(破片)	2	
5		下層	*Oryza sativa* L.	イネ	果実	5	砂塊1
			Unknown	不明	破片	1	
8	A1-SK146		*Oryza sativa* L.	イネ	果実	27	炭化材2
					(破片)	17	
			Vigna	ササゲ属	子葉(完形)	1	
9			*Polygonum prfoliatum* L.	イシミカワ	種子	2	
10	A1-SP164		*Oryza sativa* L.	イネ	果実	2	
			Leguminosae	マメ科	子葉	1	
					サヤ(破片)	2	
13	A1-SK177	中～下層	*Oryza sativa* L.	イネ	果実	11	
					(破片)	2	
			Hordeum vulgare L.	オオムギ	果実	2	
			Hordeum - *Triticum*	ムギ類	果実(破片)	2	
15	A1-SK250	下層	*Oryza sativa L.*	イネ	果実	36	炭化物3,炭化材1
					(破片)	10	
			Hordeum vulgare L.	オオムギ	果実	3	
			Hordeum - Triticum	ムギ類	果実	5	
			Vigna	ササゲ属	子葉(半形)	1	
16			*Oryza sativa* L.	イネ	穎(破片)	1	
			Unknown	不明種実	破片	4	
17	A1-SP287	中～下層	*Oryza sativa* L.	イネ	果実	1	
19	A1-SK374		*Oryza sativa* L.	イネ	果実	22	炭化材1
					(破片)	3	
			Hordeum - *Triticum*	ムギ類	果実(破片)	1	
20			*Echinochloa Beauv.*	イヌビエ属	果実	1	
21	A1-SP511		*Oryza sativa* L.	イネ	果実	22	炭化材1
					(破片)	2	
			Hordeum vulgare L.	オオムギ	果実	1	
			Unknown	不明	破片	1	
23	A1-SP518	上～中層	*Oryza sativa* L.	イネ	果実	2	炭化物1,炭化材1
					(破片)	4	
			Hordeum vulgare L.	オオムギ	果実	3	
25		中～下層	*Oryza sativa L.*	イネ	穎(破片)	4	
			Oryza sativa L.	イネ	果実	5	
26	A1-SK528	下層	*Oryza sativa L.*	イネ	果実	4	炭化材1
					(破片)	2	
			Hordeum vulgare L.	オオムギ	果実	1	
			Hordeum - *Triticum*	ムギ類	果実	1	
			Unknown	不明		1	

表１　竹ノ内Ⅱ遺跡における炭化種実同定結果